# 池　上　遺　跡

## 第3分冊の2

## 石器編

昭和54年1月

財団法人 大阪文化財センター

# 池　上　遺　跡

## 第３分冊の２

## 石　器　編

財団法人 大阪文化財センター

石庖丁の製作工程

# 例　　言

1. 本書は、大阪府和泉市池上町、泉大津市曽根町所在池上遺跡、堺市浜寺船尾町所在四ツ池遺跡の発掘調査報告書全７分冊のうち「第３分冊の２」にあたり、既刊「第３分冊の１」の続編である。
2. 発掘調査は、第２阪和国道内遺跡調査会が1969～1971年に実施し、出土遺物整理は、財団法人大阪文化財センターが1973～1978年の間、実施した。
3. 発掘調査費・遺物整理費については、建設省近畿地方建設局が全額負担し、建設省近畿地方建設局浪速国道工事事務所が担当した。
4. これらの成果をまとめるにあたって、次の分冊形式で出版する計画を立てている。

| | | |
|---|---|---|
| 第１分冊 | 池上遺跡 | 遺構編 |
| 第２分冊 | 〃 | 土器編 |
| 第３分冊の１ | 〃 | 石器編（既刊） |
| 〃　の２ | 〃 | 〃 |
| 〃　の３ | 〃 | 〃 |
| 第４分冊の１ | 〃 | 木器編（既刊） |
| 〃　の２ | 〃 | 〃　（既刊） |
| 第５分冊 | 四ツ池遺跡 | |
| 第６分冊 | 池上遺跡 | 自然遺物編 |
| 第７分冊 | 総括・研究編 | |

5. 本書の作成にあたっては、元第２阪和国道内遺跡調査会調査委員長代行坪井清足氏ほか調査委員の方々および大阪府教育委員会から全体的な指導を得た。本書に関しては、特に、佐原　真（奈良国立文化財研究所埋蔵文化財センター集落遺跡研究室長）・松沢亜生（奈良国立文化財研究所埋蔵文化財センター考古計画研究室長）両氏の指導を受けた。
6. 本書は、石神幸子、村上富貴子、池北孝男が担当し、古久万太氏（近畿大学学生）の助力を得た。
7. 遺物写真撮影は、財団法人大阪文化財センター写真資料室が担当し、中西和子、平井貞子が撮影にあたった。
8. 石材鑑定は、笠間太郎氏（大阪市立大学理学部教授）による肉眼観察の結果である。

# 凡　　例

1. 遺物は、1点ずつ登録番号が与えられ、これによって各個が区別される。
2. 登録番号は、S—01—0001のように、種類別記号・種目別番号・登録順番号の連記で表現される。すなわち、石器としてのSの記号を冠し、石斧や石鏃などの種目別番号（01～26）に分類した上で、各種目別に登録順に番号が与えられているものである。
3. 分類を変更した場合にも、当初の登録番号を踏襲している。したがって、種目別番号が必ずしも分類と一致しない場合もある。
4. 出土遺物は、全点を網羅し、一覧表化することを原則とする。
5. 一覧表の記述は、種目をさらに型式別にまとめた。また、各型式（タイプ）の中で写真図版に掲載したものは写真図版番号順に、他のものは登録番号順に並べている。実測図番はこの範疇にはない。なお、備考の欄には、石器の状況把握を容易にするため、残存状況の略図を載せた。これは、各型式を統一した形で表現しているが、個々の形態と相違の生じたものもある。
6. 遺構名、遺構記号・番号は、本書第1分冊遺構編（未刊）に基づくが、これは『第2阪和国道内遺跡調査会報告書4』（1971）に準ずるものである。
7. 所属時期は、すべて出土遺構および伴出土器によった。
8. 写真図版・実測図版は、各形式の代表的なものを掲載した。
9. 法量においては、各部の最大値をとり、（　）内の数値は残存部分の法量である。なお、石庖丁の紐孔間の距離で、紐孔が三孔以上ある場合、A面を上にして左側から法量を読んでいる。また、石庖丁の紐孔径、大型石庖丁の孔径は、特徴の欄の（　）内に記述している。
10. 実測図は、石器の構造を表わす図として作成した。その凡例は次頁の通りである。横断面図は必ずしも平面図の下方に位置するとは限らないが、横断面図の天は必ず正面を示している。
11. 『石器編第3分冊の1』fig.1　石器種類別点数一覧表は次表のように若干の変更があった。

| 項目 | 種目 | 点数 | 項目 | 種目 | 点数 |
|---|---|---|---|---|---|
| 工具 | 太型蛤刃石斧 | 234点 | 狩猟具（武器） | 石鏃 | 1170点 |
| | 柱状片刃石斧 | 111 | | 石槍 | 369 |
| | 扁平片刃石斧 | 63 | | 投弾 | 73 |
| | 環状石斧 | 9 | | 石匙 | 11 |
| | 柱状両刃石斧 | 6 | | 尖頭器 | 175 |
| | その他の石斧 | 2 | | 刃器 | 484 |
| | 石錐 | 688 | 漁撈具 | 石錘 | 21 |
| | 石小刀 | 44 | 紡織具 | 紡錘車 | 18 |
| | 環状石斧用穿孔具 | 8 | 祭祀具 | 磨製石剣 | 42 |
| | 石槌 | 5 | | 石棒 | 17 |
| | 敲石 | 379+α | 装身具 | 玉類 | 29 |
| | 砥石 | 1523+α | その他 | 石製特殊品 | 72 |
| 収穫具 | 石庖丁 | 1591 | | 使用痕のある石 | 488+α |
| | 大型石庖丁 | 151 | | 不定形石器 | 341+α |
| | 小型石庖丁 | 12 | 総数 | | 8136+α |

fig.1　石器種目別点数一覧表

Ⅰ.自然面

自然面

片理面(結晶片岩)

研磨面下の片理面(結晶片岩)

Ⅱ.製作時

敲打痕

研磨面下の敲打痕

研磨面

研磨痕

Ⅲ.製作時・使用時

剝離痕

破損面

Ⅳ.使用時

刃部の線条痕

回転条線痕

回転研磨痕

打撃痕

打撃十磨滅痕

横方向の磨滅痕(表面の荒れ)

石庖丁の
方向性をもつ磨滅痕

磨滅による光沢面

石庖丁の紐擦れ痕

背潰れ痕

Ⅴ.その他

熱による剝離痕

火をうけた表面の荒れ

石器実測図凡例

# 目　　次

第２章　　収穫具…… 111
　第１節　石庖丁…… 111
　第２節　大型石庖丁…… 319
　第３節　小型石庖丁…… 342
第３章　　狩猟具…… 345
　第１節　石　鏃…… 345
　第２節　石　匙…… 461
第４章　　紡織具…… 465
　第１節　紡錘車…… 465

# 挿　図　目　次

fig.12　石庖丁の石材一覧表…… 111
fig.13　石庖丁の時期別石材一覧表…… 112
fig.14　石庖丁の各部名称…… 112
fig.15　石庖丁の特殊形態…… 114
fig.16　石庖丁の使用痕…… 117
fig.17　大型石庖丁の石材一覧表…… 319
fig.18　大型石庖丁の各部名称…… 320
fig.19　石鏃の各部名称…… 345
fig.20　大剝離面の残存状況…… 349
fig.21　石鏃の特殊形態…… 352
fig.22　古墳時代の紡錘車…… 466

# 図 版 目 次


PL.31　石庖丁
PL.32　石庖丁
PL.33　石庖丁
PL.34　石庖丁
PL.35　石庖丁
PL.36　石庖丁
PL.37　石庖丁
PL.38　石庖丁
PL.39　石庖丁
PL.40　石庖丁
PL.41　石庖丁
PL.42　石庖丁
PL.43　大型石庖丁
PL.44　大型石庖丁
PL.45　石庖丁部分拡大写真
PL.46　石鏃
PL.47　石鏃
PL.48　石鏃
PL.49　石鏃
PL.50　石鏃
PL.51　石鏃
PL.52　石鏃
PL.53　石鏃・石匙
PL.54　小型石庖丁・紡錘車
PL.55　石庖丁
PL.56　石庖丁
PL.57　石庖丁
PL.58　石庖丁
PL.59　石庖丁
PL.60　大型石庖丁
PL.61　石鏃
PL.62　石匙・小型石庖丁・紡錘車

# 第2章　収穫具

本遺跡出土の収穫具として、石庖丁、大型石庖丁、小型石庖丁などがある。

## 第1節　石庖丁（PL. 33～43、PL. 55～59）

本遺跡出土の石庖丁は総数1591点である。

石庖丁は、扁平・横長の石材の長辺の一つに刃をつけ、他方の長辺を背に、普通中央やや背寄りに紐を通す二孔をもつ磨製石器である。

「石庖丁」の機能は、後述のような紐擦れ、刃先及びそれに続く裏面（B面）の磨滅などの使用痕から判断して、既に言われている様に稲の「穂摘み具」であることは明らかである。[25] 紐通しは刃面側（A面―図の正面）の二孔を直に結び、他面（B面―図の裏面）の背方にのびて輪をつくり、一指（恐らく人指し指か中指）をB面側から通して手掌におさめる。したがって、刃先を手前に、A面の側を四指で支え、B面は手掌側に向け、背面を包むように握る。そして、刃は穂に対して横位置（直角）にあてられるものと思われる。

石　材

本遺跡での石庖丁の石材の種類は、fig.12の通りである。緑色片岩、黒色片岩等の結晶片岩類を石材とするものが大部分（97%）を占めるが、この他に、石英安山岩、安山岩、サヌカイト等の石英安山岩類を石材とするものもある（2.1%）。緑色片岩、黒色片岩、紅色片岩等の結晶片岩類は、和歌山県紀ノ川南岸の三波川変成帯[26]より産出するもので、片理面に沿って剝がれ易く、片理面に直交する方向では強い性質をもつ。石英安山岩類は大阪府・奈良県境二上山周辺に産出し、安山岩の中でも比較的層理をもつものである。結晶片岩類、石英安山岩類ともに本遺跡に搬入されたものである。

| 種　類 | 点数 | 割合% | 種　類 | 点数 | 割合% |
|---|---|---|---|---|---|
| 結晶片岩 | 1544 | 97 | 安山岩 | 10 | 2.1 |
| 緑色片岩 | (1358) | | 石英安山岩 | 21 | |
| 〃(点紋) | ( 81) | | サヌカイト | 2 | |
| 黒色片岩 | ( 90) | | スレート | 5 | |
| 〃(点紋) | ( 2) | | アプライト | 2 | |
| 紅色片岩 | ( 4) | | 砂岩 | 1 | |
| 砂岩片岩 | ( 2) | | 片麻岩 | 2 | |
| 細別不明 | ( 7) | | | | |
| 緑色岩類 | 4 | | 合計 | 1591 | 100 |

fig.12 石庖丁の石材一覧表

時期別に石材の種類をみると、緑色片岩、黒色片岩等の結晶片岩類は、第Ⅰ様式～第Ⅳ様式期にわたり、中でも、第Ⅲ―Ⅳ様式期において、量が圧倒的に多くなる。それに比べて、石英安山岩類は、第Ⅰ様式期では、全体の約22%を占め、第Ⅱ様式期には 2.6%とその割合は少なくなる。しかし、第Ⅲ様式期以降では殆ど消滅してしまうと考えられる。

法　　量

| 石材名＼時期別 | Ⅰ | Ⅱ | Ⅱ～Ⅲ | Ⅲ－Ⅳ |
|---|---|---|---|---|
| 結晶片岩 | 18点 78.3% | 75点 97.4% | 18点 100% | 229点 97.8% |
| 緑色片岩 | (17) | (65) | (17) | (200) |
| 〃（点紋） | | ( 3) | ( 1) | (16) |
| 黒色片岩 | ( 1) | ( 7) | | (11) |
| 〃（点紋） | | | | ( 1) |
| 細別不明 | | | | ( 1) |
| 緑色岩類 | | | | 1 |
| 安山岩 | 5 21.7% | 1 2.6% | 0% | 1 0.4% |
| 石英安山岩 | | | | |
| サヌカイト | | 1 | | |
| スレート | | | | 2 |
| 片麻岩 | | | | 1 |
| 合計 | 23 | 77 | 19 | 234 |

fig.13　石庖丁の時期別石材一覧表[27]

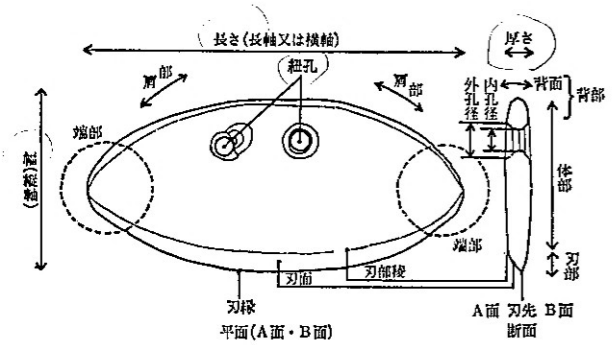



fig.14　石庖丁の各部名称

タイプ分類

石庖丁は、完形品が20点あり、完形品や原形を残す部分より、その法量を計測すると、長さ10.4cm～16.4cm（平均13.0cm）、幅 3.1cm～6.9cm（平均 4.4cm）、厚さ0.4cm～1.2cm（平均 0.7cm）、紐孔間距離1.2cm～4.9cm（平均 2.4cm）、重量50g～106g（平均68g）である。

石庖丁は、平面形の形態により、次の様に６分類した。[28]

Ａタイプ　外彎刃半月形態

Ｂタイプ　長方形態

Ｃタイプ　楕円形態

Ｄタイプ　杏仁形態

Ｅタイプ　直線刃半月形態

Ｆタイプ　内彎刃形態

一覧表記載にあたり、各部分の名称を fig.14 の様にした。平面において、片刃の場合、刃面のある方の面をＡ面、他方の面をＢ面とする。両刃の場合は、使用状況により、Ａ面・Ｂ面を決める。写真図版では、上段がＡ面、下段がＢ面である。

**Ａタイプ**　外彎刃半月形態。22点あり、完形品はない。時期は第Ⅰ様式期に属するものが多い。このタイプは、背部が直線的で端部が尖り、鋭いものが基本形である（ＰＬ．31―１・５・６・９・10・13・14）が、他に、背部がやや彎曲し、端部で円味をもつもの（ＰＬ．31―２・３・７・11）、背部がやや彎曲し、端部先端を切断し真直ぐに下る側辺をなすもの（ＰＬ．31―15）がある。刃部は、両刃10点、両刃ぎみ片刃５点、片刃７点である。刃部稜は全体になだらかである。

法量は、長さは完形品がないために不明だが、復元長約15cmになるものがある。幅 4.0cm～6.2cm（平均 5.4cm）、厚さ0.5cm～1.2cm（平均 0.8cm）、紐孔間の距離1.6cm～2.8cm（平均 2.4cm）、重量は長さと同様に不明である。

**Ｂタイプ**　長方形態。27点あり、そのうち完形品は１点である。時期は第Ⅰ様式から第Ⅳ様式期のものまである。このタイプは、背部・刃部が直線的で、両端部に側辺をつくり出したものが基本形である（ＰＬ．32―５・８・11）が、他に、背部・刃部ともに浅く外彎するものもある（ＰＬ.31―４・８・12・16、ＰＬ.32―１）。刃部は片刃23点、両刃４点である。幅の広いものでは刃部はなだらかに作り出され、幅の狭いものでは刃部稜は比較的明確で、刃面は真

直ぐになる。

法量は、長さ10.8cm～11.9cm（平均11.4cm）、幅3.4cm～6.2cm（平均 4.8cm）、厚さ0.5cm～1.1cm（平均 0.7cm）、紐孔間の距離1.7cm～3.4cm（平均 2.4cm）、重量60g である。

**Cタイプ**　楕円形態。27点あり、完形品はない。時期は第Ⅰ様式から第Ⅳ様式期のものまである。このタイプは、背部・刃部が浅く外彎し、端部が円味をもつ楕円形態である（PL．32—2～4・6・7・9・10・12・13）。刃部は、片刃24点、両刃ぎみ片刃1点、両刃1点である。刃部稜は、比較的なだらかに作り出されるが、幅狭のものの中には、刃部稜の明確なものが多い。

法量は、長さは完形品がないために不明だが、復元長約16cmになるものがある。幅 4.0cm～6.2cm（平均 5.0cm）、厚さ0.6cm～1.0cm（平均 0.7cm）、紐孔間の距離1.6cm～3.4cm（平均 2.6cm）、重量は長さと同様に不明である。

**Dタイプ**　杏仁形態。230点あり、そのうち完形品は4点である。Eタイプに次いで点数の多いタイプである。時期は第Ⅱ様式から第Ⅳ様式期のものまであり、特に第Ⅲ—Ⅳ様式期のものが多い。このタイプは、背部・刃部が同じ位に外彎し、端部の尖るものが基本形であり、幅5cmを境にして、それ以上を幅広（PL.33）、5cm未満を幅狭（PL.35）に分けた。その他に、幅広で、刃部が浅く外彎する形態（PL.34）もある。刃部は片刃206点、両刃ぎみ片刃9点、両刃13点である。このタイプの中でも、比較的幅広の形態のものに、刃部稜がなだらかなものが少しみられる。

法量は、長さ10.4cm～16.1cm（平均12.5cm）、幅3.4cm～6.9cm（平均 4.8cm）、厚さ0.5cm～1.0cm（平均 0.8cm）、紐孔間の距離1.7cm～3.1cm（平均 2.4cm）、重量50g～106g（平均73g）である。幅だけを取り上げると、幅広杏仁形態5.1cm～6.9cm（平均 5.7cm）、幅狭杏仁形態3.4cm～4.8cm（平均 4.2cm）、幅広で刃部が浅く外彎する形態4.6cm～6.4cm（平均 5.2cm）となる。

**Eタイプ**　直線刃半月形態。314点あり、そのうち完形品は6点である。時期は第Ⅰ様式から第Ⅳ様式期のものまである。第Ⅰ様式期では数が少なく、第Ⅱ様式期で増え、第Ⅲ—Ⅳ様式期に多い。本遺跡出土の石庖丁のうち、最も数量の多いタイプであり、A～Fタイプを通じての完成品中、約4割を占める。このタイプは、便宜上、幅 4.5cmを境に、それ以上を幅広（PL.36）、4.5cm未満を幅狭（PL.37）に分けた。刃部は片刃301点、両刃ぎみ片刃7点、両刃6点である。このタイプの刃部稜は明確なものが大半であるが、一部なだらかなものもある。

法量は、長さ10.9cm～15.3cm（平均13.0cm）、幅3.0cm～5.6cm（平均 4.2cm）、厚さ0.4cm～1.2cm（平均 0.7cm）、紐孔間の距離1.3cm～4.9cm（平均 2.3cm）、重量50g～82g（平均62g）である。

**Fタイプ**　内彎刃形態。159点あり、完形品は9点である。このタイプは完形品の数量が、他のタイプに比べ多い。時期は第Ⅰ様式から第Ⅳ様式期のものまであり、第Ⅰ様式期では少なく、第Ⅲ—Ⅳ様式期に多い。このタイプは次の3種類に分ける事ができる。刃部全体が大きく内彎するもの（PL.38—1・2・8・9、PL.39—8・11）、一方の端部が円味をもち、他方の端部にかけて細く鋭い鎌型を呈するもの（PL．39—2・4）、直線刃半月形態および杏

仁形態の刃部中央が少し内彎したもの（ＰＬ.38―３～６、ＰＬ.39―９・12）である。刃部は片刃 153点、両刃ぎみ片刃２点、両刃３点である。このタイプの刃部稜は全て明確で、刃面は急な傾斜面をなす。

法量は、長さ11.6cm～16.4cm（平均13.5cm）、幅3.1cm～4.9cm（平均 4.0cm）、厚さ0.5cm～1.0cm（平均 0.7cm）、紐孔間の距離1.3cm～3.4cm（平均 2.5cm）、重量52g～90g（平均70g）である。

各タイプを通しての石材および形態上の特徴をまとめると、次の様になる。

(1) タイプ別に石材をみると、Ａ・Ｂ・Ｃタイプでは比較的、安山岩、石英安山岩、サヌカイトの占める割合が高い事があげられ、Ｄ・Ｅ・Ｆタイプではその殆どが緑色片岩により占められている。即ち、石英安山岩類を石材とするＡ・Ｂ・Ｃタイプは、第Ⅰ～第Ⅲ様式期のものであるといえる。

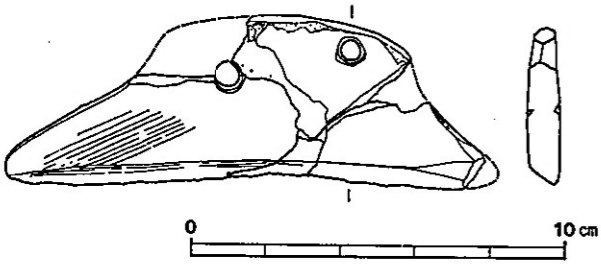



fig.15 石庖丁の殊殊形態

(2) 背部には、直線的なもの（Ａ・Ｂタイプ）、彎曲するもの（Ｂ・Ｃ・Ｄ・Ｅ・Ｆタイプ）、背部中央で直線的にのびるか、浅く外彎し、肩部で屈折して直線的に端部に至るもの（Ｓ―07―0298ⓓタイプ（以下タイプ省略）、1899Ⓓ、1354Ⓔ、0010Ⓕ、0053Ⓕ）がある。また、背面の平坦なもの（ＰＬ.57―７・８など）、丸い面をなすもの（ＰＬ.57―４・５など）があり、これは未製品に於いても認められる。

刃部の変形 (3) 刃部には、外彎するもの（Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｄタイプ）、浅く外彎するもの（Ｄタイプ）、直線的なもの（Ｂ・Ｅタイプ）、内彎するもの（Ｆタイプ）がある。そして、直線刃の中には、刃部中央が直線的であるにも関わらず、両端部の刃部が切れ上がっており、刃部研ぎ直しによる、外彎刃から直線刃への移行が認められるものがある（Ｓ―07―0251Ⓔ、1320Ⓔなど）。また、内彎刃の中には、Ｄ・Ｅタイプの刃部中央が凹んだものがある事から、繰り返し使用される事により、刃部の形態の変化があった事が判る。また、刃部稜には、なだらかなものと明確なものがある。Ａタイプでは全体になだらかであるのに対し、Ｅ・Ｆタイプでは殆どが明確である。また、Ｂ・Ｃ・Ｄタイプでは、比較的、幅の広いものは刃部稜がなだらかであり、幅の狭いものは刃部稜が明確である。それらの完成品に対して、未製品では全体に刃部稜がなだらかである。この事により、石庖丁の刃部を何度も研ぎ直した結果、身幅が狭くなると同時に、刃部稜も明確になり、刃面が急傾斜をもつに至ったことが判る。また、刃部を研ぎ直す際も大半はＡ面はＡ面、Ｂ面はＢ面として刃面に研ぎ直しを施し[29]、Ｂ面→Ａ面、Ａ面→Ｂ面への転化は僅かである。（同一面に背方向へのびる方向と、双孔を結ぶ方向の紐擦れ痕がみられるものが５点である（Ｓ―07―1346Ⓔ）。）更に、刃部と背部を逆転して再加工再使用しているものも２点（Ｓ―07―1716Ⓔ）ある。

紐孔の穿孔 (4) 紐孔は、両面より直接穿孔したものが大部分を占め、敲打後穿孔したものは少ない（紐孔

を残す全個体数の17%）。但し、後述の紐孔をつくる段階（第3工程）の未製品34点中、13点（38%）が敲打後穿孔している。このことから、完成品の直接穿孔の中には、敲打後の体部研磨により、敲打痕が失なわれた可能性も考えられる。また、紐孔の外孔径は、A面よりもB面の方が大きいものが32点あり、その逆は13点である。未製品の場合も、A面よりもB面の方が深く回転穿孔されている例が多い。

(5) 紐孔の位置は普通、中央部背寄りにあり、略長軸と平行に穿孔される。しかし、E・Fタイプでは、他のタイプに比べ、身幅の中央に位置するものが比較的多く（Eタイプ26点、Fタイプ16点）、刃部寄りに位置するものはEタイプに多い。また、C・D・E・Fタイプでは、やや左寄りに位置するもの（S—07—0013Ⓕ、0026Ⓓ、0078Ⓩ、0462Ⓔ、0735Ⓔ、1030Ⓕ、1366Ⓒ、1609Ⓓ、1749Ⓕなど）、右寄りに位置するものもある（S—07—1213Ⓔ、1593Ⓓなど）。また、双孔が長軸と平行に穿孔されるだけでなく、左右に傾きをもつものもあり、双孔とも残存するもの（460点）の内、左下がりは約20%、右下がりは約15%を占める。

(6) 横軸はB面側へ彎曲するものが38点あり、逆の例は15点である。

**タイプ不明（Z）**　残存部分が判る破片で、タイプの区別がつかないもの。270点ある。その中に1点、周縁より打ち欠いた後、両面に研磨を施した刃器状のものがあり、紐孔をもたない（S—07—1743）。

**破片**　残存部分の不明な、研磨面をもつ小破片であり、246点ある。

**未製品**

296点。そのうち完形品は19点である。未製品には完成品にみるタイプに略対応するものがある。Aタイプ5点、Bタイプ7点、Cタイプ15点、Dタイプ103点、Eタイプ2点、タイプ不明164点。Dタイプの未製品が最も多く、全体の35%を占める。しかし、刃部の形態からみて、内彎刃形態をとる未製品は存在しない。したがって、Fタイプ本来の未製品はないものとみられ、直刃ないし外彎刃形態の過度の使用と繰り返される刃研ぎによる刃部の変形の姿と解釈できる。

未製品

法量は、長さ11.0cm～16.3cm（平均12.6cm）、幅3.6cm～9.1cm（平均6.2cm）、厚さ0.5cm～2.0cm（平均1.0cm）、紐孔間距離1.6cm～3.2cm（平均2.3cm）、重量52g～257g（平均136g）である。

**製作工程**

未製品を通じて、石庖丁の製作工程を次の様に復元した。周辺に打ち欠き調整を施して成・整形する第1工程、研磨を施す第2工程、紐孔をつくりだして仕上げる第3工程である。

本遺跡においては、板材の周辺に粗い打ち欠きを施して大体の形をつくる第1工程の未製品から後の工程のものが大半を占める。また、完成品の数量に比べて打ち欠かれた剝片の量は少なく、原材産地で粗くつくられ、本遺跡では更に仕上げ加工を施して作りあげた可能性が大きい。既に『原材産地で割り処理された素材が本遺跡に持ち込まれた』という考え方があるが、それを裏づけるものである。[30]

しかしながら、出土原材の中には厚さ4cmを越える大型のものが若干あり、厚さからみて2～3枚に平割りして利用できる量のものがある。比率は僅かであるが、原材もまた持ち込まれ

ていると思われる。しかし原材を薄く平らに割る技術について、具体的には明らかではない。勿論、別の石器の原材の可能性もありうる。

第１工程　原材から片理面に沿って割りとった板材の周辺を打ち欠いて、略外形を整える。おそらく石製ハンマー（敲石）による直接打撃を粗く加えたものであろう。しかし、加工は周辺部にとどまり、体部中央まで達する打ち欠きは殆どみられない。体部中央には片理面や自然面が大きく残る。また、大きな剝離面が残存するものもあるが、これは打ち欠き成形以前の、厚みをとる際に加えられた剝離痕である。石材の性質からみて、片理に沿うような割れ方が多く、体部にくい込んで折れる所謂ステップ状の剝離状況を特色とする。この段差は体部の研磨後にも磨き残しとして残ることが多い。

第２工程　研磨を施す。

≪体部の研磨≫　板材の厚味のある部分、または凸部をまず研磨する。ふつう体部の研磨は右上―左下方向、左上―右下方向の痕跡を認める。ただ、全面同一方向という例は稀で、ある小範囲にまとまった方向性をもって研磨される。また、上下方向、左右方向、右上がり（傾斜の緩い右上―左下方向）、左上がり（傾斜の緩い左上―右下方向）等の研磨痕もある。その典型例は（Ｓ―07―0866、1760）である。

≪刃部の研磨≫　刃部は体部のあとに研磨されるのがふつうである。刃先を研ぎ出す直前の姿を示す例として背面同様の平坦面をなすもの（Ｓ―07―1219、1377）がある。

第３工程　紐孔の穿孔。穿孔に関係する二つの技術がある。敲打および錐による回転穿孔である。但し、単に敲打だけで穿孔した例はない。したがって穿孔状況として、

(1)　敲打によって凹部を設け（この段階で止まっているもの、Ｓ―07―1004、1315、1786）、次いで錐による回転穿孔を施すもの（Ｓ―07―0578、1158、1435、1438、1480）。

(2)　直接錐による回転穿孔を行うもの（Ｓ―07―0220、0456、1126、1484、1530）。

などがある。

穿孔前の状況を含めて二・三の例外がある。研磨を施さずに、片理面に直接敲打したもの（Ｓ―07―1173）、紐孔部を敲打した後、体部に研磨を施したもの（Ｓ―07―0518）、敲打した紐孔部が研磨され浅いなめらかな凹みをなすもの（Ｓ―07―1207）、同様な凹部に回転穿孔の痕跡を認めるもの（Ｓ―07―1214）等である。

**使用痕**

使用痕　石庖丁の使用痕としては次の様なものがあり、1)、2)は石庖丁全般を通して見られる。[31]

1)　刃先からＢ面にかけての磨滅

刃先には刃線と直交する磨滅痕があり、それは、Ｂ面左上方へのび、面の磨滅となって光沢を帯びる。これは、刃先の磨滅痕とＡ面（刃面）との境が明瞭な稜線をなすのに対し、Ｂ面にかけては磨滅によりすり減って続くことからも観察される。その典型例はＳ―07―0552Ⓔである。面の磨滅は大部分のものが両面に認められるが、特にＢ面側に著しく方向性をもつ事により区別できる。刃部は中央部からＢ面左端寄りにかけて、Ｂ面は左半分（中でも左肩部）に磨滅が著しい。

前述の使用痕以外にいくつかの例外がある。刃先からB面右上方へのびる磨滅痕（S—07—0242Ⓕ、0725Ⓕ、1875Ⓔ）、刃先よりB面左上方・右上方へのびる磨滅痕が交錯するもの（S—07—1788Ⓔ）、刃先よりA面左上方へのびる磨滅痕（S—07—0646Ⓔ）等である。

2) 紐擦れ痕

A面では双孔間を結ぶ方向、B面では上方または左上方の背方向にのびる紐擦れ痕がある。

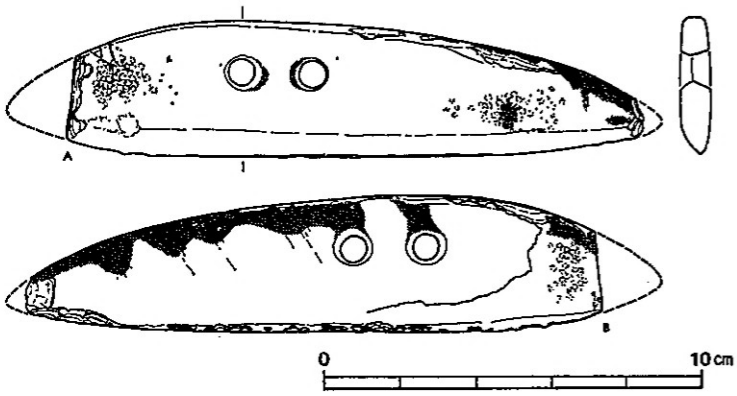



fig.16 石 庖 丁 の 使 用 痕

観察表で両面に紐擦れ痕ありと表現しているのは、両面にこの痕跡がみられる場合である。

A面では双孔間寄りの紐孔角が丸く磨滅しているのが認められる。B面ではA面よりも著しく磨滅痕があり、上方または左上方の背方向にのび、浅い凹みをなす。或いは、B面背寄り紐孔角の磨滅および紐孔直上の背面とB面との角が丸く磨滅している事により認められる。その典型例はS—07—1131Ⓓである。

紐擦れ痕の例外もいくつかある。両面とも背方向の紐擦れ痕があるもの（S—07—0975Ⓓ）、両面とも紐孔より背方向にのびる（A面では右上方、B面では左上方）擦り切り状の溝をなすもの（S—07—0680Ⓕ）などである。

3) 側辺よりB面長軸方向にのびる磨滅

端部が薄い側辺をつくる場合、側辺のエッジおよび側辺から体部にかけて、磨滅の認められるものが少数ある。A面よりもB面側に多くみられ、B面右側辺からB面体部にかけての磨滅が比較的多い（S—07—0082Ⓕ、1101Ⓕ、1242Ⓕなど）。タイプ毎にみると、Bタイプ3点、Cタイプ1点、Dタイプ1点、Eタイプ4点、Fタイプ9点で、Fタイプに多い。1)の使用痕と直接関係があるとは思われないが、似た様な磨滅痕を呈す。

使用方法

以上、使用痕について述べたが、1)・2)の状況から、石庖丁の使用方法を復元[32]する事が出来る。まず、紐孔に紐を通す。A面では双孔間を結び、B面では双孔とも背方向に引いて輪をつくる。B面を上にして置き、右手の人さし指か中指を輪に入れ、四指でA面側を支え、親指と手掌でB面を覆う。稲の穂を摘み取る際には、B面と親指との間に穂首をはさみ、穂首を刃先に直交して当て、手首を右に回転させて引きちぎる。その際、B面側は直接対象物が触れる為、磨滅が著しくなる。紐はB面側において、遊動的であり、かつ、摘み取る動作の度に力が加わる為に紐擦れ痕が著しくなる。A面側では、双孔間を結ぶ紐は略（ほぼ）固定された状態となり、紐擦れ痕は生じにくい事になるし、面の磨滅もまた、裏返して使い込まない限り、B面程、著しい磨滅は生じない事になる。

**転　用**

石庖丁の破損したものは、他の石器に転用される場合が多く、扁平片刃石斧、紡錘車、小型石庖丁などに作り直されている[33]（S—07—0630Ⓓ、0726Ⓓ、0256Ⓔ、1493Ⓩなど）。

**背潰れ痕**　（PL. 45）

背潰れ痕　穂摘み具としての使用痕とは直接関係をもたない痕跡をもつものが、全体の約⅓に認められる。背潰れ痕[34]と称しているもので、502点ある。背部、刃部、端部、折れ面などに認められ、中でも背部に多い（229点）。背部・刃部の両方にあるものも多く（200点）、刃部のみは比較的少ない（62点）。端部では9点あり、折れ面には7点ある。背潰れ痕は製品の各タイプ、未製品の各工程を通じてみられる。

背潰れ痕は次の様に2種類に分けられる。

1）長軸に直交する浅い条痕が背部などに直接にみられるもの（S—07—0624背部Ⓐ、0062Ⓕ、1106Ⓕ、1347Ⓓなど）。

2）背部などを両面側へ剝離し、鋭いエッジを作り出した後、エッジに対し、長軸と直交する方向の条痕が認められるもの。この中には、余り痕跡が顕著ではなく、エッジのあまり潰れていないもの（S—07—0660Ⓕ、1075Ⓓ、1304Ⓩ、1787Ⓕなど）、剝離させたエッジに条痕が集積し、背部などの原形を留めないもの等がある。

更に、背潰れ痕の表面がなめらかになっているもの（S—07—0727Ⓓ、0624刃部Ⓐ、0251Ⓔ、1729Ⓑなど）がある。未製品で背潰れ状痕跡と表現したものはこれである。

背潰れ痕の対象物が何であったかは不明であるが、背潰れ痕のある部分は直線的なもの、部分的に凹むものがある。また、背潰れ痕の状態で、ある一定の傾きをもつ平坦面をなすもの、ギザギザとした面をなすものなどがある。これらの背潰れ痕は収穫具としての機能に関係するものか、転用痕か不明であるが、転用痕の可能性が大きい。今後の検討が望まれる。

**敲打痕**　（PL. 57—3、fig. 16）

敲打痕　石庖丁の両面の紐孔部の左右の体部に、略円形（ほぼ）に敲打痕が集積するものが僅かに存在する[35]。これは製作時のものとはみられず、転用痕であろう。しかし、この敲打痕は研き残しの片理面と混同し易い。A面両側、B面左側にあるもの（S—07—0462Ⓔ、1364Ⓔ）、A面両側、B面右側にあるもの（S—07—0226Ⓔ）等、B面のどちらか一方には敲打痕はみられず、三個所に著しいという特徴をもつ[36]。実体は不明である。

注　25）石毛直道「日本稲作の系譜(上)」（『史林』51—5）　1968

26）三波川変成帯とは、西日本では、中央構造線に沿い、その南側に位置する変成帯で、近畿地方では和歌山県紀ノ川南岸に位置し、緑色片岩・黒色片岩・石英片岩等の結晶片岩の産出地である。

27）この表の時期決定を行ったのは、次の遺構による。

| 時期 | 遺　構　番　号 |
|---|---|
| Ⅰ | SF081、SF430、SJ177、SL303 |
| Ⅱ | SF075　腐混黒色粘質土層、黒色粘質土層、SF080—Ⅱ・Ⅳ溝 |

| | |
|---|---|
| Ⅱ～Ⅲ | ＳＦ077 |
| Ⅲ－Ⅳ | ＳＡ005、009、ＳＦ074、078、082、085、101、ＳＨ128、ＳＪ157、ＳＫ271、584、ＳＬ308、321 |

28) 森本六爾「石庖丁の諸形態と分布」（『考古学評論』１－１） 1934
小林行雄「石庖丁」（『考古学』８－７） 1937

29) 注25）参照。

30) 酒井龍一「石庖丁の生産と消費をめぐる二つのモデル」（『考古学研究』21－２） 1974

31) 福井英治『田能遺跡発掘調査報告』Ⅰ 尼崎市教育委員会 1972

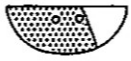
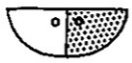
32) 注25）参照。

33) 扁平片刃石斧、紡錘車、小型石庖丁の中に、石庖丁からの転用とみられるものが多い。石庖丁の中にあるのは、石庖丁の特徴をより多く表しているものである。

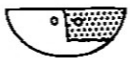
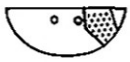
34) 背潰れ痕とは、背部に多くみられる痕跡を総称したものであり、刃部、端部にも認められる。昭和46年度『第２阪和国道内遺跡発掘調査報告書』４では、"背潰れ、刃潰れ"として報告されている。また、類似した痕跡をもつものとして、『池上遺跡石器編第３分冊の１』の太型蛤刃石斧では"横の方向性をもつ磨滅痕"、柱状片刃石斧・扁平片刃石斧では"ねずみの歯とぎ状の磨滅痕"と記述している。

35) 『第２阪和国道内遺跡発掘調査報告書』４ 1971

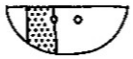
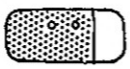
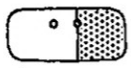
36) この特徴については、堺市教育委員会 樋口吉文氏の指摘をうけた。記して感謝するものである。

| 図版番号 | 登録番号<br>出土地点<br>遺構名<br>(遺構番号)<br>層位 | 法量(cm)(g)<br>長さ<br>幅<br>厚<br>紐孔間距離<br>重量 | 石材 | 特徴<br>タイプ　形態上・製作上の特徴<br>○使用痕跡<br>○背潰れ痕 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|
| PL.31－1 | S－07－1278<br>MJ50<br>溝<br>(SF 078)<br>褐色砂層 | (5.1)<br>(4.9)<br>0.8<br>—<br>(20) | 緑色片岩 | A　両刃。中央部に最大厚があり刃部に下るにつれてうすくなる。刃先は小剝離後再研磨されている。<br>○　不明<br>○　なし | |
| PL.31－2<br>PL.55－1 | S－07－1483<br>LS58<br>溝<br>(SF 430)<br>黒色粘質土層 | (9.4)<br>6.2<br>1.2<br>2.3<br>(72) | 石英安山岩 | A　両刃気味片刃。両面とも細かな研磨痕があり、研磨の及ばない剝離面残存。端部は鋭角ではなく円くなっている。紐孔はA面では左上方より、B面では左下方より穿孔している。(内45mm、外10mm) 体部はA・B面とも右上一左下の方向性をもつ研磨が主であるがいろいろな方向から研磨しており、刃部は両面とも刃先に沿う方向か左右方向である。背面は左右方向である。<br>○　刃先には磨滅痕があり、B面紐孔下半の研磨痕が浅くなり、磨滅して光沢をもつ。<br>○　なし |  |
| PL.31－3 | S－07－1236<br>JW62<br>溝<br>(SF 081)<br>黒色土層 | (9.5)<br>(5.2)<br>0.8<br>—<br>(54) | 石英安山岩 | A　両刃気味片刃。背部はわずかに彎曲気味の直線状を呈し、端部は円い。両面とも剝離面を有す。全面細かな研磨痕あり。体部はB面では右上一左下の方向性をもつ研磨であり、A面は右上一左下が主ではあるが研磨面がかわっている。刃面背面ともに左右方向の研磨。紐孔は全体の大きさに比べ径が小さい。(内 3.5mm、外 7mm)<br>○　刃先は磨滅痕がある。B面左側は全体にA面よりは研磨痕が浅くなり、磨滅して光沢を有す。<br>○　なし | (第Ⅰ様式)<br> |
| PL.31－5 | S－07－0588<br>NA61<br>黒褐色砂質土層 | (6.0)<br>(5.5)<br>0.8<br>—<br>(30) | 緑色片岩 | A　両刃。背部はやや彎曲気味の直線状を呈し、端部は鋭い。全面細かな研磨痕あり。<br>○　B面全体に研磨痕が浅く、刃先中央部には磨滅痕あり。<br>○　なし | |
| PL.31－6<br>PL.55－2 | S－07－1753<br>ID64<br>第2号土器堆積<br>(SL 301) | (6.8)<br>6.0<br>0.8<br>—<br>(36) | 安山岩か | A　両刃気味片刃。端部は欠損後磨滅している。両面とも細かな研磨痕がある。<br>○　刃先は丸く磨滅しており、B面下半部は研磨痕は浅くなり磨滅している。<br>○　なし | 白色の石材<br> |
| PL.31－7 | S－07－1007<br>JY 54<br>黒色土層 | (6.8)<br>6.0<br>0.8<br>—<br>(36) | 緑色片岩 | A　両刃。背部は彎曲気味、端部は破損により円く変形。全面浅い研磨痕があるが、研磨の及ばない剝離面が大きく残存。体部A面では左端部は右上一左下、中央紐孔付近は左上一右下の方向性をもつ研磨であり、B面では紐孔下の凹みでは右上一左下であるが他は刃部にかけて左右方向である。A面刃部・背面は左右方向である。(内 4.5mm、外 7mm)<br>○　刃先に磨滅痕あり。<br>○　なし | Cタイプの可能性あり。<br> |
| PL.31－9 | S－07－1233<br>JU62<br>溝<br>(SF 081)<br>第1層・黒色土層 | (8.2)<br>6.2<br>0.7<br>2.7<br>(54) | 石英安山岩 | A　両刃気味片刃。比較的身幅が狭い。A面は刃面再研磨によりかすかに稜をなし、体部は研磨の及ばない剝離面がある。B面刃部は再研磨痕あり。刃部先端で傾斜し、刃先は厚みをもつ。(内 5mm、外 8.5mm)<br>○　両面とも製作時の研磨痕を残すが光沢を有する。B面に背部にかけて紐擦れ痕あり。<br>○　なし | (第Ⅰ様式)<br> |
| PL 31－10 | S－07－1589<br>IH56<br>礫混黒褐色土層 | (7.6)<br>(4.2)<br>0.8<br>—<br>(29) | 緑色片岩 | A　片刃。両面共片理面が残存。紐孔部A面には敲打を施しB面は直接穿孔するが、未貫通。刃面の研磨は刃先に沿った方向性をもつ。<br>○　刃先両面に剝離。磨滅痕は不明。<br>○　なし |  |

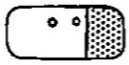
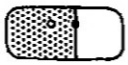
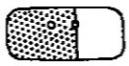
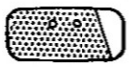
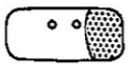
(　)は残存部分の法量である。　　(　)は紐孔径のうち内孔径・外孔径、右孔・左孔、A面・B面の法量である。

| 図版番号 | 登録番号<br>出土地点<br>遺構名<br>(遺構番号)<br>層位 | 法量<br>(cm)<br>(g) | 長さ<br>幅<br>厚<br>紐孔間距離<br>重量 | 石材 | 特徴 | タイプ 形態上・製作上の特徴<br>○使用痕跡<br>○背潰れ痕 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| PL.31—11 | S—07—0492<br>MN64<br>整地面 | (7.4)<br>(5.0)<br>0.7<br>—<br>(33) | | 緑色片岩 | A 両刃。背部は彎曲気味。端部は円い。比較的身幅は狭い。<br>○ 刃先中央部に剝離痕あり。磨滅痕は不明。<br>○ なし | | |
| PL.31—13 | S—07—1285<br>LK58<br>黒褐色土層 | (9.1)<br>5.9<br>0.7<br>2.8<br>(45) | | 緑色片岩 | A 片刃。全体に厚さが均一でない。A面の研磨痕は著しい。A面体部の研磨は、主として右上—左下の方向性をもつ。刃部は刃先に沿う方向に研磨されている。B面の研磨痕は失われており、右孔に上下の方向性をもつあらい研磨痕(?)がある。B面紐孔は敲打後穿孔す。(内5.5㎜、外8㎜、敲打面径15㎜) 紐孔はやや左下がりである。<br>○ B面全体に研磨痕は浅くなり、磨滅して光沢を有す。刃先は刃線に直交する磨滅で丸くなり、刃先よりB面左上方へのびる面の磨滅あり。<br>○ なし | | |
| PL.31—14 | S—07—1289<br>LK58<br>黒褐色土層 | (7.7)<br>(5.3)<br>0.8<br>—<br>(47) | | 黒色片岩 | A 片刃。背部はやや彎曲気味の直線状を呈し、端部は円い。刃面は幅が狭く、厚味をもち、体部に対し急角度につく。<br>○ 刃先に磨滅痕あり。両面共に、研磨痕は失われ、磨滅して光沢をもつ。<br>○ なし | | |
| PL.31—15 | S—07—1238<br>JU62<br>溝<br>(SF 081)<br>第1層・黒色土層 | (7.9)<br>(5.8)<br>0.7<br>—<br>(40) | | 石英安山岩 | A 両刃気味片刃。背部は浅く彎曲し、端部はB面側に折れて直線状の側辺をなす。全面、研磨痕が残存。剝離痕が随所にみられる。A面は平坦で、B面はやや丸味をもつ。(内6㎜、外9㎜)<br>○ B面刃先の研磨痕は消え、丸く磨滅している。<br>○ なし | | (第Ⅰ様式)<br> |
| PL.42—3<br>PL.59—7 | S—07—0624<br>NL60<br>灰褐色砂層 | (7.4)<br>(4.1)<br>1.2<br>—<br>(56) | | 安山岩か | A 片刃。背部は直線的だが端部は垂直に下る側辺をもつ。紐孔は身幅のほぼ中央に位置し、両面から敲打後穿孔する。(内 5.5㎜、外8㎜、敲打面径1.5cm～1.7cm)<br>○ 不明<br>○ 背部、刃部にある。特に刃部に著しく、刃面は失われ、直線状になる。殆ど剝離を伴わない。 | | 白色化している。<br>  |
| | S—07—0385<br>MD58<br>黒褐色礫混合土層 | (6.2)<br>(4.2)<br>0.5<br>—<br>(19) | | 緑色片岩 | A 片刃。身幅が狭い。背部はやや弯曲気味の直線状を呈し、端部は折れの後、研磨を施し、垂直に下る側辺をなす。<br>○ 刃先は丸く磨滅し、中央には凹みもみられる。B面は刃先より背部にかけて左上方向の磨滅がみられる。<br>○ 背部、刃部にわずかにあり。 | | |
| | S—07—0811<br>MF54<br>黒褐色礫混合土層 | (5.9)<br>(4.8)<br>0.7<br>—<br>(28) | | 緑色片岩 | A 片刃。両面とも刃部には研ぎ直しがあり、刃先は幅2㎜の平坦面をなす。<br>○ B面体部は磨滅により、研磨痕は消えている。<br>○ なし | | B面に鉄分付着。<br>A面は風化。<br> |
| | S—07—0820<br>JI62<br>整地層 | (4.2)<br>(5.8)<br>0.8<br>—<br>(25) | | 緑色片岩 | A 両刃。背面はやや外彎気味、端部は剝離面を再研磨して垂直に下る側辺をもつ。体部中央に最大厚を有す。<br>○ 刃面のごく先端に、両面とも光沢を有す。<br>○ なし | | 大型石庖丁か。<br>  |

( )残存部分の法量である。　　( )は紐孔径のうち内孔径・外孔径、右孔・左孔、A面・B面の法量である。

| 図版番号 | 登録番号<br>出土地点<br>遺構名<br>(遺構番号)<br>層位 | 法量<br>(cm)<br>(g) | 長さ<br>幅<br>厚<br>紐孔間距離<br>重量 | 石材 | 特徴 | タイプ 形態上・製作上の特徴<br>○使用痕跡<br>○背潰れ痕 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | S－07－1188<br>MJ50<br>黒褐色土層 | (6.8)<br>4.3<br>0.9<br>1.6<br>(40) | | 緑色片岩 | A 片刃。身幅は狭く厚手である。刃部稜付近で最大厚を測り、稜はなだらかである。端部は欠損、背部はやや薄い。紐孔は身幅の中央よりやや刃部寄りで右下がりに位置し、両面より穿孔され、孔径は小さい(内4㎜、外8㎜)。<br>○ 刃先は丸く磨滅。両面ともに研磨痕は浅く、B面は全体に光沢を帯びB面体部と背面との角は磨滅してうすくなる。B面背寄り、紐孔の角は磨滅。<br>○ 背面と端部刃先に有り。 | | |
| | S－07－1274<br>LG62<br>黒褐色土層 | (3.9)<br>(6.6)<br>0.8<br>—<br>(17) | | 緑色片岩 | A 両刃。非常にうすい。背部は彎曲気味。端部は折れ欠損。<br>○ 不明<br>○ なし | | |
| | S－07－1313<br>JS64<br>溝<br>(SF 081)<br>黒褐色土層 | (5.3)<br>(5.1)<br>0.8<br>—<br>(30) | | 緑色片岩 | A 両刃。両面とも刃部に左右方向の研ぎ直しがあり、両面とも不明瞭な稜線をもつ。<br>○ B面の研磨痕は磨滅して浅くなっている。刃先には、小剝離と刃線に直交する磨滅がみられる。<br>○ なし | |  |
| | S－07－1333<br>KD64<br>黒褐色土層 | (9.1)<br>5.3<br>0.8<br>—<br>(59) | | 緑色片岩<br>(点紋) | A 片刃。背部は彎曲気味。端部は剝離面の上に再研磨が施され、先端の鋭い側辺をつくりだす。B面上半部、研磨の及ばない片理面残存。背面は平坦な面をなし、平面との境は角をなす。<br>○ 刃先には小剝離があり、丸く磨滅している。<br>○ 不明 | 鉄分の付着が著しい。 | |
| | S－07－1335<br>JW64<br>溝<br>(SF 081)<br>第4層・灰褐色砂層 | (6.3)<br>(5.2)<br>0.7<br>—<br>(38) | | 緑色片岩 | A 両刃。身幅の広い形態。刃部A面は刃先に沿って研磨している。<br>○ 刃先は剝離欠損。<br>○ なし | (第Ⅰ様式) | |
| | S－07－1726<br>HA52<br>溝<br>(SF 325) | (5.5)<br>4.0<br>0.7<br>—<br>(21) | | 緑色片岩 | A 両刃。身幅の狭い形態。中央部稜線上に最大厚あり。B面には研磨面下に剝離面残存。両面とも刃部には左右方向の研ぎ直しあり。<br>○ 両面とも体部の研磨痕は浅くなっている。刃先には、刃線に直交する磨滅がある。<br>○ なし | 鉄分付着 | |
| PL.31－4<br>PL.55－3 | S－07－1342<br>IX66<br>溝<br>(SF 079)<br>黒褐色粘質土層 | (7.8)<br>5.5<br>0.7<br>2.1<br>(53) | | 緑色片岩 | B 片刃。背部は彎曲し、刃部はやや外彎気味。側辺は直線状を呈すが折れの後、再研磨によるものか、側辺はうすくつくられる。刃面には研ぎ直しあり。(内 5.5㎜、外A7㎜、B9㎜)<br>○ 刃先には刃線と直交する磨滅痕がみられ、B面は研磨痕が浅くなり、磨滅している。<br>○ なし | 鉄分付着 |  |
| PL.31－8 | S－07－0706<br>JD68・69<br>黒褐色砂質土層 | (6.4)<br>(5.9)<br>0.8<br>—<br>(47) | | 緑色片岩 | B 片刃。背部はやや彎曲気味。側辺は垂直に下るが剝離欠損後再研磨による。また側辺はうすくなる。横軸がB面側へやや彎曲している。両面に細かな研磨痕があるがB面はやや不明瞭である。体部A面では右上－左下、中央部で上下方向、B面では左上－右下の方向性をもつ研磨である。刃面は刃先に沿った方向性をもつ研磨である。<br>○ 刃先には磨滅がみられる。<br>○ なし | 鉄分付着 |  |

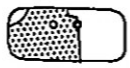
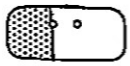
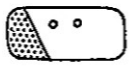
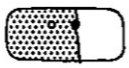
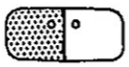
(　)は残存部分の法量である。　　(　)は紐孔径のうち内孔径・外孔径、右孔・左孔、A面・B面の法量である。

| 図版番号 | 登録番号<br>出土地点<br>遺構名<br>(遺構番号)<br>層位 | 法量(cm)(g)<br>長さ<br>幅<br>厚<br>紐孔間距離<br>重量 | 石材 | 特徴 | タイプ 形態上・製作上の特徴<br>○使用痕跡<br>○背潰れ痕 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| PL.31—12<br>PL.55—4 | S—07—1301<br>LO58<br><br><br>黒褐色土層 | (6.6)<br>(4.6)<br>0.7<br>—<br>(32) | 緑色片岩 | B 片刃。背部は弯曲し、刃部は浅く外彎する。刃部稜は不明瞭、背面は平坦な面を呈する。<br>○ 刃先は磨滅しており、B面刃部には刃先より左上方へのびる面の磨滅がみられる。肩部に至り、角は丸くなっている。<br>○ なし | |  |
| PL.31—16 | S—07—0619<br>MK63<br>溝<br>(SF 077)<br>灰褐色土層 | (5.2)<br>(5.1)<br>0.8<br>—<br>(28) | 緑色片岩 | B 片刃。背部・刃部とも彎曲している。A面刃部には刃先に沿った方向性をもつ粗い研磨痕あり、刃部稜に最大厚があり、稜線は不明瞭。<br>○ 刃先は磨滅しており、B面は刃部から背部にかけて、磨滅して光沢がある。<br>○ なし | | |
| PL.32—1 | S—07—1230<br>JW64<br>溝<br>(SF 081)<br>黒色土層 | (8.6)<br>6.2<br>0.8<br>2.6<br>(23) | 緑色片岩 | B 片刃。背部は彎曲しており、側辺は真直ぐに下る。折れの後に再研磨。刃部の稜線直上に最大厚がある。両面に細かな研磨痕あり。B面紐孔右上に1対の未貫通の穿孔痕あり。(内 5.5mm、外 9.5mm) 両面に研磨の及ばない剝離面残存。体部A面では右上—左下の方向性をもつ研磨痕があり、B面では上半部は右上—左下、下半は水平に近い右上—左下の方向性をもつ。刃部は刃先に沿った方向性をもつ。刃部稜はなだらか。Cタイプの可能性もある。<br>○ 刃先磨滅。B面刃部左上方へのびる面の磨滅あり。<br>○ なし | | (第Ⅰ様式)<br>  |
| PL.32—5<br>PL.55—5 | S—07—0828<br>JV58<br><br><br>整地層 | (9.3)<br>(4.8)<br>0.9<br>2.6<br>(63) | 緑色片岩 | B 両刃。背部・刃部ともにわずかに彎曲気味。端部は直線状を呈す。側辺にいくにつれてうすく出られる。両面に細かな研磨痕あり。背部・端部には研磨の及ばない剝離面残存。刃部は両面とも左右方向の研磨である。長軸に於いてB面へわずかに彎曲。(内 4mm、外 7mm)<br>○ 刃先中央には使用による刃線と直交する磨滅痕あり。<br>○ なし | | |
| PL.32—8<br>PL.55—6 | S—07—0709<br>MG59<br><br><br>灰色砂礫土層 | (8.4)<br>4.2<br>0.9<br>—<br>(47) | 緑色片岩 | B 片刃。背部はやや彎曲気味。端部は折れ欠損後再使用。A面左側に敲打痕残存。刃面は研ぎ直しがみられ、研磨痕が明瞭で2つの稜がある。(内 5.5mm、外 8mm)<br>○ 刃先は磨滅がみられ、A面体部、B面も磨滅して光沢がある。B面背方向に紐擦れ痕あり。<br>○ 背部にあり。 | | B面に鉄分の付着あり。<br>  |
| PL.32—11<br>PL.55—7 | S—07—1105<br>JM66<br><br><br>黒色土層 | (10.4)<br>3.4<br>0.6<br>A 1.7<br>B 2.5<br>(35) | スレート | B 片刃。身幅が狭い長方形。A面には細かい研磨痕が残る。長軸がB面へやや彎曲気味である。紐孔が3個あり3孔ともB面より深く穿孔。外孔経はB面の方が大きい。左側の双孔は身幅のほぼ中央に右下方に傾いて位置し、中央孔と右孔もまた、一対になる。これは左下がりに傾く。B面には未貫通の孔が4個残存。(内 5mm、外A 7mm、B 9.5mm)<br>○ B面は研磨痕が浅くなり、磨滅している。刃先は磨滅している。B面中央孔、背方向の外縁が磨滅する。<br>○ 背面に直接背潰、及び剝離面を伴なう背潰れ痕あり。 | |  |
| PL.42—6 | S—07—0788<br>JE54<br><br><br>整地層 | (8.5)<br>(3.9)<br>0.9<br>3.1<br>(47) | 緑色片岩 | B 片刃。背面は浅い弓状の張りのある彎曲で刃先は背潰れ痕により失われるが刃部稜に寄り、浅い外彎刃を呈す。右端は殆ど剝離欠損しているが、平面形は身幅の狭い長方形態であろう。紐孔は身幅の右下方に傾斜して位置する。(内 6mm、外 8mm)<br>○ B面左孔、背方向に紐擦れ痕あり。<br>○ 刃先は細かな剝離によりつぶれ、そのエッジに背潰れ痕が著しい。背面のA面側に傾斜してみられる。 | | 鉄分付着<br> |
| | S—07—0282<br>MI56<br>溝<br>(SF 074)<br>褐色砂層 | (6.4)<br>4.8<br>0.6<br>—<br>(27) | 緑色片岩 | B 片刃。背部・刃部ともに彎曲し、側辺は刃部へひろがって下る。研き残しの折れ面残存。背面の一部に抉ったように凹んだ面が2ケ所あり細かな上下方向の研磨痕が残る。<br>○ 刃先は丸く磨滅し、刃先よりB面左上方へのびる面の磨滅あり。肩部に至る。肩部には右下—左上方向の磨滅により浅く凹面を呈する部分あり。側辺エッジも磨滅して丸くなっている。<br>○ なし | |  |

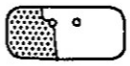
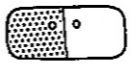
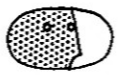
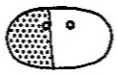
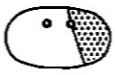
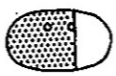
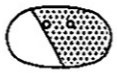
( )は残存部分の法量である。　( )は紐孔径のうち内孔径・外孔径、右孔・左孔、A面・B面の法量である。

| 図版番号 | 登録番号<br>出土地点<br>遺構名<br>(遺構番号)<br>層位 | 法量<br>(cm)<br>(g) | 長さ<br>幅<br>厚<br>紐孔間距離<br>重量 | 石材 | 特徴 | タイプ 形態上・製作上の特徴<br>○使用痕跡<br>○背潰れ痕 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | S—07—0431<br>ML59<br>溝<br>(SF 074)<br>黒色粘質土層 | (7.4)<br>(4.1)<br>0.8<br>—<br>(31) | | 安山岩か | B 片刃。A面に細かな研磨痕あり。(内6mm、外不明) 刃部稜は不明瞭でなだらかに下る。<br>○ B面全体に磨滅しており、光沢を有す。<br>○ 刃部に著しく、刃先は失われている。 | | 白色 |
| | S—07—0464<br>MN60 | (3.8)<br>(4.8)<br>0.7<br>—<br>(20) | | 緑色片岩 | B 片刃。背部は彎曲気味。刃部は直刃、側辺はわずかに剝離欠損しているが隅丸の長方形態。刃部の稜は明瞭で刃面は急傾斜面を成す。<br>○ 不明<br>○ なし | | |
| | S—07—0848<br>MI63<br>溝<br>(SF 075)<br>黒色粘質土層 | (4.8)<br>(5.2)<br>(0.5)<br>—<br>(18) | | 緑色片岩 | B 片刃。背部は彎曲しており側辺は折れ欠損後の再研磨によるものか斜め下方へのびる。B面剝離欠損。A面体部は右上—左下の方向性をもつ研磨である。<br>○ 不明<br>○ なし | | |
| | S—07—0887<br>KY60<br>土坑<br>(SK 251)<br>第3層 | (6.2)<br>(4.4)<br>0.5<br>—<br>(18) | | 緑色片岩 | B 片刃。隅円の長方形態。背部欠損。側辺も刃部の延長でうすくつくられる。<br>○ 不明<br>○ なし | | |
| | S—07—0955<br>JE58<br>床土・整地層 | 10.8<br>4.7<br>0.6<br>—<br>(48) | | 緑色片岩 | B 片刃。刃部は浅く外彎するが、全体として平行四辺形を呈す。両側辺、背部、刃部のみを研磨しており、両面は片理面のままで研磨は及ばない。。未穿孔の未製品か。<br>○ 刃先中央の先端がわずかに磨滅している。<br>○ なし | | |
| | S—07—1156<br>JZ | | | | S—07—0955と同一個体 | | |
| | S—07—0965<br>ML62<br>溝<br>(SF 077)<br>黒褐色土層 | (6.0)<br>4.9<br>0.7<br>—<br>(31) | | 緑色片岩 | B 片刃。背部は再研磨により平坦な面をなす。側辺は斜下方へのびる。両面とも細かな研磨痕がある。<br>○ 不明<br>○ なし | | |
| | S—07—1107<br>JM66<br>黒色土層 | (8.8)<br>5.3<br>0.6<br>3.2<br>(51) | | 緑色片岩 | B 片刃。身幅が広く、うすい。両面とも粗い研磨痕が残存。A面では右上がり、B面では右上がり、中央では上下方向の研磨である。刃面は左右方向である。(内 4.5mm、外 6.5mm)<br>○ B面側辺先端は丸く磨滅しており、側辺から 2.5cmまで、左下方向に面が磨滅しており、研磨痕は消えている。背面もまた、磨滅して光沢をもつ。刃部は打ち欠きが施され、両面に剝離している。そのエッジは磨滅している。<br>○ なし | | |

( )は残存部分の法量である。　　( )は紐孔径のうち内孔径・外孔径、右孔・左孔、A面・B面の法量である。

| 図版番号 | 登録番号<br>出土地点<br>遺構名<br>(遺構番号)<br>層位 | 法量(cm)(g)<br>長さ<br>幅<br>厚<br>紐孔間距離<br>重量 | 石材 | 特徴 | タイプ 形態上・製作上の特徴<br>○使用痕跡<br>○背潰れ痕 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | S－07－1195<br>JW66<br>黒褐色土層 | (7.2)<br>(5.2)<br>0.7<br>2.0<br>(35) | 石英安山岩 | B 片刃。刃部は浅く外彎する。両面とも研磨の及ばない剝離痕が残存。B面には未貫通の穿孔が2個あり、B面左孔に紐擦れ痕あり。(内 4.5mm、外 8.5mm) 刃面は刃先に沿った方向に研ぎ直しされている。<br>○ 刃先は磨滅している。B面下半も磨滅しており、光沢を有す。側辺は剝離後そのエッヅ及び両面とも磨滅している。<br>○ なし | |  |
| | S－07－1308<br>不明 | 11.9<br>4.9<br>0.7<br>2.4<br>60 | 石英安山岩 | B 両刃。変形形態。完形。背部、刃部とも浅く外彎する。右端部は丸く、左端部は直線状を呈す。左半分に厚みがあり、右へ行くに従い薄くなる。両面とも細かいが雑な研磨痕が残る。体部は両面とも左右方向、上下方向、右上－左下方向の研磨が混在しており、刃部は刃先に沿った方向の研磨である。A面の研磨の及ばない剝離面は、1つの大剝離面よりなっていることがわかる。B面刃部左側と左側辺のエッジに自然面残存。紐孔は左下方へ傾いて位置し、A面では左上方向、B面では左下方向より角度をもって穿孔されている。(内4mm、外7mm)<br>○ B面は磨滅して光沢がある。両面に紐擦れ痕あり。刃先左側はA面に、右側は両面に細かく剝離し、刃先がつぶれており、そのエッジは磨滅している。背部にも同様の剝離痕があるがその後研磨されている。<br>○ なし | | |
| | S－07－1325<br>LW62<br>黒褐色土層 | (5.8)<br>3.6<br>0.6<br>—<br>(19) | 石英安山岩 | B 両刃。身幅の狭い長方形。稜線上に最大厚を有す。両面とも刃部を研ぎ直している。左右方向の研磨である。両面とも研磨の及ばない剝離面が残存。<br>○ 両面とも上半部は磨滅して光沢をもち、側辺も同様に磨滅している。刃先には細かな剝離があるが、そのエッジは磨滅している。また、刃先の剝離は刃部の再研磨以前のものである。<br>○ なし | 茶灰色を呈する石材。 |  |
| | S－07－1452<br>JK 68<br>土器堆積<br>(SL 358)<br>黒褐色土層 | (6.0)<br>(4.7)<br>0.9<br>—<br>(42) | 石英安山岩か | B 両刃。刃部はやや外彎する。両面とも左右方向の細かな研磨痕がある。<br>○ 刃先はB面側に小さく剝離している。側辺中央部は磨滅して研磨痕が消えており浅く凹む。<br>○ 背面にわずかにあり。 | |  |
| | S－07－1710<br>GT50<br>溝<br>(SF 334) | (8.5)<br>4.8<br>0.7<br>1.9<br>(42) | 緑色片岩 | B 片刃。背部・刃部ともやや外彎する。刃面に研ぎ直しの左右方向の研磨痕が明らかである。紐孔は大きい。(内7mm、外10mm) 紐孔はかなり背寄りに位置している。(背から内径まで4～5mm)<br>○ 刃先は丸く磨滅しており、B面下半部も磨滅により光沢をもつ。両面に紐擦れ痕がある。側辺は剝離欠損後も使用により磨滅している。<br>○ なし | | |
| | S－07－1742<br>GX58<br>表土 | (6.9)<br>3.9<br>0.7<br>2.2<br>(39) | 緑色片岩 | B 片刃。身幅の狭い長方形態。紐孔は、両面より敲打後穿孔している。やや右下がりに位置する。(内6mm、外12mm×15mm) 刃部は両面とも左右方向に研ぎ直している。背面には抉った様に凹んだ面が3ケ所あり、細かな縦方向の研磨痕が残る。<br>○ 刃先は丸く磨滅している。両面とも磨滅して研磨痕は失われ、紐孔の稜は丸くなっている。<br>○ なし | |  |
| | S－07－1762<br>MH64<br>溝<br>(SF 074)<br>黒褐色礫混合土層 | (6.6)<br>5.9<br>1.1<br>—<br>(69) | 緑色片岩<br>(点紋) | B 片刃。背部・刃部ともやや彎曲気味。他とくらべて厚みがある。両面とも下半部の表面は剝落してあれている。<br>(内 5.5mm、外A 6.5mm、B 8.5mm)<br>○ 不明<br>○ なし | 火をうけて変色し、表面がもろくなっている。 |  |

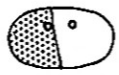
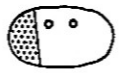
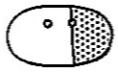
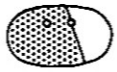
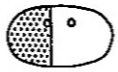
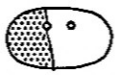
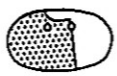
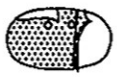
(　)は残存部分の法量である。　　(　)は紐孔径のうち内孔径・外孔径、右孔・左孔、A面・B面の法量である。

| 図版番号 | 登録番号<br>出土地点<br>遺構名<br>(遺構番号)<br>層位 | 法量<br>(cm)<br>(g) | 長さ<br>幅<br>厚<br>紐孔間距離<br>重量 | 石材 | 特徴 | タイプ 形態上・製作上の特徴<br>○使用痕跡<br>○背潰れ痕 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | S－07－1792<br>不明 | (6.2)<br>(4.7)<br>0.8<br>—<br>(36) | | 緑色片岩 | B 片刃。背部・刃部とも外彎気味。側辺は欠損し、エッジは磨滅している。中央部に紐孔は位置する。刃先中央部は研ぎ直しにより平坦になっている。(幅1mm)<br>○ B面に光沢あり。刃先は磨滅している。<br>○ 背面にわずかにあり。 | |  |
| | S－07－1813<br>LW50<br>黒褐色礫混合土層 | (8.0)<br>(5.3)<br>0.9<br>—<br>(66) | | 緑色片岩 | B 片刃。刃部はやや外彎気味。B面側辺に未貫通の孔が穿孔されている。(径12mm) 刃先はB面側に剥離しており、その面は研磨されている。側辺は二次的剥離により直線状を呈す。未製品か。<br>○ 不明<br>○ 背部・刃部にあり。背部の痕跡は著しく、凹んでいる。 | |  |
| | S－07－1853<br>MI58<br>溝<br>(SF 074)<br>黒色砂質土層 | (4.0)<br>(3.1)<br>0.5<br>—<br>(9) | | 黒色片岩 | B 片刃。背部は彎曲し、刃部は直刃。刃面の研ぎ直しがみられる。刃先に沿った方向の研磨である。<br>○ 刃先は丸く磨滅しており、B面は背部に至るまで全面磨滅して、光沢をもつ。<br>○ なし | | |
| PL.32－2 | S－07－1735<br>IV60<br>溝<br>(SF 080)<br>第5・6層 | (9.8)<br>5.2<br>0.7<br>3.2<br>(62) | | 緑色片岩 | C 両刃気味片刃。刃部稜線上に最大厚あり。両面とも紐孔附近に研磨の及ばない片理面残存。紐孔間の距離が他と比べて長く、紐孔は五角形を呈す。(内6mm、外8mm) 背面は平坦な面をなし、平面との境界は角をもつ。折れ欠損後、その面に研磨を施して再使用している。A面体部には右上一左下方向の研磨が施され、刃部は両面とも左右方向及び刃線に沿った方向の細かな研磨痕あり。背面は、斜め方向(右上り)の研磨である。<br>○ A面中央及びB面の研磨痕は失われ磨滅している。背部は光沢をもつ。<br>○ 刃先はB面側に小剥離しており、刃線に直交する背潰れ状の磨滅痕あり。 | |  |
| PL.32－3 | S－07－1009<br>JE66<br>褐色土層 | (5.6)<br>5.9<br>0.7<br>—<br>(36) | | 緑色片岩 | C 片刃。側辺は両面に剥離している。背面は平坦で、平面との境は角をもつ。両面とも細かな研磨痕あり。B面背部に研磨の及ばない面あり。(内6mm、外9.5mm) B面右孔の右に未貫通の穿孔痕あり。<br>○ 刃先は磨滅している。<br>○ なし | 鉄分付着 |  |
| PL.32－4 | S－07－0716<br>MJ57<br>溝<br>(SF 074)<br>黒褐色土層 | (7.5)<br>(6.0)<br>0.7<br>—<br>(50) | | 緑色片岩 | C 両刃気味片刃。側辺には剥離欠損している部分あり。両面共に粗い研磨痕がある。体部は両面とも右上一左下方向、刃部は両面とも刃線に沿った方向性をもつ研磨である。背面、B面背部は左右方向の研磨である。背面は平坦で平面との境は角をなす。B面刃部も狭い刃面をなし、稜をもつ。<br>○ 刃先は丸く磨滅しており、B面は研磨痕が浅くなっている。<br>○ なし | |  |
| PL.32－6 | S－07－0750<br>MM61<br>溝<br>(SF 074)<br>褐色砂層 | (8.9)<br>(5.4)<br>0.6<br>2.3<br>(61) | | 緑色片岩 | C 片刃。両面に細かな研磨痕あり。両面とも右上一左下の方向性をもつが、A面は左右方向に近く、B面は上下方向に近い方向性の研磨である。紐孔は正円形をなさず角がある。(内6.5mm、外7.5mm)<br>○ 両面とも刃部付近は研磨痕が消えている。<br>○ 背部・刃部にあり。 | |  |
| PL.32－7 | S－07－1761<br>IB64<br>第2号土器堆積<br>(SL 301)<br>炭砂混黒褐色腐植土層 | (12.0)<br>5.7<br>0.6<br>2.9<br>(69) | | 緑色片岩 | C 両刃。両面とも全面に細かな研磨痕があるが、研磨の及ばない片理面が残存。両面は体部、刃部とも、左右方向の研磨である。背面も左右方向の研磨である。背面は平坦な面をなし、平面との境は角をなす。(内6mm、外7mm) B面左孔上に未貫通の穿孔痕あり。<br>○ なし<br>○ なし | |  |

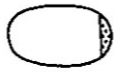
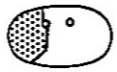
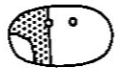
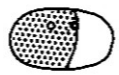
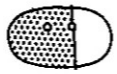
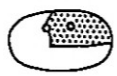
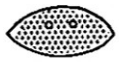
( )は残存部分の法量である。　( )は紐孔径のうち内孔径・外孔径、右孔・左孔、A面・B面の法量である。

| 図版番号 | 登録番号<br>出土地点<br>遺構名<br>(遺構番号)<br>層位 | 法量<br>(cm)<br>(g) | 長さ<br>幅<br>厚<br>紐孔間距離<br>重量 | 石材 | 特徴 | タイプ 形態上・製作上の特徴<br>○使用痕跡<br>○背潰れ痕 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| PL.32—9 | S—07—1006<br>JY54<br>黒色土層 | (9.7)<br>4.0<br>0.9<br>2.5<br>(59) | | 安山岩か | C 片刃。身幅の狭い楕円形態。横軸が、B面側に彎曲している。両面とも刃部を研ぎ直しており、左右方向の粗い研磨痕あり、側辺は剥離欠損している。体部は両面とも磨滅により研磨痕は浅くなっているが、両面とも右上一左下、上下方向、左右方向といろいろな方向性をもち一定していない。紐孔は左下がりである。(A面内 5.5mm、左外 6.5mm、右外 8mm) (B面内 5.5mm、左外 8.5mm、右外 6.5mm)<br>○ 刃先は丸く磨滅しており、B面、背面に光沢あり。面の磨滅も著しく、B面では大部分の研磨痕は失われ光沢をもち、A面左肩、背面も同様である。B面背方向に紐擦れ痕あり。<br>○ なし | | 白色である。 |
| PL.32—10 | S—07—1344<br>IL68<br>第4号土器堆積<br>(SL 303)<br>黒色砂質土層 | (15.1)<br>4.4<br>0.6<br>3.4<br>(62) | | 黒色片岩 | C 片刃。身幅の狭い楕円形態。刃部は直刃。右側辺は剥離欠損しエッジが磨滅している。A面体部、刃部とも左右方向、B面体部紐孔周辺右上一左下の方向、刃部は左右方向の研磨が施されている。(内 6.5mm、外 8mm)<br>○ 刃先は磨滅しており、特に中央部で著しい。両面にひもずれ痕あり。<br>○ 背面中央にわずかにあり。 | | (第Ⅰ様式) |
| PL.32—12 | S—07—1016<br>JM66<br>褐色土層 | (7.8)<br>4.0<br>0.7<br>2.6<br>(42) | | 黒色片岩 | C 片刃。身幅の狭い楕円形態。側辺はうすくなっており、剥離欠損している。両面とも粗い研磨痕あり、A面は右上一左下方向、B面は左右方向である。A面左孔左周辺に敲打痕あり。破損面を再研磨再使用している。(内 4.5mm、外 5.5mm)<br>○ 刃先は丸く磨滅しており、B面中央から左側は研磨痕が消え、磨滅している。両面に紐擦れ痕がある。<br>○ なし | | |
| PL.32—13<br>PL.55—8 | S—07—1366<br>IS68<br>溝<br>(SZ 318)<br>第2層・黒色土層 | (14.2)<br>4.6<br>0.7<br>2.6<br>(76) | | 石英安山岩 | C 片刃。身幅の狭い楕円形態。両面とも細かな研磨痕がある。刃面の研ぎ直しがみられる。紐孔は左側に寄っており、左下方に傾いて、刃部よりに位置する。(内左 6mm、右 5mm、外左11mm、右 9mm)<br>○ 刃先は磨滅しており、B面刃部及び左孔左側一帯は研磨痕は消え、磨滅して光沢をもつ。両面に紐擦れ痕あり。<br>○ なし | | |
| | S—07—1367<br>JA62<br>溝<br>(SF 079)<br>灰黒色粘土層 | | | | S—07—1366と同一個体。 | | |
| PL.42—7 | S—07—1323<br>IV66<br>黒褐色土層 | (8.6)<br>4.8<br>0.7<br>—<br>(42) | | 石英安山岩 | C 片刃。刃部は直刃を呈し、刃面には左右方向の研ぎ直しがみられる。紐孔は身幅のほぼ中央に位置する。(内 5.5mm、外 8mm) B面左孔の左に4個の未貫通の穿孔痕あり。<br>○ A面は研磨痕は浅く残り、B面では失われ、光沢が著しい。刃先は丸く磨滅。B面背方向に紐擦れ痕あり。<br>○ 背部・刃部にあり、ともに著しい所は凹みをなす。 | | |
| | S—07—0014<br>MN58<br>茶褐色土層 | (8.2)<br>5.8<br>0.8<br>2.5<br>(49) | | 緑色片岩 | C 片刃。刃部は浅い外彎刃を呈し、刃先に沿った研磨が施される。B面には片理面が大きく残存し、紐孔周辺のみ厚みが大きい。A面体部には右上一左下の傾斜の急な方向の研磨が施され、紐孔左側の肩部は、抉ったように凹んだ部分があり、細かな研磨痕あり。(内6.5mm、外10mm)左孔A面からの穿孔は途中でとまっており、B面上方よりB面に対して斜めに穿孔してくいちがいが生じている。<br>○ B面全体研磨痕は消えており、磨滅して光沢をもつ。刃先は丸くなっている。両面に紐擦れ痕あり。<br>○ なし | | |
| | S—07—0024<br>MN57<br>茶褐色礫混合土層 | (7.9)<br>4.6<br>0.8<br>2.2<br>(48) | | 緑色片岩 | C 片刃。身幅の狭い楕円形態。両面ともに研磨の及ばない片理面残存。(内 5mm、外 7.5mm)<br>○ 刃先は磨滅が著しく凹凸をなし、やや内彎刃気味である。B面刃部は左上方へのびる磨滅痕あり、光沢をもつ。<br>○ なし | | |

( )は残存部分の法量である。　( )は紐孔径のうち内孔径・外孔径、右孔・左孔、A面・B面の法量である。

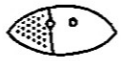
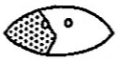
| 図版番号 | 登録番号<br>出土地点<br>遺構名<br>(遺構番号)<br>層位 | 法量<br>(cm)<br>(g) | 長さ<br>幅<br>厚<br>紐孔間距離<br>重量 | 石材 | 特徴 | タイプ 形態上・製作上の特徴<br>○使用痕跡<br>○背潰れ痕 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | S－07－0105<br>KK63<br>第3層・褐色砂質土層 | (6.1)<br>4.2<br>0.8<br>—<br>(29) | | 緑色片岩 | C 片刃。身幅の狭い楕円形態。側辺は剝離欠損す。刃面にのみ左右方向の研磨痕があり、研ぎ直しがわかる。体部はA面右上一左下、B面は左上一右下の方向性をもつ研磨である。紐孔は刃部寄りに位置する。<br>○ 背部は光沢あり。<br>○ 刃先に小剝離痕があり背潰れ痕がわずかに残る。 | |  |
| | S－07－0109<br>KF63<br>第3層・褐色砂質土層 | (5.4)<br>(3.8)<br>0.9<br>—<br>(28) | | 緑色片岩 | C 片刃。身幅の狭い楕円形態。刃部は直刃に近い。側辺には小剝離痕あり。左右方向のあらい研磨痕あり。<br>○ 不明<br>○ なし | | 下半面火をうけて変色。<br>  |
| | S－07－0213<br>NJ54<br>第5層・砂層 | (8.8)<br>4.2<br>0.7<br>—<br>(42) | | 緑色片岩 | C 片刃。身幅の狭い楕円形態。刃面は研ぎ直しが施され、広い。<br>○ 刃先は丸く磨滅しており、B面全体背面にかけて磨滅し、光沢をもつ。刃先には小剝離痕あり。<br>○ なし | |  |
| | S－07－0221<br>KT66<br>第3層・黒色砂質土層 | (15.0)<br>5.6<br>0.8<br>2.4<br>(67) | | 緑色片岩 | C 片刃。両面とも細かな研磨痕あり、研磨の及ばない片理面残存。体部は両平面とも右上一左下の方向性をもち刃面は刃先に沿った方向の研磨、背面は右上一左下の方向性をもつが2つの稜をもち3回にわけて研磨される。紐孔は他と比較して、大きく、正円形でない。(内7㎜、外12.5㎜)<br>○ 刃先は丸く磨滅しており、その後、細かな剝離痕あり。<br>○ 刃先にあり。及び背部剝離面のエッジにわずかにあり。 | |  |
| | S－07－0405<br>MC59<br>黒色土層 | (5.8)<br>4.2<br>0.7<br>1.6<br>(22) | | 緑色片岩 | C 片刃。刃面のみ研ぎ直しによる左右方向の研磨痕あり。両面とも片理面がみえる。側辺にいくにつれうすくなる。背寄り、刃部寄りと二段に紐孔が位置する。下方の紐孔の径は大きく、A面左下方より穿孔、B面右上方より穿孔されている。背面に抉った様に凹んだ部分あり、その面に縦方向の細かな研磨痕がある。<br>○ 刃先は丸く磨滅している。B面全体に研磨痕は消えている。上方の紐孔のB面背方向に紐擦れ痕あり。<br>○ なし | |  |
| | S－07－0556<br>MG61<br>溝<br>(SF 075)<br>黒色土層 | (4.4)<br>(4.6)<br>0.6<br>—<br>(17) | | 緑色片岩 | C 片刃。側辺剝離欠損。刃面にのみ刃先に沿った方向性をもつ研磨痕がみられる。<br>○ 不明<br>○ なし | |  |
| | S－07－0609<br>MK63<br>溝<br>(SF 077)<br>腐混黒色粘質土層 | (6.5)<br>(5.0)<br>0.8<br>2.4<br>(40) | | 緑色片岩 | C 片刃。刃部は浅く外彎する。刃面は研ぎ直しがみられ、広い。背面は平坦で、平面との境は角をもつ。(内 5.5㎜、外A 8㎜、B 9㎜) A面は左右方向、B面は右上一左下方向の研磨である。側辺わずかに剝離欠損す。<br>○ 刃先は刃線に直交する磨滅痕あり。B面紐孔背方向に紐擦れ痕あり。<br>○ なし | | 全面炭が附着して真黒である。<br>  |
| | S－07－0722<br>IV67<br>溝<br>(SF 079)<br>黒色砂質土層 | (9.7)<br>5.3<br>1.0<br>2.8<br>(59) | | 石英安山岩 | C 片刃。端部は尖り気味の楕円形態。両面ともに剝離痕を残すが、全面細かな研磨痕あり。端部は自然面を残す。紐孔はA面は左下方向より、B面は左方向より穿孔しており、紐孔の軸は左下方に傾いている。紐孔右に未貫通の穿孔痕あり。体部はA面では上下方向で、いくつか研磨面があり、B面では右上一左下、左上一右下の方向性をもついくつかの研磨面よりなる。刃部は両面とも刃先に沿った研磨である。<br>○ 刃先は丸く磨滅しており、B面中央部は研磨痕は浅くなり、磨滅している。B面全面光沢を有す。両面に紐擦れ痕あり。<br>○ 刃先の一部にわずかにあり。 | |  |

(　)は残存部分の法量である。　　(　)は紐孔径のうち内孔径・外孔径、右孔・左孔、A面・B面の法量である。

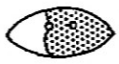
| 図版番号 | 登録番号<br>出土地点<br>遺構名<br>(遺構番号)<br>層位 | 法量(cm)(g)<br>長さ<br>幅<br>厚<br>紐孔間距離<br>重量 | 石材 | 特徴 | タイプ 形態上・製作上の特徴<br>○使用痕跡<br>○背潰れ痕 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | S—07—0754<br>MJ57<br>溝<br>(SF 074)<br>褐色砂層 | (3.5)<br>(5.4)<br>0.8<br>—<br>(15) | 緑色片岩 | C 片刃。B面剝離後再研磨、再使用。<br>○ 刃先に磨滅痕あり。<br>○ なし | |  |
| | S—07—0771<br>JE54<br>整地層 | (5.9)<br>(5.1)<br>0.6<br>—<br>(26) | 緑色片岩 | C 片刃。A面、刃面一部を除いて全面剝離欠損。側辺も欠損。<br>○ 刃先に小剝離痕あり。背面に光沢あり。<br>○ なし | | A面全体に鉄分付着。<br>  |
| | S—07—1085<br>JI54<br>溝<br>(SF 079)<br>上層 | (8.8)<br>5.1<br>0.7<br>—<br>(44) | 緑色片岩 | C 片刃。再使用のためか長さの短かい形態。そのため刃面もごく狭く、研磨の及ばない所は丸くなっている。紐孔は他と比べて小さい。(内 3.5㎜、外 7㎜)<br>○ 不明<br>○ なし | | |
| | S—07—1157<br>JZ | (6.3)<br>6.2<br>0.6<br>—<br>(32) | 緑色片岩 | C 片刃。A面には細かな研磨痕がみられる。刃面は左右方向の研ぎ直しあり、広い刃面を呈す。側辺はうすくつくられている。<br>○ 刃先は磨滅しており、B面に光沢がみられる。<br>○ なし | |  |
| | S—07—1302<br>LO58<br>黒褐色土層 | (9.1)<br>5.3<br>0.8<br>2.9<br>(54) | 緑色片岩 | C 片刃。身幅は広く、端部に至り幅狭くなり先端はやや円味をもつ。端部は薄い。背面は平坦。横軸でB面側へ彎曲。紐孔は身幅の中央よりやや背寄りで、右下がりに位置する。(内左 5㎜、右 4.5㎜、外左A 9㎜、B 6.5㎜、右 8㎜)。<br>○ 刃先は背潰れ痕により失われる。B面全体に光沢を帯びる。<br>○ A面肩部に剝離が見られるが、所謂背潰れとは異なるものか。端部を除いた刃部に背潰れ痕があり、剝離を伴う。 | | 火をうけて変色し、表面は荒れている。<br>  |
| | S—07—1334<br>JW64<br>溝<br>(SF 081)<br>第4層・灰褐色砂層 | (7.6)<br>(4.1)<br>0.8<br>2.9<br>(38) | 緑色片岩 | C 片刃。両面とも面の磨滅が著しく、刃面のみ研磨痕残存。刃先に沿った方向性をもつ研磨である。端部は剝離欠損した部分あり。紐孔は敲打後穿孔されており、他と比べて径は大きい。(内 8㎜、外不明) 紐孔の軸は右下りである。<br>○ 刃先は剝離しているが、エッジも又磨滅している。右孔の左側の稜が磨滅により丸くなっている。<br>○ 背部に特に著しく、背部の原形を失う。刃部端部周辺にもあり。 | |  |
| | S—07—1746<br>MB50<br>黒色砂質土層 | (10.5)<br>(5.5)<br>0.6<br>2.6<br>(59) | 緑色片岩 | C 不明。身幅の広い楕円形態。体部A面には右上—左下方向、B面には傾斜のゆるい右上—左下方向の研磨が施される。背面は平坦な面を呈し両面との境界で角を呈す。左右方向の研磨である。紐孔は背寄りに位置し、比較的径の小さな孔である。(内 5㎜、外 7㎜) 刃部は打ち欠きにより失われる。<br>○ B面の研磨痕が浅くなっており、背部の磨滅がみられる。<br>○ なし | |  |
| PL.33—1<br>PL.56—1 | S—07—0573<br>MY61<br>褐色砂質土層 | 11.8<br>5.3<br>0.9<br>2.5<br>84 | 緑色片岩 | D 片刃。完形。紐孔左孔右上方に対応して、B面右孔左側に未貫通の穿孔痕あり。(内 6㎜、外10.5㎜)<br>○ B面、背面には光沢があり、A面にはない。刃先には磨滅痕があり、B面左半分背部にかけて面が磨滅している。両面に紐擦れ痕あり。<br>○ なし | |  |

(　)は残存部分の法量である。　　(　)は紐孔径のうち内孔径・外孔径、右孔・左孔、A面・B面の法量である。

## 石庖丁

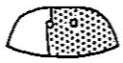
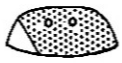
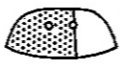
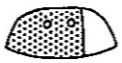
| 図版番号 | 登録番号<br>出土地点<br>遺構名<br>(遺構番号)<br>層位 | 法量 (cm) (g) | 長さ<br>幅<br>厚<br>紐孔間距離<br>重量 | 石材 | 特徴 | タイプ 形態上・製作上の特徴<br>○使用痕跡<br>○背潰れ痕 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| PL.33—2<br>PL.56—2 | S—07—1593<br>KL57<br>第4層 | 16.1<br>6.0<br>0.9<br>3.1<br>(118) | | 緑色片岩<br>(黒色片岩か) | D 両刃気味片刃。完形。A面体部右端部には上下方向、刃面には刃先に沿った方向性をもつ研磨が施される。紐孔は左寄りで、左下方へ傾いている。(内4㎜、外7～8㎜) 長軸がB面側へ反っている。<br>○ B面全面、A面背面の研磨痕は消え、光沢をもつ。刃先は刃線に直交する磨滅痕があり、先端は丸くなっており、又凹んだ部分もある。B面刃部に刃先から左上方へのびる面の磨滅がみられ、紐孔の左側の背部も磨滅している。B面背方向の紐擦れ痕あり。<br>○ なし | | 表面に鉄分の付着が著しい。<br> |
| PL.33—3 | S—07—0148<br>KK70<br>第3層・黒色砂質土層 | (5.3)<br>(5.8)<br>0.9<br>—<br>(44) | | 砂岩片岩 | D 片刃。左端部は短かい直線状を呈す杏仁形態（復元長13.5cm)。紐孔は敲打後穿孔されている。左端部には剥離欠損がみられる。<br>○ 刃先は丸く磨滅しており、刃線に直交する磨滅痕がある。B面刃部に面の磨滅がみられる。<br>○ なし | | S—07—0150と同一個体。<br>  |
| | S—07—0150<br>KK70<br>第3層・黒色砂質土層 | (6.4)<br>6.0<br>0.9<br>—<br>(52) | | 砂岩片岩 | D 片刃。右端部は鋭さのない杏仁形態。同 上<br>○ 同 上<br>○ なし | | S—07—0148と同一個体。<br> |
| PL.33—4 | S—07—0149<br>KK70<br>第3層・黒色砂質土層 | (8.6)<br>5.6<br>0.7<br>—<br>(30) | | 緑色片岩 | D 両刃気味片刃。端部は鋭い。A面には研ぎ直しにより刃面がつくられている。右上—左下方向の研磨である。両面の研磨痕は磨滅により浅くなっている。両面ともに研磨の及ばない剥離面が残存。紐孔はA面は左下方向より、B面では右上方向より穿孔している。<br>○ 刃先は丸く磨滅している。B面よりA面の磨滅が著しく、A面の紐孔の左側の背部は右下—左上方向の磨滅痕があり、刃面の再研磨により、A面、B面が逆になっている。<br>○ なし | | |
| PL.33—5 | S—07—1317<br>JC64<br>黒褐色土層 | (8.5)<br>(5.4)<br>0.8<br>—<br>(49) | | 緑色片岩 | D 片刃。背面は浅く弓なりに彎曲し、刃部は端部に至って切れ上がる。両面とも研磨痕は消え、刃面～端部にかけて刃先に沿った方向の研磨痕がみられる。刃部の稜は不明瞭でなだらか。<br>○ 刃先は丸く磨滅し、刃線に直交する磨滅痕がある。B面全体に磨滅痕がみられる。<br>○ なし | | 全面に鉄分付着。<br> |
| PL.33—6 | S—07—0745<br>JD68<br>黒色砂質土層 | (11.9)<br>6.9<br>0.9<br>2.9<br>(102) | | 緑色片岩 | D 両刃気味片刃。身幅が広く、中央に最大厚あり。両面に研磨の及ばない打ち欠き面残存。紐孔は敲打後穿孔、左下方へ傾斜している。右孔A面左下、B面では右に穿孔を意図した敲打痕あり。(内7㎜、敲打痕径15㎜)<br>○ 刃先は丸く磨滅し、刃線に直交する磨滅痕があり、B面左上方へかけて刃部に磨滅がみられる。A面には上半部では右上—左下方向、下半部は刃先に沿った方向性の細かな研磨痕が浅くみられるがB面では失われている。<br>○ なし | | |
| PL.33—7 | S—07—1185<br>JY58<br>黒色土層 | (7.9)<br>(5.0)<br>0.5<br>—<br>(27) | | 緑泥片岩<br>(黒色混) | D 片刃。端部は鋭い。背面、刃部は研磨によりつくられるが体部にはあらい研磨で、両面とも片理面残存。うすい板材を利用。(内5㎜、外7㎜)<br>○ 刃先は丸く磨滅している。<br>○ なし | |  |
| PL.33—8 | S—07—1136<br>JI66<br>褐色土層 | (8.5)<br>(5.4)<br>0.7<br>—<br>(41) | | 緑色片岩 | D 片刃。端部は鋭い。A面体部には右上—左下方向、刃面は刃線に沿った方向性をもつ研磨が施される。端部にいくにつれてうすくつくられる。(内6㎜、外10㎜)<br>○ 刃先は鋭いが刃線と直交する磨滅痕がわずかにみられる。<br>○ なし | | |

(　)は残存部分の法量である。　　(　)は紐孔径のうち内孔径・外孔径、右孔・左孔、A面・B面の法量である。

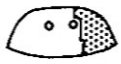
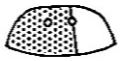
| 図版番号 | 登録番号<br>出土地点<br>遺構名<br>(遺構番号)<br>層位 | 法量(cm)(g)<br>長さ<br>幅<br>厚<br>紐孔間距離<br>重量 | 石材 | 特徴 | タイプ 形態上・製作上の特徴<br>○使用痕跡<br>○背潰れ痕 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| PL.33—9 | S—07—0693<br>IW66<br>溝<br>(SF 079)<br>黒色砂質土層 | (10.8)<br>6.0<br>0.9<br>3.0<br>(82) | 緑色片岩 | D 片刃。両面とも細かな研磨痕。A面体部は右上一左下方向、左右方向の研磨。B面にも同方向の研磨が施されている。刃面には二度の研ぎ直しがみられ、右上一左下方向、刃先に沿った方向性をもつ研磨である。B面左孔右に未貫通の穿孔痕あり。(内 6.5mm、外 9.5mm)<br>○ B面の研磨痕は、磨滅により消え、背部には光沢もみられる。刃先は丸く磨滅しており、刃線に直交する磨滅痕もみられる。B面背方向に紐擦れ痕あり。<br>○ なし | | |
| PL.33—10 | S—07—0414<br>MD60<br>黒色土層 | (10.7)<br>5.9<br>0.8<br>2.8<br>(83) | 緑色片岩 | D 片刃。端部の鋭さがない形態。端部にいくにつれてうすくつくられる。全体の大きさのわりに紐孔は小さく、不正円形を呈す。(内 5mm、外 8mm)<br>○ 両面とも研磨痕は失われているが、B面には光沢がみられる。刃先は火をうけたため、面があれている。<br>○ なし | 火をうけて変色。 | |
| PL.33—11 | S—07—1661<br>MY60<br>黒色砂粘質土層 | (10.1)<br>5.5<br>0.7<br>2.0<br>(67) | 緑色片岩 | D 片刃。両面とも研磨痕が浅く残存。両面とも左右方向のあらい研磨である。背面は左右方向である。長軸に於て、B面側へわずかに彎曲。B面左孔上方及び左下、右孔上方に未貫通の穿孔痕あり。(内 6mm、外 8mm)<br>○ 刃先は刃線に直交及び左上方へのびる磨滅あり。B面刃部、背部に刃先から左上方へのびる面の磨滅あり。B面背方向に紐擦れ痕あり。<br>○ なし | |  |
| PL.34—1 | S—07—1694<br>ML54<br>溝<br>(SF 078)<br>黒色砂質土層 | (10.1)<br>(5.3)<br>0.8<br>2.1<br>(55) | 緑色片岩 | D 片刃。身幅は広く、浅い外彎刃であり、紐孔はごく背寄りにある。A面は丸味をもち、B面は平坦である。B面右孔は敲打後穿孔。両面とも細かな研磨痕があり、左右方向(やや右上がり)が主であり、左上一右下方向、刃面は右上一左下方向の研磨である。背面はいくつかの研磨面より成り、右上一左下の斜め方向の研磨である。(内 6.5mm、外 9.5mm)<br>○ 刃先は鋭く、使用痕跡はみられず。<br>○ なし | | |
| PL.34—2 | S—07—1190<br>JI54<br>茶褐色土層 | (11.4)<br>5.2<br>0.7<br>2.2<br>(59) | 緑色片岩 | D 片刃。身幅は広く、浅い外彎刃であり、紐孔は背寄りにある。右端部剝離によりうすくなる。B面は片理面より剝離した所もあり厚さが均一でない。A面体部は左右方向が主だが、右上一左下、左上一右下方向の研磨もあり、刃部は右上一左下方向、刃面は刃先に沿った方向性をもつ研磨である。B面刃部も刃先に沿った方向性をもつ。左孔は三角形状の不正円形を呈す。(内 5mm、外10mm)<br>○ 刃先は丸く磨滅しており、B面全体磨滅して光沢をもつ。刃先の剝離面も磨滅している。B面紐孔背方向に紐擦れ痕あり。<br>○なし | | |
| PL.34—3<br>PL.56—3 | S—07—0827<br>JU58<br>整地層 | (10.8)<br>5.7<br>0.9<br>3.1<br>(79) | 緑色片岩 | D 片刃。身幅は広く、浅い外彎刃である。右端部うすくなる。体部の研磨痕は消えているが、刃面は左右方向の研磨が施される。紐孔の間隔は広く、紐孔は右下がりである。A面紐孔の上方にごく浅く広い未貫通の穿孔痕がある。(内 7mm、外 13mm)<br>○ 刃先は刃線に直交する磨滅で丸くなり、凹んだ部分もある。刃先からB面左上方へのびる磨滅痕がある。光沢もある。B面背方向に紐擦れ痕あり。右端部の背面のうすくなった部分のエッジも丸く磨滅しており、長軸に直交する磨滅痕あり。<br>○ なし | | |
| PL.34—4 | S—07—0388<br>MB58<br>黒色土層 | (9.0)<br>5.3<br>0.7<br>2.8<br>(56) | 緑色片岩 | D 片刃。身幅は広く、浅い外彎刃であり、紐孔は背寄りにある。B面左孔右に未貫通の穿孔痕あり。<br>○ 刃先は丸く磨滅。<br>○ なし | 火をうけて淡紅色に変色。端部は火ぶくれを生じる。 | |

( )は残存部分の法量である。　( )は紐孔径のうち内孔径・外孔径、右孔・左孔、A面・B面の法量である。

## 石庖丁

| 図版番号 | 登録番号<br>出土地点<br>遺構名<br>（遺構番号）<br>層位 | 法量<br>(cm)<br>(g) | 長さ<br>幅<br>厚<br>紐孔間距離<br>重量 | 石材 | 特徴 | タイプ　形態上・製作上の特徴<br>○使用痕跡<br>○背潰れ痕 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| PL.34－5 | S－07－1348<br>JU62・64<br>土坑<br>（SK 526）<br>黒色土層 | (9.1)<br>5.2<br>1.0<br>2.5<br>(61) | | 緑色片岩 | D　片刃。身幅は広く、浅い外彎刃であり、紐孔は背寄りにある。体部下半に最大厚あり。刃面には研ぎ直しがあり、刃線に沿った研磨である。紐孔は両面から敲打後穿孔されている。(内7mm、外11mm)<br>○　刃先は丸く磨滅し、刃線に直交する磨滅痕がみられる。刃先からB面左上方へのびる磨滅あり。両面とも磨滅により研磨痕は消えている。<br>○　なし | |  |
| PL.34－6<br>PL.56－4 | S－07－0681<br>JB64<br>溝<br>（SF 079）<br>黒色砂質土層 | (11.4)<br>5.2<br>0.8<br>1.9<br>(64) | | 緑色片岩 | D　片刃。身幅は広く、浅い外彎刃である。A面紐孔の左右に大きく片理面が残存し、部分的に研磨されている。刃面は、刃先に沿った方向の研ぎ直しあり。稜線は不明瞭である。背面はほぼ平坦な面であり、平面との境界は丸い。A面端部は研磨により、背方向に浅く凹む。(内6mm、外8mm)<br>○　両面共に磨滅し、研磨痕は浅くなっており、B面では、大半消える。A面の片理面は磨滅している。A面右肩部は右上方向に磨滅する。刃先は刃線に直交する方向に磨滅し、B面刃先より、上方にややのびる。B面左肩部は右下方より磨滅がのびる。両面に紐擦れ痕あり。<br>○　なし | |  |
| PL.34－7 | S－07－0477<br>LY58<br>溝<br>（SF 075）<br>腐混黒色粘質土層 | (7.6)<br>5.3<br>0.8<br>2.7<br>(47) | | 緑色片岩 | D　片刃。身幅は広く、浅い外彎刃であり、紐孔は背寄りにある。両面とも左右方向の研磨が施される。背面は平坦な面を呈し両面との境は角をもつ。刃面には研ぎ直しがあり、刃部の稜は明確。(内6mm、外8mm)<br>○　刃先は丸く磨滅している。刃先の一部B面へ剝離欠損。<br>○　なし | |  |
| PL.34－8 | S－07－1135<br>JI66<br>褐色土層 | (8.3)<br>5.4<br>0.7<br>2.0<br>(45) | | 緑色片岩 | D　片刃。身幅は広く、浅い外彎刃。A面体部は右上一左下、左右方向の研磨。刃面は刃先に沿った方向性をもつ研磨。B面は左右方向の研磨が施される。両面とも研磨の及ばない剝離面残存。背面は平坦な面をなし両面との境で角をなす左右方向の研磨である。(内6mm、外11mm)　B面右孔右に未貫通の穿孔痕あり。端部には剝離欠損した部分あり。<br>○　刃先は丸く磨滅している。B面背寄りに紐擦れ痕あり。<br>○　なし | 鉄分付着 |  |
| PL.34－9 | S－07－0668<br>MF65<br>整地面 | (11.2)<br>5.3<br>0.9<br>2.9<br>(89) | | 緑色片岩 | D　片刃。身幅が広く、浅い外彎刃。紐孔は背寄りに位置する。B面左孔右に未貫通の穿孔痕あり。(内 5.5mm、外 8.5mm)　背面右端に抉りとった様に凹んだ部分あり。<br>○　全面磨滅により研磨痕は消えており光沢をもつ。刃先は丸く磨滅しており、刃線に直交し、B面左上方へななめにのびる面の磨滅あり。B面の紐孔の稜は全て丸くなり、A面では双孔とも背方向及び右孔では左側の稜が磨滅している。右側折れ欠損後、そのエッジは丸く磨滅し、そのエッジからのびて、B面にも磨滅。<br>○　なし | | |
| PL.34－10 | S－07－0559<br>MQ56<br>溝<br>（SF 078）<br>褐色砂層 | (8.8)<br>4.9<br>0.6<br>3.0<br>(36) | | 緑色片岩 | D　片刃。身幅は広く、浅い外彎刃。端部はうすくつくられる。紐孔は背寄りに位置する。他と比較して薄く、紐孔の径は小さく双孔間隔は広い。紐孔は三角形状不正円形である。(内5mm、外8mm)<br>○　全面磨滅により、研磨痕は消えている。刃先は丸く磨滅し、刃先からB面左上方へのびる面の磨滅も著しい。<br>○　背面中央にわずかに残存。 | | |
| PL.34－11 | S－07－0092<br>KP66<br>第4層・整地面 | (7.3)<br>4.8<br>0.6<br>2.7<br>(32) | | 緑色片岩 | D　片刃。身幅は広く、浅い外彎刃だが中央部はやや凹む。長軸でB面側へ屈折している。A面体部には右上一左下の急傾斜のものと緩い傾斜の方向性の研磨があり、B面体部は右上一左下方向の研磨が残存。折れ欠損面に再研磨を施す。(内6×7mm、外10mm)　左孔は二度の穿孔により、不正円形を呈す。<br>○　面の研磨痕は磨滅により大半消えている。刃先の磨滅は著しく、先端は丸くなり、内彎刃気味になる。刃先からB面左上方へのびる面の磨滅がみられる。B面背よりに紐擦れ痕あり。<br>○　なし | | |

（　）は残存部分の法量である。　　（　）は紐孔径のうち内孔径・外孔径、右孔・左孔、A面・B面の法量である。

| 図版番号 | 登録番号<br>出土地点<br>遺構名<br>(遺構番号)<br>層位 | 法量<br>(cm)<br>(g) | 長さ<br>幅<br>厚<br>紐孔間距離<br>重量 | 石材 | 特徴 | タイプ 形態上・製作上の特徴<br>○使用痕跡<br>○背潰れ痕 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| PL.34—12 | S—07—0406<br>MB61<br><br><br>黒色土層 | (7.6)<br>(5.8)<br>0.8<br>—<br>(45) | | 片麻岩 | D 片刃。身幅は広く、浅い外彎刃を呈す。<br>○ 火をうけたため、表面はあれているが、磨滅によるであろう光沢が残る。<br>○ なし | | 火をうけて白色化紅色化している。<br>  |
| PL.34—13 | S—07—0298<br>MJ64<br>溝<br>(SF 075)<br>腐混黒色粘質土層 | (10.7)<br>5.3<br>0.7<br>2.3<br>(54) | | 緑色片岩 | D 片刃。身幅は広く、浅い外彎刃を呈す。紐孔は背寄りにある。背面は中央部が平坦で急に屈折し、弓状に張りのある形である。刃面の幅は狭い。(幅 1.5mm) 背面は平坦な面を呈し、両面との境で角をなす。右孔左側に未貫通の穿孔痕あり。(内 6.5mm、外 9mm)<br>○ 全面磨滅により研磨痕は失われ光沢をもつ。刃先は丸く磨滅しており、刃先からB面左上方へのびる面の磨滅が著しく、背面角までのびており、丸くなっている。<br>○ なし | | 一部火をうけて変色。<br>(第Ⅱ様式)<br> |
| PL.35—1<br>PL.56—5 | S—07—1609<br>ND62<br><br><br>黒褐色砂層 | 11.5<br>4.2<br>0.9<br>2.2<br>64 | | 緑色片岩 | D 片刃。ほぼ完形。身幅は狭く、刃部は浅い外彎刃である。最大幅は右側に寄る。紐孔は左下りに傾斜。紐孔はA面では敲打後穿孔、B面では直接穿孔。(内 4.5mm、外A 8mm、B 9×11mm) B面体部、刃部は平坦な面を呈し細かな右上—左下の方向性をもつ研磨があり、再研磨されているが、その研磨もすでに浅くなる。他は全面磨滅により光沢をもつ。<br>○ 刃先は丸く磨滅している。刃先には小剥離があり、そのエッジはつぶれている。両面に紐擦れ痕あり。<br>○ なし | | |
| PL.35—2 | S—07—0101<br>KJ63<br><br><br>第3層・褐色砂質土層 | (9.3)<br>4.8<br>0.9<br>2.5<br>(59) | | 緑色片岩 | D 片刃。身幅は狭く、刃部は浅く外彎する。両面とも研磨痕は消えている。端部下方わずかに欠損。刃面の研ぎ直しがみられる。(内 6.5mm、外10～11mm)<br>○ 刃先には刃線に直交する磨滅痕が著しく細かな凹凸がある。更にB面刃部左上方へのびる面の磨滅がみられる。B面では背方向に紐擦れ痕がある。A面では左孔は右下方、右孔は左側の稜が磨滅している。<br>○ なし | |  |
| PL.35—3 | S—07—0520<br>MH63<br><br><br>黒色土層 | (12.5)<br>(4.8)<br>0.8<br>2.6<br>(55) | | 緑色片岩 | D 片刃。身幅の狭い杏仁形態。B面右側⅔剥離欠損。A面全体に研磨痕は浅く残る。右上—左下の方向性をもつ、刃面は刃先に沿った方向である。紐孔は左側に片寄り、左下がりである。(内 5mm、外 9mm)<br>○ 刃先は丸く磨滅しており、B面の磨滅も著しい。紐孔左上の背面の剥離面が磨滅しており、凹面を呈す。<br>○ 背面中央部にあり。 | | |
| PL.35—4 | S—07—1138<br>JI66<br><br><br>褐色土層 | 11.0<br>4.1<br>0.7<br>2.4<br>50 | | 緑色片岩 | D 片刃。完形。比較的小型。左端部欠損後再研磨により、うすくつくられ変形形態。左紐孔はA面は右上方より、B面では右下方より穿孔し、くいちがいがみられ、孔の形が三角形状を呈す。(内 6mm、外10mm) A・B面体部に研磨痕が残存しており、A面上半では右上—左下方向、下半ではそれより傾斜の緩いもの、B面では傾斜の急な右上—左下の方向性をもつ研磨である。<br>○ 刃先は丸く磨滅しており、また、刃線に直交する磨滅による小さな凹みもみられる。B面刃部及び左上方背部にかけて面の磨滅がある。<br>○ なし | | |
| PL.35—5 | S—07—1717<br>GP54<br><br><br>整地層 | (8.1)<br>4.2<br>0.8<br>2.2<br>(36) | | 石英安山岩 | D 片刃。身幅は狭く、刃部は直刃に近い浅い外彎刃。両面とも細かな研磨痕がある。A面体部は右上—左下方向、刃部では左右方向、B面でも右上—左下方向の研磨である。(内 4.5mm、外 9mm)<br>○ B面の研磨は浅く残存。刃先は丸く磨滅している。B面では背方向にわずかに紐擦れ痕あり。<br>○ なし | | |

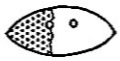
( )は残存部分の法量である。　　( )は紐孔径のうち内孔径・外孔径、右孔・左孔、A面・B面の法量である。

| 図版番号 | 登録番号<br>出土地点<br>遺構名<br>(遺構番号)<br>層位 | 法量(cm)(g)<br>長さ<br>幅<br>厚<br>紐孔間距離<br>重量 | 石材 | 特徴 | タイプ 形態上・製作上の特徴<br>○使用痕跡<br>○背潰れ痕 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| PL.35—6<br>PL.56—6 | S—07—0734<br>MI57<br>溝<br>(SF 074)<br>褐色砂層 | (13.5)<br>4.3<br>0.7<br>2.7<br>(62) | 緑色片岩 | D 片刃。身幅は狭く、刃部は直刃に近い外彎刃。両面とも部分的に細かな研磨痕があるが使用による面の磨滅が著しい。A面体部は右上一左下方向、B面中央は上下方向、右側では右上一左下の方向性をもつ研磨である。刃面には右上一左下の方向性をもつ研ぎ直しがみられる。右端部剝離欠損面にも磨滅がみられ、再使用。左孔は不正円形で外径は五角形を呈す。(内 5.5mm、外11.5mm)<br>○ 刃先は丸く磨滅しており、全面光沢をもつ。B面左上方へのびる面の磨滅がみられる。両面に紐擦れ痕あり。B面では面の剝離があり、剝離面の磨滅が著しい。<br>○ なし | | |
| PL.35—7 | S—07—0360<br>MZ | 10.4<br>4.8<br>0.6<br>2.1<br>50 | 緑色片岩 | D 片刃。完形。比較的小型。右端部欠損後再研磨再使用。背面は研磨によりいくつかの面よりなり、両面に細かな研磨痕がある。刃先は再研磨により平坦な面をなす。A面体部では上下方向でやや右上寄りが主で右上一左下方向の研磨もある。B面では右上一左下方向のいくつかの研磨。背面でも右上一左下の研磨がみられる。(内 5.5mm、外 8mm)<br>(右端刃先幅 1.2mm～ 0.5mm)<br>○ 刃先は平坦な面よりなるが、刃頂部周辺は丸く磨滅しており、B面刃部の研磨痕は消え、光沢をもつ。<br>○ なし | | |
| PL.35—8 | S—07—0858<br>MF62<br>溝<br>(SF 075)<br>黒褐色礫混合土層 | (8.8)<br>4.4<br>0.8<br>3.1<br>(49) | 緑色片岩 | D 片刃。身幅は狭く、刃部は直刃に近い浅い外彎刃。A面には細かな研磨痕が浅く残るがB面では消えている。A面背部では左右方向、左端部では上下方向、刃面は刃先に沿った方向性をもつ研磨である。端部先端欠損。(内 7mm、外 8.5mm)<br>○ 刃先は丸く磨滅しており、B面刃部左上方へのびる磨滅痕がみられる。B面では背方向に紐擦れ痕がある。<br>○ なし | | |
| PL.35—9 | S—07—0401<br>ME61<br>黒色土層 | 13.9<br>4.6<br>0.8<br>2.4<br>76 | 緑色片岩<br>(点紋) | D 片刃。完形(中央で折れ)。身幅は狭い。両端部は剝離欠損。両面とも研磨痕は消えているが刃面には刃先に沿った研磨がみられる。A面左側に右上一左下の方向性をもつ研磨が残存。紐孔は左下がりである。B面右孔の右側に未貫通の穿孔痕あり。<br>○ 刃先は丸く磨滅しており、B面左上方へのびる磨滅痕がみられる。B面紐孔の背寄りに、A面左孔の右下の稜に紐擦れ痕あり。<br>○ なし | | |
| | S—07—0973<br>MF56<br>溝<br>(SF 074)<br>黒色土層 | | | S—07—0401と同一個体 | | |
| PL.35—10 | S—07—1628<br>HO66<br>黒褐色土層 | (8.7)<br>4.7<br>0.9<br>2.6<br>(60) | 緑色片岩 | D 片刃。身幅の狭い杏仁形態。刃面周辺に研ぎ直しがみられる。A面体部は右上一左下方向、刃面は刃先に沿った方向性をもつ研磨である。(内 6.5mm、外11mm) 左紐孔の上方に敲打による(?)凹みがある。<br>○ 刃先は磨滅しており、B面全体に研磨痕は消えている。両面に紐擦れ痕あり。特にB面に著しい。更にA面左孔の左側～下方へかけての稜も磨滅している。<br>○ 刃先の一部B面側へ小剝離しそのエッジはつぶれている。 | | |
| PL.35—11<br>PL.56—7 | S—07—1131<br>JI66<br>褐色土層 | (10.5)<br>3.9<br>0.7<br>2.5<br>(47) | 緑色片岩 | D 片刃。両端は剝離欠損。身幅は狭い。両面とも研磨痕は消えているが刃面にのみ刃先に沿った方向性をもつ研磨があり、研ぎ直しがわかる。最大幅が右側にある。紐孔は左下がりに傾斜している(内 5.5mm、外 8.5mm)。<br>○ 刃先は丸く磨滅しており、B面左上方へのびる面の磨滅がみられる。特に紐孔の左側の背部の磨滅は著しく浅い凹みもみられる。両面に紐擦れ痕が顕著。<br>○ なし | | 鉄分付着<br> |

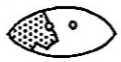
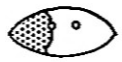
( )は残存部分の法量である。　( )は紐孔径のうち内孔径・外孔径、右孔・左孔、A面・B面の法量である。

| 図版番号 | 登録番号<br>出土地点<br>遺構名<br>(遺構番号)<br>層位 | 法量<br>(cm)<br>(g) | 長さ<br>幅<br>厚<br>紐孔間距離<br>重量 | 石材 | 特徴 | タイプ 形態上・製作上の特徴<br>○使用痕跡<br>○背潰れ痕 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| PL.35—12 | S—07—1721<br>GL50<br>溝<br>(SF 082) | (12.9)<br>4.0<br>0.8<br>2.7<br>(64) | | 緑色片岩 | D 片刃。身幅が狭く浅い外彎刃。右端部から$\frac{1}{3}$位に最大幅がある。刃面に二度の研ぎ直しがみられる。刃先に沿った方向性をもつ研磨である。紐孔は左側に片寄っており、他と比べて紐孔は大きい。(内 8mm、外10.5mm) 長軸は浅くS字状に彎曲している。背面中央では稜線が形成される。背面右側には背を削りとって凹めたような痕跡が3ケ所あり、その面には長軸と直交する擦痕（研磨痕）が残存。背面左側には長軸と直交する方向の磨滅痕があり、それが著しく凹面を呈する部分あり。<br>○ 刃先は丸く磨滅しており、B面刃部左上方へのびる磨滅痕がみられる。B面刃部及び紐孔左方の面の磨滅が著しい。両面に紐擦れ痕あり、特に左孔右下方の磨滅が著しい。<br>○ 背面にわずかにあり。 | | |
| PL.42—10<br>PL.59— 8 | S—07—0727<br>MI57<br>溝<br>(SF 074)<br>黒色土層 | 10.7<br>(3.4)<br>0.8<br>2.3<br>(50) | | 緑色片岩<br>(点紋) | D 完形。片刃。本来的に背部は中央が浅い彎曲で、両肩部で屈折して下り、刃部は浅く外彎する杏仁形態である。その変形で右端は垂直に下り、鎌形を呈す。長軸においてB面側へ彎曲する。紐孔は左寄りに位置する。双孔とも両面から敲打後穿孔。内孔は不正円形を呈す。(内 5.5mm、外10mm～13mm)<br>○ 不明<br>○ 背部、刃部に著しく共に中央部で大きく凹む。 | | |
| PL.42—11<br>PL.59— 9 | S—07—1381<br>KP66 | 13.1<br>(4.4)<br>0.8<br>—<br>(82) | | 緑色片岩<br>(点紋) | D 両刃。背部中央部は背潰れにより失われているが、中央は浅く彎曲し、端部に至り屈折してのびる角ばった肩をもつ。紐孔はつくられず。両面に研き残しの片理面残存す。<br>○ 刃先は丸く磨滅し、B面刃部へわずかにのびている。<br>○ 背面中央部に著しく、原形は失われ、中央部は大きく凹む。刃部右端にもわずかにあり。 | | |
| | S—07—0001<br>HQ66<br>第4層・黄褐色土層上面 | (11.2)<br>4.0<br>0.7<br>2.4<br>(43) | | 緑色片岩 | D 片刃。身幅は狭く、刃部は浅く外彎。体部中央で最大厚を測る。両端部は欠損後一部再研磨し、その後磨滅。A面には右上がり、B面には右上一左下方向、左上一右下方向の研磨が施される。紐孔は左寄りで中央よりやや背寄りに位置する。(内 5.5mm、外A 6.5mm、B 8.5mm) 刃面には右上がり方向の研ぎ直しあり。<br>○ 両面とも研磨痕は失われ、光沢をもつ。刃先には刃線と直交する方向の磨滅痕が見られる。また、刃先からはB面左上方へのびる磨滅が見られる。<br>○ 背面右紐孔直上～肩部にかけて、A面側に傾斜をもって見られる。 | 鉄分付着 | |
| | S—07—0026<br>KH68<br>第3層・黒色砂質土層 | (7.0)<br>3.6<br>0.7<br>—<br>(24) | | 緑色片岩 | D 片刃。身幅の狭い杏仁形態。刃部は研ぎ直され稜は明確でないが、刃部稜付近で最大厚を測る。肩部B面は大きく剝離欠損。A面右上がり、左右方向、上下方向、刃面は左右方向、B面左上がりの研磨痕あり。<br>○ 刃先は丸く磨滅し、中央寄りでは刃線が浅く凹んでいる。刃先よりB面左上方へのびる磨滅あり、全面に光沢を帯びる。<br>○ なし | | |
| | S—07—0038<br>MJ57<br>黒色土層 | (6.5)<br>4.1<br>0.6<br>—<br>(24) | | 緑色片岩 | D 片刃。身幅は狭く、刃部は浅く外彎し、端部は円い。端部は特に薄い。A面背部の中央寄りと端部に背の線と直交する方向の鋭いもので抉った様な浅い凹み（幅1～1.5mm）が見られる。A面全体に右上がり、端部を除いて急な右上一左下、左上一右下方向、B面右上一左下方向、刃部は左右方向の研磨が施される。<br>○ 刃先は丸く磨滅し、刃先よりB面左上方へのびる面の磨滅あり。B面体部全体は、研磨痕は失われ、光沢を帯びる。特にB面背部は磨滅による浅い凹みがみられる。<br>○ 背部中央寄りに僅かにみられる。 | | |
| | S—07—0045<br>MJ57<br>黒色土層 | (2.8)<br>(2.4)<br>(0.4)<br>—<br>(3) | | 緑色片岩 | D 片刃。身幅が狭いと思われる杏仁形態の端部破片。<br>○ A面は研磨痕浅く、B面は光沢を帯びる。<br>○ なし | | |

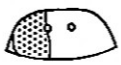
( )は残存部分の法量である。　　( )は紐孔径のうち内孔径・外孔径、右孔・左孔、A面・B面の法量である。

| 図版番号 | 登録番号<br>出土地点<br>遺構名<br>（遺構番号）<br>層位 | 法量（cm）（g）<br>長さ<br>幅<br>厚<br>紐孔間距離<br>重量 | 石材 | 特徴 | タイプ　形態上・製作上の特徴<br>○使用痕跡<br>○背潰れ痕 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | S－07－0049<br>KX58<br>土器堆積<br>（SL 392）<br>第5層 | (4.5)<br>(4.2)<br>0.7<br>—<br>(16) | 黒色片岩 | D　片刃。杏仁形態。刃面は研ぎ直されている。背部、刃部ともB面へ打ち欠きあり。<br>○　全面に光沢を帯びる。<br>○　なし | | |
| | S－07－0051<br>MJ56<br>黒色砂質土層 | (10.6)<br>(4.8)<br>0.8<br>—<br>(58) | 緑色片岩 | D　片刃。身幅の広い杏仁形態。刃部は浅く外彎。両面とも背部欠損後再研磨を施す。刃部の稜は明確である。端部先端は破損後研磨。研磨面下に片理面残存。<br>○　刃先には刃線と直交する磨滅痕が見られ、B面刃部左上方へのびる磨滅がある。刃部には小剝離も見られる。背部および左方の破損部先端のエッジは磨滅。<br>○　なし | 両面ともに僅かに鉄分付着。 | |
| | S－07－0059<br>MJ56<br>溝<br>（SF 074）<br>褐色砂層 | (6.2)<br>(3.1)<br>(0.4)<br>—<br>(9) | 黒色片岩 | D　片刃。身幅の狭い杏仁形態。A面肩部に左下方へのびる抉った様な浅い凹みあり。<br>○　B面肩部には、左上方へのびる磨滅痕あり。<br>○　中央寄り刃部先端に僅かにB面側へ傾斜して見られる。 | | |
| | S－07－0065<br>KF66<br>第3層・黒色砂質土層 | (10.1)<br>4.8<br>0.8<br>1.9<br>(54) | 緑色片岩 | D　片刃。刃部は研ぎ直され浅く外彎。刃部稜付近で最大厚を測る。背部は背潰れのため著しく損傷し、原形を留めず。A面右上一左下方向、左上一右下方向、急な右上一左下方向、刃面は急な右上一左下方向、刃線に沿った方向、B面右上一左下方向、左上一右下方向に研磨が施されている。紐孔は背寄りに3孔を有し左孔は下がりぎみで、中央の孔と右孔は水平である（内左5.5㎜、中央5㎜、右4×5㎜、外左不明、中央10㎜、右A 9.5㎜）。右孔は外縁に接して何度か穿孔された痕跡を留め、不正円形を呈す。<br>○　A面体部中央およびB面端部と肩部、背面に光沢を帯びる。端部の背部はB面へ剝離しており、その剝離面の磨滅も著しい。<br>○　肩部背面は後世の剝離で失われるが残っている背面にあり。 | | |
| | S－07－0091<br>KE67<br>第3層・黒色砂質土層下部 | (5.2)<br>(5.2)<br>0.6<br>—<br>(33) | 緑色片岩<br>（点紋） | D　片刃。身幅の広い杏仁形態。もとのB面に再研磨により刃面をつくる。A面端部には擦り切りによって、急な左上一右下方向に溝が一条つけられている（幅4㎜）。背面はほぼ平坦。両面共右上一左下方向の研磨が施されている。（内5.5㎜、外A 9㎜、B10㎜）<br>○　両面共に研磨痕は薄れている。B面背寄り紐孔角は磨滅。<br>○　刃部先端にあり。A面側への剝離を伴う。 | |  |
| | S－07－0093<br>MI56<br>黒色砂質土層 | (10.9)<br>4.8<br>0.5<br>2.3<br>(46) | 結晶片岩 | D　片刃。刃部は浅い外彎刃。両面とも片理面が大きく残存している。刃面には左右方向の研ぎ直しあり。右端部は折れの後再加工しており鎌形を呈す。長軸でB面へゆがみがある。紐孔は他と比べて大きい。（内7㎜、外9㎜）B面紐孔上方に未貫通の穿孔痕あり。<br>○　全面の磨滅が著しい。刃先は丸く磨滅し、光沢をもつ。B面刃部には刃先から左上方へのびる磨滅痕がみられる。<br>○　なし | | |
| | S－07－0107<br>MK59<br>黒褐色礫混合土層 | (3.5)<br>(3.5)<br>0.5<br>—<br>(8) | 緑色片岩 | D　片刃。身幅狭く、端部は円味を持ち、薄手である。刃部は浅く外彎し、研ぎ直されている。<br>○　刃先は丸く磨滅。<br>○　なし | | |
| | S－07－0140<br>MH57<br>褐色砂層 | (4.3)<br>(3.7)<br>0.8<br>—<br>(20) | 緑色片岩 | D　片刃。身幅狭く、端部は破損後の再研磨により円味をもつ。B面背寄り体部の研磨面下に製作時の剝離痕残存。刃面は急傾斜するが、刃部稜は不明瞭。<br>○　B面刃部から左上方背部にかけて磨滅が見られる。<br>○　背部、刃部にあり。背部ではA面に、刃部ではB面に剝離を伴う。 | | |

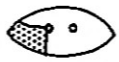
（　）は残存部分の法量である。　　（　）は紐孔径のうち内孔径・外孔径、右孔・左孔、A面・B面の法量である。

| 図版番号 | 登録番号<br>出土地点<br>遺構名<br>(遺構番号)<br>層位 | 法量(cm)(g)<br>長さ<br>幅<br>厚<br>紐孔間距離<br>重量 | 石材 | 特徴 | タイプ 形態上・製作上の特徴<br>○使用痕跡<br>○背潰れ痕 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | S−07−0162<br>MQ63 | (7.1)<br>(5.0)<br>0.9<br>—<br>(31) | 緑色片岩 | D 片刃。身幅の広い杏仁形態。端部は円みをもつ。表面は火をうけて変色し、片理に沿い剝離。(内5mm、外A 8mm、B不明)。<br>○ 背面は光沢をもつ。<br>○ なし | | 火をうけて変色。<br>  |
| | S−07−0178<br>KN69<br>第3層・褐色砂質土層 | (12.9)<br>5.6<br>0.7<br>2.7<br>(79) | 緑色片岩<br>(点紋) | D 片刃。端部の鋭さのない形態。端部にいくにつれてうすくつくられる。左端部欠損後再使用。長軸がB面側へ浅く彎曲している。紐孔は両面に敲打後穿孔されている。(内7mm、敲打面径16mm×15mm)<br>○ A面には細かな研磨痕が残り、B面では失われているが共に光沢をもつ。刃先は刃線に直交する磨滅痕があり、小さな凹凸がみられる。B面左上方へかけて面の磨滅がみられる。剝離欠損面も磨滅して光沢を有す。<br>○ 刃先右側にB面への剝離がある。(所謂背潰れ痕はない。) | | |
| | S−07−0185<br>MI59<br>腐植土層 | (5.1)<br>(4.8)<br>(0.5)<br>—<br>(16) | 緑色片岩 | D 不明。身幅の広い杏仁形態。片理に沿って剝落した一方を利用。背面には打ち欠きあり。周辺のエッジは磨滅。<br>○ 不明<br>○ なし | | |
| | S−07−0191<br>MK63<br>黒褐色礫混合土層 | (6.0)<br>(5.0)<br>0.8<br>—<br>(28) | 緑色片岩 | D 片刃。身幅の広い杏仁形態。端部はやや円味をもつ。刃部稜は明瞭である。両面共研磨面下に片理面が一部残存。<br>○ 刃先は丸く磨滅しており、小剝離も見られる。両面共研磨痕は浅く、肩部には光沢を帯びる。<br>○ なし | | 鉄分付着<br>  |
| | S−07−0196<br>MI62<br>溝<br>(SF 075)<br>黒色土層 | (10.5)<br>(3.8)<br>0.6<br>2.5<br>(45) | 緑色片岩 | D 片刃。身幅は狭く、刃部は浅く外彎し、背部は背潰れが著しく、原形を留めず。横軸は僅かにB面に彎曲。紐孔付近は表面剝離後磨滅。紐孔は左寄りで左下がりに位置する。(内 6.5mm、外 8.5mm)。紐孔周辺に敲打痕残存。<br>○ B面刃部より左上方へ伸びる磨滅痕あり。B面やや左上方背に向けて紐擦れ痕あり。<br>○ 背部、刃部にあり。肩部、端部先端、刃部中央ではA面側に傾斜しており、背部中央より肩部にかけてと、刃部中央より右方ではB面側に傾斜して見られる。小剝離を伴う。 | | |
| | S−07−0199<br>MM61<br>黒色砂質土層 | (6.9)<br>(4.9)<br>0.7<br>—<br>(27) | 緑色片岩 | D 片刃。身幅はやや広く、刃部は浅く外彎。紐孔下方で最大厚を測る。端部は薄く、先端破損後磨滅。肩部はB面側へ剝離欠損。(内6mm、外7mm)。<br>○ 刃先には刃線と直交する方向の磨滅痕がみられ、丸くなる。刃先よりB面左上方へのびる磨滅痕あり。<br>○ なし | | |
| | S−07−0214<br>NK59<br>第3層・黒褐色砂質土層 | (13.3)<br>(5.4)<br>0.8<br>2.0<br>(68) | 緑色片岩 | D 片刃。身幅は広く、浅い外彎刃形態。左端部破損後一部再研磨しているが、A面体部に剝離面が残存。B面研磨面下に片理面残存。A面急な右上一左下方向、刃面には刃線に沿った方向、B面左上一右下方向の研磨が施される。紐孔はやや左側に寄っており、右孔はA面右斜め上方より、B面右斜め下方より穿孔され、不正円形を呈す。(内左5mm、右6×5.5mm、外左10mm、右A10.5mm、B 9mm)。<br>○ 端部刃先には刃線と直交する磨滅痕があり、中央より左方の刃先は背潰れ痕により不明。A面体部中央およびB面全体は研磨痕が浅くなり、B面では光沢をもつ。<br>○ 背部、刃部にあり。右紐孔上方背にB面側へ傾斜してあり。肩部ではA面側へ傾斜して見られる。刃部では端部を除いた個所に見られ、紐孔直下では特に著しく刃面は失われる。A面側に傾斜し、小剝離を伴う。 | | |

(　)は残存部分の法量である。　　(　)は紐孔径のうち内孔径・外孔径、右孔・左孔、A面・B面の法量である。

| 図版番号 | 登録番号<br>出土地点<br>遺構名<br>（遺構番号）<br>層位 | 法量（cm）（g）<br>長さ<br>幅<br>厚<br>紐孔間距離<br>重量 | 石材 | 特徴<br>タイプ　形態上・製作上の特徴<br>○使用痕跡<br>○背潰れ痕 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|
| | S－07－0222<br>MJ58<br>溝<br>（SF 074）<br>褐青色砂層 | (7.6)<br>4.2<br>0.8<br>—<br>(29) | 緑色片岩 | D　両刃ぎみ片刃。身幅は狭く、端部は薄くなり、円味をもつ。刃部は浅い外彎刃。端部に至り外彎する。両面の研磨面下に製作時の剝離面残存。紐孔は両面より敲打後穿孔。（内 5.5mm、外12mm）<br>○　刃先には刃線に直交する磨滅が著しく、丸くなっており、刃線上細かな凹凸がみられ、中央ではやや内彎気味。刃先からB面左上方背へ伸びる磨滅痕あり。<br>○　なし | |
| | S－07－0223<br>MJ58<br>溝<br>（SF 074）<br>黒色砂質土層 | (4.7)<br>(3.6)<br>0.6<br>—<br>(14) | 緑色片岩 | D　片刃。身幅は狭く、背面中央は略直線的にのび、端部で屈折する。端部は薄い。刃部稜は明確ではない。A面体部中央に敲打痕が残存。<br>○　刃先は丸く磨滅。<br>○　A面寄りの背面に極く僅かにみられる。 | |
| | S－07－0233<br>KK69<br>土坑<br>（SK 584）<br>第4層 | (3.6)<br>(4.7)<br>0.5<br>—<br>(11) | 緑色片岩<br>（点紋） | D　両刃。杏仁形態。薄手である。刃部稜は不明瞭。<br>○　刃先には刃線と直交する磨滅痕がある。刃部は光沢を帯びる。両面ともに研磨痕が薄れて光沢あり、特に刃部に著しい。<br>○　なし | 大型石庖丁の可能性あり。<br> |
| | S－07－0250<br>ML60<br>溝<br>（SF 074）<br>褐色砂層 | (5.9)<br>(4.9)<br>1.0<br>—<br>(28) | 緑色片岩 | D　片刃。身幅の広い杏仁形態。刃部は浅く外彎する。A面体部から刃部にかけては、なだらかである。刃部先端は研ぎ直されている。<br>○　刃先はB面側へ小剝離している。両面共に研磨痕は浅い。<br>○　なし | |
| | S－07－0255<br>MN62<br>溝<br>（SF 074）<br>褐色砂層 | (7.4)<br>(5.1)<br>1.0<br>—<br>(52) | 緑色片岩 | D　片刃。身幅の広い杏仁形態。端部は円味をもつが、片理面に沿い剝離破損。紐孔下方で最大厚を測り厚手である。背はやや薄い。刃部稜はなだらかである。表面全体に粗い研磨が施されている。紐孔は背寄りで両面より敲打後穿孔。（内 4mm、外A11mm、B 8mm）。<br>○　刃先は丸く磨滅し、光沢をもつ。B面体部と背面との角は丸く磨滅。<br>○　なし | |
| | S－07－0258<br>MO61<br>溝<br>（SF 074）<br>黒褐色礫混合土層 | (6.6)<br>(4.8)<br>0.6<br>—<br>(31) | 緑色片岩 | D　片刃。身幅はやや広く、刃部は浅く外彎。やや薄手である。背面は平坦面。A面紐孔下方および左方の体部の研磨面下には剝離面が残存。A面左上がり、急な左上－右下方向、右上－左下方向、刃面には刃線に沿った方向、B面右上がり、左下がりの研磨が施されている。<br>○刃先には刃線と直交する方向の磨滅痕あり。<br>○　なし |  |
| | S－07－0271<br>MM64<br>黒褐色礫混合土層 | (4.0)<br>(4.1)<br>0.6<br>—<br>(14) | 緑色片岩 | D　片刃。端部は薄く円味をもつ。A面右上－左下方向、刃部左右方向の研磨痕あり。<br>○B面は磨滅により、光沢をもつ。B面背部は刃先より左上方へのびる面の磨滅あり。<br>○　なし | |
| | S－07－0277<br>KX63<br>第2層 | 13.1<br>4.1<br>0.7<br>2.2<br>(59) | 緑色片岩 | D　片刃。身幅の狭い杏仁形態。刃部は左右方向に研ぎ直されており、中央部は直線的、刃部稜は明瞭である。端部は薄い。A面に一部、研磨面下に剝離痕を留めるが全体に丁寧なつくりである。A面右上がり、刃面は刃線に沿った方向に研磨が施されている。(内 8mm、外11.5mm)。<br>○刃先には刃線と直交する磨滅痕があり、刃線は浅く凹む。B面刃先より左上方へのびる面の磨滅あり。両面とも研磨痕は失われ、光沢をもつ。B面背方向に紐擦れ痕あり。<br>○　なし | |

（　）は残存部分の法量である。　　（　）は紐孔径のうち内孔径・外孔径、右孔・左孔、A面・B面の法量である。

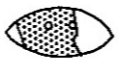
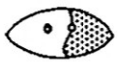
| 図版番号 | 登録番号<br>出土地点<br>遺構名<br>(遺構名番号)<br>層位 | 法量<br>(cm)<br>(g) | 長さ<br>幅<br>厚<br>紐孔間距離<br>重量 | 石材 | 特徴 | タイプ 形態上・製作上の特徴<br>○使用痕跡<br>○背潰れ痕 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | S－07－0290<br>MI56<br>溝<br>(SF 074)<br>褐色砂層 | (3.7)<br>(3.5)<br>0.6<br>—<br>(13) | | 緑色片岩 | D 片刃。身幅の狭い端部破片。両面とも研磨面下に剝離痕が残存。<br>○ B面光沢を帯びる。刃先は刃線に直交する磨滅あり、B面刃部には左上方へのびる面の磨滅あり。<br>○ なし | | |
| | S－07－0309<br>KR60<br>第3層 | (5.7)<br>(3.8)<br>0.9<br>—<br>(26) | | 黒色片岩 | D 片刃。やや厚手の杏仁形態。刃部稜は明確である。B面端部剝離後再研磨され薄い。<br>○ 刃先は丸く磨滅。両面とも磨滅により光沢をおびる。B面では著しい。<br>○ なし | |  |
| | S－07－0314<br>IY67<br>溝<br>(SF 079)<br>黒色砂質土層 | (6.1)<br>(3.8)<br>0.7<br>—<br>(24) | | 緑色片岩 | D 片刃。杏仁形態。刃部稜は不明瞭。刃先は剝離後、先端部のみ一部研ぎ直されている。背部に最大厚を測る。A面左右方向、右上一左下方向、刃面は刃線に沿った方向、B面右上一左下方向、左上一右下方向の研磨が施されている。端部のエッジに敲打痕らしき痕跡があり、その面は磨滅。<br>○ B面全体に研磨痕は薄れ、光沢を帯びる。特に肩部の角は丸く磨滅している。<br>○ 肩部にA面側へ傾斜して見られる。 | | |
| | S－07－0319<br>不明 | (7.4)<br>(3.8)<br>0.6<br>—<br>(25) | | 緑色片岩<br>(点紋) | D 片刃。やや身幅の狭い杏仁形態。背面は平坦(幅2mm)。B面は平坦でA面は丸味をもち、紐孔上部付近に最大厚を測る。A面左上一右下方向、背寄り右上一左下方向、B面左上一右下方向の研磨痕あり。紐孔は略身幅の中央にあり。<br>○ B面全体に光沢をもつ。刃先は刃線に直交する磨滅で丸くなり、刃線上細かな凹凸を呈す。刃先よりB面刃部左上方へのびる磨滅あり。<br>○ なし | | |
| | S－07－0332<br>MM61<br>溝<br>(SF 074)<br>褐色土層 | (8.0)<br>3.4<br>0.6<br>2.1<br>(26) | | 緑色片岩 | D 両刃。身幅の特に狭い形態。刃部は研ぎ直し。紐孔の右側の体部下半はB面へ彎曲している。中央部背面は平坦面。A面背部は左右方向、体部は右上一左下方向、刃部寄りは急な左上一右下方向、刃部右上がりの研磨。B面紐孔上は右上がり、全体的には急な右上一左下方向。端部左上一右下方向の研磨痕あり。紐孔は背寄りの左下がりで孔径はやや大きい。(内7mm、外A11mm、B10mm) 右孔は両面より敲打後穿孔。端部破損部、折れ面は磨滅。<br>○ 刃先は刃こぼれ後磨滅し丸くなっている。B面肩部付近は薄くなっており磨滅している。A面右孔は背寄りの角、B面左孔は双孔を結ぶ方向に紐擦れ痕あり。<br>○ なし | | |
| | S－07－0336<br>MK59<br>溝<br>(SF 074)<br>褐青色砂層 | (7.5)<br>(4.8)<br>0.8<br>—<br>(45) | | 緑色片岩 | D 片刃。身幅の広い杏仁形態であろう。端部は先端が破損後、一部再研磨を施している。刃部稜は不明瞭。A面肩部研磨面下に剝離痕残存。両面とも左上一右下方向、右上一左下方向の研磨が施される。<br>○ 刃先は小剝離しており、そのエッジは丸く磨滅。B面および背面に光沢あり。B面肩部には、刃部より左上方へのびる面の磨滅あり、背面角は丸くなる。折れ面および端部先端は磨滅。<br>○ なし | | |
| | S－07－0350<br>MK59<br>溝<br>(SF 074) | (8.3)<br>(4.7)<br>1.0<br>2.6<br>(58) | | 緑色片岩 | D 片刃。身幅のやや広い杏仁形態。厚手である。刃部は浅く外彎。端部先端はB面側へ剝離破損。両面共右上一左下方向、左上一右下方向の研磨が施されている。背部には磨き残しの打ち欠き面残存。刃面には右上がり方向の研ぎ直しが施され、稜線は明瞭で刃面は急傾斜。紐孔は背寄りで両面より敲打後穿孔。(内6mm、外A12.5mm、B13mm)。<br>○ 両面とも研磨痕は失われ光沢を帯びる。刃先には刃線と直交する磨滅痕あり。B面肩部は刃先より左上方へのびる面の磨滅により背面と体部との角はなだらかになっている。両面に紐擦れ痕あり。<br>○ なし | | |

( )は残存部分の法量である。　( )は紐孔径のうち内孔径・外孔径、右孔・左孔、A面・B面の法量である。

## 石庖丁

| 図版番号 | 登録番号<br>出土地点<br>遺構名<br>（遺構番号）<br>層位 | 法量<br>(cm)<br>(g) | 長さ<br>幅<br>厚<br>紐孔間距離<br>重量 | 石材 | 特徴 | タイプ　形態上・製作上の特徴<br>○使用痕跡<br>○背潰れ痕 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | S－07－0371<br>MD60<br>黒褐色礫混合土層 | (7.1)<br>(5.1)<br>0.9<br>—<br>(37) | | 緑色片岩 | D　片刃。身幅の広い杏仁形態。やや厚手で背寄り体部で最大厚を測る。背面は丸味をもち、端部先端は鋭い。刃部稜は明確である。紐孔は背寄りである（孔径不明）。<br>○　刃先はやや丸味をもつが、火をうけている為、使用痕は不明。<br>○　なし | | 火をうけて赤く変色、表面は荒れている。 |
| | S－07－0378<br>MC58<br>整地面 | (8.5)<br>4.7<br>0.9<br>3.0<br>(45) | | 緑色片岩 | D　片刃。身幅は広く、刃部は浅く外弯。背は中央部で浅く外彎し、肩部で彎曲して直線的に端部に至る。刃面の幅は狭く、刃面は急傾斜。紐孔はやや左下がりで少し背寄りである。(内６㎜、外８㎜)<br>○　刃先は丸く磨滅。<br>○　なし | | 火をうけて変色し表面は荒れている。 |
| | S－07－0380<br>MC59<br>溝<br>（SF 075） | (7.7)<br>4.0<br>(0.7)<br>2.5<br>(35) | | 緑色片岩 | D　片刃。身幅の狭い杏仁形態。刃部は左右方向の研ぎ直しにより中央部は直線的である。A面右上がり、刃面は左右方向。B面左上一右下方向の研磨痕あり。紐孔は背寄りで、左下方へ傾いて位置する。(内５㎜、外９㎜)。<br>○　刃先には刃線と直交する方向の磨滅痕が見られ、B面刃部に於いては左上方へのびる。両面に紐擦れ痕あり。<br>○　なし | | 鉄分付着 |
| | S－07－0383<br>KG67<br>Pt25 | (3.8)<br>(3.0)<br>0.6<br>—<br>(8) | | 緑色片岩 | D　片刃。身幅の狭い杏仁形態。端部破片。A面に敲打痕残存。<br>○　B面背寄り体部は磨滅し、研磨痕が薄れている。刃部、端部はB面へ剝離後磨滅。<br>○　なし | | |
| | S－07－0390<br>黒褐色礫混入土層 | (6.6)<br>(4.2)<br>0.9<br>—<br>(26) | | 緑色片岩 | D　片刃。杏仁形態。A面肩部には打ち欠き面、B面には片理面が残存。A面右上がり、左右方向、刃面にはあらい、刃線に沿った方向の再研磨痕あり。(内６㎜、外10㎜)<br>○　刃先はやや丸く磨滅し、刃線と直交した方向の磨滅痕がみられる。B面および背部の研磨痕は失われ光沢をおびる。B面背方向に紐擦れ痕あり。<br>○　端部先端の背面に僅かにみられる。 | | |
| | S－07－0394<br>LC61<br>土坑<br>（SK 579） | (3.1)<br>(5.2)<br>0.6<br>—<br>(8) | | 緑色片岩 | D　両刃。身幅は広く、端部は薄手で円味をもつ。端部先端は僅かであるが破損している。刃先はうすく鋭い。<br>○　不明。<br>○　なし | | 火をうけて変色。大型石庖丁の可能性あり。 |
| | S－07－0409<br>MB58<br>黒色土層 | (4.1)<br>(5.2)<br>0.6<br>—<br>(18) | | 緑色片岩<br>（点紋） | D　片刃。身幅の広い杏仁形態。端部先端欠損。背面は平坦である。A面背部には打ち欠き面残存。刃部稜は不明瞭。<br>○　刃先はB面側へ剝離後、丸く磨滅している。<br>○　なし | | |
| | S－07－0410<br>ME59<br>黒色土層 | (9.7)<br>(5.1)<br>0.7<br>1.7<br>(48) | | 緑色片岩 | D　片刃。幅広の杏仁形態。両面共研磨面下に剝離面残存。A・B面共に右上がり、右上一左下方向の研磨、刃面は刃先に沿った方向に研ぎ直されている。紐孔は背寄りで右下がりに位置する。(内5.5㎜、外８㎜)　B面右孔の右に未貫通の穿孔痕あり。<br>○　刃先は刃線に直交する方向の磨滅で丸くなり、B面側へのびている。この磨滅により、B面刃部は浅い凹みをなす。B面肩部は研磨痕が薄れ磨滅。両面に紐擦れ痕あり。<br>○　背部、刃部にあり。紐孔上方付近の背部および端部寄り刃部にB面側へ傾斜してみられる。端部寄り背部に於いてはA面側へ剝離を伴う。 | | |

（　）は残存部分の法量である。　　（　）は紐孔径のうち内孔径・外孔径、右孔・左孔、A面・B面の法量である。

| 図版番号 | 登録番号<br>出土地点<br>遺構名<br>(遺構番号)<br>層位 | 法量(cm)(g)<br>長さ<br>幅<br>厚<br>紐孔間距離<br>重量 | 石材 | 特徴 | タイプ 形態上・製作上の特徴<br>○使用痕跡<br>○背潰れ痕 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | S−07−0416<br>LY58<br>黒色粘質土層 | (5.1)<br>(3.7)<br>0.6<br>—<br>(14) | 緑色片岩 | D 片刃。身幅の狭い杏仁形態。刃部は浅く外弯し、研ぎ直されている。刃部稜付近で最大厚を測る。A面右上がり、刃先寄りは左右方向、B面右上一左下方向の研磨。<br>○ 刃先は丸く磨滅。刃先よりB面左上方へのびる面の磨滅あり、肩部の背面角はうすくなる。B面全体に研磨痕は薄れ、光沢を帯びる。<br>○ なし | | |
| | S−07−0429<br>MD60<br>溝<br>(SF 075)<br>黒色粘質土層 | (6.5)<br>(4.4)<br>0.7<br>—<br>(29) | 緑色片岩 | D 片刃。刃部は端部で彎曲し、中央で直線的になる。刃面は左右方向に研ぎ直されている。<br>○ 刃先は丸い。B面肩磨滅。<br>○ なし | | 火をうけて白色化し、表面が荒れている。<br> |
| | S−07−0451<br>ML61<br>溝<br>(SF 074)<br>褐色砂層 | (6.5)<br>(4.6)<br>0.8<br>—<br>(23) | 緑色片岩 | D 両刃。身幅の広い杏仁形態。背部に最大厚をもち、刃部に下るにつれてうすくなる。端部は鋭い。<br>○ 刃先には僅かに小さい刃こぼれが見られるが、鋭い。<br>○ なし | | 火をうけて変色。<br> |
| | S−07−0452<br>MK63<br>黒褐色礫混合土層 | (4.5)<br>(4.3)<br>0.7<br>—<br>(17) | 緑色片岩 | D 片刃。杏仁形態。背部は薄く、刃部稜は明確。端部先端は火をうけて表面が荒れている。<br>○ 刃先には刃線と直交する磨滅痕あり。両面共に研磨痕は薄れている。<br>○なし | | 火をうけて変色。<br> |
| | S−07−0457<br>MH・MI57<br>溝<br>(SF 074) | (8.9)<br>5.4<br>0.8<br>2.5<br>(56) | 緑色片岩 | D 片刃。刃面の研ぎ直しあり、左端部剝離欠損後そのエッジは磨滅している。紐孔は両面より敲打後穿孔している。(内5㎜、敲打面径16㎜×17㎜)<br>○ 両面とも浅く研磨痕が残る。刃先には刃線に直交する磨滅痕があり、B面左上方へかけて面の磨滅がみられる。刃先にB面へ小さく剝離した部分と端部剝離欠損部分のエッジが丸く磨滅している。<br>○ なし | |  |
| | S−07−0463<br>MC59<br>溝<br>(SF 075)<br>黒色粘質土層 | (7.3)<br>(4.4)<br>0.8<br>—<br>(33) | 緑色片岩 | D 片刃。身幅は広く、刃部は浅く外彎。端部欠損。体部中央で最大厚を測る。刃部稜はなだらかである。刃面はやや広い。A面左上一右下方向、刃面は刃線に沿った方向、B面右上一左下方向、右上一左下方向に研磨が施される。B面紐孔左に未貫通の穿孔痕がある。(内6㎜、外8㎜)<br>○ 刃先は剝離しており、刃線と直交する磨滅痕がある。両面共に研磨痕は薄れており、B面は光沢をもつ。<br>○ なし | | 火をうけて変色。<br> |
| | S−07−0475<br>MB59<br>溝<br>(SF 075)<br>腐混黒色粘質土層 | (6.1)<br>(5.3)<br>0.6<br>—<br>(23) | 緑色片岩 | D 片刃。身幅の広い杏仁形態。体部は薄い。A面の研磨面下に大きく剝離面残存し、B面刃部は剝離。刃面は狭く、刃面の傾斜は急である。研ぎ直しによる。背面は平坦である。<br>○ 使用痕らしきものは認められず。<br>○ なし | | |
| | S−07−0484<br>MC61<br>黒褐色礫混合土層 | (6.8)<br>5.2<br>0.8<br>—<br>(37) | 緑色片岩 | D 片刃。身幅の広い杏仁形態。紐孔部付近で最大厚を測る。刃部稜は明確である。紐孔は背寄りで両面より敲打後穿孔している。(内6㎜、外A11㎜、B14.5㎜)<br>○ 刃先には刃線と直交する磨滅痕があり、B面側の左上方へのびる。中央部刃先では特に著しく浅く凹む。B面肩部は磨滅して浅く凹んでいる。両面共に研磨痕は薄れ、光沢を帯びる。<br>○ なし | |  |

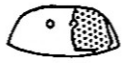
(　)は残存部分の法量である。　　(　)は紐孔径のうち内孔径・外孔径、右孔・左孔、A面・B面の法量である。

| 図版番号 | 登録番号<br>出土地点<br>遺構名<br>(遺構番号)<br>層位 | 法量 (cm) (g)<br>長さ<br>幅<br>厚<br>紐孔間距離<br>重量 | 石材 | 特徴 | タイプ 形態上・製作上の特徴<br>○使用痕跡<br>○背潰れ痕 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | S—07—0485<br>MS61<br>黒褐色礫混合土層 | (8.0)<br>4.5<br>0.8<br>2.1<br>(42) | 緑色片岩 | D 片刃。刃部は浅く外彎。端部は破損。A面肩部の研磨面下に剝離痕残存。横軸はややB面側へ彎曲。A面右上がり、B面右上ー左下方向、右上がり、B面左上ー右下方向、左上がりの研磨痕あり。紐孔は著しく左下がりで、両面より敲打後穿孔されている (内6mm、外11mm)。<br>○ 刃先は端部寄りではB面側へ剝離しており、中央部では丸く磨滅している。B面肩部は右下方へ浅く凹んでいる。表面全体に磨滅している。<br>○ なし | | |
| | S—07—0490<br>MF60<br>礫混黒褐色土層 | (6.8)<br>4.9<br>0.8<br>—<br>(40) | 黒色片岩 | D 片刃。身幅は広く、刃部は浅く外彎。端部は円味をもち、A面研磨面下に剝離痕を留める。刃部稜は明確で、端部と中央部との間の稜は刃先寄りになり、この部分は刃面が少し狭い。刃線は中央寄りが浅く凹んでいる。肩部はやや薄い。紐孔は背寄りで、A面はやや斜め上方より、B面は左斜め下方より穿孔されている。(内 5.5mm、外A 9mm、B9.5mm)<br>○ 刃先には刃線と直交する磨滅痕があり、中央寄りに著しく、この為刃線は浅く凹んでいる。A面肩部から体部にかけて磨滅。B面刃部より左上方へのびる磨滅があり肩部に至り、背面と体部との角はなだらかである。B面背方向へのびる紐擦れ痕あり。<br>○ なし | | 火をうけて変色。A面に鉄分付着。<br> |
| | S—07—0491<br>MR58<br>溝<br>(SF 078)<br>黒色砂質土層 | (6.2)<br>(4.9)<br>0.9<br>—<br>(31) | 緑色片岩 | D 片刃。身幅の広い厚味のある杏仁形態。背部で最大厚を測る。A面右上がり、左右方向の研磨が施されている。B面では研磨痕が薄れている。紐孔は両面より敲打後穿孔。(孔径不明)<br>○ 刃先は丸く磨滅。全面に光沢をもつ。<br>○ なし | | |
| | S—07—0504<br>MN62、MR62 | (5.2)<br>(3.6)<br>0.5<br>—<br>(14) | 緑色片岩 | D 片刃。身幅は狭く、刃部は浅く外彎する。刃部は研ぎ直され、刃部稜はなだらかである。全体に薄手である。A面右上ー左下方向、左上ー右下方向、刃面は刃線に沿った方向、B面右上がりの研磨が見られる。紐孔はやや背寄りにある。(内 7.5mm、外10mm)<br>○ 刃先は丸く磨滅している。背部およびB面背寄りは光沢を帯びる。<br>○ なし | | |
| | S—07—0526<br>MS60<br>溝<br>(SF 078)<br>灰黒色粘質土層 | (7.3)<br>3.7<br>0.7<br>2.7<br>(29) | 黒色片岩 | D 片刃。身幅は狭く、刃部は浅く外彎する。左端の先端は剝離欠損。刃部稜は明確でない。A面肩付近の研磨面下に剝離痕残存。A面右上がり、端部急な右上ー左下方向、刃部左右方向、B面右上がりの研磨痕あり。紐孔はやや左下がりで、刃部寄りにあり、孔径は小さい。(内 4.5mm、外8mm)<br>○ A面端部寄り刃部は剝離している。B面背付近は研磨痕が薄れている。B面背方向の紐擦れ痕あり。<br>○ 左紐孔上付近でB面に傾きを持ち、僅かに見られる。 | | |
| | S—07—0532<br>MT57<br>溝<br>(SF 078)<br>黒色砂混粘質土層 | (7.8)<br>4.3<br>0.8<br>2.2<br>(46) | 緑色片岩 | D 片刃。身幅は狭く、刃部は浅く外彎する。左端部は剝離欠損。A面には研磨痕が浅く残存。刃面には研ぎ直しがみられる。(内6mm、外9mm)<br>○ 刃先には、刃線に直交する磨滅痕があり、B面左上方へのびる面の磨滅がみられる。両面に紐擦れ痕あり。右孔左稜の磨滅が著しい。<br>○ なし | | |
| | S—07—0533<br>MZ | (7.4)<br>4.9<br>0.7<br>—<br>(33) | 緑色片岩 | D 両刃ぎみ片刃。身幅はやや広く、刃部は浅く外彎。刃部は研ぎ直されている。A面右肩、刃部中央、B面左孔より左下方付近は研磨面の下に製作時の剝離痕を留める。A面端部付近左上ー右下、中央部右上ー左下、刃面左右方向、B面左上ー右下方向の研磨痕あり。紐孔は背寄りに両面より敲打後穿孔されている。(内 5.5mm、外A12mm、B9.5mm)<br>○ 刃先は刃こぼれしており、端部寄りがB面へ剝離後、刃部全体に磨滅。刃先よりB面左上方へのびる磨滅痕あり、B面刃部は浅い凹みをなす。全面に光沢を帯びる。<br>○ なし | | |

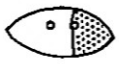
( )は残存部分の法量である。　　( )は紐孔径のうち内孔径・外孔径、右孔・左孔、A面・B面の法量である。

| 図版番号 | 登録番号<br>出土地点<br>遺構名<br>(遺構番号)<br>層位 | 法量<br>(cm)<br>(g) | 長さ<br>幅<br>厚<br>紐孔間距離<br>重量 | 石材 | 特徴 | タイプ 形態上・製作上の特徴<br>○使用痕跡<br>○背潰れ痕 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | S−07−0544<br>MJ56<br>溝<br>(SF 074)<br>黒色砂層 | (8.7)<br>4.7<br>0.9<br>2.1<br>(51) | | 緑色片岩 | D 両刃気味片刃。小型。紐孔は両面とも右方向から穿孔されくいちがいがみられる。(内6mm、外8mm)<br>○ 不明<br>○ なし | | 火をうけて変色、表面はあれている。 |
| | S−07−0554<br>MP56<br>溝<br>(SF 078)<br>黒色粘質土層 | (5.3)<br>(4.8)<br>0.8<br>—<br>(28) | | 緑色片岩 | D 片刃。身幅は広く、刃部は浅く外彎。背寄り体部で最大厚を測る。端部は欠損。紐孔は背寄りである(内約6mm)。<br>○ 刃先には刃線と直交する磨滅痕がみられ、B面刃部では左上方へのびる。B面体部と背面との角は磨滅しなだらかになっている。背面および刃先は光沢を帯びる。両面共磨滅して研磨痕は浅くなっている。<br>○ なし | | |
| | S−07−0570<br>MD56<br>溝<br>(SF 074)<br>黒色粘質土層 | (11.7)<br>5.7<br>0.6<br>A2.0<br>B2.1<br>(61) | | 緑色片岩 | D 片刃。身幅は広く、刃部は浅く外彎。刃部は研ぎ直されており、稜は明確。端部は剝離欠損。全体に薄手である。A面中央部の研磨面下に剝離痕残存。B面端部寄り体部の研磨面下に敲打痕が僅かに残存。紐孔は3孔を有し、中央の孔が一番背寄りで左孔は体部幅の中央にあり、右孔は中央孔よりやや下がりぎみに位置し、3孔は両面より敲打後穿孔(内4.5mm、外中央A9mm、右A10mm、敲打径左11mm、中央B11mm、右B21mm×17mm)。中央孔、右孔が対になると思われる。<br>○ 刃先には刃線と直交する磨滅痕あり、両面共に研磨痕は浅く、背部、B面全体に光沢をもつ。端部寄りの刃部から体部、背部にかけて磨滅し、浅い凹みをなし、左上一右下の方向性をもつ。A面中央孔、右孔を結ぶ方向、B面背方向の紐孔角は磨滅。<br>○ 紐孔上の背より肩部にかけて、B面側へ傾斜をもって見られ、剝離を伴う。刃部にもあり、B面側へ傾きをもって僅かに見られる。 | | |
| | S−07−0571<br>MS63<br>溝<br>(SF 074)<br>黒色砂質土層 | (8.8)<br>5.2<br>0.6<br>2.9<br>(37) | | 緑色片岩 | D 片刃。身幅の広い形態。肩部で強く外彎。刃部中央では直線的で、端部寄りで外彎する。薄手である。両面共に研磨面下に剝離痕留める。A面左上がり、刃面には刃線に沿った方向、B面右上一左下方向、左上一右下方向に研磨が施されている。紐孔は背寄りで小さく左下がりにつけられている(内左4mm、右5.5mm、外左A8mm、B9mm、右A7mm、B7.5mm)。B面双孔間の右孔寄りに未貫通穿孔痕あり。<br>○ 両面共に刃部寄り体部は研磨痕が浅くなっている。A面左孔右角は磨滅。B面右孔背寄り角は僅かに磨滅。<br>○ 肩部および端部を除いた刃部に見られる。B面側へ傾斜して剝離を伴う。 | | |
| | S−07−0596<br>JB63<br>第2層・黒褐色粘質砂質土層 | (4.4)<br>(3.9)<br>0.8<br>—<br>(18) | | 緑色片岩 | D 片刃。背部は背潰れにより直線的となり端部は破損後両面から再研磨され、やや直線的で薄い。折れ面と両面との角は磨滅しており、端部を鋭く作り出している事から扁平片刃石斧へ転用しようとしたものか。両面とも右上一左下方向、刃面左右方向の研磨痕。<br>○ 刃先はB面へ剝離、刃こぼれしているが、丸く磨滅。刃先には刃線と直交する方向の磨滅痕あり。B面全体に研磨痕が薄れ肩部が磨滅して浅く凹む。<br>○ 背面にA面へ傾斜して見られる。 | | 扁平片刃石斧に転用か。 |
| | S−07−0601<br>MV58〜62<br>黒褐色砂質土層 | (6.5)<br>3.7<br>0.7<br>2.7<br>(25) | | 緑色片岩 | D 片刃。身幅の狭い杏仁形態。刃部は浅く外彎。刃部は研ぎ直され稜が不明瞭になっている。刃部稜付近で最大厚を測る。A面右上一左下方向、B面右上一左下方向、中央部では左右方向、端部寄りでは右上がりの研磨が施されている。紐孔は中央部にあり、両面より敲打後穿孔。(右内5mm、外A12mm、B10mm、左内5mm、外A11.5mm×10mm、B9mm、×8mm)<br>○ 刃先中央部は丸く磨滅し、B面刃部全体に光沢を帯びる。また背部の肩から端部にかけては表面の研磨痕が薄れ光沢を帯びる。両面に紐擦れ痕あり。<br>○ なし | | |

( )は残存部分の法量である。　( )は紐孔径のうち内孔径・外孔径、右孔・左孔、A面・B面の法量である。

| 図版番号 | 登録番号<br>出土地点<br>遺構名<br>(遺構番号)<br>層位 | 法量 (cm) (g)<br>長さ<br>幅<br>厚<br>紐孔間距離<br>重量 | 石材 | 特徴 | タイプ 形態上・製作上の特徴<br>○使用痕跡<br>○背潰れ痕 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | S—07—0604<br>MG65<br>黒褐色土層 | (6.0)<br>(5.6)<br>0.8<br>—<br>(38) | 緑色片岩 | D 片刃。身幅は広く、刃部は浅く外彎する杏仁形態。端部は剝離破損。刃部は研ぎ直されており、刃先は端部寄りを除いて、全体に剝離破損。A面体部の研磨面下に剝離痕残存。<br>○ 刃先は端部寄りのみ一部残存し、B面側へのびる磨滅痕が見られる。中央寄りの刃部はB面側へ剝離しており、先端のエッジは磨滅している。折れ口のエッジにも磨滅が見られる。B面と背面との角には刃先より左上方へのびる磨滅痕あり。<br>○ なし | | B面に鉄分付着。<br>  |
| | S—07—0606<br>JO63<br>褐色粘質土層 | (7.8)<br>4.6<br>0.7<br>2.5<br>(38) | 緑色片岩 | D 片刃。身幅の広い形態。刃部は研ぎ直され、浅く外彎。背は肩部から端部にかけて円味をもち薄い。刃部稜は明確で、ここで最大厚を測る。端部先端破損。A面右上一左下方向、左上がり、刃面左右方向、B面左上一右下方向の研磨が施されている。紐孔は右下がりで、背寄りに両面より敲打後穿孔されている（内6㎜、外8㎜）。<br>○ 刃先には刃線と直交する磨滅痕あり。小さい刃こぼれもみられる。両面共に研磨痕は薄れている。刃部中央B面は磨滅して刃線が上がっている。両面に紐擦れ痕あり。<br>○ なし | | 両面に鉄分付着。<br> |
| | S—07—0607<br>不明 | (5.1)<br>(4.5)<br>0.8<br>—<br>(24) | 緑色片岩 | D 片刃。身幅は狭く、背部は薄手で、刃部稜より上方で最大厚を測る。端部は円みをもち、その先端は破損している。刃部稜は明確。肩部剝離破損。A面端部左上一右下方向、中央部右上一左下方向、B面右上一左下方向の研磨。<br>○ 刃先には刃線と直交する方向の磨滅痕があり、刃先が丸く磨滅。端部寄り刃部ではB面に剝離後の磨滅もみられる。全面に光沢を帯びる。<br>○ なし | | |
| | S—07—0617<br>MU62<br>表採 | (3.9)<br>(5.6)<br>0.7<br>—<br>(16) | 緑色片岩<br>（点紋） | D 片刃。身幅の広い杏仁形態。両面共研磨面下に剝離痕残存。端部は薄い。刃部稜は不明瞭である。<br>○ 両面共に研磨痕が浅い。<br>○ なし | | |
| | S—07—0630<br>KB63<br>第3層・灰黒色砂質土層 | (6.1)<br>(3.3)<br>0.7<br>—<br>(23) | 緑色片岩 | D 片刃。身幅の狭い杏仁形態の一種。端部は円味をもつ。背部、刃部ともに片刃に研ぎ出されており、折れ口は研磨途上にあり、何らかに転用しようとしているものである。中央部で最大厚を測る。両面共に左上一右下方向、A面の背部傾斜面（背側の刃面）および刃面には背線および刃線に沿った方向の研磨が施されている。<br>○ 刃先には刃線と直交する方向の磨滅痕がみられ、丸く磨滅。B面肩部の研磨痕は薄れている。<br>○ 中央寄り刃部にB面側へ傾斜してみられる。 | | 扁平片刃石斧に再加工か。<br> |
| | S—07—0634<br>MY61<br>黒褐色砂質土層 | (8.5)<br>(5.3)<br>0.9<br>2.5<br>(54) | 緑色片岩 | D 片刃。身幅の広い杏仁形態。やや厚手である。刃部はA面へ剝離破損。背面はやや丸味をもつ。紐孔は左下がりでやや背寄りに位置し、双孔共両面より敲打後穿孔されている。左孔はA面では垂直にB面では右斜め下方より穿孔され不整円形を呈す。(内左5㎜、右 5.5㎜、外左11㎜、右10㎜、敲打痕の径左A13㎜、B13.5㎜、右A17.5㎜、B19.5㎜)<br>○ 端部刃先は丸く磨滅、両面共に研磨痕は浅くなり、背面およびB面は光沢をもつ。<br>○ なし | | |
| | S—07—0645<br>MM64<br>溝<br>(SF 077)<br>黒色粘質土層 | (6.0)<br>(5.0)<br>0.7<br>—<br>(32) | 黒色片岩 | D 片刃。身幅は広く、刃部は浅く外彎。刃部稜は明確で刃面は狭い。肩部から端部先端にかけては破損後再研磨され、直線的である。端部先端は円味をもつ。B面肩部の身幅中央より上方体部に未貫通小孔あり（径3㎜）。上方に重なって未貫通小孔あり。<br>○ 刃部には小剝離が見られ、刃先は丸く磨滅。両面の研磨痕は浅い。B面は光沢を帯びる。<br>○ 残存背部の中央寄りにあり、剝離を伴う。 | | |

（ ）は残存部分の法量である。　（ ）は紐孔径のうち内孔径・外孔径、右孔・左孔、A面・B面の法量である。

| 図版番号 | 登録番号<br>出土地点<br>遺構名<br>(遺構番号)<br>層位 | 法量(cm)(g)<br>長さ<br>幅<br>厚<br>紐孔間距離<br>重量 | 石材 | 特徴<br>タイプ・形態上・製作上の特徴<br>○使用痕跡<br>○背潰れ痕 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|
| | S—07—0649<br>IV66<br>床土層 | (7.6)<br>(5.3)<br>0.7<br>—<br>(35) | 緑色片岩 | D 片刃。身幅の広い杏仁形態。刃部は浅く外彎し、やや薄手である。端部先端は鋭い。刃部稜はなだらかであり、刃面は狭い。紐孔は背寄りでA面では敲打後穿孔。B面では不明。<br>○ 刃先は丸く磨滅。A面は研磨痕が浅くなっており、B面では磨滅が著しく、光沢を帯びる。<br>○ なし | B面に鉄分付着。<br>  |
| | S—07—0657<br>IV66<br>第3層・整地面 | (7.7)<br>(4.9)<br>0.6<br>—<br>(36) | 緑色片岩 | D 片刃。刃部は浅い外彎刃。紐孔は不正円形で角をもつ。A面右上一左下方向、刃面は刃線に沿った方向、B面左上右下方向の研磨痕あり。<br>○ 両面とも面は磨滅して光沢をもつ。刃先は丸く磨滅。<br>○ なし | |
| | S—07—0670<br>JC62<br>床土下整地面・褐色礫混土層 | (9.5)<br>6.4<br>0.9<br>2.7<br>(72) | 緑色片岩 | D 両刃ぎみ片刃。身幅は広く、刃部は浅く外彎。刃部稜は不明瞭。端部と端部寄り刃部は剝離破損。背部は両面共に剝離痕を留める。体部中央の研磨面下に剝離痕残存。(内6㎜、外10㎜)<br>○ 刃部中央は小剝離しており、その先端は丸く磨滅している。A面左紐孔の背寄り角は丸い。両面共に肩部は磨滅し、A面側では光沢をもつ。B面は表面が荒れており不明。<br>○ なし | 火をうけて変色し表面は荒れている。A面に鉄分付着<br> |
| | S—07—0678<br>JB64<br>溝<br>(SF 079)<br>黒色砂質土層 | (8.2)<br>(6.0)<br>0.8<br>—<br>(48) | 緑色片岩 | D 片刃。身幅の広い杏仁形態。背部は薄い。両面共に研磨面下に片理面を一部留める。刃部稜はなだらか。B面端部寄り刃部は剝離後再研磨。<br>○ 刃先には刃線と直交する磨滅痕あり。<br>○ なし | |
| | S—07—0682<br>MJ65<br>溝<br>(SF 075)<br>黒色土層 | (7.3)<br>(4.3)<br>0.8<br>—<br>(29) | 緑色片岩 | D 片刃。身幅の狭い杏仁形態。刃部は浅く外彎。両面肩部剝離後再研磨。刃部は研ぎ直されている。刃部稜付近で最大厚を測る。表面の研磨痕は火をうけて荒れているため不明。刃面は刃線に沿って研磨。(内6㎜、外10㎜)<br>○ 刃先は中央部で丸くなっている。B面刃部中央は浅く凹んでおり、B面肩から端部にかけても浅く凹んで磨滅している。<br>○ なし | 火をうけて赤く変色し、表面は荒れている。<br> |
| | S—07—0690<br>IW69<br>溝<br>(SF 079)<br>黒色砂質土層 | (5.5)<br>(3.3)<br>0.5<br>—<br>(15) | 緑色片岩 | D 片刃。身幅は狭く、薄手の杏仁形態。端部欠損後磨滅。背面は平坦(幅3㎜)。両面とも研磨面下に製作時の剝離痕残存。B面体部には研磨前の敲打痕(?)もあり。紐孔は背寄りで両面より敲打後穿孔。孔径不明。<br>○ 刃先には刃線と直交する方向の磨滅痕あり。小さい刃こぼれも見られる。B面背部に左上方へ伸びる磨滅痕あり。紐孔寄りの浅い2ケ所の凹みは研磨時のものか不明。両面共、研磨痕は薄れている。<br>○ 肩部にA面へ傾斜して極く僅か見られる。 | |
| | S—07—0698<br>IW66<br>溝<br>(SF 079)<br>黒色砂質土層 | (3.8)<br>(4.8)<br>0.7<br>—<br>(15) | 緑色片岩<br>(点紋) | D 片刃。身幅の広い杏仁形態。端部先端は欠損。A面は表面が剝離しており、一部のみ再研磨されている。<br>○ 刃先には刃線と直交する磨滅痕あり。B面の研磨痕は浅い。背面はやや光沢を帯びる。<br>○ なし | |
| | S—07—0699<br>IW66<br>溝<br>(SF 079)<br>黒色砂質土層 | (5.3)<br>(3.2)<br>0.8<br>—<br>(19) | 緑色片岩 | D 片刃。身幅の狭い杏仁形態。端部はやや円味を持つ。刃部稜付近で最大厚を測る。A面肩部は表面が剝離。両面ともに右上一左下方向のあらい研磨が施されている。(内6㎜、外8㎜)<br>○ 刃先には刃線と直交する方向の磨滅痕および刃こぼれがみられる。背面およびB面背部に光沢を帯びる。<br>○ 紐孔上方背は剝離。端部寄り背部および刃部はB面に傾斜して見られる。 | |

( )は残存部分の法量である。　( )は紐孔径のうち内孔径・外孔径、右孔・左孔、A面・B面の法量である。

| 図版番号 | 登録番号<br>出土地点<br>遺構名<br>（遺構番号）<br>層位 | 法量（cm）（g）<br>長さ<br>幅<br>厚<br>紐孔間距離<br>重量 | 石材 | 特徴 | タイプ　形態上・製作上の特徴<br>○使用痕跡<br>○背潰れ痕 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | S－07－0775<br>JI58<br>整地層 | (9.1)<br>4.7<br>0.9<br>2.1<br>(51) | 緑色片岩 | D　片刃。変形形態。刃部が大きく彎曲する。厚みが均一ではなく中央で最大厚を有す。刃面には上下方向の研ぎ直しがみられ、刃面の幅は広い。左孔の穿孔にくいちがいが大きい。(内右5㎜、左 4.5㎜、外右10㎜、左A11㎜、B 9㎜)<br>○　刃先は丸く磨滅しており、B面左上方へのびる面の磨滅がみられる。紐孔左側背面に剝離痕があり磨滅が著しく凹みがある。B面では背方向に紐擦れ痕あり。<br>○　なし | | A面に鉄分の付着が著しい。 |
| | S－07－0781<br>MF54<br>黒褐色礫混合土層 | (6.0)<br>(3.7)<br>0.6<br>—<br>(16) | 緑色片岩 | D　片刃。刃部は浅く外彎。全体に薄手。横軸はややA面側に彎曲。<br>○　刃先からB面左上方へのびる磨滅痕あり。B面は光沢を帯びる。<br>○　なし | | |
| | S－07－0782<br>MF54<br>黒褐色礫混合土層 | (9.1)<br>(3.3)<br>0.6<br>A 2.2<br>B 2.1<br>(28) | 緑色片岩 | D　片刃。小型。身幅の狭い杏仁形態。刃部稜は直線的である。両端部は剝離欠損しており、右端部はB面側を再研磨している。紐孔は3つあり、左孔が一番小さく（内 3.5㎜、外7㎜）右孔、中央孔は同じ位である（内5.5㎜、外8㎜）。右端と中央の紐孔との間に径1㎜程の未貫通穿孔痕あり。A面右上がり、右上一左下方向、B面右上一左下方向、刃面左右方向に研磨痕あり。<br>○　A面3孔を結ぶ方向、B面3孔より背方向へのびる紐擦れ痕あり。体部は全体に研磨痕が薄れやや光沢を帯びる。A面紐孔下方は剝離後に磨滅しており、3ケ所楕円形状に凹んでいる。<br>○　背部、刃部にあり。背部では端部付近を除いて全体に、両面へ傾斜を持って見られる。刃部では全体的に見られB面へ傾斜をもつ。 | | 鉄分付着 |
| | S－07－0784<br>JE62<br>整地層 | (7.0)<br>(5.7)<br>0.6<br>—<br>(36) | 緑色片岩 | D　両刃。端部下半は現代の破損により失われているが端部は鋭さのない形態であろう。両面ともあらい研磨痕がある。A面には研磨の及ばない剝離面残存。<br>○　刃先は丸く磨滅している。<br>○　刃先には小剝離があり、そのエッジはつぶれている。(背潰れ痕か？) | | 鉄分付着 |
| | S－07－0793<br>JE66<br>整地層 | (6.2)<br>(4.8)<br>0.5<br>—<br>(22) | 緑色片岩 | D　片刃。身幅の広い杏仁形態。薄手である。刃部は研ぎ出されていず、先端は平坦な面をなす。折れ口の中央体部は両面共に敲打痕を有し、紐孔部分と思われる。両面共に左右方向、刃面およびB面背部は右上一左下方向のあらい研磨が施されている。<br>○　使用痕は認められず。<br>○　なし | | |
| | S－07－0825<br>JU62<br>整地層 | (6.9)<br>(5.8)<br>0.8<br>—<br>(44) | 緑色片岩 | D　片刃。身幅の広い形態。端部欠損。背部は剝離破損。刃部稜は明確でなく、体部から刃面にかけてはなだらかである。両面共に研磨面下に剝離痕残存。表面の研磨はあらい。（内 6.5㎜、外A 9㎜、B不明）。<br>○　刃先には刃線と直交する磨滅痕あり。B面背部は剝離後磨滅。<br>○　なし | | 火をうけて変色。 |
| | S－07－0839<br>MB54<br>黒褐色礫混土層 | (4.0)<br>(5.8)<br>0.8<br>—<br>(24) | 緑色片岩 | D　片刃。端部破片。背部には磨き残しの打ち欠き面残存。刃面は稜を成さず。<br>○　刃先が丸く磨滅している。周縁のエッジは丸く磨滅。<br>○　なし | | |

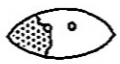
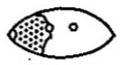
（　）は残存部分の法量である。　　（　）は紐孔径のうち内孔径・外孔径、右孔・左孔、A面・B面の法量である。

| 図版番号 | 登録番号<br>出土地点<br>遺構名<br>(遺構番号)<br>層位 | 法量<br>(cm)<br>(g) | 長さ<br>幅<br>厚<br>紐孔間距離<br>重量 | 石材 | 特徴 | タイプ 形態上・製作上の特徴<br>○使用痕跡<br>○背潰れ痕 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | S－07－0845<br>JI54<br>整地層 | (7.6)<br>4.4<br>0.8<br>2.3<br>(41) | | 緑色片岩 | D 片刃。身幅は狭く、刃部は直線的であるが端部で浅く外彎する。A面背部には抉った様な縦に浅い凹み3条(2.5～4mm×5.5～10.5mm)あり。B面は平坦な面をなし、A面紐孔付近で最大厚を測る。両面背寄りに製作時の剥離痕が残存。紐孔は両面より敲打後穿孔される(内4mm、外A 9mm、B 14mm)。孔径は小さい。<br>○ 刃先は丸く磨滅し、紐孔下のB面刃部は磨滅が著しく、浅く凹んでいる。B面全体に光沢を帯びる。両面とも紐擦れ痕あり。<br>○ なし | | |
| | S－07－0867<br>MB55<br>溝<br>(SF 074)<br>黒色土層 | (7.9)<br>5.2<br>0.8<br>2.7<br>(50) | | 緑色片岩 | D 片刃。身幅は広く、刃部中央は直線的で、端部寄りで外彎する。端部は欠損。刃部稜は明確。(内 5.5mm、外A 10mm、B 9mm)。<br>○ 刃先には刃線と直交する磨滅痕あり。B面刃部は磨滅。両面共に研磨痕は浅く、光沢を帯びる。B面背方向へのびる紐擦れ痕あり。<br>○ なし | | |
| | S－07－0892<br>MI57<br>溝<br>(SF 074)<br>褐色砂層 | (5.4)<br>(4.0)<br>0.6<br>—<br>(18) | | 緑色片岩 | D 片刃。刃部は浅く外彎。端部先端は破損後、一部再研磨。中央寄りの背部A面に浅い凹みあり、A面右上がり、左上一右下方向、B面右上一左下方向、左右方向、刃部左右方向の研磨が見られる。<br>○ 刃先は丸く磨滅。B面肩部付近は磨滅して浅い凹みをもつ。折れ面は全体に磨滅している。<br>○ なし | 火をうけて赤変。 | |
| | S－07－0948<br>MF54<br>整地層 | (5.1)<br>(3.9)<br>0.7<br>—<br>(18) | | 緑色片岩 | D 片刃。杏仁形態。端部先端は欠損。体部中央で最大厚を測る。刃部稜は明確で、刃面は狭い。背面の研磨面下には剥離痕残存。A面左上一右下方向、刃面右上一左下方向、B面右上がりの研磨が施されている。紐孔の孔径は小さい(内 4.5mm、外 7mm)。穿孔状態はB面側ではズレがみられる。<br>○ 刃部B面側に剥離が見られ、刃先には刃線と直交する方向の磨滅痕が見られる。両面全体に光沢を帯び、特にB面の肩から紐孔直上の背にかけて著しく磨滅している。B面背方向の紐擦れ痕あり。<br>○ 肩部にB面側へ傾斜して見られる。 | | |
| | S－07－0949<br>JI58<br>床土整地層 | (6.1)<br>(5.2)<br>0.9<br>—<br>(34) | | 緑色片岩 | D 片刃。身幅の広い杏仁形態。端部先端破損。刃部稜は不明確。背面は丸味をもつ。A面紐孔右下方に敲打痕と思われる浅い凹みあり。表面全体に火を受けて荒れており、研磨の方向は不明。(内 7.5mm、外12mm)。折れ面の紐孔上方にのみ研磨が施され、なめらかになっている。<br>○ 刃先は丸く磨滅。<br>○ なし | 火をうけて赤変。 | |
| | S－07－0957<br>JM62<br>整地層 | (4.9)<br>(6.0)<br>0.8<br>—<br>(32) | | 緑色片岩 | D 片刃。身幅は広く、刃部は浅く外彎。背は肩部より端部にかけて大きく外彎。刃部稜は明確で、刃面は狭い。A面研磨面下に剥離痕残存。<br>○ 刃先には刃線と直交する磨滅痕があり、小剥離も見られる。<br>○ なし。 | B面に鉄分付着。 | |
| | S－07－0975<br>ME55<br>溝<br>(SF 074)<br>黒色土層 | (6.8)<br>3.6<br>0.7<br>—<br>(23) | | 緑色片岩 | D 片刃。身幅の狭い杏仁形態の一種。背部は肩でやや屈折して直線的になり、端部に至る。刃部中央は使用により浅く凹み、端部に至り浅く外彎する。端部先端は直線的に断ち切った形を呈す。A面左右方向、急な右上一左下方向、刃面あらい右上一左下方向、B面右上一左下方向、刃部左右方向の研磨が施されている。紐孔はB面に敲打後、両面より穿孔(内 7mm、外13mm)。<br>○刃先よりB面左上方へのびる磨滅痕あり。刃線は中央で浅く凹む。B面肩部は磨滅が著しく、薄手になっている。B面全体に研磨痕が薄れ光沢を有す。両面ともに紐孔より背方向へのびる紐擦れ痕あり、その部分は研磨痕が薄れている。<br>○ なし | | |

( )は残存部分の法量である。　( )は紐孔径のうち内孔径・外孔径、右孔・左孔、A面・B面の法量である。

| 図版番号 | 登録番号<br>出土地点<br>遺構名<br>(遺構番号)<br>層位 | 法量<br>(cm)<br>(g) | 長さ<br>幅<br>厚<br>紐孔間距離<br>重量 | 石材 | 特徴 | タイプ 形態上・製作上の特徴<br>○使用痕跡<br>○背潰れ痕 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | S—07—0987<br>MG56<br>溝<br>(SF 074)<br>黒色砂質土層 | (6.6)<br>(4.5)<br>0.8<br>—<br>(36) | | 緑色片岩 | D 両刃。身幅の広い形態。刃部は直線的。背部は端部へ向かって左上から右下方向へ直線的にのびる。端部は欠損後磨滅。刃部左端は剝離破損後再研磨。左端破損部中央はA面側へ大きく剝離しており、先端のエッジは磨滅。右端破損部上方は折れ面を呈す。<br>○ 刃先には僅かに刃線と直交する磨滅痕あり。<br>○ 左端破損部中央に両面側への小さい剝離および磨滅が見られる。 | | |
| | S—07—0999<br>KP54<br>茶褐色土層 | (9.8)<br>(5.1)<br>0.7<br>—<br>(49) | | 緑色片岩 | D 片刃。身幅の広い杏仁形態。刃部は浅く外彎。刃部稜はなだらかである。背部は薄く、体部中央で最大厚を測る。横軸はB面側へ彎曲。A面右上—左下方向、左上がり、B面左上—右下方向、左右方向のあらい研磨が施されている。紐孔は左寄りと思われる。(孔径不明)<br>○ 刃先には刃線と直交する方向の磨滅痕が見られ、刃部B面側への剝離も見られる。B面刃部および肩部は磨滅し光沢を帯びる。B面体部中央は研磨痕が薄れている。<br>○ なし | | |
| | S—07—1011<br>JM66<br>褐色土層 | (7.3)<br>(4.0)<br>0.6<br>—<br>(22) | | 緑色片岩 | D 片刃。背潰れにより、背部は原形を留めていないが、もとは杏仁形態。端部先端は破損。薄手である。刃部稜は明確。両面共に研磨の及ばない剝離面が大きく残存。(内6㎜、外9㎜)<br>○ 刃先はB面側へ剝離。両面共に研磨痕は浅い。<br>○ 端部を除いた背部に著しく、背部は原形を保っていない。 | | |
| | S—07—1013<br>JM66<br>褐色土層 | (8.9)<br>5.1<br>0.9<br>2.2<br>(58) | | 緑色片岩 | D 片刃。身幅の広い杏仁形態。刃部中央は直線的で端部に至り外彎する。端部先端は破損。端部背にA面側へ傾斜する浅い抉りがあり研磨痕を有する。刃部稜は不明瞭である。A面左上—右下方向、左右方向、刃面は刃線に沿った方向、B面右上—左下方向、左上、右下方向に研磨が施されている。紐孔は背寄りでやや左下がりにあり(内5㎜、外8㎜)。<br>○ 刃先には刃線と直交する方向の磨滅痕があり、B面左上方へのびる。この為、刃線は凸凹している。B面肩部は磨滅。端部背の抉り部分にも磨滅が見られる。両面に紐擦れ痕あり。<br>○ なし | | |
| | S—07—1018<br>JM66<br>褐色土層 | (5.3)<br>(3.6)<br>0.7<br>—<br>(20) | | 緑色片岩 | D 片刃。端部は幅狭で先端は破損しているが鋭い。刃部は研ぎ直されており、浅く外彎。刃面には右上—左下方向のあらい研磨痕が残存。<br>○ 刃先には刃線と直交する磨滅痕があり、刃部B面左上方へのびる。両面体部の研磨痕は浅い。B面肩部に左上方へのびる磨滅痕あり。<br>○ なし | | |
| | S—07—1039<br>不明 | (8.6)<br>(5.2)<br>0.5<br>1.8<br>(31) | | 緑色片岩 | D 片刃。身幅の広い形態。両端部欠損。薄手である。刃部は両面より研ぎ出されており刃面は狭く、A面刃部稜は明確である。両面とも右上—左下方向、刃面は刃線に沿った方向にややあらい研磨が施されている。紐孔はやや左下がりで背寄りにつけられており、右孔は不正円形を呈す(内左4.5㎜、右5㎜、外左A7㎜、B9㎜、右A9㎜、B8㎜)。B面左孔斜め左下方に未貫通穿孔痕あり(径3㎜)。<br>○ 刃先には刃線と直交する磨滅痕あり。<br>○ 背部、刃部および刃部の剝離破損した先端に見られる。 | | |
| | S—07—1058<br>ME50<br>溝<br>(SF 084)<br>灰褐色砂礫層 | (11.4)<br>5.2<br>0.8<br>2.2<br>(62) | | 緑色片岩<br>(点紋) | D 片刃。身幅の広い杏仁形態。刃部中央は直線的で、端部に至り外彎する。刃部稜はなだらかである。両端部は剝離破損。横軸は左端部でB面側へ彎曲。両面の研磨面下に片理面残存。紐孔は右下がりで背寄りにあり、右孔はA面側のみ敲打後、両面より穿孔されている。(内.5㎜、外左A8㎜、B10.5㎜、右A敲打径12㎜、B12.5㎜)。左孔の左および上方に未貫通穿孔痕あり(径左2㎜、上方1㎜)。右孔上方にも2つ隣接してある(径左7㎜、右4.5㎜)。<br>○ 刃先には刃線と直交する磨滅痕があり、剝離も見られる。B面刃部は磨滅により、面全体が浅く凹んでいる。両面共に研磨痕は薄れ、B面側では光沢を帯びる。B面左孔の背寄り角は磨滅。<br>○ なし | | |

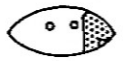
(　)は残存部分の法量である。　　(　)は紐孔径のうち内孔径・外孔径、右孔・左孔、A面・B面の法量である。

| 図版番号 | 登録番号<br>出土地点<br>遺構名<br>(遺構番号)<br>層位 | 法量<br>(cm)<br>(g) | 長さ<br>幅<br>厚<br>紐孔間距離<br>重量 | 石材 | 特徴 | タイプ 形態上・製作上の特徴<br>○使用痕跡<br>○背潰れ痕 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | S−07−1065<br>JY58<br>黒色土層下部 | (6.2)<br>(4.9)<br>0.9<br>—<br>(29) | | 緑色片岩 | D 片刃。身幅の広い杏仁形態。体部中央で最大厚を測る。背面はA面側へ傾斜する。刃部は研ぎ直されており、刃面は狭い。B面刃部寄り体部は剝離後再研磨。両面共に右上一左下方向に研磨が施されている。紐孔は背寄りで、A面は破損していて不明であるがB面では敲打後に穿孔している。<br>○ 刃先はB面側へ大きく剝離しており、残存する刃先は丸く磨滅。<br>○ なし | |  |
| | S−07−1066<br>JU58<br>黒色土層 | (8.9)<br>3.5<br>0.6<br>1.7<br>(33) | | 緑色片岩 | D 片刃。身幅は狭く、刃部は浅く外彎。両端部欠損。薄手である。背部は薄く、刃部稜付近で最大厚を測る。刃面は狭く、急傾斜している。両面共に研磨痕は薄れている。紐孔はやや左下がりの背寄りで、孔径は小さい（内 4.5㎜、外左 8㎜、右A 7㎜、B 7.5㎜）。A面右紐孔右方に小さい未貫通孔穿孔痕あり（径1.5㎜）。<br>○ 刃先には刃線と直交する磨滅痕があり、B面右孔より左方の体部では左上方へのび、背寄りになると右上方へのびている。B面右端部寄り体部にも磨滅が見られるが、左方ほど著しくない。両者ともA面の磨滅を伴う。両面に紐擦れ痕あり。<br>○ 右肩にA面側へ傾斜して僅かに見られる。 | | |
| | S−07−1068<br>MI55<br>整地面 | (8.5)<br>(4.6)<br>0.6<br>2.4<br>(37) | | 緑色片岩 | D 片刃。身幅の狭い杏仁形態。A面には細かい研磨痕が残存。紐孔は不正円形を呈す。(内6.5㎜、外A 9㎜、B12㎜) 左孔の右方に未貫通の穿孔痕あり。<br>○ 刃先は磨滅しており、B面全体は磨滅し、光沢がある。A面もわずかに研磨痕は残るが光沢がみられる。B面は背方向に紐擦れ痕あり。<br>○ なし | | |
| | S−07−1075<br>JQ58<br>茶褐色土層 | 10.8<br>(3.5)<br>0.6<br>2.4<br>(33) | | 黒色片岩 | D 片刃。幅狭の杏仁形態。刃部は浅く外彎し研ぎ直されている。背部は打撃を受け、紐孔は上半部潰れ、原形を留めず。両面とも研磨面下に製作時の剝離痕を大きく留める。右端部は破損後磨滅。刃面は左右方向の研磨痕を有する。<br>○ 刃先よりB面左上方へのびる磨滅痕あり。全面に光沢を帯びるが、B面に著しい。<br>○両肩部および刃部中央より左寄りにあり。 | | |
| | S−07−1077<br>JQ58<br>茶褐色土層 | (5.1)<br>(4.2)<br>0.7<br>—<br>(22) | | 緑色片岩 | D 片刃。杏仁形態。端部破損。両面共に端部付近の研磨面下に敲打痕残存。両面背寄り左上一右下方向、中央部左右方向、刃面右上一左下方向の研磨痕あり。刃面の研磨痕はあらい。<br>○ B面側への刃こぼれが見られる。B面の研磨痕は浅い。<br>○ なし | | |
| | S−07−1080<br>JQ58<br>茶褐色土層 | (4.1)<br>(3.8)<br>0.6<br>—<br>(10) | | 緑色片岩 | D 片刃。杏仁形態。刃部稜は不明瞭。背および端部先端は薄い。<br>○ 端部先端寄り刃部はB面側へ剝離。B面肩部は磨滅。両面共に研磨痕は浅い。<br>○ なし | | |
| | S−07−1084<br>JI54<br>溝<br>(SF 079)<br>上層 | (5.9)<br>(5.1)<br>0.8<br>—<br>(36) | | 緑色片岩 | D 片刃。身幅の広い杏仁形態。B面肩部の研磨面下に剝離痕残存。A面右上一左下方向、B面左上一右下方向の研磨が施されている。<br>○ 刃先には刃線と直交する磨滅痕がある。B面肩部背は磨滅。<br>○ なし | | |
| | S−07−1086<br>JZ | (6.3)<br>(5.2)<br>0.8<br>—<br>(29) | | 緑色片岩 | D 両刃。身幅の広い杏仁形態。端部先端破損。A面側は大半が表面剝離し、B面では表面が荒れている。刃部稜はA面側ではなだらかであり、B面側では明確である。<br>○ 刃先は小さく剝離し、丸く磨滅している。<br>○ なし | 両面に鉄分付着。B面は表面が荒れている。 |  |

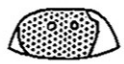
（ ）は残存部分の法量である。　　（ ）は紐孔径のうち内孔径・外孔径、右孔・左孔、A面・B面の法量である。

| 図版番号 | 登録番号<br>出土地点<br>遺構名<br>(遺構番号)<br>層位 | 法量<br>(cm)<br>(g) | 長さ<br>幅<br>厚<br>紐孔間距離<br>重量 | 石材 | 特徴 | タイプ 形態上・製作上の特徴<br>○使用痕跡<br>○背潰れ痕 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | S－07－1090<br>JI54<br>茶褐色土層 | (8.3)<br>(5.3)<br>0.7<br>—<br>(42) | | 緑色片岩 | D 片刃。身幅の広い形態。端部は直線的である。端部寄り刃部は剝離破損。刃部稜は不明瞭である。B面端部の研磨面下に剝離痕残存。A面右上一左下方向、刃面は刃線に沿った方向と左上一右下方向、B面右上一左下方向、左上一右下方向に研磨が施されている。(内7mm、外A9mm、B10mm)。<br>○ 刃先には刃線と直交する磨滅痕あり。端部寄り刃部ではB面側へ大きく剝離している。<br>○ なし | | |
| | S－07－1109<br>JM66<br>褐色土層 | (6.8)<br>(4.2)<br>0.8<br>—<br>(30) | | 緑色片岩 | D 片刃。杏仁形態。端部から刃部にかけて剝離破損。背面は平坦な面をなす。背寄り体部で最大厚を測る。<br>○ 両面共に研磨痕は浅い。刃部は剝離破損後、先端のエッジが磨滅。<br>○ なし | | |
| | S－07－1117<br>JQ66<br>褐色土層 | (8.7)<br>(5.0)<br>0.8<br>2.2<br>(51) | | 緑色片岩 | D 片刃。身幅の広い杏仁形態。端部先端破損。背面は中央では平坦で端部寄りになると丸味をもつ。両面共に研磨面下に片理面を残す。A面中央部は表面が剝離。両面共に右上一左下方向、左上一右下方向、刃面は刃線に沿った方向に研磨が施されている。紐孔はやや背寄りで不正円形を呈す。(内6mm、外11mm)<br>○ 刃部はB面側へ剝離後、先端が磨滅。紐孔はA面では双孔を結ぶ方向、B面では左孔より左上方背へのびる紐擦れ痕あり。B面肩部は磨滅し、背面と体部との角は丸くなっている。<br>○ なし | B面に鉄分付着。 | |
| | S－07－1134<br>MJ50<br>黒褐色土層 | (5.5)<br>(3.5)<br>0.8<br>—<br>(21) | | 緑色片岩<br>(点紋) | D 片刃。身幅は狭く、刃部は浅く外彎し、研ぎ直されている。端部は先端が尖る。両面共左上一右下方向、刃面は左右方向の研磨痕が見られる。<br>○ 表面全体に研磨痕が薄れ、やや光沢を帯びる。<br>○ なし | | |
| | S－07－1137<br>JI66<br>褐色土層 | (4.9)<br>(5.0)<br>0.9<br>—<br>(44) | | 緑色片岩 | D 片刃。端部は円くなり、鋭さのない形態である。<br>○ 不明<br>○ 刃先にあり、丸くなる。 | 鉄分付着 | |
| | S－07－1148<br>JM66<br>褐色土層 | (8.0)<br>(6.5)<br>0.9<br>—<br>(67) | | 緑色片岩 | D 片刃。身幅は広く、刃部は浅く外彎。端部は欠損し、その面は新しい。背面はB面側へ傾斜している。A面右上一左下方向、B面左上一右下方向、刃面は刃線に沿った方向に研磨が施されている。<br>○ 刃先には刃線と直交する磨滅痕があり、B面側への小剝離も見られる。B面刃部および肩部は磨滅し背面と体部との角はなだらかになっている。<br>○ なし | A面風化により白く変色。 | |
| | S－07－1167<br>KP54<br>灰褐色土層 | (5.8)<br>(3.8)<br>0.8<br>—<br>(24) | | 緑色片岩 | D 片刃。身幅は狭く、刃部は浅く外彎。刃部稜はなだらかである。端部中央で最大厚を測り、厚さは均一でない。端部B面へ剝離後再研磨。両面共製作時の剝離面が残存。A面紐孔左下方に急な右上一左下方向の浅い条線(幅1～1.5mm、長21mm)が見られる。これは研磨時のものか不明。A面左上がり、急な右上一左下方向、刃面左右方向、B面左上一右下方向、右上一左下方向の研磨痕あり。紐孔はやや背寄りに位置する。(内6.5mm、外A不明、B8mm)<br>○ 全面に光沢をもつ。B面の研磨痕はうすれている。<br>○ 肩部には、B面に傾斜して僅かに見られる。刃部にもB面に傾斜して見られ、剝離を伴う。 | | |

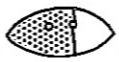
(　)は残存部分の法量である。　　(　)は紐孔径のうち内孔径・外孔径、右孔・左孔、A面・B面の法量である。

| 図版番号 | 登録番号<br>出土地点<br>遺構名<br>(遺構番号)<br>層位 | 法量<br>(cm)<br>(g) | 長さ<br>幅<br>厚<br>紐孔間距離<br>重量 | 石材 | 特徴 | タイプ 形態上・製作上の特徴<br>○使用痕跡<br>○背潰れ痕 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | S—07—1176<br>KD58<br>茶褐色土層 | (6.4)<br>(4.2)<br>0.7<br>—<br>(27) | | 緑色片岩 | D 片刃。刃部は浅く外彎。紐孔上部で最大厚を測る。A面肩部の研磨面下に剝離痕残存。横軸はややA面側に彎曲。A面左右方向の研磨。紐孔は両面より敲打後穿孔されている（内7㎜、外10㎜）。<br>○ 刃先には刃線と直交する方向の磨滅痕がみられる。B面肩部は剝離しており、その後に磨滅している。<br>○ 紐孔上方の背より肩部にかけてと、端部寄り刃部にB面側へ傾斜してみられる。 | | A面に鉄分付着。B面は火をうけて表面が荒れている。<br> |
| | S—07—1179<br>KD54<br>黒色土層 | (6.3)<br>(3.9)<br>(0.5)<br>—<br>(7) | | 石英安山岩か | D 片刃。刃部は浅く外彎。B面体部中央は大きく剝落。A面研磨面下に剝離が大きく残存。A面右上がり、刃面は刃線に沿った方向に研磨が施されている。紐孔は中央部に位置し、両面からの穿孔にくいちがいがあり。(内6×7㎜、外不明)<br>○ 刃先には刃線と直交する方向の磨滅痕がみられる。B面刃部から端部にかけてと背部の磨滅が著しく、光沢を帯びる。<br>○ なし | | |
| | S—07—1216<br>MM54<br>黒褐色土層 | (7.6)<br>(5.6)<br>1.7<br>—<br>(46) | | 緑色片岩 | D 片刃。身幅の広い杏仁形態。刃部中央は直線的で、端部で切れあがる。刃部稜は明確である。背部には研磨の及ばない剝離面が残存。紐孔は中央部よりやや背寄りである（内約7㎜）。<br>○ 刃先には刃線と直交する磨滅痕があり、B面左上方へのびる。両面とも磨滅しており、光沢を帯びる。B面肩部の磨滅は特に著しい。端部寄り刃部は剝離。<br>○ なし | | |
| | S—07—1224<br>JU62<br>黒褐色土層 | (4.4)<br>(4.4)<br>0.7<br>—<br>(17) | | 緑色片岩 | D 片刃。杏仁形態。端部先端寄り刃部破損。A面刃部・背部、B面背部の研磨面下に一部剝離痕が残存。A面左上—右下方向、刃面は刃線に沿った方向に研磨が施されている。<br>○ 刃先はB面側へ剝離後磨滅。B面全体に研磨痕が薄れ、光沢を帯びる。<br>○ なし | |  |
| | S—07—1228<br>JY64<br>黒褐色土層 | (5.8)<br>(5.4)<br>0.6<br>—<br>(23) | | 緑色片岩 | D 不明。身幅の広い杏仁形態。薄手である。背部、刃部の区別はし難く、両端は狭い平坦な面をなす。刃部側と思われる方は浅く外彎し、端部寄りではA面へ剝離後再研磨している。<br>○ 不明<br>○ なし | | 再生途上品。<br> |
| | S—07—1229<br>JY64<br>黒褐色土層 | (5.8)<br>(4.2)<br>0.6<br>—<br>(21) | | 緑色片岩 | D 片刃。身幅は狭く、刃部は浅く外彎。端部先端破損後再研磨。A面肩部、研磨面下に剝離痕残存。両面右上—左下方向、端部付近左上—右下方向、刃面左右方向、右上—左下方向、左上—右下方向の研磨痕あり。紐孔は両面より敲打後穿孔されている（内6㎜、外A11㎜、B不明）。<br>○ 刃先には刃線と直交する方向の磨滅痕があり、左上方へのびる。背部、A面体部中央は光沢を帯びる。<br>○ なし | | |
| | S—07—1245<br>JS64<br>黒褐色土層 | (8.4)<br>(4.3)<br>0.8<br>—<br>(36) | | 緑色片岩 | D 両刃。刃部は浅く外彎。端部は破損後磨滅。両面共に研磨面下に剝離痕残存。B面中央部寄りでは大きく研磨の及ばない片理面残存。A面左右方向、B面右上—左下方向、刃部左右方向の研磨が施されている。<br>○ 刃先は刃こぼれしており、B面側への剝離もみられる。B面は全体に研磨痕が薄れている。<br>○ なし | | 火をうけて変色。<br> |
| | S—07—1261<br>MB54<br>溝<br>(SF 074)<br>黒褐色砂礫層 | (5.4)<br>(3.7)<br>0.6<br>—<br>(16) | | スレート | D 片刃。身幅は狭く、刃部は直線的で端部に至り浅く外彎する形態。端部は円味をもつ。体部中央で最大厚を測る。背部は薄い。A面の研磨面下に剝離面が残存。A面右上—左下方向、刃面右上がり、B面右上—左下方向、急な右上—左下方向、左上—右下方向の研磨が施されている。<br>○ 刃先は中央部寄りで丸く磨滅。全体に磨滅して研磨痕は薄れている。特に刃先からB面刃部および両面ともに背部の磨滅は著しく、光沢を帯びる。<br>○ なし | | |

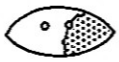
(　)は残存部分の法量である。　　(　)は紐孔径のうち内孔径・外孔径、右孔・左孔、A面・B面の法量である。

| 図版番号 | 登録番号<br>出土地点<br>遺構名<br>（遺構番号）<br>層位 | 法量（cm）（g）<br>長さ<br>幅<br>厚<br>紐孔間距離<br>重量 | 石材 | 特徴<br>タイプ　形態上・製作上の特徴<br>○使用痕跡<br>○背潰れ痕 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|
| | S－07－1264<br>MB54<br>溝<br>（SF 074）<br>黒褐色砂礫層 | (8.1)<br>(4.2)<br>0.8<br>—<br>(47) | 緑色片岩<br>（点紋） | D　片刃。刃部は浅く外彎。端部先端破損。刃部稜は明確。A面右上一左下方向、左上一右下方向、刃面左右方向、右上がりの研磨。<br>○　表面全体に光沢を帯びる。特にB面に著しい。<br>○　肩部から端部にかけての背面および刃先全体にわたって見られる。 | |
| | S－07－1266<br>MB54<br>溝<br>（SF 074）<br>黒褐色砂礫層 | (6.5)<br>(5.0)<br>0.7<br>—<br>(28) | 緑色片岩 | D　片刃。身幅の広い杏仁形態。背は肩部で屈曲して直線的にのび、端部に至る。端部先端は小剥離しており薄くなる。刃部は研ぎ直されており、端部寄りでは刃面は広く、中央寄りでは狭い。刃部稜はなだらかである。両面共に研磨面下に剥離痕が一部残存。(内 5.5㎜、外A12㎜、B 9㎜)。<br>○　刃先は丸く磨滅しており、この磨滅は刃部B面側左上方へのびる。A面背部およびB面全体に磨滅して研磨痕が薄れている。<br>○　なし | |
| | S－07－1271<br>LG58<br>黒褐色土層 | (7.5)<br>3.5<br>0.9<br>—<br>(30) | 緑色片岩 | D　片刃。身幅狭く、厚味があり、刃部は浅く外彎。端部は直線的な側辺をつくる。体部中央で最大厚を測る。刃面は研ぎ直され、稜が丸味をもつ。背面は製作時の剥離が研磨面下に残存。両面共右上一左下方向、左上一右下方向の研磨痕あり。(内 5.5㎜、外 9㎜) B面紐孔右下に接して径2㎜の未貫通穿孔痕あり。<br>○　刃先は丸く磨滅。刃部のB面端部寄りは刃こぼれしているが、刃部再生のための剥離か、使用痕か不明。刃部寄り折れ面の鋭い角は磨滅。両面に紐擦れ痕あり。<br>○　なし | |
| | S－07－1283<br>MD54<br>溝<br>（SF 074）<br>褐色砂層 | (5.7)<br>(4.4)<br>(0.7)<br>—<br>(17) | 緑色片岩 | D　片刃。身幅のやや広い杏仁形態。端部先端は鋭い。刃部稜は明確で刃面はやや狭い。B面は表面が大きく剥落している。<br>○　火を受けて表面は荒れているため、使用痕は不明。<br>○　なし | 火をうけて赤変し、表面は荒れている。<br> |
| | S－07－1284<br>MD54<br>溝<br>（SF 074）<br>褐色砂層 | (7.2)<br>(4.1)<br>0.6<br>—<br>(27) | 黒色片岩 | D　片刃。身幅は狭く、刃部は浅く外彎。薄手である。端部は円味をもつ。A面肩部、B面端部および肩部の研磨面下に剥離痕を留める。A面左上一右下方向、左右方向、刃面は刃線に沿った方向、B面右上一左下方向、左右方向の研磨が施されている。<br>○　刃先には刃線と直交する磨滅痕があり、B面左上方へのびる。肩部には3ケ所右下方へのびる磨滅痕が集中し、このため、浅い凹みをなし、背面は狭い。両面背部（肩部）および中央体部、B面刃部は磨滅し光沢を帯びる。<br>○　なし | |
| | S－07－1291<br>JE58<br>溝<br>（SF 079）<br>黒褐色土層 | (9.5)<br>5.7<br>0.8<br>3.1<br>(63) | 緑色片岩 | D　両刃。身幅は広く、刃部は浅く外彎。背面および端部は剥離破損。B面端部寄り体部の研磨面下に敲打痕残存。A面右上一左下方向、右上がり、B面右上一左下方向、左上がりの研磨が施されている。紐孔は体部中央よりやや背寄りで小さく、右孔は三角状を呈する（内4.5㎜、外左7.5㎜、右A 8㎜、B 7.5㎜)。<br>○　刃先には刃こぼれが見られ、丸く磨滅している。剥離破損部分の先端にも磨滅が見られる。A面右孔左角が丸く磨滅。<br>○　背面および端部、刃部に見られる。 | 両面に鉄分付着。<br> |
| | S－07－1292<br>JE58<br>溝<br>（SF 079）<br>黒褐色砂礫土層 | (8.4)<br>4.8<br>0.6<br>1.9<br>(39) | 緑色片岩 | D　片刃。身幅はやや広く、やや薄手。両端部欠損後磨滅。刃部は浅く外彎。両面共に研磨面下に剥離痕残存。A面背付近は右上がり、中央部は右上一左下方向、刃部付近は左右方向、B面右上一左下方向、端部付近は左上一右下方向の研磨が施されている。全体に研磨はあらい。紐孔は背寄りで左下がりである（内6㎜、外 7.5㎜)。<br>○　刃先は丸く、B面側への剥離もみられる。<br>○　なし | 火をうけて変色し、表面は荒れている。<br>  |

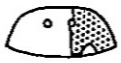
（　）は残存部分の法量である。　　（　）は紐孔径のうち内孔径・外孔径、右孔・左孔、A面・B面の法量である。

| 図版番号 | 登録番号<br>出土地点<br>遺構名<br>(遺構番号)<br>層位 | 法量<br>(cm)<br>(g) | 長さ<br>幅<br>厚<br>紐孔間距離<br>重量 | 石材 | 特徴 | タイプ 形態上・製作上の特徴<br>○使用痕跡<br>○背潰れ痕 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | S－07－1316<br>LS58<br>黒褐色土層 | (5.1)<br>(4.8)<br>0.5<br>—<br>(15) | | 緑色片岩<br>(点紋) | D 片刃。身幅の広い杏仁形態。薄手である。両面共に研磨面下に剝離痕残存。刃先は鋭くなく、研ぎ直しの途上か。背面は略平坦である。両面共に左上一右下方向に研磨が施されている。<br>○ 刃部は刃先から剝離後、再研磨されており、使用痕らしきものは認められず。両面共に研磨痕は浅い。<br>○ なし | | |
| | S－07－1319<br>NK60<br>溝<br>(SF 085)<br>褐色砂層 | 13.1<br>3.9<br>0.8<br>2.4<br>(50) | | 緑色片岩 | D 片刃。略完形。身幅の狭い杏仁形態。刃部は研ぎ直されており、浅く外彎する。刃部稜は明確である。背面は丸味をもつ。紐孔は左下がりで、左孔は中央に位置し、右孔は背寄りに位置している(内8mm、外A13mm、B不明)。<br>○ 刃先には刃線と直交する磨滅痕があり、B面刃部にのびる。両面共に研磨痕は薄れている。<br>○ 右肩部背面にA面側へ傾斜して見られる。 | | 両面に鉄分付着。<br> |
| | S－07－1324<br>IV66<br>黒褐色土層 | (7.0)<br>4.5<br>0.7<br>2.2<br>(40) | | 緑色片岩 | D 片刃。身幅は狭く、刃部は浅く外彎。端部は薄い。A面背付近急な左上一右下方向、紐孔付近、端部付近左右方向、刃部寄り右上がり方向、B面背より紐孔付近左右方向、刃部寄り左上がりの方向、刃面左右方向の研磨。紐孔は他と比べて小さい。(内5mm、外7mm)<br>○ 紐孔直下付近の刃部に刃線と直交する方向の磨滅痕がみられる。B面端部は磨滅。両面に紐擦れ痕あり。<br>○ 双孔間上方背に僅かに認められる。 | |  |
| | S－07－1330<br>MJ54<br>黒色土層 | (6.1)<br>(5.0)<br>0.6<br>2.0<br>(27) | | 緑色片岩<br>(点紋) | D 片刃。身幅はやや広く、刃部は浅く外彎。薄手で端部は円味をもつ。刃部稜は上方にあり、なだらかで、刃面は幅広い。両面共右上一左下方向の研磨が施されている。紐孔は背寄りで左下がりに位置し、右孔は五角形を呈す(内5mm、外A 8mm、B 7.5mm)。B面左孔下方に接して未貫通穿孔痕あり。<br>○ 刃先は小さくこぼれており、磨滅して光沢を帯びる。B面肩部は、背面と体部との稜がなめらかになっている。B面全体に光沢を帯びる。<br>○ なし | | A面鉄分付着。<br> |
| | S－07－1339<br>IS68<br>円形周溝<br>(SZ 318)<br>第2層・黒色土層 | (5.7)<br>(3.8)<br>0.6<br>—<br>(21) | | 緑色片岩 | D 片刃。身幅は狭く、刃部は浅く外彎。刃部稜は不明確。端部はやや円味をもつ。A面急な右上一左下方向、刃面左右方向、B面右上一左下方向のあらい研磨痕あり。<br>○ 刃先にはB面を上にして左上方にのびる磨滅痕あり、B面肩部には刃部より左上方へのびる磨滅痕あり。B面全体に光沢を帯びる。<br>○ なし | | |
| | S－07－1340<br>IT68<br>黒色土層 | (9.5)<br>(3.7)<br>0.7<br>—<br>(32) | | 緑色片岩 | D 片刃。身幅の狭い杏仁形態のやや小型のもの。紐孔はなく、B面全体に大きく剝離面を留め、A面背部の研磨面下には剝離痕残存。両端部の先端は欠損。背部で最大厚を測る。A面右上一左下方向、B面右上一左下方向、左上一右下方向の研磨痕あり。<br>○ 刃先は小さくこぼれており、丸く磨滅している。<br>○ 右端部先端及び左端寄り背部と刃部中央とにそれぞれ若干みられる。 | | |
| | S－07－1347<br>MN50<br>黒褐色土層 | (10.9)<br>5.8<br>0.8<br>—<br>(83) | | 緑色片岩 | D 片刃。身幅は広く、刃部は研ぎ直されており、浅く外彎。端部先端は破損後磨滅。両面研磨面下に片理面が一部残存。刃部稜はなだらかである。A面右上一左下方向、左右方向、刃面は刃線に沿った方向、B面左上一右下方向に研磨が施されている。<br>○ 刃先には刃線と直交する磨滅痕があり、B面左上方へのびる。刃部B面への剝離も見られる。両面共に研磨痕は薄れ、光沢を帯びる。<br>○ 肩部背にA面側に傾斜して見られる。刃部にも、端部寄りと中央寄りに僅かに見られる。 | | |

(　)は残存部分の法量である。　　(　)は紐孔径のうち内孔径・外孔径、右孔・左孔、A面・B面の法量である。

| 図版番号 | 登録番号<br>出土地点<br>遺構名<br>（遺構番号）<br>層位 | 法量（cm）（g）<br>長さ<br>幅<br>厚<br>紐孔間距離<br>重量 | 石材 | 特徴<br>タイプ　形態上・製作上の特徴<br>○使用痕跡<br>○背潰れ痕 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|
| | S－07－1351<br>NH51<br>溝<br>（SF 084）<br>最下層・褐色砂層 | (3.5)<br>(3.4)<br>0.5<br>—<br>(6) | 緑色片岩 | D　片刃。杏仁形態。端部はやや円味をもち薄い。B面刃部剝離後磨滅。A面右上一左下方向、刃面左右方向、B面左上一右下方向の研磨痕。<br>○　刃先からB面刃部にかけて磨滅し、B面体部の研磨痕は薄れている。<br>○　なし | |
| | S－07－1368<br>LO58<br>黒褐色土層 | (6.3)<br>(4.9)<br>0.8<br>—<br>(32) | 緑色片岩 | D　片刃。身幅は広く、刃部は浅く外彎。端部先端は破損するがやや円味をもつ。背面は平坦。刃面は狭く、刃部稜は明確である。紐孔は両面より敲打後穿孔。<br>○　刃先は丸く磨滅しており端部寄り刃先からB面刃部にかけて、面が磨滅。<br>○　なし | 火をうけて変色。<br> |
| | S－07－1386<br>MK59<br>第9号土器堆積<br>（SL 308） | (8.3)<br>(5.3)<br>1.0<br>—<br>(57) | 緑色片岩<br>（点紋） | D　片刃。厚手で身幅の広い杏仁形態。端部先端は薄く、研磨の及ばない剝離面残存。刃部稜は明確である。刃先は背潰れのため欠損。<br>○　両面の研磨痕は浅い。<br>○　刃部中央に著しい。 |  |
| | S－07－1409<br>MK59<br>溝<br>（SF 074）<br>褐色砂層 | (5.0)<br>(4.8)<br>0.8<br>—<br>(24) | 緑色片岩 | D　片刃。身幅の広い杏仁形態。刃部稜はなだらか。A面右上一左下方向、左上一右下方向、刃面は刃線に沿った方向、B面右上一左下方向、左上一右下方向、左右方向にあらい研磨が施されている。<br>○　刃先はA面側へ剝離。B面は全体に研磨痕が薄れている。<br>○　なし | |
| | S－07－1420<br>MT63<br>溝<br>（SF 077）<br>腐混黒色粘質土層 | (6.5)<br>(5.7)<br>(0.6)<br>—<br>(27) | 緑色片岩 | D　片刃。身幅は広く、刃部は浅く外彎。端部は薄い。A面端部を除いて大きく剝離。A面右上一左下方向、左右方向、B面右上一左下方向の研磨が施されている。<br>○　B面肩付近に光沢あり。<br>○　端部の背にありB面側へ傾斜してみられる。刃部の端部を除いた部分にあり、剝離を伴う。 | |
| | S－07－1468<br>MA50<br>溝<br>（SF 074）<br>黒色土層 | (5.8)<br>(4.6)<br>0.5<br>—<br>(17) | 緑色片岩 | D　片刃。身幅の広い杏仁形態。薄手である。横軸はA面側へ彎曲。両面とも研磨面下に剝離痕残存し、厚さは均一でない。背は薄い。A面右上一左下方向、左上一右下方向、B面急な左上一右下方向、左右方向の研磨が施されている。<br>○　刃先には刃線に直交する磨滅痕がある。<br>○　肩部に僅かに見られる。 | |
| | S－07－1479<br>KI66<br>第3層・黒色砂質土層 | (10.3)<br>5.4<br>0.8<br>2.4<br>(71) | 黒色片岩 | D　片刃。身幅は広く、刃部は浅く外彎。刃部中央は剝離後再研磨。背部は中央が直線的で、肩部で屈曲してほぼ直線的に端部に至る。肩部はB面に剝離痕残存。端部は薄く垂直に下る。横軸はB面側へ彎曲。(内6㎜、外9㎜)。<br>○　刃部中央は剝離後、その先端のエッジは磨滅。刃先には刃線と直交する磨滅痕あり、B面左上方へのびる。B面全体およびA面肩部は磨滅。<br>○　なし | |
| | S－07－1510<br>MM61<br>溝<br>（SF 074）<br>褐色砂層 | (4.7)<br>(2.9)<br>0.5<br>—<br>(10) | 黒色片岩 | D　片刃。身幅は狭く、薄手の杏仁形態。端部は欠損。A面肩部は剝離。両面研磨面下には剝離痕が残存。A面右上一左下方向、上下方向、B面左上一右下方向、右上一左下方向の研磨が施されている。<br>○　刃先はB面へ剝離後再研磨され、その後に磨滅している。B面肩部は磨滅。全体に研磨痕が薄れている。<br>○　なし | |

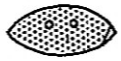
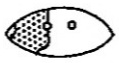
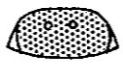
（　）は残存部分の法量である。　　（　）は紐孔径のうち内孔径・外孔径、右孔・左孔、A面・B面の法量である。

| 図版番号 | 登録番号<br>出土地点<br>遺構名<br>（遺構番号）<br>層位 | 法量（cm）（g）<br>長さ<br>幅<br>厚<br>紐孔間距離<br>重量 | 石材 | 特徴 | タイプ　形態上・製作上の特徴<br>○使用痕跡<br>○背潰れ痕 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | S－07－1514<br>MB58<br>溝<br>（SF 075）<br>黒色粘質土層 | (7.2)<br>(4.2)<br>0.7<br>—<br>(25) | 緑色片岩 | D　片刃。身幅の狭い杏仁形態。刃部は研ぎ直されており、稜は明確でない。B面は平坦でA面端部の背寄り体部で最大厚を測る。A面肩部の研磨面下に製作時の剝離痕残存。両面には右上一左下方向、左上一右下方向、刃部には左右方向の研磨が見られる。(内5㎜、外8㎜)<br>○　刃先には刃線と直交する方向の磨滅痕あり。両面に紐擦れ痕あり。折れ口の鋭い角は少し磨滅。<br>○　肩付近にA面に傾斜して僅かに見られる。 | | |
| | S－07－1533<br>NB61<br>黒色砂質土層 | (7.7<br>(5.6)<br>0.8<br>—<br>(33) | 緑色片岩 | D　片刃。身幅の広い杏仁形態。端部先端は破損。刃部は薄く、刃面は狭い。紐孔はA面側から殆ど穿孔されている。（内5㎜、外A 9㎜、B不明）<br>○　刃先には刃線と直交する磨滅痕があり、小剝離も見られる。B面側、刃部左上方へのびる。両面共に研磨痕は浅く、背面は光沢を帯びる。A面左紐孔の右角は僅かに磨滅。<br>○　なし | 火をうけて変色。 | |
| | S－07－1562<br>MY63～NA62<br>暗褐色土層 | (8.4)<br>4.1<br>0.8<br>2.9<br>(38) | 緑色片岩 | D　片刃。幅狭の杏仁形態。刃部稜で最大厚を測る。横軸はややA面側に彎曲気味。A面肩部剝離痕残存。B面ほぼ全体に表面が剝離。A面右上一左下方向、刃面左右方向および右上　左下方向、B面左上一右下方向の研磨痕。紐孔はやや大きく右下がりで、背寄りにあり（内7㎜、外A 9㎜、B13㎜）。<br>○　刃先は丸く磨滅し、刃部中央では刃線が浅く凹んでいる。A面左紐孔の背寄り角および右角が僅かに磨滅。<br>○　肩部にA面へ傾斜してみられる。 | 火をうけて変色。<br>A面に鉄分付着。 | |
| | S－07－1565<br>JB66<br>溝<br>（SF 079）<br>茶褐色粘質土層 | (7.5)<br>(5.4)<br>1.0<br>—<br>(47) | 緑色片岩 | D　片刃。身幅は広く、刃部は浅く外彎。背寄り体部で最大厚を測る。端部先端破損。刃部は薄く両面より研ぎ出されており、刃先は平坦な面をなす。B面刃部先端は狭い傾斜面を呈する。両面共肩部には研磨面下に剝離面が残存し、A面全体に著しい。この為、体部の厚さは均一でない。B面背部はA面側へ少し傾斜し、背寄り体部になだらかな稜をなす。研磨痕はあらい。<br>○　A面および背面の研磨痕は薄れている。<br>○　なし | 両面に鉄分付着。<br>未製品か | |
| | S－07－1567<br>MX62<br>黒色砂粘質土層 | (6.2)<br>(5.7)<br>0.8<br>—<br>(37) | 緑色片岩 | D　片刃。身幅は広く、刃部はやや浅く外彎。背部は肩部で彎曲し、やや直線的になり端部に至る。端部先端は鋭い。両面共、研磨面下に剝離痕を一部留め、研磨はあらい。(内5㎜、外9㎜)。<br>○　刃部はB面側へ大きく剝離しており、A面側への小剝離も見られる。端部先端寄りの刃先は小剝離後磨滅している。<br>○　紐孔上方背面に僅かに見られる。 | 両面に鉄分付着。 |  |
| | S－07－1569<br>LO54<br>黒褐色土層 | (5.1)<br>(5.3)<br>0.7<br>—<br>(22) | 黒色片岩 | D　両刃。身幅は広く、刃部は浅く外彎。背部・端部は薄い。背面は平坦。端部先端は破損。紐孔は背部寄りで、A面は上方より、B面はやや下方より穿孔しており、少し孔がずれている（内 5.5㎜、外9㎜)。<br>○　刃先には刃線と直交する磨滅痕あり。B面刃部および端部は光沢を帯びる。<br>○　なし | | |
| | S－07－1570<br>LO54<br>黒褐色土層 | (7.0)<br>(4.0)<br>(0.5)<br>—<br>(21) | 緑色片岩 | D　両刃。身幅は広く薄手である。刃部は浅く外彎する。B面は平坦な面でA面は緩い曲面を呈す。<br>○　刃先には刃線と直交する磨滅痕があり、端部寄りでは刃こぼれも見られる。B面側の研磨痕はやや浅い。<br>○　なし | | |
| | S－07－1578<br>IB62<br>礫混黒褐色土層 | (7.3)<br>(5.3)<br>0.8<br>—<br>(46) | 緑色片岩<br>（点紋） | D　片刃。端部欠損。身幅の広い形態。刃部は研ぎ直され、中央寄りではA面と刃面がなす角度は端部寄りに比べ急である。B面研磨面下に剝離痕残存。A面背寄りに未貫通穿孔痕あり。<br>○　刃先には小剝離が見られ、光沢を帯びる。両面共に研磨痕は失われている。<br>○　なし | B面に鉄分付着。 | |

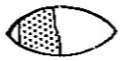
（　）は残存部分の法量である。　　（　）は紐孔径のうち内孔径・外孔径、右孔・左孔、A面・B面の法量である。

| 図版番号 | 登録番号<br>出土地点<br>遺構名<br>(遺構番号)<br>層位 | 法量<br>(cm)<br>(g) | 長さ<br>幅<br>厚<br>紐孔間距離<br>重量 | 石材 | 特徴 | タイプ 形態上・製作上の特徴<br>○使用痕跡<br>○背潰れ痕 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | S－07－1583<br>LG54<br><br><br>黒褐色土層 | (8.9)<br>(5.5)<br>0.6<br>3.0<br>(47) | 緑色片岩 | D 片刃。身幅は広く、刃部は浅く外彎。やや薄手。端部はやや円味をもつ。刃部稜はなだらかであり刃先は剝離破損。A面研磨面下に剝離痕残存。B面中央は浅く凹んでいる。紐孔は左下がりで背寄りにあり両面より敲打後穿孔されている（内6mm、外11mm）。<br>○ 両面共に研磨痕は薄れている。<br>○ 肩部から背部中央にかけてと刃部全体に見られる。刃部には剝離がみられその先端は磨滅している。 | | |
| | S－07－1586<br>LG54<br><br><br>黒色土層pit180 | (5.4)<br>4.7<br>0.6<br>—<br>(22) | 緑色片岩 | D 片刃。身幅の狭い形態。薄手である。両端部は欠損。刃面は狭い。B面研磨面下に剝離痕残存。(内6mm、外9mm)。B面刃部に左右方向のあらい研磨痕残存。<br>○ 刃先には刃線と直交する磨滅痕があり、B面刃部左上方へのびる。両面に紐擦れ痕あり。<br>○ なし | | |
| | S－07－1592<br>IF60<br><br><br>礫混黒褐色土層 | (7.6)<br>5.1<br>0.8<br>1.8<br>(41) | 緑色片岩 | D 片刃。やや身幅は広く、刃部は浅く外彎。厚さは均一でなく、紐孔付近は薄い。肩部から端部にかけて剝離破損。刃部は研ぎ直されている。A面背付近は左上一右下方向、中央部には右上一左下方向、刃面右上一左下方向および左右方向、B面左上一右下方向の研磨痕あり。紐孔はやや背寄りで、(内 6.5mm、外A 8.5mm、B 9mm) 両面より敲打後穿孔。A面右孔の上部に接して穿孔痕を留める。<br>○ 刃先は丸く磨滅し、数ケ所B面側へ小剝離している。B面全体に光沢を帯びる。B面左孔より背方向の紐擦れ痕あり。B面肩部に左上方へのびる磨滅痕があり、その部分は浅く凹んでいる。<br>○ なし | | |
| | S－07－1604<br>ML54<br>土器堆積<br>(SL 321) | (7.6)<br>(3.8)<br>1.0<br>2.7<br>(37) | 緑色片岩 | D 片刃。厚手の杏仁形態。端部は薄く、破損後再研磨。背部は打撃痕著しく紐孔上方まで潰れている。刃部稜付近に最大厚を測る。A面右上一左下方向、左上一右下方向、刃面左右方向の研磨。B面は全体に研磨痕が薄れている。紐孔は右下がり（内7mm、外9mm)。<br>○ B面刃部中央は磨滅により浅く凹んでおり、端部寄りは剝離後磨滅している。刃先よりB面左上方へのびる磨滅痕あり。両面に紐擦れ痕あり。<br>○ B面に傾斜をもって背部全体および端部寄り刃部に見られる。 | A面端部寄りに鉄分付着。 | |
| | S－07－1624<br>IV62<br>溝・第1溝<br>(SF 080)<br>第1層・灰褐色砂質土層 | (8.3)<br>(4.3)<br>0.9<br>—<br>(35) | 緑色片岩 | D 片刃。身幅の広い、厚手の杏仁形態。背部中央は直線的である。端部先端は破損。刃部は破損後両面より再研磨。<br>○ 刃先は丸く磨滅。両面共に研磨痕は浅く、B面では光沢を帯びる。折れ面のエッジは磨滅。<br>○ なし | | |
| | S－07－1643<br>MJ54<br><br><br>黒褐色土層 | (11.5)<br>4.8<br>0.8<br>2.2<br>(68) | 緑色片岩 | D 片刃。刃部は浅く外彎。刃部は研ぎ直されている。A面中央に右上がり、左下がりの研磨。B面全体に右上一左下方向、右端部寄り左右方向の研磨。紐孔はやや左下がりで、穿孔時のくい違いから、不正円形を呈す。左紐孔はB面から深く穿孔され、右紐孔はA面では垂直に、B面では下方から上方に向けて穿孔されている。(右内6mm、外11mm、左内5mm、外A 9mm、B13mm) 端部A面は剝離破損後僅かに磨滅。<br>○ 刃先は刃線と直交する方向に著しく磨滅し丸くなっている。B面刃部中央から左上方背にかけて磨滅しており、特に刃部および背部は浅く凹んでいる。両面に紐擦れ痕あり。<br>○ なし | | |
| | S－07－1645<br>LO58<br>第8号井戸<br>(SG 111)<br>黒色粘質土層 | (5.3)<br>(6.2)<br>0.8<br>—<br>(38) | 緑色片岩 | D 片刃。身幅は広く、刃部は浅く外彎。端部欠損。刃部稜は明確である。背面は平坦で中央寄りではB面側へ傾斜し狭い。紐孔は背寄りで両面より穿孔されている（内6mm、外9mm)。<br>○ 刃先は鋭いが刃線と直交する磨滅痕あり。B面左上方へのびる。B面刃部中央寄りは磨滅により、研磨痕は消えてている。両面共に研磨痕は浅い。<br>○ なし | 火を受けて変色。 | |

(　)は残存部分の法量である。　　(　)は紐孔径のうち内孔径・外孔径、右孔・左孔、A面・B面の法量である。

| 図版番号 | 登録番号<br>出土地点<br>遺構名<br>(遺構番号)<br>層位 | 法量(cm)(g)<br>長さ<br>幅<br>厚<br>紐孔間距離<br>重量 | 石材 | 特徴<br>タイプ 形態上・製作上の特徴<br>○使用痕跡<br>○背潰れ痕 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|
| | S−07−1660<br>MX62<br><br><br>黒色砂粘質土層 | (5.9)<br>(5.5)<br>0.8<br>—<br>(40) | 緑色片岩 | D 片刃。身幅は広く、刃部は浅く外彎する。端部先端は欠損。背面およびB面の研磨面下に剝離痕残存。刃部稜はなだらかである。<br>○ 刃先には刃線と直交する磨滅痕があり、剝離してできた鋭いエッジにも磨滅痕が見られる。背面およびB面背部は磨滅して光沢をもつ。両面共に研磨痕は浅くなっている。<br>○ なし | A面に鉄分付着。<br> |
| | S−07−1685<br>HK54<br>溝<br>(SF 330) | 14.1<br>5.9<br>1.0<br>2.3<br>106 | 砂岩片岩 | D 片刃。略完形。両面とも研磨面下に剝離面が残存。左端部に最も厚みがあり右へいくにつれてうすくなる。紐孔は左側へ片寄っており、両面より敲打後穿孔している。(内6mm、外15mm) 右端部欠損部エッジに磨滅あり。<br>○ 刃先は丸く磨滅しており、B面刃部は光沢をもつ。<br>○ 背部右側にあり。 |  |
| | S−07−1700<br>GL54<br>溝<br>(SF 082) | (7.4)<br>(4.7)<br>0.6<br>—<br>(32) | 緑色片岩<br>(点紋) | D 片刃。身幅はやや広く、刃部は浅く外彎。端部は円味をもち、上方部は破損。背部および端部は薄く、体部中央で最大厚を測る。刃部稜は明確。両面共に研磨面下に僅かな剝離痕が残存。A面左上一右下方向、刃面は刃線に沿った方向、B面右上一左下方向の研磨が施されている。紐孔は背寄りで内孔径はやや小さめである (内約5mm)。<br>○ 刃先には刃線と直交する方向の磨滅痕があり、剝離もみられる。B面全体に光沢を帯びる。<br>○ なし | |
| | S−07−1702<br>IB52<br>溝<br>(SF 101)<br>上層 | (6.9)<br>(4.4)<br>0.8<br>—<br>(34) | 緑色片岩 | D 片刃。身幅の広い杏仁形態。端部先端は欠損。B面体部中央には剝離面が残存し、浅く凹んだ面をなす。A面右上がり、左右方向、刃面は刃線に沿った方向、B面右上がりのあらい研磨が施されている。<br>○ 刃先には刃線と直交する方向の磨滅痕があり、中央部は丸い。B面全体に研磨痕は薄れ、背面と共に光沢を帯びる。<br>○ なし |  |
| | S−07−1704<br>ID64<br><br><br>礫混黒褐色土層 | (11.0)<br>5.8<br>0.7<br>2.0<br>(53) | 緑色片岩 | D 両刃気味片刃。端部はやや円みをもつ。端部に厚みがあり、中央は両面とも研磨の及ばない片理面残存し、うすい (厚 3.5mm)。紐孔は小さい (内4mm、外5mm)。<br>○ 刃先には刃線に直交する磨滅痕がある。<br>○ なし | 全面鉄分付着。<br> |
| | S−07−1733<br>LW50<br>溝<br>(SF 074)<br>上部褐色砂層 | (11.1)<br>4.5<br>0.8<br>3.0<br>(64) | 黒色片岩 | D 両刃。両端部共に欠損。右端部破損後再研磨され、後に磨滅。刃部は中央部が直線的で右端で切れ上がる。B面刃部には研ぎ直しがあり、A面よりB面の刃面の方が傾斜する。横軸はゆがみS字状に彎曲する。両面端部寄りに研磨の及ばない剝離面残存。紐孔は背寄りで右下がりに位置し、両面より敲打後穿孔し、右孔は三角形状、左孔は不正円形を呈する (内右5mm、左 3.5mm、外右A10mm×12mm、B10mm、左A 7.5mm、B 8.5mm)。<br>○ 刃先には剝離、刃こぼれが著しく、その後B面中央刃部には磨滅による凹面あり。両面の紐擦れ痕は著しく、紐孔全周にみられる。全体に磨滅しており、特にA面に光沢をもつが、もとのB面をA面として再加工再使用したもの。<br>○ なし |  |
| | S−07−1738<br>GP58<br><br><br>砂礫層 | (5.4)<br>(5.3)<br>0.6<br>—<br>(28) | 緑色片岩 | D 片刃。身幅は広く、刃部は浅く外彎。端部は円味をもつ。背面は肩部が平坦。刃部稜はなだらかである。A面紐孔左方体部の研磨面下に片理面残存。端部背は研磨の及ばない剝離面が残存。A面右上一左下方向、左上一右下方向、刃面は刃線に沿った方向、B面右上一左下方向、急な左上一右下方向にあらい研磨が施されている。<br>○ 刃先には刃線に直交する磨滅痕があり、B面左上方へのびる。刃部は両面共に研磨痕が薄れている。肩部背面は光沢を帯びる。<br>○ なし | |

( )は残存部分の法量である。　　( )は紐孔径のうち内孔径・外孔径、右孔・左孔、A面・B面の法量である。

| 図版番号 | 登録番号<br>出土地点<br>遺構名<br>（遺構番号）<br>層位 | 法量<br>(cm)<br>(g) | 長さ<br>幅<br>厚<br>紐孔間距離<br>重量 | 石材 | 特徴 | タイプ　形態上・製作上の特徴<br>○使用痕跡<br>○背潰れ痕 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | S－07－1739<br>GH54<br><br><br>表土 | (4.9)<br>(4.8)<br>0.8<br>—<br>(27) | | 緑色片岩 | D　片刃。半月形直線刃にやや近い形態で、刃部は浅く外彎する。体部中央で最大厚を測る。A面端部および肩部、B面肩部の研磨面下に剥離面残存。A面背寄りは右上がり、中央部および刃面は右上一左下方向、B面背寄りは左上がり、中央部刃部は右上一左下方向の研磨が施されている。紐孔は背寄りで両面より敲打された痕跡を有す。<br>○　刃先はB面へ剥離後磨滅。<br>○　なし | | |
| | S－07－1741<br>LX50<br>溝<br>（SF 074）<br>灰緑色砂質土層 | (4.6)<br>(5.3)<br>0.6<br>—<br>(22) | | 緑色片岩 | D　片刃。身幅の広い杏仁形態。端部先端は欠損後磨滅。薄手である。両面とも研磨面下に剥離面残存。刃部稜は明瞭。紐孔にあたる部分は両面より敲打されているが、穿孔されていない（敲打径13mm）。折れ面は一部研磨されているが何かに転用しようとしたものか。表面の研磨はあらい。<br>○　刃先は鋭く、刃先からB面刃部にかけて光沢を帯びる。<br>○　なし | 二次加工途上品か |  |
| | S－07－1752<br>LW50 | (5.5)<br>(4.8)<br>0.8<br>—<br>(29) | | 緑色片岩 | D　片刃。身幅の広い杏仁形態。端部欠損。体部中央で最大厚を測る。刃部は薄く、刃部稜はやや不明瞭である。B面背部に研磨の及ばない剥離面残存。紐孔は背寄りで両面より敲打後に穿孔されている（内5mm、敲打径A不明、B13mm）。両面共に右上一左下方向のあらい研磨が施されている。<br>○　刃先はB面側へ剥離しており、先端のエッジは磨滅している。<br>○　なし | | |
| | S－07－1780<br>GT58<br><br><br>Pit面砂層 | (5.6)<br>(3.4)<br>0.7<br>—<br>(17) | | 緑色片岩 | D　片刃。身幅の狭い杏仁形態か。端部破損。刃部稜は不明確。刃部はB面側へ剥離後、一部再研磨。A面背寄り右上がり、中央から刃部寄りは左上一右下方向、B面右上一左下方向の研磨が施されている。紐孔は中央に位置する（孔径不明）。<br>○　刃先は剥離後、研磨し尽されずに残るが、その部分は丸く磨滅している。<br>○　なし | | |
| | S－07－1789<br>GZ<br>溝・第2溝<br>（SF 083）<br>2溝ユンボBトレンチ | (5.3)<br>(3.3)<br>0.5<br>—<br>(11) | | 緑色片岩 | D　片刃。身幅の狭い杏仁形態。薄手である。刃部は研ぎ直され、浅く外彎し、刃部稜は不明確。刃部稜付近で最大厚を測る。A面肩部研磨面下に剥離が残存。両面右上一左下方向、刃面には刃線に沿った方向の研磨が施されている。紐孔は刃部寄りに位置する。(内7mm、外A9.5mm、B8.5mm mm)<br>○　刃先は丸く磨滅。B面肩部は研磨痕が薄れ、光沢を帯びる。B面に紐擦れ痕あり。<br>○　なし | | |
| | S－07－1836<br>ML54<br><br><br>第5層・砂層 | (6.5)<br>(4.3)<br>0.7<br>—<br>(27) | | 緑色片岩 | D　両刃。身幅は狭く、背面は直線的で、刃部は外彎する。端部は破損。背面は平坦。横軸は、ややA面側に彎曲気味。A面左上一右下方向の研磨。B面左上一右下および右上一左下方向の研磨痕。肩部付近が薄い。紐孔は刃部寄り（内7mm、外A 9mm、B11mm）に位置する。<br>○　刃先は丸くなっており、刃こぼれもみられる。A面紐孔右角、B面左上方背へのびる紐孔角に紐擦れ痕あり。中央部の割れ口が磨耗しているが、風化によるものか不明。肩部は両面ともに浅く凹んで磨滅。<br>○　なし | | |
| | S－07－1849<br>KJ69<br><br><br>第3層・黒色砂質土層 | (4.7)<br>(3.6)<br>(0.5)<br>—<br>(10) | | 緑色片岩 | D　片刃。杏仁形態。端部先端欠損。刃部は研ぎ直されている。A面の表面は剥離後磨滅。刃面には刃線に沿った方向の研ぎ直しあり。<br>○　端部寄り刃部はA面へ剥離。刃先には刃線と直交する磨滅痕があり、B面左上方へのびる。<br>○　なし | | |

（　）は残存部分の法量である。　　（　）は紐孔径のうち内孔径・外孔径、右孔・左孔、A面・B面の法量である。

| 図版番号 | 登録番号<br>出土地点<br>遺構名<br>(遺構番号)<br>層位 | 法量<br>(cm)<br>(g) | 長さ<br>幅<br>厚<br>紐孔間距離<br>重量 | 石材 | 特徴 | タイプ 形態上・製作上の特徴<br>○使用痕跡<br>○背潰れ痕 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | S－07－1852<br>JQ70<br>第5層 | (5.3)<br>(4.1)<br>0.8<br>—<br>(21) | | 黒色片岩 | D 片刃。杏仁形態の一種か。刃部稜上方で最大厚を測る。端部は薄く、先端部は破損後磨滅し、円味を持つ。刃部は研ぎ直されており、中央部では直線的で端部に至り外彎する。B面刃部寄り体部では研磨面下に剝離痕も残存。A面右上ー左下方向、刃面は刃線に沿った方向、B面左上ー右下方向の研磨が施されている。紐孔は背寄りで両面より敲打後穿孔されている。(孔径不明)。<br>○ A面背部寄り体部およびB面全体に研磨痕は薄れ光沢を帯びる。B面肩部には刃部より左上方へのびてきた磨滅が著しく、背が薄くなっている。<br>○ 中央寄りの背部と刃部にややB面側へ傾斜して見られる。 | | |
| | S－07－1882<br>IX58<br>溝<br>(SF 080) | (3.4)<br>(3.4)<br>0.6<br>—<br>(8) | | 緑色片岩 | D 片刃。杏仁形態。端部先端欠損。A面刃部を除き、大きく剝離。B面右上ー左下方向、左上ー右下方向、刃面は刃線に沿った方向の研磨痕あり。<br>○ 刃部B面へ剝離。背面は光沢を帯び、B面刃部より左上方へのびてきた磨滅痕あり。<br>○ なし | | |
| | S－07－1899<br>不明 | (11.6)<br>5.2<br>0.9<br>—<br>(76) | | 緑色片岩 | D 片刃。身幅は広く、本来の刃部は浅く外彎。破損面は再研磨。背部は肩部でやや屈折して直線的に下る。端部先端は剝離破損後、再研磨され、余り鋭くない。A面端部寄りの刃部稜に上下方向の浅い研磨痕があり、浅く凹んでいる。B面肩部にも同様の研磨痕がある。両面共に研磨痕下に剝離面残存。紐孔は左下がりで背寄りに位置する。(内 6.5㎜、外10㎜)<br>○ 刃先は鈍く (幅1㎜) 刃線と直交する磨滅痕が見られ、B面左上方へのびる。両面共に肩部から端部にかけて磨滅。<br>○ なし | 再研磨再使用品。 | |
| | S－07－1906<br>表採 | (7.5)<br>(4.4)<br>0.7<br>2.3<br>(33) | | 緑色片岩 | D 片刃。やや身幅の広い杏仁形態。背部は剝離欠損。端部先端は剝離後磨滅し、やや円味を持つ。刃部稜は明確で、刃面はやや広い。両面共に研磨のおよばない片理面残存。紐孔は右下がりである。(内左5㎜、右6㎜、外左8㎜、右10㎜) 右孔上方の背部破損部に接して、紐孔の痕跡あり。<br>○ 刃先には小剝離および刃線と直交する磨滅痕があり、B面左上方へのびる。両面ともに研磨痕は浅い。A面双孔間を結ぶ紐孔角は磨滅。<br>○ 背部および端部先端にあり。背部には剝離が著しく、その先端のエッジに背潰れ痕が見られる。端部先端では僅かに認められる。 | | |
| | S－07－1909<br>MJ54<br>土器堆積<br>(SL 321)<br>黒色土層 | (4.7)<br>(4.7)<br>0.9<br>—<br>(28) | | 黒色片岩 | D 片刃か。身幅の広い形態。端部破損後、再研磨している。火を受けて表面全体に荒れており、B面は表面が剝落している。A面右上ー左下方向、急な右上ー左下方向の研磨が施されている。<br>○ 背面およびA面背部は研磨痕が薄れ、光沢をもつ。<br>○ なし | 火をうけて変色。表面は荒れている。 | |
| PL.36－1 | S－07－1529<br>MK63<br>溝<br>(SF 075)<br>黒色土層 | (11.0)<br>5.1<br>0.6<br>2.3<br>(55) | | 緑色片岩 | E 片刃。身幅の広い半月形態。両面とも研磨痕は失われているが、刃面にのみ右上ー左下方向の研磨がみられる。刃部の稜は明瞭である。(内5㎜、外8㎜)<br>○ 刃先は丸く磨滅し、B面刃部に左上方へのびる磨滅痕あり。B面背方向に紐擦れ痕あり。<br>○ 背面全体にあり。 | | |
| PL.36－2 | S－07－0627<br>MX50・MV58<br>Pit 1 | (9.1)<br>5.2<br>0.6<br>1.8<br>(39) | | 緑色片岩 | E 片刃。背部に最大厚あり刃部に下るにつれてうすくなる。背頂部は丸いが、端部の背面は平坦で平面との境は角をなす。A面体部は右上→左下方向、上下方向の研磨、B面は左上ー右下方向の研磨が施されている。刃部稜は不明瞭である。紐孔は三角形状の不正円形を呈す。(内6㎜、外 8.5㎜)<br>○ 刃先は丸く磨滅し、B面刃部、背部の右肩に刃先から左上方へのびる面の磨滅がみられる。<br>○ なし | | |

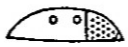
(　)は残存部分の法量である。　　(　)は紐孔径のうち内孔径・外孔径、右孔・左孔、A面・B面の法量である。

| 図版番号 | 登録番号<br>出土地点<br>遺構名<br>(遺構番号)<br>層位 | 法量<br>(cm)<br>(g) | 長さ<br>幅<br>厚<br>紐孔間距離<br>重量 | 石材 | 特徴 | タイプ 形態上・製作上の特徴<br>○使用痕跡<br>○背潰れ痕 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| PL.37—3<br>fig.16 | S—07—0226<br>KL70<br>第4層 | 15.3<br>3.6<br>0.8<br>1.9<br>78 | | 黒色片岩 | E 片刃。完形。身幅の狭い形態。左端部欠損後再研磨。左$\frac{1}{4}$位に最大幅があり、右にいくにつれて身幅は狭くなっていく。紐孔は左側に寄っている。刃面には刃線に沿った方向の研ぎ直しがみられる。背面は平坦な面を呈し、両面との境は角をなす。刃先全体B面に剥離加工を施し右上—左下方向の研磨を施してつくっている。(内 6.5mm、外A 8.5mm、B10mm)<br>○ 両面とも磨滅により研磨痕は消え、光沢をもつ。刃先は丸く磨滅している。B面背部に右下—左上方へのびる面の磨滅がみられ、その部分の背面はうすく丸くなっている。両面に紐擦れ痕あり。<br>○ なし | | |
| PL.37—4 | S—07—0575<br>MW61<br>灰黒色混砂粘質土層 | (8.4)<br>3.6<br>0.8<br>—<br>(33) | | 緑色片岩 | E 片刃。身幅の狭い形態。刃面のみ刃線に沿った研磨痕残存。<br>○ B面左肩部はうすくなっている。<br>○ なし | | 火をうけて変色し、表面は荒れている。<br> |
| PL.37—5 | S—07—0567<br>MD60<br>溝<br>(SF 075)<br>黒色土層 | (9.9)<br>4.1<br>0.8<br>1.7<br>(52) | | 緑色片岩 | E 片刃。身幅の狭い形態。A面右端部にのみ、上下方向の研磨痕残存。刃部には研ぎ直しがみられ、A面では左上—右下方向、B面では左右方向の研磨である。紐孔は三角形状の不正円形を呈し、左下方へわずかに傾く。(内 5.5mm、外 9mm) B面紐孔間と左孔の左下方に未貫通の穿孔痕あり。<br>○ 両面とも磨滅により研磨痕は消えている。刃先には刃線に直交する磨滅痕がみられ、左肩部には右下—左上へのびる面の磨滅がみられる。両面に紐擦れ痕あり。<br>○ 左側背面にあり。 | | |
| PL.37—6 | S—07—1249<br>JR65<br>黒褐色土層 | 14.2<br>3.4<br>0.7<br>2.4<br>(59) | | 緑色片岩 | E 片刃。完形。身幅の狭い形態。両面とも研磨痕は失われているが刃面には左右方向の研ぎ直しがみられ、明瞭な稜をなす。紐孔は左下がりに位置し、その径は大きい。(内 7.5mm、外10mm)背面中央部は平坦な面をなし両面との境は角を呈する。<br>○ 両面とも磨滅により研磨痕は失われており、B面背面では光沢をおびる。刃部にはB面側へ剥離している小剥離痕がみられる。又、それ以前における使用による磨滅痕が刃先にみられる。両面に紐擦れ痕あり。<br>○ なし | | |
| PL.37—7 | S—07—0648<br>IT64<br>溝<br>(SF 080)<br>黒色粘質土層 | (10.1)<br>3.8<br>0.6<br>1.7<br>(41) | | 緑色片岩 | E 片刃。身幅の狭い形態。紐孔は身幅の中央に位置する。刃面には二度の研ぎ直しがみられ、上方には右上がりの左右方向、刃先側に左上—右下方向、端部は刃先に沿った方向性をもつ研磨痕あり。(内 6.5mm、外 7mm)<br>○ 両面とも磨滅により研磨痕は消えている。刃先は刃線に直交する方向に丸く磨滅しており、B面左上方へのびる面の磨滅がみられる。両面に紐擦れ痕あり。<br>○ なし | | |
| PL.37—8 | S—07—0468<br>MO60<br>溝<br>(SF 074)<br>青灰色砂層 | (10.5)<br>4.3<br>0.8<br>2.2<br>(53) | | 緑色片岩 | E 片刃。身幅の狭い形態。紐孔は左下がりに傾斜する。刃面には左右方向の研ぎ直しがみられる。刃部稜は不明瞭である。(内 5mm、外 7mm)<br>○ 両面共磨滅して研磨痕は失われ、光沢をおびる。刃先は丸く磨滅しておりB面左上方へのびる磨滅がみられる。B面左肩部剥離面あり、その面もわずかだが磨滅している。B面背方向に紐擦れ痕あり。<br>○ 背面右孔上方及び刃部にあり、刃先はつぶれて凹んでいる。 | | |
| PL.37—9<br>PL.57—3 | S—07—0462<br>ME61<br>溝<br>(SF 075)<br>黒色粘質土層 | 14.0<br>3.2<br>0.7<br>2.2<br>54 | | 緑色片岩 | E 片刃。完形。身幅の狭い形態。紐孔は左寄りに位置する。刃部には研ぎ直しがみられ、両面とも上下方向の研磨である。A面紐孔左側と右端部と2か所、右端部に対応してB面に1か所敲打痕がある。(内 6mm、外 8mm)<br>○ 両面共磨滅により研磨痕は消えている。刃先は丸く磨滅しており、刃線に直交する磨滅痕がみられ刃線に凹んだ部分もある。B面に背方向の紐擦れ痕あり。B面紐孔の右肩部に左下—右上方向の面の磨滅がみられる。<br>○ 背面全体にあり、刃先左側に小剥離を伴ってわずかにみられる。 | | |

(　)は残存部分の法量である。　　(　)は紐孔径のうち内孔径・外孔径、右孔・左孔、A面・B面の法量である。

| 図版番号 | 登録番号<br>出土地点<br>遺構名<br>（遺構番号）<br>層位 | 法量<br>(cm)<br>(g) | 長さ<br>幅<br>厚<br>紐孔間距離<br>重量 | 石材 | 特徴 | タイプ　形態上・製作上の特徴<br>○使用痕跡<br>○背潰れ痕 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| PL.37－10 | S－07－1364<br>MM60<br>溝<br>（SF 074）<br>褐色砂層 | 10.9<br>3.9<br>0.7<br>2.3<br>53 | | 緑色片岩 | E　片刃。完形。身幅が狭く、長さも短い。B面右側には細かな上下方向の研磨痕が残存。A面体部紐孔周辺に右上一左下、左上一右下の方向性をもつ細かな研磨が残存。刃面には左右方向の研ぎ直しがみられ、刃部稜は明瞭。紐孔は身幅の略中央にやや左下がりに位置する。紐孔は不正円形を呈し、左孔は三角形状、右孔は五角形を呈する。A面紐孔の両側に2ケ所、B面左側にはその表面の凸部にわずかに研磨のある研ぎ残しの片理面残存。しかし同時にそれらの面とB面右側にわずかに敲打痕もみられる。(内6㎜、外7㎜～8㎜)<br>○　両面とも磨滅して研磨痕は浅くなっており、刃先は丸く磨滅し、刃線に直交する磨滅痕あり。B面左上方へのびる磨滅がみられる。B面左孔背方向に紐擦れ痕残存。左側刃先の背潰れ痕のある部分はその後の使用により刃線に直交する磨滅痕あり。<br>○　背部、刃部中央にあり。刃先ではB面へ小剥離を伴い刃面へも背潰れ痕がのびている。 | | |
| PL.37－11 | S－07－0684<br>MK65<br>溝<br>（SF 075）<br>黒色土層 | (10.0)<br>3.7<br>0.8<br>2.4<br>(53) | | 緑色片岩 | E　片刃。身幅の狭い形態。刃部稜線上に最大厚あり。刃面には研ぎ直しがみられ三面あり。稜線側の面は右上一左下方向、刃先寄りの二面は左右方向である。端部は折れ欠損。(内 5.5㎜、外8㎜)<br>○　両面とも磨滅して光沢をおびる。刃先は丸く磨滅しており、B面刃部刃先より左上方へのびる面の磨滅がみられる。両面に紐擦れ痕あり。<br>○　刃先にわずかにあり。 | 火をうけて変色。 | |
| PL.37－12 | S－07－1010<br>JM66<br><br><br>褐色土層 | (7.4)<br>3.6<br>0.8<br>2.4<br>(33) | | 緑色片岩 | E　片刃。身幅の狭い形態。刃部稜線上に最大厚あり。刃面には左右方向の研ぎ直しがみられる。背部中央A面に剥離している。中央折れ面のエッジに研磨がみられる。(内6㎜、外9㎜)<br>○　両面とも磨滅して光沢をおびる。刃先には刃線に直交する磨滅痕があり、B面左上方へのびる面の磨滅がみられる。両面に紐擦れ痕あり。A面背部中央の剥離面にも磨滅がみられる。<br>○　なし | | |
| PL.37－13 | S－07－0042<br>KH68<br><br><br>第3層・黒色砂質土層 | 14.2<br>4.1<br>0.8<br>2.1<br>82 | | 緑色片岩 | E　片刃。完形。身幅の狭い形態。左寄りに最大幅がある。刃部稜線上に最大厚あり。紐孔は右下方へ傾斜して位置する。A面右孔上方に未貫通の穿孔痕あり。左孔A面に敲打後に穿孔される。刃面には左右方向の研ぎ直しがみられる。(内 6.5㎜、外8㎜) 右端部折れ欠損、その後再使用により磨滅する。<br>○　両面とも磨滅して光沢をおびる。刃先は丸く磨滅し、刃線に直交する磨滅痕があり刃先よりB面左上方へのびる面の磨滅がある。B面右肩部に左上一右下にのびる磨滅がみられる。刃先中央部は磨滅により浅く凹んでいる。両面に紐擦れ痕あり。<br>○　なし | | |
| PL.37－14<br>PL.57－4 | S－07－1146<br>ML54<br>第12号土器堆積<br>（SL 311） | 12.4<br>3.6<br>0.8<br>2.5<br>50 | | 緑色片岩 | E　片刃。完形。身幅の狭い形態。刃面には刃線に沿った方向の研ぎ直しがみられる。(内6㎜、外8～9㎜)<br>○　両面とも磨滅して研磨痕は消え光沢をおびる。刃先は丸く磨滅し、刃線に直交する磨滅痕が刃先中央部で著しく、B面左側刃先から背面にかけて左上方へのびる磨滅が著しい。両面に紐擦れ痕あり。<br>○　なし | | |
| PL.42－2<br>PL.59－6 | S－07－0251<br>KH66<br>Pit22<br><br>黒色砂質土層 | 13.5<br>(3.3)<br>0.8<br>2.7<br>(53) | | 緑色片岩 | E　片刃。完形。比較的身幅は狭い。刃面にのみ左右方向の研ぎ直しあり。紐孔は右下方へ傾いて位置する。(内6㎜、外10㎜)<br>○　両面とも光沢あり。B面左側には刃先から左上方へのびる面の磨滅がみられる。A面に紐擦れ痕あり。<br>○　背部、刃部に著しい。背部は紐孔まで潰れており、刃先は失われる。刃先左側の背潰れ痕はA面へ、右側ではB面へ傾斜している。 | | |

（　）は残存部分の法量である。　　（　）は紐孔径のうち内孔径・外孔径、右孔・左孔、A面・B面の法量である。

| 図版番号 | 登録番号<br>出土地点<br>遺構名<br>(遺構番号)<br>層位 | 法量<br>(cm)<br>(g) | 長さ<br>幅<br>厚<br>紐孔間距離<br>重量 | 石材 | 特徴 | タイプ 形態上・製作上の特徴<br>○使用痕跡<br>○背潰れ痕 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| PL.42－5 | S－07－0534<br><br>不明 | 11.0<br>(3.9)<br>0.7<br>2.2<br>(51) | | 緑色片岩 | E 片刃。完形。平面形は半月形直刃形態の変形したもので左端が欠損後再加工により短い垂直にのびる側辺をもち、刃部左端は切れ上がっている。(内5㎜、外8㎜) 刃面には左右方向の研ぎ直しあり。<br>○ 両面とも研磨痕は失われ光沢をもつ。刃先は刃線に直交する磨滅により丸くなり、B面左上方へのびる面の磨滅もみられる。両面に紐擦れ痕あり。<br>○ 背面全体に著しく背面の原形は失われ凹凸を呈す。 | | |
| | S－07－0012<br>LC62<br>溝<br><br>第4層上面 | (6.6)<br>(4.9)<br>0.9<br>—<br>(40) | | 緑色片岩 | E 片刃。身幅の広い形態。背は丸い。稜線上に最大厚を有す。両面共に研磨面下に剝離面が残る。<br>○ 全体に風化し、使用痕跡をとどめない。<br>○ なし | | 全体に風化する。<br> |
| | S－07－0016<br>MP63<br><br><br>黒褐色礫混合土層 | (5.6)<br>(3.2)<br>0.6<br>—<br>(18) | | 緑色片岩 | E 片刃。身幅の狭い形態。B面へ背部と刃部より大きく剝離する。端部欠損。A面体部に左上一右下方向の細かい研磨痕あり。刃面には、右上一左下方向と左右方向にみられる。<br>○ A面体部の研磨痕は浅くなっておりB面体部では磨滅してきえる。刃先は丸く磨滅する。端部の折れ先端に磨滅がみられる。又、背部、刃先の剝離先端も磨滅する。<br>○ なし | | |
| | S－07－0017<br>GL57<br><br><br>第3層a・灰褐色粘質土層 | (3.8)<br>(4.4)<br>0.7<br>—<br>(18) | | 緑色片岩 | E 片刃。身幅の広い形態。刃面は体部に対して急角度につくられる。端部折れ面を再研磨する。端部は刃線に垂直な側辺となる。<br>○ 刃先よりB面側に剝離をもつ。<br>○ なし | | B面に鉄分付着。火をうけて変色し表面の荒れが著しい。<br> |
| | S－07－0018<br>ML60<br><br><br>茶褐色砂質土層 | (6.1)<br>(4.2)<br>0.7<br>—<br>(25) | | 緑色片岩 | E 片刃。身幅の狭い形態。背面は平坦で両面との境界に角を持つ。端部に向ってうすくなる。刃面には研ぎ直しがみられ、体部に対して急角度の面になっている。<br>○ A面は磨滅により、研磨痕は消えている。背面は磨滅し光沢を持つ。刃先には刃線に直交する磨滅がみられる。<br>○ なし | | B面は風化しており表面が荒れる。<br>  |
| | S－07－0031<br>KM65<br><br><br>暗褐色砂質土層 | (7.7)<br>(3.4)<br>0.8<br>2.8<br>(34) | | 黒色片岩 | E 片刃。刃面は研ぎ直され、左孔下より端部に向って幅が狭くなり、端部近くで、刃部稜と刃線が交わる。A面体部に研磨面下に剝離面が残る。B面体部に右上一左下方向に、刃面に左右方向に研磨痕あり。紐孔は身幅の略中央に右下方に傾斜する。(内5㎜、外7㎜)<br>○ 両面共に磨滅し、B面では研磨痕は浅くなっており、A面では消える。<br>○ 刃先と背面とにあり。剝離を伴う。背部は特に著しく、原形は失われ右下がりの直線状を呈す。 | | |
| | S－07－0033<br>KI68<br><br><br>黒色砂質土層 | (7.7)<br>4.0<br>0.8<br>2.3<br>(33) | | 黒色片岩 | E 片刃。体部より丸く刃先に移るため、刃面は明確でなく稜線はみとめられない。背は中央でほぼ刃線と平行で、紐孔上より円く傾斜する。肩部から端部にかけては背は直線的である。紐孔はA面右、B面右方向より穿孔される。(内6㎜、外A9㎜、B12㎜)<br>○ 両面共に体部は磨滅し、研磨痕は消え光沢を持つ。刃先は刃線に直交する磨滅があり、B面刃先より上方にのびる。B面肩部には磨滅があり、背面がうすくなる。両面に紐擦れ痕あり。<br>○ 肩部B面角と端部にあり。 | | |
| | S－07－0034<br>KI67<br><br><br>第3層・黒色砂質土層 | (4.9)<br>(4.1)<br>0.7<br>—<br>(25) | | 緑色片岩 | E 片刃。刃面は体部に対して急角度につくられる。B面紐孔の右に、未貫通穿孔痕あり。(径6㎜) A面体部に右上一左下方向の研磨痕あり。B面端部に肩から刃先にかけて、粗い条痕あり。刃面にやや右上がりの研磨痕あり。<br>○ 両面体部共に磨滅し、研磨痕は浅くなる。刃先は刃線に直交する方向に磨滅する。<br>○ 背面にあり。両面への剝離を伴う。 | | |

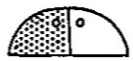
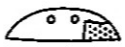
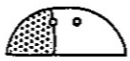
(　)は残存部分の法量である。　　(　)は紐孔径のうち内孔径・外孔径、右孔・左孔、A面・B面の法量である。

| 図版番号 | 登録番号<br>出土地点<br>遺構名<br>(遺構番号)<br>層位 | 法量 (cm) (g) | 長さ<br>幅<br>厚<br>紐孔間距離<br>重量 | 石材 | 特徴 | タイプ 形態上・製作上の特徴<br>○使用痕跡<br>○背潰れ痕 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | S−07−0036<br>KZ<br><br><br>表採 | (5.5)<br>5.2<br>0.9<br>2.6<br>(45) | | 緑色片岩 | E 片刃。身幅の広い形態。A面体部は片理面が大きく残りわずかに研磨。紐孔は両面より、敲打後穿孔。(内 5.5mm、外12mm)<br>○ B面体部は磨滅しており研磨痕は消える。A面右孔は背方向と左方向に、B面背方向に紐擦れ痕あり。<br>○ 刃先にあり。 | | A面に鉄分付着。 |
| | S−07−0040<br>KF66<br><br><br>第3層・黒色砂質土層 | (7.1)<br>3.4<br>0.6<br>—<br>(26) | | 黒色片岩 | E 片刃。身幅の狭い形態。中央に厚く、肩部に向ってうすくなる。背面は丸い。刃面には右上がりの研磨痕あり。<br>○ 両面体部共に磨滅し、研磨痕は消える。刃先には小剥離があるがその面も含めて、刃先には刃線に直交する磨滅があり、B面刃部に若干のびる。<br>○ 背面、中央部にあり。 | | |
| | S−07−0044<br>MJ56<br><br><br>黒色土層 | (4.8)<br>3.4<br>0.7<br>2.6<br>(17) | | 緑色片岩 | E 片刃。身幅の狭い形態。紐孔は両面から敲打後穿孔。身幅の略中央にある。広く敲打面が残る。(内右6mm、左 5.5mm、敲打径約15mm) 刃面には右上がりの研磨痕あり。<br>○ 両面共に磨滅により研磨痕は消えている。刃先は丸く磨滅する。両面に紐擦れ痕あり。<br>○ 背面全体にあり。 | | |
| | S−07−0048<br>KP66<br><br><br>第4層・整地面 | (6.2)<br>(3.6)<br>0.7<br>—<br>(30) | | 緑色片岩<br>(点紋) | E 片刃。身幅の狭い形態。A面体部中央に片理面が残る。刃面に片理の接合面が走る。肩部に右上一左下方向に、溝状に (幅3mm) 抉った様な研磨痕が残る。B面中央に剥離面があり、右上がりの方向に研磨され面が浅く凹んでいる。<br>○ 両面体部共に磨滅し、研磨痕は浅くなっている。B面、紐孔の背方向に紐擦れ痕あり。<br>○ 背面中央にあり。刃先にB面側への小剥離を伴う。 | | |
| | S−07−0058<br>KJ62<br><br><br>暗褐色砂質土層 | (4.7)<br>(3.2)<br>0.5<br>—<br>(10) | | 黒色片岩 | E 片刃。身幅の狭い形態。紐孔は身幅のほぼ中央に位置する。背面は丸い。刃面には左右方向の研磨痕あり。A面体部の研磨面下に剥離面が残る。<br>○ 刃面を除き全体に磨滅し、研磨痕は消えている。刃部稜も磨滅している。刃先は丸く磨滅。<br>○ なし | | |
| | S−07−0061<br>KE67<br><br><br>第3層・黒色砂質土層 | (5.0)<br>(3.7)<br>0.6<br>—<br>(18) | | 緑色片岩 | E 片刃。刃面は研ぎ直され、左右方向の研磨痕あり。B面紐孔上の右上に未貫通穿孔痕あり。<br>○ 両面体部共に磨滅し、研磨痕は消え、B面は光沢を持つ。刃先には刃線に直交する磨滅があり、B面刃部に刃先より左上方にのびる。<br>○ なし | | |
| | S−07−0063<br>MH56<br><br><br>黒褐色礫層 | (7.1)<br>4.2<br>0.7<br>2.0<br>(30) | | 緑色片岩 | E 片刃。身幅は比較的広く、背面は円く彎曲。刃部は本来は直刃だが使用により内彎部分あり。(深約 1.5mm) A面に研ぎ直しあり、刃部稜はない。B面片理面で剥落しており、端部はうすくなる。(内 4.5mm、外 8mm)<br>○ 刃先は刃線に直交する磨滅で丸くなり、刃線上小さな凹凸あり。B面刃部には直交方向及び左上方へのびる面の磨滅あり。B面左孔には背方向の紐擦れ痕顕著。<br>○ なし | | A面に鉄分付着。 |
| | S−07−0067<br>MH57<br><br><br>黒色土層 | (7.9)<br>5.2<br>0.8<br>A 0.8<br>B 2.4<br>(59) | | 黒色片岩 | E 片刃。身幅の広い形態。紐孔は3孔あり、左に2孔が近接し、右に1孔離れて穿孔される。刃部稜は不明瞭で、刃面と体部はなだらかに続く。背面はやや平坦な面で、両面との境界は丸味を持つ。<br>○ 不明<br>○ なし | | 全体に火をうけて変色し、表面が荒れる。 |

(　)は残存部分の法量である。　　(　)は紐孔径のうち内孔径・外孔径、右孔・左孔、A面・B面の法量である。

| 図版番号 | 登録番号<br>出土地点<br>遺構名<br>(遺構番号)<br>層位 | 法量<br>(cm)<br>(g) | 長さ<br>幅<br>厚<br>紐孔間距離<br>重量 | 石材 | 特徴 | タイプ 形態上・製作上の特徴<br>○使用痕跡<br>○背潰れ痕 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | S—07—0069<br>MH57<br>黒色砂質土層 | (5.6)<br>4.2<br>1.0<br>—<br>(31) | | 黒色片岩 | E 片刃。刃部稜線上に最大厚あり。刃面は研ぎ直され、刃部稜は不明瞭。B面背から紐孔にかけて剝離。A面体部に右上一左下方向の研磨痕。B面刃部に左上がりの研磨痕。刃面には左右方向の研ぎ直しあり。紐孔はA面左下、B面右上から穿孔されている。(内5㎜、外9㎜)<br>○ A面体部の研磨痕は浅くなっており、B面体部は磨滅により研磨痕が消え、光沢を持つ。B面の紐孔上方の剝離面は磨滅している。刃先には刃線に直交する磨滅あり。両面に紐擦れ痕あり。<br>○ なし | | |
| | S—07—0070<br>MH56<br>黒色砂質土層 | (7.7)<br>(4.0)<br>0.7<br>—<br>(37) | | 緑色片岩 | E 片刃。身幅の中央に紐孔あり。肩部B面側に背に沿って剝離があり、背面はうすくなる。刃面には左右方向の研ぎ直しあり。刃面の幅は広い。<br>○ 刃先には小剝離を伴う磨滅あり。<br>○ 刃先、中央にあり。 | | 火をうけて変色し、表面が荒れている<br> |
| | S—07—0089<br>MK58<br>黒褐色礫混合土層 | (5.0)<br>3.8<br>0.8<br>—<br>(26) | | 緑色片岩 | E 片刃。刃面は研ぎ直され、刃面と体部は稜をもたず。B面紐孔の右の背には剝離面が残る。この部分の背面はうすくなる。紐孔は両面より、敲打後穿孔されており、身幅の中央よりやや上位に位置する。B面紐孔の左に未貫通穿孔痕あり。(内5㎜、外A7㎜、B9㎜)<br>○ 両面共に磨滅し、研磨痕はA面では浅くなり、B面では消えて光沢を持つ。刃先には刃線に直交する磨滅あり。B面背方向に紐擦れ痕あり。<br>○ なし | | B面に鉄分付着。<br> |
| | S—07—0103<br>KD68<br>第3層・黒色砂質土層 | (7.9)<br>(5.2)<br>0.8<br>—<br>(47) | | 緑色片岩 | E 片刃。身幅の広い形態。A面は背部が大きな打ち欠きによりうすくなり研磨もごくわずかに施されるが、片理の接合面があり、厚さも不均一な不整面である。<br>○ 両面共に磨滅している。刃先は丸く磨滅。背部につくりだされた鋭い辺の先端も磨滅している。<br>○ なし | | |
| | S—07—0114<br>KI63<br>第3層・褐色砂質土層 | (4.1)<br>3.5<br>0.6<br>2.0<br>(16) | | 緑色片岩 | E 片刃。身幅の狭い形態。身幅の中央より下に紐孔あり、右下がりである。右孔は刃部稜にかかっている。A面左に背面から剝離面がのびる。研磨されるが剝離面は残っており、背面がうすくなっている。刃面は左右方向に研ぎ直されている。両面体部共に右上一左下方向に研磨痕あり。(内6㎜、外7㎜)<br>○ 両面の体部共に磨滅し、研磨痕が浅くなっている。刃先は刃線に直交して磨滅するが、まだ刃先に鋭さがある。両面に紐擦れ痕あり。<br>○ なし | | |
| | S—07—0115<br>MZ | (4.3)<br>(4.6)<br>0.4<br>—<br>(10) | | 黒色片岩 | E 片刃。身幅の広い形態。特に薄手のもの。背面は平坦につくられ両面との境界に角を持つ。刃面には左右方向の研磨痕。<br>○ 両面体部の研磨痕は磨滅して消える。刃先は刃線と直交する磨滅が著しい。B面左肩が磨滅し、背面はうすくなる。<br>○ なし | | |
| | S—07—0117<br>不明 | (8.3)<br>(3.9)<br>0.8<br>—<br>(31) | | 緑色片岩 | E 両刃ぎみ片刃。中央に厚く、端部に向ってうすくなる。背は丸い。B面も刃部稜をもつ。A面刃面には右上がりの細かい研磨痕あり、研ぎ直しあり。<br>○ 両面共に磨滅し、研磨痕は消え，光沢を持つ。背面も光沢を持つ。刃先は刃線に直交する方向及び右上方の磨滅により丸くなり、B面刃先より右上方向にのび稜線上から左上方にのび肩部に至る。肩部はややくぼみ、背面がうすくなっている。<br>○ 背の中央に若干あり。 | | |

(　)は残存部分の法量である。　　(　)は紐孔径のうち内孔径・外孔径、右孔・左孔、A面・B面の法量である。

| 図版番号 | 登録番号<br>出土地点<br>遺構名<br>(遺構番号)<br>層位 | 法量<br>(cm)<br>(g) | 長さ<br>幅<br>厚<br>紐孔間距離<br>重量 | 石材 | 特徴 | タイプ 形態上・製作上の特徴<br>○使用痕跡<br>○背潰れ痕 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | S−07−0134<br>KM69<br>第4層・黒色砂質土層 | (7.0)<br>(3.3)<br>0.4<br>—<br>(16) | | 緑色片岩 | E 片刃。身幅の狭い形態。特に薄手のもの。A面側に彎曲する。研磨面下に剝離面が多く残る。A面に未貫通穿孔痕あり。A面右に傾く上下方向、B面右上一左下方向の研磨痕がある。刃先は細かく打ち欠きの後両面に研磨を施す。刃面には左右方向の研磨痕あり。<br>○ 両面共に磨滅し、研磨痕は浅くなっている。<br>○ なし | | 未製品か<br> |
| | S−07−0139<br>KH66<br>第4層・北壁 | (5.1)<br>(4.1)<br>0.7<br>—<br>(26) | | 緑色片岩 | E 片刃。A面肩部に円形に敲打痕あり。B面には片理面が残る。B面端部は破損後再研磨され、刃線に垂直な側辺をつくる。刃面には左右方向とやや右上がりの研磨痕あり。(内5mm、外8mm)<br>○ 両面共に研磨痕は磨滅し消える。端部側辺はそのエッジよりB面側に磨滅し、ややくぼむ。刃先は丸く磨滅し、B面刃部には刃先より左上方にのびる面の磨滅あり。<br>○ 背面と刃先にあり。 | |  |
| | S−07−0146<br>MO62<br>黒色砂質土層 | (5.1)<br>(4.6)<br>0.8<br>2.6<br>(30) | | 緑色片岩 | E 片刃。身幅の広い形態。紐孔は背寄りに位置する。刃面は体部と急角度をなす。右孔はA面下方向、B面上方向より穿孔される。A面体部に右上がり、刃面にやや右上がりの研磨痕あり。(内 6.5mm、外9mm)<br>○ A面体部の研磨痕は浅くなっておりB面ではほとんど磨滅して消え、光沢をもつ。刃先は刃線と直交する磨滅があり、B面刃先より左上方にのびる磨滅となる。B面背方向に紐擦れ痕あり。<br>○ なし | | A面に鉄分付着。<br> |
| | S−07−0165<br>KP66<br>第4層・整地面 | (5.1)<br>(3.0)<br>0.7<br>—<br>(14) | | 緑色片岩 | E 片刃。端部破片。<br>○ 両面共に研磨痕が消える。刃先は丸く磨滅。<br>○ 刃先にあり。 | | B面鉄分付着。<br>  |
| | S−07−0172<br>KL62<br>第3層 | (5.6)<br>(4.4)<br>0.8<br>—<br>(25) | | 緑色片岩 | E 片刃。身幅の広い形態。肩部には長軸方向に直交する切り込み状の段が間隔を持ってある。刃面には左右方向の研ぎ直しあり。<br>○ 両面ともに磨滅。刃先には刃線に直交する磨滅があり。B面刃先より左上方にのびる面の磨滅となる。<br>○ なし | |  |
| | S−07−0177<br>MH64<br>溝<br>(SF 075)<br>暗褐色土層 | (6.6)<br>(4.2)<br>0.7<br>—<br>(26) | | 緑色片岩 | E 片刃。身幅の狭い形態。中央に厚く、端部に向ってうすくなる。刃面は端部で狭く、中央に向って広くなる。B面には大きく剝離面が残る。B面紐孔右の背部に剝離があり、背面がうすくなっている。刃面には左右方向に研磨痕あり。背は丸い。<br>○ 両面共に磨滅し、研磨痕は消える。B面背部は光沢を持つ。刃先は刃線に直交する方向に磨滅するが、刃先はまだ鋭さが残る。B面肩部の剝離面は著しく磨滅している。<br>○ なし | | |
| | S−07−0181<br>ML60<br>黒色土層 | (4.4)<br>(4.5)<br>0.8<br>—<br>(24) | | 緑色片岩 | E 片刃。身幅の広い形態。B面はほぼ平坦で、A面は円孤状の断面を持つ。刃部稜は不明瞭。背面は丸い。紐孔は両面から敲打後穿孔する。<br>○ 刃先には刃線に直交する磨滅あり。両面とも光沢あり。<br>○ なし | | 全面に火を受けて赤く変色する。<br> |
| | S−07−0183<br>KN67<br>第3層・褐色砂質土層 | (6.3)<br>4.2<br>0.6<br>—<br>(30) | | 緑色片岩 | E 片刃。A面体部に剝離面が残る。B面背より剝離があり背面がうすくなる。背面は中央部が僅かに彎曲し、端部に至り屈曲する。刃面に研ぎ直しあり。<br>○ 両面共に磨滅が著しく、研磨痕は消え、光沢を持つ。刃先には刃線に直交する磨滅あり。B面側の背面は磨滅により、小さく凹む。<br>○ なし | | |

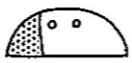
(　)は残存部分の法量である。　　(　)は紐孔径のうち内孔径・外孔径、右孔・左孔、A面・B面の法量である。

| 図版番号 | 登録番号<br>出土地点<br>遺構名<br>（遺構番号）<br>層位 | 法量<br>(cm)<br>(g) | 長さ<br>幅<br>厚<br>紐孔間距離<br>重量 | 石材 | 特徴 | タイプ　形態上・製作上の特徴<br>○使用痕跡<br>○背潰れ痕 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | S—07—0188<br>KN59<br>第3層・黒褐色砂質土層 | (7.0)<br>3.6<br>0.7<br>2.6<br>(25) | | 緑色片岩 | E　片刃。身幅の狭い形態。紐孔は左下がりに位置する。刃面の傾斜は急である。<br>○　不明<br>○　なし | | 全面火をうけて赤変し、表面荒れる。 |
| | S—07—0189<br>MJ63<br>黒褐色礫混合土層 | (5.9)<br>(3.9)<br>0.8<br>—<br>(32) | | 緑色片岩 | E　片刃。紐孔は身幅の中央より下に位置する。刃面と体部とはなだらかに続き稜線は不明瞭。刃先はB面側へ剝離欠損。<br>○　両面共に研磨痕は磨滅して消える。<br>○　背面全体にあり。 | | |
| | S—07—0201<br>MJ58<br>黒色砂質土層 | (6.0)<br>(3.4)<br>0.7<br>—<br>(21) | | 緑色片岩 | E　片刃。刃面は研ぎ直しにより、体部に対して急角度で、中央部に広く、端部に狭い。背面は丸い。B面刃部は狭い幅で研ぎ直される。<br>○　両面と背面は磨滅し光沢を持つ。刃先にはB面へ小剝離する。小剝離上も加えて、刃先は丸く磨滅する。<br>○　背面中央部にあり。 | | |
| | S—07—0203<br>MK60<br>黒色砂質土層 | (9.8)<br>(4.0)<br>0.8<br>2.7<br>(48) | | 緑色片岩 | E　片刃。身幅は、左端で最も狭く、右に行くに従って広くなる。刃面は体部に対して急角度に作られている。紐孔は背にほぼ平行の位置にある。研磨痕はA面左では右上—左下方向に右では左上—右下方向に、B面では右上—左下方向にある。刃面にはわずかに右上がりの研ぎ直しあり。右孔は三角形状の不正円形を呈す。(内 4.5㎜、外7㎜)<br>○　両面共に研磨痕は浅くなっており、光沢を持つ。両面に紐擦れ痕あり。<br>○　なし | | 火をうけて赤変し、表面は荒れている。 |
| | S—07—0210<br>KN70<br>第3層・黒色砂質土層 | (3.6)<br>(4.4)<br>0.7<br>—<br>(15) | | 緑色片岩 | E　片刃。身幅の広い形態。端部は鋭い角をなす。背面は背に直交する方向に研磨され、3面をなす。両面との境界は角をなす。刃面は研ぎ直されており、端部で狭く、刃部稜は円孤状になる。A面体部の背部近くにはやや右上がりの研磨痕。B面体部にはやや上下方向、右上りの研磨痕。刃面には上下方向と上下方向右上りの研磨痕あり。<br>○　刃先はわずかに磨滅あり。<br>○　なし | | |
| | S—07—0215<br>KE70<br>第3層・黒色砂質土層 | (6.2)<br>4.2<br>0.8<br>2.4<br>(31) | | 緑色片岩 | E　片刃。刃部は使用により内彎部分があるが（深約2㎜)、刃部稜は直刃を呈す。刃面には右上—左下方向の研ぎ直しがある。(内7㎜、外12.5㎜)<br>○　両面とも磨滅して光沢あり。刃先はB面側に剝離し、刃線に直交する磨滅痕で刃先は鋸歯状になり、刃先より刃面先端にのびる磨滅痕あり。両面に紐擦れ痕あり。<br>○　なし | | |
| | S—07—0216<br>KM66<br>第4層・黒色砂質土層 | (7.7)<br>4.5<br>0.8<br>2.0<br>(50) | | 緑色片岩 | E　片刃。身幅の広い形態。背面は丸い。紐孔は身幅の中央より上に位置し、右下がりに傾斜する。A面体部に右上—左下方向のあらい研磨痕あり。(内6㎜、外7㎜)<br>○　刃先には刃線に直交する磨滅があり、B面刃先より左上方にのびる面の磨滅あり。両面に紐擦れ痕あり。<br>○　なし | | 火をうけて赤変する。 |
| | S—07—0224<br>MJ58<br>溝<br>（SF 074）<br>黒色砂質土層 | (8.2)<br>(4.5)<br>0.5<br>—<br>(29) | | 緑色片岩 | E　片刃。身幅の広い形態。B面体部の背寄りの部分は剝離面に沿って左右方向の研磨がなされる。背面は平坦な面で両面との境界に角を持つが幅はB面体部の研磨のために、端部で広く、中央部に狭くなる。肩部背面で研磨面が変わり鋭く角をもつ。B面体部右半に右上—左下方向の細かい研磨痕あり。刃面には打ち欠き面あり、あらい研磨が施される。<br>○　両面体部左半は研磨痕が消え、他では浅くなっている。刃先は丸く磨滅する。<br>○　なし | | |

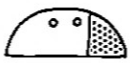
（　）は残存部分の法量である。　　（　）は紐孔径のうち内孔径・外孔径、右孔・左孔、A面・B面の法量である。

| 図版番号 | 登録番号<br>出土地点<br>遺構名<br>(遺構番号)<br>層位 | 法量(cm)(g)<br>長さ<br>幅<br>厚<br>紐孔間距離<br>重量 | 石材 | 特徴<br>タイプ 形態上・製作上の特徴<br>○使用痕跡<br>○背潰れ痕 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|
| | S−07−0230<br>MN62<br>溝<br>(SF 074)<br>褐色砂層 | (8.0)<br>4.0<br>0.8<br>1.9<br>(38) | 緑色片岩 | E 片刃。中央部厚く、端部に向ってうすくなる。背面は丸い。刃面は端部に向って狭くなり、端部破損面で交わる。右孔はA面右方向、B面右方向より穿孔される。A面左孔の下に未貫通穿孔痕あり。刃面には右上一左下方向の研磨痕あり、体部は両面共に右寄りの上下方向の研磨痕あり。(内6㎜、外9㎜)<br>○ 両面共に研磨痕は磨滅し浅くなっている。刃先は丸く磨滅し、中央部では刃線に直交する磨滅が顕著で、刃線はやや彎曲する。B面中央部刃先より左上方に磨滅がのび、左肩部と対応する。B面背方向に紐擦れ痕あり。<br>○ なし | |
| | S−07−0232<br>MQ64<br>溝<br>(SF 074)<br>黒色砂質土層 | (3.8)<br>(3.9)<br>0.7<br>—<br>(18) | 緑色片岩 | E 片刃。身幅のほぼ中央に紐孔あり。刃面は研ぎ直され、右上一左下方向に研磨痕が残る。背面は丸い。<br>○ 両面共に磨滅し研磨痕は消える。背面に光沢あり。刃先は刃線に直交する方向に磨滅し、B面刃部は刃先より左上方向にのびる。<br>○ なし | |
| | S−07−0243<br>ML61<br>溝<br>(SF 074)<br>褐色砂層 | (6.5)<br>(4.2)<br>0.4<br>—<br>(15) | 緑色片岩 | E 両刃。特に薄手のもの。A面、片理に沿って剝離した後に左右方向ないしやや右上がりの研磨痕あり。<br>○ B面体部は、磨滅により研磨痕は消える。背面もやや磨滅する。刃先は刃線に直交する方向に磨滅し、B面刃部に刃先より磨滅がのびる。<br>○ なし | |
| | S−07−0256<br>MO62<br>溝<br>(SF 074)<br>褐色砂層 | (2.9)<br>3.1<br>0.6<br>2.6<br>(9) | 緑色片岩 | E 片刃。身幅の狭い形態。背面は2面の平坦な面よりなり、両面との境界に角を持つ。B面刃部には、浅く面を研ぎ出している。右側の折れ面には研磨が施されている。A面体部には右上一左下方向に刃面の上半に左右方向、下半に左上一右下方向の研磨痕がある。<br>○ A面の研磨痕は浅くなっており、B面では磨滅により消える。刃先は丸く磨滅する。A面右孔の左方向、B面背方向に紐擦れ痕あり。<br>○ なし | 2次加工途上品。(扁平片刃石斧か) |
| | S−07−0266<br>NG56<br>第3層 | (6.3)<br>(3.9)<br>0.6<br>—<br>(26) | 緑色片岩 | E 片刃。紐孔は身幅の中央にある。刃部稜は不明瞭。背面は丸い。A面体部に上下方向右傾きの研磨痕があり、B面にも同様の方向の研磨痕あり。<br>○ 両面体部共に磨滅し、研磨痕は浅くなり、ほとんど消える。刃先には、刃線に直交する磨滅があり、B面刃先より左上方にのび肩部に至る。<br>○ なし | |
| | S−07−0286<br>MH56<br>溝<br>(SF 074)<br>褐色砂層 | (7.4)<br>(3.9)<br>0.7<br>2.8<br>(31) | 緑色片岩 | E 片刃。端部は薄く作られている。A面体部に右上一左下方向の研磨痕があり、刃面には左右方向の研磨痕がある。紐孔は右下がりに傾斜する。(内 6.5㎜、外9㎜)<br>○ A面体部の研磨痕は浅くなっており、B面では磨滅して消えている。刃先には刃線と直交する磨滅痕があり、B面左端で著しく刃先より、左上方へのびる面の磨滅がみられ、凹面を呈す。A面右紐孔に双孔を結ぶ方向の紐擦れ痕あり。<br>○ 背部にあり。背部の原形は失われて紐孔に至る。刃部にもあり、B面へ剝離し、そのエッジにみられる。 | |
| | S−07−0310<br>KT63<br>土坑<br>(SK 271)<br>第3層 | (5.8)<br>(3.9)<br>0.9<br>—<br>(32) | 緑色片岩 | E 片刃。A面研磨面下に剝離面あり。背面は平坦につくられ面との境界は角を持つ。A面体部に右上一左下方向の研磨痕あり。刃面には右上がりの研磨痕あり。<br>○ A面の研磨痕は浅くなっており、B面は研磨痕が磨滅により消え、光沢を持つ。<br>○ 背部中央と刃先全体にあり。刃先の痕跡は丸味をもつ。 | |
| | S−07−0312<br>MK59<br>溝<br>(SF 074)<br>褐色砂層 | (5.5)<br>(4.1)<br>0.8<br>—<br>(30) | 緑色片岩 | E 片刃。背面は丸く、A面側に剝離面が研磨面下に残る。端部は刃線にほぼ垂直な側辺を持つ。刃面には右上一左下方向の研磨痕がみられる。B面研磨面下に剝離面が残る。<br>○ A面体部、B面共に磨滅し研磨痕は消え、光沢を持つ。刃先には刃線に直交する磨滅があり、B面刃部の刃先より、上方もしくは左上方にのびる。A面刃先より、右上方にも若干のびる。<br>○ なし | |

(　)は残存部分の法量である。　　(　)は紐孔径のうち内孔径・外孔径、右孔・左孔、A面・B面の法量である。

| 図版番号 | 登録番号<br>出土地点<br>遺構名<br>（遺構番号）<br>層位 | 法量<br>(cm)<br>(g) | 長さ<br>幅<br>厚<br>紐孔間距離<br>重量 | 石材 | 特徴 | タイプ　形態上・製作上の特徴<br>○使用痕跡<br>○背潰れ痕 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | S－07－0324<br>KP60<br><br><br>第2層 | (5.8)<br>(3.5)<br>0.7<br>—<br>(25) | | 緑色片岩 | E　片刃。刃面と体部はなだらかに続き稜線は不明瞭。背面は丸く、端部先端で、平坦な面がつくられている。刃先に幅1㎜の平坦な面が研ぎ出されている。A面体部に右上一左下方向の研磨痕あり。<br>○　両面共に磨滅しており、A面では研磨痕は浅くなり、B面では消える。刃先の平坦な面は磨滅しており、角がとれて丸くなる。<br>○　刃先中央部の一部分にあり。背面中央部、A面側に剝離し、そのエッジにあり。 | | |
| | S－07－0325<br>KK66<br><br><br>Pit23 | (6.8)<br>3.7<br>0.8<br>—<br>(27) | | 緑色片岩 | E　片刃。背部左肩に角を持つ。背部より紐孔付近にかけて剝離してうすくなる。背面は平坦で両面との境界に角を持つ。刃面と平面とは急角度である。刃面に左右方向の研ぎ直しあり。(内6㎜、外8㎜)<br>○　両面共に体部は磨滅し研磨痕は消え、光沢を持つ。刃先には刃線に直交する磨滅がある。肩部のB面側は磨滅しており、A面に及び、背面はうすくなっている。両面とも紐擦れ痕は顕著。<br>○　肩部角より中央寄りにあり。 | | |
| | S－07－0335<br>MH57<br>溝<br>（SF 074）<br>レンズ状黒色部分・青褐色砂層 | (3.2)<br>3.7<br>0.5<br>—<br>(10) | | 緑色片岩 | E　片刃。身幅の狭い形態。特にうす手のもの。紐孔は身幅の中央より下に位置する。背面は丸い。刃面の幅は狭く、稜線は不明瞭。<br>○　両面共に磨滅し研磨痕は消える。B面背方向に紐ずれ痕あり。刃先には刃線に直交する磨滅あり。<br>○　なし | | |
| | S－07－0340<br>KI69<br><br><br>第3層黄色土面・Pit28 | (5.7)<br>3.3<br>0.7<br>—<br>(20) | | 黒色片岩 | E　片刃。身幅の狭い形態。刃面に研ぎ直しあり。刃面には右上一左下方向と左右方向の研磨痕あり。(内6.5㎜、外9㎜)<br>○　両面共に体部の研磨痕は磨滅して消えている。B面背方向の紐擦れ痕あり。刃先には刃線に直交する磨滅がみられ、刃先からB面左上方に面の磨滅がみられる。また刃先よりB面側に小剝離し、その面にも磨滅が見られる。<br>○　端部にわずかにみられる。 | | |
| | S－07－0341<br>MH57<br>溝<br>（SF 074）<br>褐青色砂層 | (6.0)<br>(4.1)<br>0.9<br>—<br>(35) | | 緑色片岩 | E　片刃。身幅の広い形態。中央に厚く、端部に向ってうすくなる。刃面は大きく研ぎ直される。刃面は中央に広く、端部に狭く、稜線は明瞭である。B面刃部も広い幅で（15㎜）研ぎ直される。共に研磨痕は右上一左下方向。紐孔は両面より敲打後穿孔される。<br>○　両面、背面共に磨滅し、光沢を持つ。刃先には刃線に直交する磨滅がみられる。<br>○　背面中央部、B面側に大きな剝離を伴う。背面はつぶれ、刃線とほぼ平行になる。刃先にもわずかにあり。 | | |
| | S－07－0347<br>LA65<br>土坑<br>（SK 270）<br>第3層 | (4.5)<br>(3.9)<br>0.7<br>—<br>(16) | | 緑色片岩<br>（点紋） | E　片刃。身幅の広い形態。刃部稜は不明瞭。背面は平坦で両面との境界に角を持つ。A面には研磨面下に剝離面が残る。<br>○　両面の体部は磨滅し研磨痕は消える。<br>○　刃先にみられる。 | |  |
| | S－07－0353<br>MK59<br>溝<br>（SF 074）<br>褐色砂層 | (6.0)<br>4.1<br>0.7<br>—<br>(32) | | 緑色片岩 | E　片刃。刃面は、やや左上がりの方向に研ぎ直され、刃部稜は明瞭。背面は丸い。<br>○　両面共に磨滅しており、研磨痕は消え、光沢を持つ。刃先には刃線に直交する磨滅がみられるが刃先に鋭さが残っている。B面刃先より、左上方に面の磨滅がのび、背面肩部に至る。背面は磨滅してうすくなる。右折れ面のエッジは丸く磨滅している。<br>○　なし | | |

（　）は残存部分の法量である。　　（　）は紐孔径のうち内孔径・外孔径、右孔・左孔、A面・B面の法量である。

| 図版番号 | 登録番号<br>出土地点<br>遺構名<br>（遺構番号）<br>層位 | 法量<br>(cm)<br>(g) | 長さ<br>幅<br>厚<br>紐孔間距離<br>重量 | 石材 | 特徴 | タイプ　形態上・製作上の特徴<br>○使用痕跡<br>○背潰れ痕 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | S－07－0354<br>ML59<br>溝<br>（SF 074）<br>褐色砂層 | (10.8)<br>3.8<br>0.6<br>2.3<br>(46) | | 緑色片岩 | E　片刃。刃面は研ぎ直される。刃面は左から右に向って、やや広くなる。紐孔は左側にかたよった位置にある。両面共に研磨面下に剝離面が残る。背面はやや平坦な面で角は丸味を持っている。A面紐孔付近には上下方向、左端部には右上一左下方向、刃面には左右方向の研磨痕あり。(内6㎜、外8㎜)<br>○　両面共に研磨痕は磨滅して消えており、残っている部分は浅くなっている。両面に紐擦れ痕あり。刃先は刃線に直交する方向に磨滅する。右端部に小さく欠損するがその先端は磨滅する。<br>○　なし | | 左方（S－07－0415）は煤けている。<br> |
| | S－07－0415<br>LY58<br>黒色粘質土層 | | | | S－07－0354と同一個体。 | | |
| | S－07－0376<br>MB59<br>整地面 | (5.2)<br>(4.1)<br>0.6<br>—<br>(15) | | 緑色片岩 | E　片刃。刃面は端部で狭くなり、端部先端で刃部稜と刃先が交わる。刃先は研磨により、幅1㎜弱の面を持つ。刃面には右上一左下方向の細かい研磨痕あり。<br>○　A面体部の研磨痕はほとんど磨滅によりきえている。刃先には使用痕が見られる。<br>○　なし | | B面は面が荒れている。<br>  |
| | S－07－0379<br>MC59<br>溝<br>（SF 075） | (12.0)<br>3.9<br>0.7<br>2.3<br>(43) | | 緑色片岩 | E　片刃。身幅の狭い形態。背部中央に最大厚があり、刃部及び端部に向って薄くなる。A面体部と刃面には右上一左下方向の研磨痕があり。刃部稜は不明瞭。右孔はA面では、右下方向より、B面では右上方向より穿孔されている。(内5㎜、外左7㎜、右9㎜)<br>○　B面体部は磨滅して研磨痕が消える。刃先には刃線に直交する磨滅痕があり、B面左上方にのびる面の磨滅もみられ、肩部に至り背面も薄くなる。B面右肩部にも左下一右上方向の面の磨滅がみられる。両面に紐擦れ痕あり。<br>○　背部、左肩部にあり、B面側に傾く。 | | B面に鉄分付着。<br> |
| | S－07－0387<br>MK58<br>溝<br>（SF 074）<br>褐色砂質土層 | (5.5)<br>(4.1)<br>0.7<br>—<br>(23) | | 緑色片岩 | E　片刃。身幅の広い形態。背面は丸い。刃線は端部でやや切れ上がる。端部はほぼ垂直な方向の側辺を持つ。刃部稜に最大厚を持ち、背方向と端部方向に向ってうすくなる。<br>○　全面に磨滅し研磨痕は消える。刃先には、刃線に直交する方向の磨滅がある。B面肩部は磨滅し、背面がうすくなる。端部側辺はA面側に磨滅している。<br>○　なし | | 全面に火をうけて赤変する。<br> |
| | S－07－0393<br>ME60<br>黒色粘質土層 | (5.1)<br>(4.5)<br>0.6<br>—<br>(26) | | 緑色片岩 | E　片刃。身幅の広い形態。刃面に研ぎ直しあり。刃部稜不明瞭。背面は平坦で両面との境界に明瞭な角を持つ。背面に長軸方向の研磨痕あり。<br>○　両面ともに研磨痕は磨滅し消える。刃先は丸く磨滅する。<br>○　背面中央部は著しく、平坦に変形。 | | |
| | S－07－0397<br>MC59<br>黒色土層 | (5.2)<br>(3.3)<br>0.7<br>—<br>(19) | | 緑色片岩 | E　片刃。身幅の狭い形態。A面中央に敲打痕が円形に残る。刃面には両面共にやや右上がりの研ぎ直しあり。背部も刃部と同様の傾斜面をもつが、上下逆に再加工再使用している。<br>○　両面共に磨滅し、B面は光沢を持つ。<br>○　背面と刃先、左折れ面のA面側エッジにみられる。 | | |
| | S－07－0403<br>MA58<br>黒色土層 | (4.7)<br>(4.2)<br>0.5<br>—<br>(15) | | 緑色片岩 | E　片刃。刃面は端部で狭く中央に広い。背面は平坦で両面との境に角を持つ。A面刃部付近に左上一右下方向のあらい研磨痕あり。B面には左右方向のあらい研磨痕あり、そこには剝離面が残る。刃面には右上一左下方向の細かい研磨痕あり。<br>○　A面の研磨痕は磨滅して消えており、B面の研磨痕は浅くなっている。刃先には刃線に直交する磨滅あり。<br>○　なし | | |

（　）は残存部分の法量である。　　（　）は紐孔径のうち内孔径・外孔径、右孔・左孔、A面・B面の法量である。

| 図版番号 | 登録番号<br>出土地点<br>遺構名<br>(遺構番号)<br>層位 | 法量<br>(cm)<br>(g) | 長さ<br>幅<br>厚<br>紐孔間距離<br>重量 | 石材 | 特徴 | タイプ 形態上・製作上の特徴<br>○使用痕跡<br>○背潰れ痕 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | S—07—0404<br>MB58<br><br><br>黒色土層 | (5.9)<br>(3.3)<br>0.6<br>—<br>(22) | | 緑色片岩 | E 片刃。身幅の狭い形態。研ぎ直しにより直線刃となる。端部破損。刃面には左右方向の細かい研磨痕あり。<br>○ 両面共に磨滅する。肩部より両面に剝離するがその面は磨滅。端部剝離面は磨滅している。刃先は丸く磨滅しており刃線に直交する磨滅もみられる。中央部では小さな凹みを呈する。<br>○ 背面中央部にあり。 | | |
| | S—07—0408<br>MD61<br><br><br>黒色土層 | (7.3)<br>3.8<br>0.7<br>2.9<br>(36) | | 緑色片岩 | E 片刃。身幅の狭い形態。刃面は研ぎ直されている。刃面と体部との角度はゆるやかで稜線は不明瞭である。端部折れ欠損後再研磨をしており、垂直に下る側辺をもつ。背面と両面の境界に角をもつ。A面体部には右上一左下方向の研磨痕があり端部近くでは左上一右下方向である。B面では右上一左下方向の研磨痕がのこる。刃面にはやや右上がりの研磨痕がある。紐孔は五角形状をなす。B面左孔右に未貫通の穿孔痕あり。(内7㎜、外9㎜)<br>○ 両面共に研磨痕は浅くなっており、B面刃部では消えている。刃先には小剝離と刃線と直交する磨滅があり、B面刃先より左上方向にのびる面の磨滅が刃部にある。B面右孔の左肩に背方向の紐擦れ痕あり。<br>○ 背部中央部にあり。 | | |
| | S—07—0424<br>MD60<br>溝<br>(SF 075)<br>黒色粘質土層 | (10.1)<br>(3.9)<br>0.7<br>2.4<br>(45) | | 緑色片岩 | E 片刃。紐孔は左下がりに傾斜し、左側に寄っており、身幅の最大は右孔より右側にある。体部右方の研磨痕下に敲打痕が残る。刃面は左上がり方向に、B面刃部は幅広く左右方向に研ぎ直される。紐孔はB面から深く穿孔されている。A面右孔上右に未貫通穿孔痕あり。(内 5.5㎜、外A 7㎜、B 9㎜)<br>○ 両面共に磨滅し再研磨以外の研磨は消え、B面刃部の研磨痕も浅くなっており、左孔より左では消える。背面端部はB面側に磨滅し、凹凸になる。B面背方向に紐擦れ痕あり。A面右孔から背面にかけて、放射状にのびるあらい研磨痕状の線条痕がある。<br>○ 背面の右孔上より右側と刃先全体にみられる。剝離を伴う。 | | |
| | S—07—0426<br>MD60<br>溝<br>(SF 075)<br>黒色粘質土層 | (6.0)<br>(2.9)<br>(0.6)<br>—<br>(16) | | 緑色片岩 | E 片刃。特に身幅の狭い形態。背面は平坦面を呈すが、B面背部にもとの刃面が残り、刃部はもとの背部に研磨を施してつくられている。刃面幅は広い。<br>○ 研磨痕は磨滅により消える。<br>○ 刃先にあり。 | | |
| | S—07—0427<br>MB58<br>溝<br>(SF 075)<br>黒色粘質土層 | (8.3)<br>4.5<br>0.8<br>2.3<br>(44) | | 黒色片岩 | E 片刃。背部に最大厚あり。端部、刃部がうすくなる。背面はA面側に傾き、平坦な面がつくられ、背部を正面にみて右上一左下方向に研磨されている。両面共に研磨面下に剝離面が残る。A面体部右上一左下方向に、B面体部左半に右上一左下方向、右半に左上一右下方向の研磨痕あり。刃面には右上一左下方向の研磨痕あり。紐孔は三角形状をなす。(内6㎜、外A 8㎜、B10㎜)<br>○ 両面共に研磨痕は浅くなる。刃先には刃線に直交する磨滅あり。<br>○ なし | | |
| | S—07—0432<br>MD60<br>溝<br>(SF 075)<br>黒色粘質土層 | (6.8)<br>3.7<br>0.7<br>1.8<br>(25) | | 緑色片岩 | E 片刃。刃面は体部に対して急角度につくられ、稜線は明瞭。B面刃部も狭い傾斜面を呈する。両面共に右上一左下方向に研磨痕が残るがA面には剝離面が残存。刃面には、やや右上がりの研磨痕あり。(内5㎜、外6㎜)<br>○ 両面共に研磨痕は磨滅し浅くなっており、B面に顕著。刃先は丸く磨滅する。<br>○ 背面にあり。大きくくぼむ。端部・刃先の右半分にもあり。 | | |

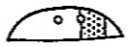
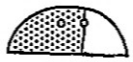
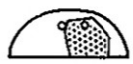
( )は残存部分の法量である。　　( )は紐孔径のうち内孔径・外孔径、右孔・左孔、A面・B面の法量である。

| 図版番号 | 登録番号<br>出土地点<br>遺構名<br>(遺構番号)<br>層位 | 法量<br>(cm)<br>(g) | 長さ<br>幅<br>厚<br>紐孔間距離<br>重量 | 石材 | 特徴 | タイプ 形態上・製作上の特徴<br>○使用痕跡<br>○背潰れ痕 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | S−07−0441<br>KD66<br>第3層・黒色砂質土層 | (10.5)<br>4.8<br>0.8<br>2.9<br>(52) | | 緑色片岩 | E 片刃。身幅の広い形態。背は中央部では幅が広く、肩部、端部でうすくなる。紐孔は両面より敲打した後に穿孔されており、B面右孔の敲打は背近くに及び、背面はうすくなっている。両面体部には右上−左下方向の研磨痕。刃面には左右方向、B面刃部には上下方向の研磨痕あり。(内6㎜、外17㎜)<br>○ 両面共に研磨痕は磨滅して浅くなっており、背近くでは研磨痕は消え、光沢を持つ。刃先は丸く磨滅しており、B面の刃先より左上方にのびる磨滅あり。両面に紐擦れ痕あり。<br>○ 左孔左上の背に狭い範囲であり。 | | B面に鉄分付着。<br> |
| | S−07−0442<br>MK58<br>黒褐色礫混合土層 | (8.7)<br>4.4<br>0.8<br>—<br>(40) | | 緑色片岩 | E 片刃。B面刃部も浅く研磨される。刃面には右上−左下方向に研磨痕あり。<br>○ 両面共に磨滅し、研磨痕は消える。刃先には刃線に直交する磨滅があり、B面刃先より若干のびる。B面背方向に紐擦れ痕あり。<br>○ 肩部と刃先にあり、範囲が一致する。肩部は両面に剝離を伴う。 | | B面に鉄分付着。<br> |
| | S−07−0443<br>KP66<br>第4層・整地層 | (7.5)<br>3.7<br>0.8<br>—<br>(39) | | 緑色片岩 | E 片刃。背面はほぼ平坦で面との境界に角を持つ。A面、研磨面下に片理面が残る。刃面は研ぎ直され、左右方向と右上がりの研磨痕がある。<br>○ 両面共に磨滅し、研磨痕は消える。B面は光沢を持つ。刃先には刃線に直交する磨滅があり、中央部では、B面刃先より、刃部に左上方向に磨滅がのびる。B面背方向に紐擦れ痕あり。<br>○ 背面、中央から肩部にあり、肩部はくぼむ。A面側に剝離を伴う。 | | |
| | S−07−0445<br>MH57<br>黒色砂質土層 | (8.4)<br>5.1<br>0.8<br>2.4<br>(52) | | 緑色片岩 | E 片刃。身幅の広い形態。刃面は体部に対して急角度につくられ、稜線は明瞭である。紐孔は双孔とも大きい。(内8㎜、外13㎜) A面体部には、右上がりの研磨痕があり、刃面にも右上がりの研磨痕がある。<br>○ 両面共に磨滅し、A面では研磨痕が浅くなり、B面では消え、光沢を持つ。刃先の磨滅は右孔下で最も著しく、波状に刃先がくぼむ。刃先は刃線に直交する方向に磨滅し、B面刃先より左上方にのびる面の磨滅となる。両面に紐擦れ痕あり。<br>○ なし | | |
| | S−07−0448<br>MJ58<br>黒色砂質土層 | (10.4)<br>4.2<br>0.7<br>A 3.1<br>B 2.4<br>(44) | | 緑色片岩 | E 片刃。3孔を有する。刃部は研ぎ直され、中央部は直線的になり端部で切れ上がる。左端部は左孔の所まで破損し、その後再研磨している。A面左上−右下方向、刃面右上がり、B面左上がりおよび左右方向のあらい研磨が施されている。紐孔は左下がりで背寄りにつけられ、右孔は小さい。(内左・中央5㎜、右3㎜、外左・中央 7.5㎜、右 6.5㎜)<br>○ 刃先には刃線に直交する磨滅痕があり。B面全体に研磨痕が薄れている。A面左孔と中央孔を結ぶ方向、B面右孔、中央孔より背方向へのびる紐擦れ痕あり。<br>○ なし | | |
| | S−07−0460<br>ME60<br>溝<br>(SF 075)<br>黒色粘質土層 | (5.3)<br>3.1<br>0.7<br>2.0<br>(19) | | 黒色片岩 | E 片刃。身幅の狭い形態。紐孔は左下がりで、身幅の中央よりやや下に位置する。背面は丸い。刃先には鋭さが残り、刃面は研ぎ直されている。B面刃部には幅狭な面がつくられている。刃面には左右ないしやや左上がりの研磨痕があり。A面体部には右に傾く上下方向の研磨痕がのこる。(内6.5㎜、外8㎜)<br>○ 全体に磨滅し光沢を持つ。A面には研磨痕が浅くなって残る。刃先には刃線に直交する磨滅がみられるが著しくない。両面に紐擦れ痕あり。<br>○ なし | | |

(　)は残存部分の法量である。　　(　)は紐孔径のうち内孔径・外孔径、右孔・左孔、A面・B面の法量である。

| 図版番号 | 登録番号<br>出土地点<br>遺構名<br>（遺構番号）<br>層位 | 法量（cm）（g）<br>長さ<br>幅<br>厚<br>紐孔間距離<br>重量 | 石材 | 特徴<br>タイプ　形態上・製作上の特徴<br>○使用痕跡<br>○背潰れ痕 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|
| | S—07—0465<br>LD67<br>第2層 | 12.8<br>(3.9)<br>0.8<br>4.9<br>(44) | 緑色片岩 | E　片刃。右肩部は大きくくぼむ。左端先端は小さく抉った様になっている。B面左孔に重なってその右上方に未貫通穿孔痕あり。刃面は左右方向に研ぎ直される。B面刃部も研ぎ直されており、幅2㎜の傾斜面をなす。A面体部は右上一左下方向に研磨痕あり。(内6㎜、外9㎜)<br>○　両面共に磨滅し、A面では研磨痕が浅くなっており、B面では消える。A面右孔の左方向とB面左孔の背方向に紐擦れ痕あり。刃先は若干、磨滅するが鋭い。<br>○　なし | |
| | S—07—0466<br>ME59<br>溝<br>（SF 075）<br>腐混黒色粘質土層 | (8.3)<br>4.7<br>0.7<br>A 1.2<br>B 1.2<br>(44) | 緑色片岩 | E　片刃。身幅の広い形態。中央に厚く、端部に向ってうすくなる。背面はやや平坦な面で、中央に幅広く、端部に向って狭くなる。稜線は不明瞭で、刃面と体部はなだらかにつづく。紐孔は3孔残りほぼ等間隔である。右孔はA面下方向、B面正方向より穿孔されている。右孔は他の2孔より上位に位置する。B面左孔左に未貫通穿孔痕あり。刃面に左右方向、B面刃部に上下方向の研ぎ直しあり。刃先に小剥離が残る。(内5㎜、外8㎜)<br>○　両面共に研磨痕は磨滅し消える。刃先は丸く磨滅。B面肩部は磨滅し背面がうすくなる。<br>○　背面中央部にあり、肩部近くではB面に傾斜し、B面側に剥離を伴う。 | |
| | S—07—0469<br>MC59<br>溝<br>（SF 075）<br>腐混黒色粘質土層 | (4.8)<br>3.1<br>0.6<br>A 2.3<br>B 1.8<br>(16) | 黒色片岩 | E　両刃。特に身幅の狭い形態。紐孔は3つあり。左孔は身幅の中央より下に、他の孔はほぼ中央に位置する。B面の左孔に重複して右上方に1つ、中央孔の左下に1つ、A面の右孔の左に1つ未貫通穿孔痕あり。両面共になだらかに刃面はつくられ稜線はみられない。両面共に右上一左下方向の研磨痕。刃部A面右上がり、B面左右方向の研磨痕があり両面とも研ぎ直しがみられる。(内4㎜、外6㎜)<br>○　両面ともに磨滅により研磨痕は浅くなっているがB面刃部はあまり磨滅していない。B面中央孔に背方向の紐擦れ痕あり。刃先は刃線に直交する方向に磨滅する。<br>○　中央部背面にあり、あまり潰れていない。 | |
| | S—07—0470<br>MZ<br>溝<br>（SF 075） | (11.4)<br>4.3<br>0.7<br>2.3<br>(57) | 緑色片岩 | E　片刃。略完形。A面中央左寄りに片理の接合面があり、最大厚がある。左端部より、A面に剥離欠損し、研磨され、端部に向って傾斜するが剥離面が残る。右方向にもなだらかに傾斜し、端部に向ってうすくなる。刃部稜は不明瞭である。右端部には右上一左下方向に溝状に（幅2㎜）抉った様な研磨痕が残る。A面右孔の右上方の背面には剥離面が残りくぼむ。(内5㎜、外7㎜)<br>○　両面共に磨滅し、研磨痕は消える。刃先には刃線に直交する方向の磨滅があり、B面刃先より左上方にのびる面の磨滅あり。両面に紐擦れ痕あり。<br>○　背面中央・右肩部にあり。 | |
| | S—07—0479<br>MT59<br>叩き面 | (5.9)<br>4.0<br>1.0<br>1.8<br>(38) | 緑色片岩 | E　片刃。特に厚手のもの。刃面には研ぎ直しあり。刃面は幅が広い。紐孔は両面より敲打後、穿孔される。(内4㎜、外8㎜)<br>○　両面共に磨滅して研磨痕は消えている。刃先には刃線に直交する方向に磨滅する。両面に紐擦れ痕あり。<br>○　なし | B面表面は荒れる。<br> |
| | S—07—0482<br>MR58<br>黒褐色礫混合土層 | (5.0)<br>(3.4)<br>0.9<br>—<br>(24) | 緑色片岩 | E　片刃。身幅の狭い形態。刃面は体部になだらかにつづき稜線は不明瞭。<br>○　両面共に磨滅し、研磨痕は消え、B面は光沢を持つ。B面に背方向の紐擦れ痕あり。<br>○　背面と刃先にあり、共にB面側への剥離を伴う。 | |
| | S—07—0489<br>MH61<br>礫混黒褐色土層 | (5.1)<br>(3.6)<br>0.5<br>—<br>(14) | 緑色片岩 | E　片刃。B面には研磨面下に剥離面が残る。A面は右上一左下方向に研磨され、浅くこの方向にくぼむ。刃面に右上がりの研磨痕あり。<br>○　両面共に磨滅し、研磨痕は消える。刃先には刃線に直交する磨滅あり。<br>○　背をA面側に剥離し、そのエッジにある。 | |

（　）は残存部分の法量である。　　（　）は紐孔径のうち内孔径・外孔径、右孔・左孔、A面・B面の法量である。

| 図版番号 | 登録番号<br>出土地点<br>遺構名<br>（遺構番号）<br>層位 | 法量（cm）（g）<br>長さ<br>幅<br>厚<br>紐孔間距離<br>重量 | 石材 | 特徴 | タイプ　形態上・製作上の特徴<br>○使用痕跡<br>○背潰れ痕 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | S－07－0493<br>MN64<br>整地層 | (7.1)<br>(3.4)<br>0.7<br>2.0<br>(23) | 結晶片岩 | E　片刃。長軸はB面側へ彎曲する。刃部は端部で切れ上がる。A面体部中央に片理面が残る。A面端部近くに上下方向左傾きの研磨痕あり。刃面には左右方向に研ぎ直しあり。<br>○　両面共に磨滅し、研磨痕はほとんど消え、光沢を持つ。刃先には刃線に直交する磨滅があり、B面刃先より、左上方へのびる。<br>○　なし | | |
| | S－07－0496<br>MN60<br>整地面 | | | S－07－0493と同一個体。 | | |
| | S－07－0495<br>MN60<br>整地面 | (3.9)<br>(4.4)<br>0.8<br>—<br>(19) | 緑色片岩 | E　片刃。身幅の広い形態。背面は丸い。紐孔は背寄りにある。B面の紐孔の左下に未貫通穿孔痕あり。<br>○　不明<br>○　なし | | 全面に火をうけて赤変し表面が荒れている。<br>  |
| | S－07－0497<br>MN56<br>整地面 | (6.4)<br>4.3<br>0.8<br>2.0<br>(34) | 緑色片岩 | E　片刃。身幅の広い形態。端部はA面側に剝離欠損後に左上一右下方向の研磨が施され、側辺を持つ。側辺に向ってうすくなる。紐孔は両面より敲打後に穿孔される。B面肩部は、剝離により大きくくぼむ。A面体部中央にやや左上がり、B面体部に右上一左下方向、刃面に右上一左下方向の研磨痕をそれぞれみる。(内4㎜、外9㎜)<br>○　両面共に磨滅し、研磨痕は浅くなっており、光沢を持つ。刃先は刃線に直交する方向に磨滅するが、鋭さは失われていない。B面肩部の剝離面も磨滅する。B面に背方向の紐擦れ痕あり。<br>○　なし | | |
| | S－07－0500<br>MN56<br>整地面 | (4.4)<br>(5.4)<br>0.5<br>—<br>(19) | 石英安山岩 | E　片刃。身幅の広い形態。極めてうす手のもの。背面は丸い。刃面には左右方向の研磨痕あり。<br>○　刃面を除き、全面に著しく磨滅し、光沢を持つ。刃先は丸く磨滅する。<br>○　なし | | |
| | S－07－0501<br>LE66<br>第7号土器堆積<br>（SL 307） | (8.6)<br>4.5<br>0.7<br>2.0<br>(48) | 緑色片岩 | E　片刃。身幅の広い形態。背面は平坦で両面との境界に角をもつ。A面端部近くに背方向からの剝離面がのこり、背面がうすくなっている。B面右孔は六角形状の不正円形。（内5㎜、外7㎜）<br>○　両面共に磨滅しており、研磨痕は消え、光沢をもつ。B面刃先より左上方にのびる磨滅あり。B面背方向の紐擦れ痕あり。<br>○　刃先にみられる。 | |  |
| | S－07－0502<br>MR56<br>溝<br>（SF 078）<br>上面 | (4.8)<br>(4.4)<br>0.8<br>—<br>(27) | 片麻岩 | E　片刃。身幅の広い形態。紐孔が端部に近い位置にあり、長さの短い形態。<br>○　不明<br>○　なし | | 全体に火をうけて赤変し、表面の荒れが著しい。<br> |
| | S－07－0503<br>MF62<br>黒褐色礫混入土層 | (5.7)<br>(4.1)<br>0.6<br>2.5<br>(25) | 緑色片岩 | E　片刃。紐孔は不正円形である。刃部稜は不明瞭。刃面に左右方向の研磨痕あり。(内5㎜、外8㎜)<br>○　両面共に磨滅し、研磨痕は消える。B面は光沢を持ち、刃部に著しい。刃先には刃線に直交する方向に磨滅し、B面刃先より、左上方にのびる。<br>○　背面にあり。両面へ剝離を伴う。 | |  |

（　）は残存部分の法量である。　　（　）は紐孔径のうち内孔径・外孔径、右孔・左孔、A面・B面の法量である。

| 図版番号 | 登録番号<br>出土地点<br>遺構名<br>(遺構番号)<br>層位 | 法量<br>(cm)<br>(g) | 長さ<br>幅<br>厚<br>紐孔間距離<br>重量 | 石材 | 特徴 | タイプ 形態上・製作上の特徴<br>○使用痕跡<br>○背潰れ痕 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | S—07—0583<br>MT60<br><br><br>Pit群面・大Pit 1 | | (6.3)<br>4.8<br>0.7<br>2.4<br>(27) | 緑色片岩 | E 片刃。背面は平坦で両面との境界に角を持つ。右孔は左孔より上位に位置し、共に背寄りである。刃面には数回の研ぎ直しがみられる。B面刃部にも研ぎ直しあり。左折れ面は研磨されている。B面右孔の左上に未貫通穿孔痕あり。(内 4.5mm、外 8 mm)<br>○ 両面共に磨滅し、研磨痕は消える。B面左孔に背方向の紐擦れ痕あり。刃先にはB面側への小剝離あり。小剝離面もあわせ、刃先は刃線に直交する方向に磨滅する。<br>○ 背面中央部にあり。 | | |
| | S—07—0594<br>JW63<br><br><br>第3層・灰黒色砂質土層 | | (9.2)<br>3.8<br>0.8<br>2.4<br>(47) | 緑色片岩 | E 片刃。紐孔は身幅のほぼ中央に位置する。刃面から体部へなだらかに移行し稜線はみとめられない。背面は丸い。両面共に左右方向に研磨痕があり刃面には左上がりの研磨痕がある。(内 6 mm、外 7 mm、B右10mm)<br>○ 両面共に磨滅し、研磨痕はほとんど消える。刃面は磨滅がすくなく浅くなっているが研磨痕がある。両面に紐擦れ痕あり。<br>○ 背面、左孔の上から右の部分と刃先全体にあり、刃先の右孔右下部分は著しく、大きくくぼむ。 | | |
| | S—07—0636<br>MS59<br><br><br>黒色砂混粘質土層 | | (6.6)<br>3.9<br>0.8<br>2.4<br>(23) | 緑色片岩 | E 片刃。A面の左孔下の刃先から、左孔の左の面を背にかけて右上—左下方向にひと続きの再研磨を施しており、刃部稜は不明瞭となる。肩部剝離面は研磨され、浅いくぼみ状をなす。この左下の刃部稜線上に研磨により浅く溝状をなす。(幅 8 mm) B面研磨面下に片理面を残す。紐孔は五角形状の不正円形である。B面刃部に右上—左下方向の研磨痕あり。(内 7 mm、外10mm)<br>○ 両面共に磨滅し、B面では刃部の研磨痕は浅くなり、他は消える。A面では再研磨による研磨痕も浅くなっており、肩部では消える。刃先は丸く磨滅しており、中央部では刃線に直交する磨滅がみられ、B面刃先より左上方にのび肩部に至る。両面に紐擦れ痕あり。<br>○ 背面中央部にあり。 | | |
| | S—07—0640<br>IS63<br><br><br>第3層・黒褐色砂質土層 | | (6.8)<br>(4.6)<br>1.0<br>—<br>(43) | 緑色片岩 | E 片刃。身幅の広い形態。端部に剝離が残り、その面に沿って研磨されているため端部はうすくなっている。刃面と体部とは急角度になっている。背面は平坦で両面との境界に角を持つ。B面肩部に深い剝離が研磨面下に残る。刃面右上がり方向の研磨痕あり。<br>○ 両面共に研磨痕は消え、光沢を持つ。背面は著しく光沢を持つ。刃先には刃線に直交する磨滅があり、B面刃先より、右上方に数mmのび、左上方に方向がかわり、肩部に至る磨滅があり、A面にも若干およぶ。この為背面はうすくなる。<br>○ なし | | |
| | S—07—0641<br>MT63<br>溝<br>(SF 077)<br>黒色土層 | | (6.5)<br>(5.7)<br>0.7<br>—<br>(44) | 緑色片岩 | E 片刃。身幅は広い。刃部稜は不明瞭で刃面は広い。背面は丸い。端部は剝離欠損。紐孔は背寄りで、A面には紐孔に接して未貫通穿孔痕あり。(内 5 mm、外B 9 mm)。研磨痕はあらい。<br>○ 刃部は剝離しており、先端は丸く磨滅。<br>○ なし | | |
| | S—07—0642<br>MT59<br>溝<br>(SF 079)<br>黒色砂混粘質土層 | | (8.1)<br>(3.7)<br>0.8<br>—<br>(40) | 緑色片岩 | E 片刃。A面端部寄りに右上—左下方向の研磨痕あり。刃面に左右方向に研ぎ直しあり、急傾斜面を呈す。(内 5 mm、外 8 mm)<br>○ A面端部寄りの研磨痕は浅くなっており、他では両平面共に研磨痕は磨滅して消えている。刃先は刃線に直交する方向に磨滅しており、中央部では著しく、刃先はB面に傾斜する磨滅面となり、B面左上方への面の磨滅としてのびる。<br>○ 背面にあり。紐孔の上部はこのために失われ直線上になる。 | | |

(　)は残存部分の法量である。　　(　)は紐孔径のうち内孔径・外孔径、右孔・左孔、A面・B面の法量である。

| 図版番号 | 登録番号<br>出土地点<br>遺構名<br>（遺構番号）<br>層位 | 法量<br>(cm)<br>(g) | 長さ<br>幅<br>厚<br>紐孔間距離<br>重量 | 石材 | 特徴 | タイプ　形態上・製作上の特徴<br>○使用痕跡<br>○背潰れ痕 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | S－07－0646<br>IX68<br>溝<br>（SF 079）<br>黒色砂質土層 | (6.6)<br>4.3<br>0.6<br>2.6<br>(24) | | 緑色片岩 | E　片刃。身幅の広い形態。背面は平坦で両面との境界に角を持つ。A面体部は剝離し、右上一左下方向の再研磨が施されるが剝離面残す。刃部稜は不明瞭で刃面と体部はなだらかに続く。B面左孔の上に背から剝離があり、研磨されている。B面体部には右上一左下方向に研磨痕。刃部には左上一右下方向に研磨。紐孔間に右上がりの研磨痕がある。（外9㎜、内6㎜）<br>○　両面共に研磨痕は浅くなっている。刃先には刃線に直交する磨滅があり、両面とも刃先より左上方にのびる。B面、紐孔の上背面角は丸く磨滅しており、B面右孔の背方向に紐擦れ痕あり。A面刃部は刃先より直上、又は左上方へのびる面の磨滅がみられる。<br>○　なし | | |
| | S－07－0662<br>MI64<br>溝<br>（SF 075）<br>黒色土層 | (6.3)<br>(5.1)<br>0.7<br>—<br>(32) | | 緑色片岩 | E　片刃。身幅の広い形態。背面はやや丸味を持ち、両面との境界に角を持つ。肩部では平坦な面となる。刃面に研ぎ直しあり。A面体部背寄り右上一左下方向、紐孔より下では左右方向、刃面も左右方向に研磨痕あり。<br>○　A面の研磨痕は浅くなっており、B面では磨滅し消え、光沢をもつ。刃先はほとんど磨滅しておらず鋭さを保っている。<br>○　なし | | |
| | S－07－0665<br>MJ64<br>溝<br>（SF 075）<br>黒色粘質土層 | (5.3)<br>4.0<br>0.7<br>2.4<br>(21) | | 緑色片岩 | E　片刃。紐孔は右孔が下方に位置し背面と平行である。刃面には左右方向とやや左上がりの研磨痕あり。（内5㎜、外7㎜）<br>○　両面共磨滅し、研磨痕は消える。刃先は丸く磨滅し、B面側へ剝離欠損。B面背方向に紐擦れ痕あり。<br>○　右孔下方刃先に若干あり。 | | |
| | S－07－0671<br>MK65<br>溝<br>（SF 075）<br>黒色粘質土層 | (8.0)<br>3.0<br>0.6<br>1.9<br>(25) | | 緑色片岩 | E　片刃。身幅が特に狭い形態。刃部稜線上に最大厚を持つ。紐孔は身幅中央に位置する。刃面は研ぎ直され、複数の面を呈す。刃先の研ぎ直しは左右方向に他の面には右上一左下方向の細かい研磨痕があり、刃部稜は不明瞭である。B面刃部にも右上一左下方向の研ぎ直しがみられる。両面に右上一左下方向の細かい研磨痕あり。（内6㎜、外8㎜）<br>○　両面共に研磨痕は浅くなっており若干光沢を持つ。刃先は全体に磨滅。B面左肩部には刃先より左上方へのびる面の磨滅がおよんでおり、背面は薄くなる。両面に紐擦れ痕あり。<br>○　なし | | |
| | S－07－0675<br>JB62<br><br><br>黒色砂質土層 | (6.9)<br>(4.3)<br>0.6<br>—<br>(25) | | 緑色片岩 | E　片刃。身幅の広い形態。長軸はA面側に彎曲する。端部には両面共に右上一左下方向の研磨痕あり。背面はうすく丸い。刃部は研ぎ直されており、刃先には幅1㎜程の平坦な面がつくられる。B面刃部も浅く研磨されている。<br>○　両面共に磨滅し、研磨痕は消え、光沢を持つ。端部の研磨痕は浅くなっている。中央では磨滅が著しく、稜線も磨滅して消える。<br>○　なし | B面に鉄分付着。 | |
| | S－07－0677<br>MH64<br>溝<br>（SF 075）<br>黒色粘質土層 | (6.7)<br>(4.3)<br>0.7<br>2.3<br>(28) | | 緑色片岩 | E　片刃。刃先は薄く鋭い。刃部稜は不明瞭である。<br>○　刃部はB面へ剝離しており、先端は磨滅。両面ともに研磨痕は浅い。<br>○　なし | | |
| | S－07－0683<br>MK65<br>溝<br>（SF 075）<br>黒色土層 | (6.0)<br>(3.2)<br>0.5<br>—<br>(12) | | 緑色片岩 | E　片刃。B面に大きな剝離が研磨面下にある。刃面に左右方向の研磨痕あり。<br>○　両面共に磨滅により光沢を持つ。刃先は丸く磨滅する。 | 火をうけて変色する。 | |

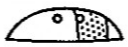
（　）は残存部分の法量である。　　（　）は紐孔径のうち内孔径・外孔径、右孔・左孔、A面・B面の法量である。

| 図版番号 | 登録番号<br>出土地点<br>遺構名<br>(遺構番号)<br>層位 | 法量<br>(cm)<br>(g) | 長さ<br>幅<br>厚<br>紐孔間距離<br>重量 | 石材 | 特徴 | タイプ 形態上・製作上の特徴<br>○使用痕跡<br>○背潰れ痕 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | S−07−0686<br>MF65<br>Pit内黒褐色土層 | (6.4)<br>(3.7)<br>0.7<br>—<br>(22) | | 緑色片岩 | E 片刃。背面は平坦で両面との境界に角をもつ。A面再研磨面に右上一左下方向の研磨痕あり。刃面には右上がりの研磨痕あり。<br>○ 両平面体部共に研磨痕は磨滅により消えている。B面背方向に紐擦れ痕あり。刃先はB面側に著しく磨滅しており刃線は凸凹している。刃先は丸く磨滅しており、B面刃先より直上方、又は右上方に2〜3mmのび、そこより左上方になり、肩部に至る磨滅があり、背面がB面側に大きく磨滅しうすくなる。<br>○ なし | | |
| | S−07−0687<br>IX66<br>溝<br>(SF 079)<br>黒色砂質土層 | (4.7)<br>(3.6)<br>0.7<br>—<br>(21) | | 緑色片岩 | E 片刃。端部の背面は両面との境界に角を持つ。稜線は不明瞭。<br>○ 両面体部共に磨滅により光沢を持つ。端部先端はB面側が磨滅によりくぼむ。刃先は磨滅。<br>○ なし | | 鉄分付着<br> |
| | S−07−0692<br>IW66<br>溝<br>(SF 079)<br>黒色砂質土層 | (5.8)<br>4.9<br>0.6<br>2.7<br>(28) | | 緑色片岩 | E 片刃。身幅の広い形態。横軸B面側へ彎曲。背面は左方では丸く、中央で2面、右方で3面の研磨された面よりなる。B面は凹面をなし、中央には広く剝離面が研磨面下に残る。研磨痕はA面体部上半には右上がり、下半には左右方向で、刃面では左右方向である。(内6mm、外7mm)<br>○ 研磨痕はA面では浅くなっており、B面では磨滅して消えている。B面右孔に左上方背方向に紐擦れ痕あり。刃先には刃線に直交する磨滅があり、B面刃先より左上方にのびる面の磨滅あり。<br>○ なし | | |
| | S−07−0694<br>NI53 | (5.1)<br>(3.6)<br>0.7<br>—<br>(18) | | 緑色片岩 | E 片刃。刃面には研ぎ直されて使用された後に刃先から体部にかけて、ひとつづきの研磨がされており、稜線がなくなっている。B面刃部は上下方向と左右方向とに再研磨される。背は丸い。<br>○ A面では再研磨された部分でも研磨痕は磨滅により浅くなっている。B面の体部では研磨痕は消え光沢を持つ。背面肩部は剝離によりくぼみがあるが磨滅している。刃先は丸く磨滅。<br>○ 背面中央部にあり、A面側に剝離を伴う。 | | |
| | S−07−0721<br>JD62<br>黒色砂質土層 | (18.1)<br>4.0<br>0.7<br>1.3<br>(34) | | 緑色片岩 | E 片刃。紐孔はやや右にかたより、右孔は左孔より下にあって、紐孔と背がほぼ平行になる。A面の背から紐孔にかけて剝離し、背面がうすくなっている。B面端部には剝離面が残り、面に沿って研磨されくぼむ。A面に右上一左下方向の研磨痕あり。B面端部に右上一左下方向の研磨痕あり、再研磨による。(内 4.5mm、外8mm)<br>○ 両面共に磨滅し、A面では研磨痕は浅くなり、B面では消える。両面に紐擦れ痕あり。B面刃先より、左上方に面の磨滅がのびる。<br>○ 刃先に小剝離を伴ってみられる。 | | A面に鉄分付着。<br> |
| | S−07−0724<br>JB64<br>溝<br>(SF 079)<br>暗褐色粘質土層 | 12.4<br>(2.9)<br>0.6<br>2.2<br>(39) | | 緑色片岩 | E 片刃。完形。身幅の狭い形態。刃面は左右方向に研ぎ直される。紐孔は身幅の中央にある。両面より敲打後穿孔。左孔は右孔より大きく (内6mm、外8mm)、右孔はA面左上方、B面正方向より穿孔。(内4mm、外7mm) B面刃部は左右方向に浅く再研磨されている。<br>○ 両面共に磨滅し、研磨痕は消え、B面は光沢を持つ。刃先には刃線に直交する磨滅がみられるが刃先に鋭さが残っている。両面に紐擦れ痕あり。<br>○ 両肩部間の背面にあり。 | | |

( )は残存部分の法量である。　　( )は紐孔径のうち内孔径・外孔径、右孔・左孔、A面・B面の法量である。

| 図版番号 | 登録番号<br>出土地点<br>遺構名<br>(遺構番号)<br>層位 | 法量<br>(cm)<br>(g) | 長さ<br>幅<br>厚<br>紐孔間距離<br>重量 | 石材 | 特徴 | タイプ 形態上・製作上の特徴<br>○使用痕跡<br>○背潰れ痕 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | S—07—0730<br>MK57<br>溝<br>(SF 074)<br>腐混黒色砂質土層 | (12.1)<br>4.4<br>0.8<br>1.8<br>(70) | | 緑色片岩 | E 片刃。完形。再研磨により杏仁形より直線刃となる。左端部破損後再研磨。刃部稜は不明瞭であり、中央部では左右方向で両端では体部との区別がなくなる。A面には大きく剝離面が残り左端部から中央部は剝離し、背面がうすくなっている。B面にも一部研磨面下に残る。紐孔はやや左寄りにあり。B面右孔上の左と右上とに、孔の左上に計3つの未貫通穿孔痕あり。A面には背と直交する方向の研磨痕があり、刃面には左右方向の研磨痕が残る。(内5㎜、外8㎜)<br>○ A面体部の研磨痕は浅くなっており、B面では磨滅してなくなり、光沢をもつ。刃先には刃線に直交する磨滅痕がある。B面左肩が磨滅してくぼむ。背面の左肩から右肩の間が磨滅している。両面に紐擦れ痕あり。<br>○ 背面中央部にあり。 | | |
| | S—07—0751<br>不明 | (6.0)<br>(3.2)<br>0.8<br>—<br>(23) | | 緑色片岩 | E 片刃。刃面に研ぎ直しあり。B面端部に敲打痕あり。A面体部右上がり、B面体部やや左上がりの研磨痕が残る。<br>○ 両面体部の研磨痕は浅くなっている。刃先は丸く磨滅する。<br>○ 背部と刃先の左方にあり。背部は著しい。 | | |
| | S—07—0753<br>IY62<br>Pit 2 | (9.6)<br>(4.3)<br>0.8<br>2.6<br>(63) | | 緑色片岩 | E 片刃。身幅の広い形態。体部は両面共に平坦で厚さは一定であるが、端部でややうすくなる。刃面は体部に対して急角度の方であるがその稜線は明瞭でない。背面は丸く、B面側でやや平坦となり、B面と角を持つ。紐孔は両面より敲打後穿孔。両面共に左方の研磨面下に敲打痕を残す。刃面には左右方向の研磨痕あり。(内6㎜、外9㎜)<br>○ 両面共に研磨痕は磨滅して消えている。刃先は丸く磨滅する。両面に紐擦れ痕あり。<br>○ 左方の一部を除く刃先全体と肩に、いずれもB面側に傾斜して存する。 | | |
| | S—07—0757<br>LW54<br>整地層 | (8.9)<br>4.0<br>0.8<br>2.1<br>(45) | | 緑色片岩 | E 片刃。刃面には研ぎ直しがみられる。背面は丸い。刃線は端部でやや彎曲する。紐孔間の上の背面には以前の紐孔の下半分が残る。A面体部に左右方向の研磨痕があり、紐孔間には上下方向の研磨痕が残る。刃面には左右方向の研磨痕あり。(内5㎜、外8㎜)<br>○ A面体部の研磨痕は磨滅により浅くなる。刃先は丸く磨滅する。肩部には磨滅により、背面が丸くくぼむ。B面背方向に紐擦れ痕あり。<br>○ 刃先の端部に若干あり。 | | B面に火をうけて変色し、表面が荒れる。<br> |
| | S—07—0761<br>JA54<br>整地層 | (9.4)<br>3.4<br>0.8<br>1.8<br>(41) | | 緑色片岩 | E 片刃。身幅の狭い形態。刃面は左右方向に研ぎ直され、端部には稜線があるが他では稜線はなく、刃面と体部はなだらかに続く。端部には垂直な側辺を持つ。紐孔は背寄りにある。(内5㎜、外7㎜)<br>○ 両面共に研磨痕は磨滅により消える。刃先は刃線に直交する方向に磨滅。B面背方向に紐擦れ痕があり、背面よりの剝離面にまでおよぶ。A面右肩部の剝離面も右上—左下方向の磨滅あり。<br>○ 背面中央部にあり。 | | A面に鉄分付着。<br> |
| | S—07—0764<br>IV54<br>整地面 | (8.9)<br>(3.8)<br>0.6<br>—<br>(40) | | 黒色片岩 | E 片刃。刃面は研ぎ直され、体部と急角度をなすが稜線は不明瞭である。A面体部中央の研磨面下に片理面が残る。又、A面体部左肩部には剝離面残存。肩部の背はうすくなっている。背部中央、背面にも剝離が残る。A面体部には右上—左下方向にB面端部と刃部にはやや右上がりの研磨痕がある。<br>○ A面体部の研磨痕は浅くなっており、B面体部は大部分磨滅して、光沢を持つ。刃先は丸く磨滅している。B面刃先より左上方向の磨滅面がのび背部に至り、背部中央部から肩部にかけて磨滅する。<br>○ なし | | |

( )は残存部分の法量である。　( )は紐孔径のうち内孔径・外孔径、右孔・左孔、A面・B面の法量である。

| 図版番号 | 登録番号<br>出土地点<br>遺構名<br>(遺構番号)<br>層位 | 法量<br>(cm)<br>(g) | 長さ<br>幅<br>厚<br>紐孔間距離<br>重量 | 石材 | 特徴 | タイプ 形態上・製作上の特徴<br>○使用痕跡<br>○背潰れ痕 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | S－07－0767<br>JC58<br>整地面 | (7.2)<br>5.6<br>0.8<br>2.9<br>(52) | | 緑色片岩 | E 片刃。身幅は広い。刃部稜は不明瞭。両面共、研磨面下に剝離痕残存。紐孔は左下がりで背寄りに位置する。(内5㎜、外9㎜)。B面右孔の左に接して未貫通穿孔痕あり。<br>○ 刃先には刃線と直交する磨滅痕があり、B面側左上方へのびる。両面共に研磨痕は浅く、B面、背面、A面端部寄りは光沢をもつ。B面右孔の背寄り角は丸く磨滅。<br>○ なし | | |
| | S－07－0770<br>MB54<br>黒褐色礫混合土層 | (6.1)<br>(3.2)<br>0.7<br>—<br>(20) | | 緑色片岩 | E 片刃。身幅の特に狭い形態。端部がうすくなる。背面は平坦であり、両面との境界に角を持つ。両面共に荒れており、B面が著しい。刃面の傾斜は急で左右方向の研ぎ直しがある。<br>○ B面は荒れており、不明。刃先はB面へ剝離欠損。<br>○ なし | | |
| | S－07－0772<br>JX54<br>整地層 | (5.5)<br>(3.7)<br>0.8<br>—<br>(25) | | 緑色片岩 | E 片刃。両面共に研磨面下に剝離面が残る。端部は刃線に垂直な側辺を持つ。刃面に左右方向の研ぎ直しあり。<br>○ 両面共に磨滅し研磨痕は消える。<br>○ 刃先にB面側への剝離を伴ってあり。 | | 火をうけて変色。B面は煤ける。<br> |
| | S－07－0774<br>JE66<br>整地層 | (6.7)<br>(4.7)<br>0.6<br>—<br>(29) | | 緑色片岩 | E 片刃。身幅の広い形態。刃面に研ぎ直しあり。刃面は体部に対してなだらかで稜線は不明瞭。背面は中央に稜を持つ。刃面には左右ないしやや右上がりの研磨痕あり。<br>○ 両面共に磨滅して研磨痕は消えており、B面は光沢を持つ。刃先は丸く磨滅する。<br>○ なし | | B面に鉄分付着。<br> |
| | S－07－0779<br>JE66<br>整地層 | (7.7)<br>(3.1)<br>0.9<br>—<br>(31) | | 緑色片岩<br>(点紋) | E 片刃。両面共に研磨を施すが剝離面が多く残る。A面紐孔上の左に未貫通穿孔痕あり。<br>○ 不明<br>○ 刃先にあり。 | | |
| | S－07－0785<br>JE62<br>整地層 | (5.3)<br>(4.1)<br>0.6<br>—<br>(22) | | 緑色片岩 | E 片刃。A面の研磨面下に剝離面を残す。紐孔は両面より、敲打後穿孔。B面紐孔の左の敲打面上に未貫通穿孔痕あり。刃面には左右方向の研磨痕あり。<br>○ 両面共に磨滅し、研磨痕は消える。刃先には刃線に直交する方向に磨滅し、B面刃先より、刃部にややのびる。<br>○ なし | | A面に鉄分付着。<br>  |
| | S－07－0797<br>JI66<br>整地層 | (8.5)<br>(3.4)<br>0.7<br>2.8<br>(38) | | 緑色片岩 | E 片刃。身幅の狭い形態。稜線は不明瞭。紐孔は敲打後に穿孔されており、右孔はA面左下方向、B面右上方向から穿孔され、左孔はA面下方向、B面上方向より穿孔されている。刃面に左右方向の研磨痕あり。(内5㎜、外7㎜)<br>○ 両面共に研磨痕は消える。B面背方向に紐擦れ痕あり。<br>○ 背面、刃先の全体にみられる。 | | A面に鉄分付着。<br> |
| | S－07－0799<br>JI66<br>整地層 | (5.0)<br>3.9<br>0.7<br>2.2<br>(23) | | 緑色片岩 | E 片刃。刃面は右上がりの方向に研ぎ直され、体部に対して急角度になり、稜線は明瞭。A面には片理面が残存。左孔左の背面はB面側に剝離し、そのエッジに再研磨され、背面は一段低くなっている。左孔は、3角形状の不正円形をなす。(内5㎜、外8㎜)<br>○ B面は磨滅し、研磨痕は消える。刃先には刃線に直交する磨滅あり。両面に紐擦れ痕あり。<br>○ 背面の一段低くなっている部分にあり。 | | 火をうけて変色しA面が著しく荒れる。鉄分付着。<br> |

(　)は残存部分の法量である。　　(　)は紐孔径のうち内孔径・外孔径、右孔・左孔、A面・B面の法量である。

| 図版番号 | 登録番号<br>出土地点<br>遺構名<br>(遺構番号)<br>層位 | 法量<br>(cm)<br>(g) | 長さ<br>幅<br>厚<br>紐孔間距離<br>重量 | 石材 | 特徴 | タイプ 形態上・製作上の特徴<br>○使用痕跡<br>○背潰れ痕 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | S—07—0800<br>JI62<br>整地層 | (7.5)<br>4.2<br>0.7<br>—<br>(34) | | 緑色片岩 | E 片刃。A面体部には研磨面下に剝離面が大きく残る。刃面は中央で広く、左右方向に研磨痕があり、端部に向って狭くなり、右上一左下方向の研磨痕がある。背面は丸い。紐孔はA面右下方向、B面右上方向より穿孔される。(内5㎜、外8㎜)<br>○ 両面共に磨滅し、研磨痕は消える。B面背方向に紐擦れ痕あり。B面刃先より左上方にのびる面の磨滅あり。刃先はB面へ小剝離しており、荒れている。<br>○ なし | | B面に鉄分付着。<br> |
| | S—07—0801<br>JI62<br>整地層 | (6.9)<br>(3.7)<br>0.8<br>—<br>(25) | | 緑色片岩 | E 片刃。A面体部上半に剝離面、下半に片理面が大きく残る。背は丸い。刃面は研ぎ直され、左右ないしやや右上がりの研磨痕がみられる。B面には右上一左下方向の研磨痕あり。<br>○ B面の研磨痕は磨滅して浅くなっている。刃先は丸く磨滅する。<br>○ なし | | A面に鉄分付着。<br> |
| | S—07—0802<br>JM58<br>整地層 | (7.9)<br>4.3<br>0.7<br>2.3<br>(40) | | 緑色片岩 | E 片刃。刃面に研ぎ直しあり。刃部稜は不明瞭。A面体部に左上一右下方向のあらい研磨痕あり。(内5.5㎜、外8㎜)<br>○ A面体部の研磨痕は浅くなっており、B面体部では磨滅して消え、光沢を帯びる。A面右孔には双孔を結ぶ方向に、B面右孔には背方向の紐擦れ痕がある。刃先は磨滅しており、特に中央部では著しく刃線に直交する磨滅があり、刃先からB面左上方にのびる面の磨滅が左肩に至り、背面もうすくなっている。<br>○ なし | | B面に鉄分付着。<br> |
| | S—07—0804<br>JM66<br>整地層 | (9.2)<br>3.7<br>0.7<br>2.3<br>(46) | | 緑色片岩 | E 片刃。刃部稜は不明瞭。A面体部に右上一左下方向、刃面に左右方向の研ぎ直しあり。(内6㎜、外7㎜)<br>○ 磨滅により、A面の研磨痕は浅くなっており、B面では消える。両面に紐擦れ痕あり。<br>○ 刃先全体と背面の肩から中央にかけてあり。刃先はB面背面はA面への剝離を伴う。刃先中央部はやや内彎ぎみとなる。 | | B面に鉄分付着。<br> |
| | S—07—0809<br>MB56 | (4.7)<br>4.2<br>0.7<br>—<br>(22) | | 緑色片岩 | E 片刃。紐孔は身幅の略中央に位置する。刃面から体部へ丸味を持った面で稜線はない。A面体部に大きく剝離面が残る。刃面には右上がりの研磨痕あり。研ぎ直しによる。<br>○ A面体部、B面共に磨滅し、研磨痕は消え、光沢を持つ。背面も磨滅し光沢を持つ。刃先には刃線に直交する磨滅があり、B面刃先より刃部に、右半は右上方へ、左半は左上方へ数㎜磨滅がのびる。<br>○ なし | | A面に鉄分付着。<br> |
| | S—07—0812<br>MF54<br>黒褐色礫混合土層 | (8.3)<br>(3.7)<br>0.7<br>2.0<br>(32) | | 緑色片岩 | E 片刃。背は丸い。B面に右上一左下方向の研磨痕あり。B面紐孔間には左上一右下方向の研磨痕あり。<br>○ 刃先は刃線に直交する方向に磨滅している。<br>○ 背面中央部にあり、紐孔の上半をつぶす。 | | 火をうけて変色。表面が荒れている。<br> |
| | S—07—0818<br>JI62<br>整地層 | (5.3)<br>(3.6)<br>0.7<br>—<br>(24) | | 緑色片岩 | E 片刃。身幅の狭い形態。端部欠損後に再研磨。刃面に左右方向の研磨痕。<br>○ A面は表面が荒れている。B面は研磨痕は磨滅して消えており、光沢を持つ。刃先は荒れている。<br>○ 現存部背面中央部、A面側にあり。 | | B面に鉄分付着。<br> |
| | S—07—0819<br>JI62<br>整地層 | (4.4)<br>(3.3)<br>0.7<br>—<br>(15) | | 緑色片岩 | E 片刃。刃面は体部と急角度に作りだされており、B面刃部にもこちらは、ゆるやかな角度で作りだされている。背部はA面側に剝離しており、背面はうすい。刃面に左右方向の研ぎ直しが施される。刃部稜に最大厚あり。<br>○ 両面体部とB面刃部の研磨痕は磨滅により消える。B面は光沢を持つ。刃先は丸く磨滅する。<br>○ なし | | B面に鉄分付着。<br> |

( )は残存部分の法量である。　( )は紐孔径のうち内孔径・外孔径、右孔・左孔、A面・B面の法量である。

| 図版番号 | 登録番号<br>出土地点<br>遺構名<br>（遺構番号）<br>層位 | 法量<br>(cm)<br>(g) | 長さ<br>幅<br>厚<br>紐孔間距離<br>重量 | 石材 | 特徴 | タイプ　形態上・製作上の特徴<br>○使用痕跡<br>○背潰れ痕 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | S—07—0882<br>MJ58<br><br><br>黒色砂質土層 | | (5.1)<br>3.8<br>0.8<br>2.3<br>(22) | 緑色片岩 | E　片刃。背面はやや平坦な面をなす。B面右孔の上に背からの剝離面が残る。紐孔は右下がりで背寄りに位置し、不正円形を呈す。刃面に左右方向の研磨痕あり。(内6㎜、外7.5㎜)<br>○　両面共に磨滅し、研磨痕は消え、B面に光沢を持つ。刃先には刃線に直交する方向に磨滅し、B面刃部に刃先より若干のびる。B面に背方向の紐擦れ痕あり。<br>○　なし | | |
| | S—07—0947<br>JH66<br><br><br>床土整地層 | | (5.8)<br>(5.5)<br>0.6<br>—<br>(28) | 緑色片岩 | E　片刃。身幅の広い形態。刃面と体部には境界はなく、なだらかに移行している。背面はB面側に傾斜した面で、両面との境界に角を持つ。A面左右ないしやや左上がりの研磨痕。B面、右上—左下方向の研磨痕。<br>○　両面共に研磨痕は浅くなっている。刃先は丸く磨滅しており、又研ぎ残しの小剝離もあり。<br>○　なし | | 部分的に鉄分付着。<br> |
| | S—07—0950<br>JI54<br><br><br>床土整地層 | | (6.1)<br>3.3<br>0.6<br>—<br>(20) | 緑色片岩 | E　片刃。身幅の狭い形態。両面共に研磨面下に片理面が残る。肩部の背からA面側に研磨後の剝離あり。肩部背面には鋭いもので抉った様な研磨痕あり。<br>○　B面は磨滅して光沢を持つ。刃先は表面が荒れたような磨滅あり。<br>○　背面中央部にあり。 | | B面に鉄分付着。<br> |
| | S—07—0956<br>JE58<br><br><br>床土整地層 | | (6.9)<br>4.1<br>0.6<br>2.1<br>(30) | 緑色片岩 | E　片刃。身幅の広い形態。A面研磨面下に片理面が残る。刃部稜は不明瞭。刃面の刃先より1㎜の幅で研ぎ直されている。背面は丸い。肩部は中央より一段落ちたのちに、端部に丸く続き、刃線も端部で彎曲する。B面端部から刃部にかけて右上—左下方向に再研磨。紐孔は右下がりで背寄りに位置する。(内6㎜、外9㎜)<br>○　両面共に研磨痕は磨滅して消えているが、B面の再研磨した部分のみ浅く残る。B面背方向に紐擦れ痕あり。刃先は丸く磨滅。<br>○　なし | | |
| | S—07—0972<br>MG62<br>溝<br>(SF 075)<br>黒色粘質土層 | | (7.3)<br>4.3<br>0.9<br>—<br>(45) | 緑色片岩 | E　片刃。刃面は研ぎ直しがあり、端部には両面から刃が作り出されている。背面は平坦な複数の面からできている。左に折れ面があり再研磨が部分的に施されている。A面体部には左右方向にあらい研磨痕があり、剝離面をとどめている。B面にはやや左上がりのあらい研磨痕と背面寄りの上下方向の研磨痕よりなっている。刃面には刃先に沿った研磨痕と右上—左下方向の研磨痕があり、背面には平面との境界線に沿った研磨痕とそれに直交する方向の研磨痕がある。紐孔は刃部近くにある。<br>○　両面共にやや研磨痕が浅くなっている。刃先は丸く磨滅している。<br>○　なし | | 破損後、転用。<br> |
| | S—07—0977<br>MB54<br>溝<br>(SF 074)<br>黒色土層 | | (9.6)<br>3.8<br>0.7<br>2.7<br>(31) | 緑色片岩 | E　片刃。刃面には研ぎ直しあり。背面は、ほぼ平坦な面である。端部形態は、ほぼ円形をなす。幅狭の楕円形態か。紐孔は、B面より深く穿孔されており五角形状の不正円形である。身幅の略中央に位置する。A面体部には右上がりの研磨痕あり。刃面にはやや右上がりの研磨痕あり。(内6㎜、外A 7.5㎜、B 9㎜)<br>○　A面体部で研磨痕は磨滅により浅くなっており、B面体部では消える。両面に紐擦れ痕あり。<br>○　紐孔間の背面A面側と背面の端部にあり。刃先全体にみられ、B面側への剝離を伴う。 | | |
| | S—07—0981<br>KH54<br>落ち込み | | (5.1)<br>4.5<br>0.9<br>2.0<br>(29) | 緑色片岩 | E　片刃。身幅の広い形態。背面は丸味を持ったやや平坦な面である。刃面は体部と急角度につくられている。B面は平坦な面であるが、刃部でなだらかに傾斜する。(内5㎜、外8㎜)<br>○　両面共に磨滅し、研磨痕は消え、光沢を持つ。刃先には刃線に直交する磨滅があり、B面刃先より左上方にのびる磨滅となる。B面背方向の紐擦れ痕あり。<br>○　なし | | B面は火をうけて赤変し、表面が荒れる。<br> |

(　)は残存部分の法量である。　　(　)は紐孔径のうち内孔径・外孔径、右孔・左孔、A面・B面の法量である。

| 図版番号 | 登録番号<br>出土地点<br>遺構名<br>(遺構番号)<br>層位 | 法量(cm)(g)<br>長さ<br>幅<br>厚<br>紐孔間距離<br>重量 | 石材 | 特徴 | タイプ 形態上・製作上の特徴<br>○使用痕跡<br>○背潰れ痕 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | S—07—0994<br>MK55<br><br>整地面 | (6.8)<br>3.9<br>0.9<br>2.2<br>(38) | 緑色片岩 | E 片刃。刃面は研ぎ直されており、刃面は中央部で、体部と急角度になるが、稜線は不明瞭。刃線は端部で彎曲し、端部形態は先がややとがりぎみの円形となる。背は丸い。紐孔のA面には、敲打痕がわずかにのこる。左孔はA面下方向、B面上方向より穿孔されている。A面体部には右上一左下方向の研磨痕があり、刃面には右上がりの研磨痕がある。<br>○ 両面共に磨滅し、A面では研磨痕が浅くなり、B面では消える。刃先は丸く磨滅する。B面背方向に紐擦れ痕あり。<br>○ 刃先の端部寄りの部分に若干あり。 | | |
| | S—07—0995<br>MZ<br><br>表採 | (6.2)<br>4.4<br>1.0<br>1.8<br>(38) | 緑色片岩 | E 片刃。身幅の広い、厚手の形態。B面左に欠損があり、大きく、深い剥離面が残る。剥離面の先端は若干研磨され刃線に垂直な側辺をつくる。刃面は左右方向に研ぎ直され幅広い刃面となる。紐孔はA面右方向、B面右方向より穿孔される、A面体部には上半に左右方向、下半に右上一左下方向の研磨痕が残る。(内6㎜、外12㎜)<br>○ 両面共に磨滅し、A面の研磨痕は浅くなっており、B面では消える。刃先には刃線に直交する磨滅があり、B面刃部に刃先より左上方にのびる。面面に紐擦れ痕あり。<br>○ 背面にみられる。 | | B面に鉄分付着。 |
| | S—07—1005<br>KD54<br><br>黒色砂質土層 | (7.3)<br>(4.4)<br>0.7<br>—<br>(37) | 緑色片岩 | E 片刃。身幅の広い形態。背面は幅の狭い平坦な面の複数によりなる。両面共に右上一左下方向の研磨痕があり、背側に剥離面が残る。B面中央にも残る。両面刃部共に左右方向の研ぎ直しがあり、B面には剥離面残存し、刃先は幅の狭い平坦面をなす。全体に研磨痕は細かい。<br>○ 両面共に研磨痕は浅くなっている。<br>○ なし | | |
| | S—07—1015<br>JM66<br><br>褐色土層 | (8.2)<br>4.2<br>0.7<br>2.4<br>(40) | 緑色片岩 | E 片刃。身幅の狭い形態。刃面は幅広く、端部では刃線と稜線とが彎曲して交わる。背面は平坦な面で両面との境界に角を持つ。紐孔は左孔がやや上位に位置する。左孔はA面下方向、B面上方向より穿孔される。(内6㎜、外8㎜)<br>○ 全面に磨滅し、研磨痕は消えている。刃先は丸く磨滅する。両面に紐擦れ痕あり。<br>○ なし | | 全面に火をうけて赤変し、端部では表面の荒れが著しい。 |
| | S—07—1024<br>JQ66<br><br>褐色土層 | (4.4)<br>(3.4)<br>0.7<br>—<br>(15) | 緑色片岩 | E 片刃。身幅の狭い形態。刃面に研ぎ直しあり。刃部稜は不明瞭。背面は丸い。A面中央に片理面が大きく残る。紐孔上の右に未貫通穿孔痕あり。両面体部、刃面共に右上がりの研磨痕あり。<br>○ 両面共に磨滅し、研磨痕は浅くなる。刃先には刃線に直交する磨滅あり。B面の背方向に紐擦れ痕あり。<br>○ なし | | |
| | S—07—1026<br>JQ66<br><br>褐色土層 | (8.1)<br>4.6<br>0.9<br>1.9<br>(54) | 緑色片岩 | E 片刃。身幅の広い形態。刃線は端部で外彎し、刃面に研ぎ直しがみられることから杏仁形が元の形である。背面は丸い。端部がうすく中央部があつい。右孔は左孔より背寄りに位置する。刃面に左右方向の研磨痕あり。(内5㎜、外9㎜)<br>○ 両面共に磨滅し、光沢を持つ。刃先には刃線に直交する磨滅があり、B面刃先より上方向やや右寄りにのびる磨滅となる。B面左肩に磨滅があり、背面はうすくなる。両面に紐擦れ痕あり。<br>○ なし | | |
| | S—07—1027<br>JQ66<br><br>褐色土層 | (6.1)<br>(3.9)<br>0.7<br>—<br>(19) | 緑色片岩 | E 片刃。身幅の広い形態。半月形。刃面に左右方向の研ぎ直しあり。<br>○ 両面共に磨滅して研磨痕が消え光沢を持つ。背面のB面側は磨滅して丸くなる。刃先は丸く磨滅する。<br>○ なし | | |

( )は残存部分の法量である。　( )は紐孔径のうち内孔径・外孔径、右孔・左孔、A面・B面の法量である。

| 図版番号 | 登録番号<br>出土地点<br>遺構名<br>(遺構番号)<br>層位 | 法量(cm)(g)<br>長さ<br>幅<br>厚<br>紐孔間距離<br>重量 | 石材 | 特徴 | タイプ 形態上・製作上の特徴<br>○使用痕跡<br>○背潰れ痕 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | S−07−1028<br>JQ66<br>褐色土層 | (5.4)<br>(5.3)<br>0.8<br>—<br>(38) | 緑色片岩<br>(点紋) | E 片刃。身幅の広い形態。背面はやや丸味を持つ面で両面との境界に角を持つ。端部破損後、再研磨が施されている。<br>○ 両面共に研磨痕は磨滅のため消えている。<br>○ 刃先にあり。 | | |
| | S−07−1033<br>MK65<br>溝<br>(SF 075)<br>腐混黒色粘質土層 | (5.4)<br>3.8<br>0.6<br>—<br>(21) | 緑色片岩 | E 片刃。背面右は、両面に剝離があり、研磨されており、背面がうすくなっている。刃面は研ぎ直され、左右ないしやや右上がり方向の研磨痕あり。<br>○ 両面共に磨滅し、研磨痕は消える。A面体部中央に剝離面があるがこの面も磨滅する。刃先は丸く磨滅するが、刃先には鋭さが残る。<br>○ なし | A面研磨面は煤ける。 | |
| | S−07−1034<br>JUZ<br>黒褐色土層 | (7.1)<br>(4.7)<br>0.8<br>(41) | 黒色片岩 | E 両刃ぎみ片刃。身幅の広い形態。<br>○ 両面共に磨滅し、研磨痕は消える。刃先には刃線に直交する磨滅あり。<br>○ 刃先に、若干あり。 | | |
| | S−07−1042<br>不明 | (4.8)<br>(3.1)<br>(0.7)<br>—<br>(14) | 緑色片岩 | E 片刃。肩部背面は平坦につくられ、両面との境界に角を持つ。刃面に左右方向の研ぎ直しあり。B面肩部よりに剝離を残す。<br>○ 両面共に研磨痕が磨滅により、消えており、B面は光沢を持つ。B面肩部の剝離面も磨滅している。刃先は丸く磨滅する。<br>○ なし | | |
| | S−07−1047<br>JQ62<br>褐色土層 | (6.4)<br>5.3<br>0.7<br>1.8<br>(34) | 緑色片岩 | E 片刃。身幅は広い。刃部稜は明確で刃面は狭い。肩部はB面へ剝離破損。端部先端は破損。紐孔は右下がりで背寄りにあり、孔径は小さい(内4㎜、外A 6.5㎜、B7.5㎜)。<br>○ 刃先には刃線に直交する磨滅痕あり。<br>○ なし | 表面白色化する。 | |
| | S−07−1049<br>MR50<br>砂礫混黒褐色土層 | (8.2)<br>3.3<br>0.8<br>2.4<br>(38) | 緑色片岩 | E 片刃。特に身幅の狭い形態。刃面は体部に対して急角度につくられている。刃面に左右方向の細かい研磨痕あり。紐孔は身幅の略中央にある。(内6㎜、外8㎜)<br>○ 両面共に研磨痕は磨滅して消えている。刃先には刃線に直交する磨滅があり、B面刃先より左上方にのび、左肩部に至る面の磨滅となる。両面に紐擦れ痕あり。<br>○ 背面全面にあり、中央部が著しい。 | | |
| | S−07−1053<br>MJ50<br>黒色土層 | (6.5)<br>(3.6)<br>0.7<br>—<br>(27) | 緑色片岩 | E 片刃。端部折れ面に研磨し、側辺をつくる。端部A面に傾斜し、うすくなる。刃面は研磨面に沿い、端部で狭くなっている。刃面にはやや右上がりの研磨痕あり。<br>○ 両面共に磨滅し、研磨痕は消え、B面は光沢を持つ。刃先には刃線に直交する磨滅があり、B面刃先より、左上方にのび、肩部に至る面の磨滅あり。<br>○ 背面中央にあり。 | | |
| | S−07−1059<br>MR50<br>黒褐色砂礫層 | (5.3)<br>(5.1)<br>0.7<br>—<br>(34) | 緑色片岩<br>(点紋) | E 両刃ぎみ片刃。身幅の広い形態。刃部から体部へ面はなだらかに移行し、稜線はない。背面は平坦で両面との境界に角をもつ。肩部は鈍く角を作り端部に続く。両面共に片理面が多く残っている。<br>○ 刃部は両面共に光沢を帯びる。A面もやや光沢を帯びる。<br>○ 刃先にあり。 | | |
| | S−07−1060<br>JY58<br>茶褐色土層 | (7.4)<br>(3.6)<br>0.7<br>—<br>(30) | 緑色片岩 | E 片刃。端部形態は円い。刃面は刃線に沿って端部まで研磨されており、左右方向に直線的に研ぎ直される。A面体部には右傾きの上下方向の研磨痕あり。<br>○ A面の研磨痕は磨滅により浅くなり、B面では消える。刃先には刃線に直交する磨滅あり。<br>○ 背面、肩部から中央部にあり、両面に剝離を伴う。刃先の右半にもあり。 | | |

(　)は残存部分の法量である。　　(　)は紐孔径のうち内孔径・外孔径、右孔・左孔、A面・B面の法量である。

| 図版番号 | 登録番号<br>出土地点<br>遺構名<br>(遺構番号)<br>層位 | 法量<br>(cm)<br>(g) | 長さ<br>幅<br>厚<br>紐孔間距離<br>重量 | 石材 | 特徴 | タイプ 形態上・製作上の特徴<br>○使用痕跡<br>○背潰れ痕 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | S－07－1067<br>JU58<br>黒色土層 | (7.7)<br>4.1<br>0.8<br>3.4<br>(39) | | 緑色片岩 | E 片刃。最大厚は左孔付近にあり、背部と端部がうすくなる。刃面は研ぎ直されているが、稜線は不明瞭である。A面体部は複数の研磨面にわかれ、それぞれ研磨の方向が違う。B面紐孔間に深い剝離が残る。A面の研磨痕の方向は右上一左下方向で中央の面は急である。B面では刃部近くに右上がりのあらい研磨痕あり。刃面には左右方向の研磨痕あり。紐孔は身幅の中央より刃部寄りである。(内5㎜、外6㎜)<br>○ B面の研磨痕は消えて光沢を持つ。紐孔間の剝離面は磨滅。B面右孔に背方向の紐擦れ痕あり。刃先には刃線に直交する磨滅あり。B面左肩背部にはわずかな磨滅あり。<br>○ なし | | |
| | S－07－1069<br>JU58<br>黒色土層 | (7.0)<br>(4.1)<br>0.7<br>A 1.9<br>B 1.6<br>(35) | | 緑色片岩 | E 片刃。3孔を有し、左下がりである。左の2孔は身幅の中央にあり、右の1孔は、上位にあり、径が小さい。刃面は左上がり方向に研ぎ直され幅広い。中央孔（内 6.5㎜、外10㎜）右孔（内4㎜、外6㎜）<br>○ 両面共に磨滅し、研磨痕は消える。刃先には刃線に直交する磨滅があり、B面刃先より左上方に体部へのびる。紐孔にはA面に隣合う双孔間を結ぶ方向に、B面には背方向の紐擦れ痕がある。<br>○ なし | | |
| | S－07－1071<br>JV58<br>茶褐色土層 | (9.0)<br>4.4<br>0.6<br>2.0<br>(41) | | 緑色片岩 | E 片刃。長軸で、A面側に彎曲。A面体部は広く、剝離するが使用している。刃部稜は中央部で不明瞭になっている。研磨痕は刃面に左右方向と右上一左下方向がある。左肩部には抉られたような凹みがある。<br>○ 両面共に研磨痕は磨滅し消えている。A面体部の剝離面は全面に磨滅しており、特に左肩部付近が著しい。両面に紐擦れ痕あり。刃先は丸く磨滅しており、B面刃面に刃先さら左上方への磨滅痕あり。<br>○ なし | | |
| | S－07－1072<br>JV58<br>茶褐色土層 | (5.7)<br>4.7<br>0.7<br>2.2<br>(30) | | 緑色片岩 | E 片刃。身幅の広い形態。背面はやや平坦な面で、両面との境界はA面に角を持ち、B面は背よりの剝離があり、丸くなる。A面体部に上下方向右傾きに研磨痕があり、刃面には右上がりの細かい研磨痕があり、B面刃部には左右方向の研磨痕がある。(内 5.5㎜、外8㎜)<br>○ 両面共に研磨痕は磨滅し残くなり、ほとんど消えている。刃先には刃線に直交する磨滅があり、B面刃先より刃部にややのびる。<br>○ なし | B面に鉄分付着。 | |
| | S－07－1074<br>JQ58<br>茶褐色土層 | (7.5)<br>4.1<br>0.8<br>1.9<br>(34) | | 緑色片岩 | E 片刃。刃面は右上一左下方向に研ぎ直され体部に対して急角度となる。背面は丸い。B面中央に背より、紐孔の上半におよぶ剝離面が残る。両面共に右上一左下方向の研磨痕あり。紐孔は右下がりで背寄りに位置する。(内4㎜、外8㎜)<br>○ 両面共に磨滅し、研磨痕は浅くなる。刃先は刃線に直交する方向に磨滅する。中央では著しく、内彎状を呈す。B面中央の刃先より左上方に磨滅がのびており、体部に至り、B面の研磨痕を消す。B面右孔より背方向に紐擦れ痕あり。<br>○ 背面から端部先端におよぶ。端部では背面は残存しない。 | | |
| | S－07－1078<br>KP54<br>灰褐色土層 | (6.9)<br>3.8<br>0.7<br>A 2.1<br>B 1.9<br>(34) | | 緑色片岩 | E 片刃。左に2つ、身幅の中央に紐孔あり、左下がりである。右に左の2孔より上位に2孔ある。左折れ面には研磨が施されている。刃面は幅広いが稜線は不明瞭。A面刃面の左と体部に右上一左下方向に研磨痕あり。B面に左上一右下方向と左右方向の研磨痕がある。刃面には左右方向に研磨痕あり。(内6㎜、外8㎜)<br>○ 両面共に磨滅し、研磨痕は浅くなる。紐孔のA面に左右、2孔間のそれぞれを結ぶ方向に紐擦れ痕あり。B面左から2つ目の紐孔に背方向の紐擦れ痕あり。刃先は丸く磨滅するが鋭さが残る。<br>○ 右から2つ目と3つ目の紐孔の上の範囲の背面にあり。 | B面に鉄分付着。 | |

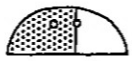
（ ）は残存部分の法量である。　（ ）は紐孔径のうち内孔径・外孔径、右孔・左孔、A面・B面の法量である。

| 図版番号 | 登録番号<br>出土地点<br>遺構名<br>(遺構番号)<br>層位 | 法量(cm)(g)<br>長さ<br>幅<br>厚<br>紐孔間距離<br>重量 | 石材 | 特徴<br>タイプ 形態上・製作上の特徴<br>○使用痕跡<br>○背潰れ痕 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|
| | S－07－1079<br>JQ58<br>茶褐色土層 | (3.7)<br>(3.4)<br>0.7<br>—<br>(17) | 緑色片岩<br>(点紋) | E 片刃。刃面は体部に対して急角度を持つが稜線は不明瞭。刃線上に右上一左下方向の再研磨あり。刃面は左右方向に研ぎ直しあり。<br>○ 両面共に磨滅し、研磨痕は消え、B面はやや光沢を持つ。<br>○ 刃先にB面側の小剝離を伴ってあり、背面にあり、ほぼ平坦な面をつくる。端部欠損部エッジにあり。 | |
| | S－07－1081<br>JI62<br>茶褐色土層 | (7.6)<br>4.1<br>0.9<br>3.1<br>(38) | 緑色片岩 | E 片刃。身幅の中央に紐孔あり。A面右孔から端部にかけて大きく剝離。B面左孔から、背にかけて剝離面が残る。紐孔はA面下方、B面上より穿孔。(内6mm、外10mm) 刃面には左右方向の研ぎ直しあり。<br>○ 両面に紐擦れ痕あり。刃先は刃線に直交する磨滅が著しく、丸くなり、B面刃部は刃先から左上方へのびる磨滅ですりへっている。<br>○ 刃先にわずかにあり。 | 火をうけて変色。表面が荒れる。B面に鉄分付着。<br> |
| | S－07－1089<br>JI54<br>茶褐色土層 | (4.8)<br>4.3<br>0.8<br>3.4<br>(22) | 緑色片岩 | E 片刃。身幅の広い形態。刃面は体部に急角度につくられる。A面下半と左孔の上、B面左孔の上の研磨面下に剝離面が残る。刃面には左右方向の研ぎ直しあり。(内6mm、外10mm)<br>○ 両面共に研磨痕は消える。両面に紐擦れ痕あり。刃先には刃線に直交する磨滅があり、B面刃先より左上方にのびる。<br>○ 背面中央の右側にあり。 | |
| | S－07－1093<br>JE62<br>溝<br>(SF 079)<br>茶褐色土層 | (8.7)<br>3.9<br>0.8<br>2.6<br>(43) | 緑色片岩 | E 片刃。両面共に片理面が研磨面下に残る。背面は丸い。紐孔のB面より敲打穿孔されるが、A面には敲打の痕跡はない。刃面には研ぎ直しがみられる。(内5mm、外A8mm)<br>○ 両面共に研磨痕は磨滅し、消える。B面と背面には光沢がある。両面に紐擦れ痕あり。刃先は刃線に直交する方向に磨滅し、B面刃先より左上方にのびる。<br>○ 背面中央部にあり。端部先端部に僅かにあり。 | |
| | S－07－1097<br>JA54・58<br>溝<br>(SF 080)<br>上層 | (6.9)<br>5.1<br>0.9<br>—<br>(36) | 緑色片岩 | E 片刃。身幅の広い形態。B面側に彎曲。肩部から端部にかけてうすくなる。刃部稜は不明瞭である。紐孔はA面左下方向、B面左上方向より穿孔。<br>○ 両面共に研磨痕は磨滅して消え、B面は光沢を持つ。刃先には刃線に直交する磨滅あり。B面背方向の紐擦れ痕あり。<br>○ なし | 全面に鉄分付着。<br> |
| | S－07－1099<br>JE58<br>溝<br>(SF 080)<br>上層 | (6.3)<br>(5.2)<br>0.7<br>2.3<br>(34) | 緑色片岩 | E 片刃。身幅の広い形態。背はA面に傾斜した面よりなる。A面体部には右上がりのあらい研磨痕がある。B面体部は右下に広く面がくぼみうすくなるが、B面全体に右上一左下方向の細かい研磨痕があり、剝離面を残さない。(内5mm、外7mm)<br>○ 両面共に磨滅により、研磨痕が浅くなっている。A面右孔、左方向に紐擦れ痕あり。<br>○ 左孔上の背面と刃先にあり。 | 鉄分付着<br> |
| | S－07－1102<br>JB58<br>床土層 | (4.9)<br>3.7<br>0.8<br>2.6<br>(21) | 緑色片岩 | E 片刃。紐孔は両面より敲打後、穿孔。A面は大きく剝離する。<br>○ B面は磨滅し、研磨痕は消える。刃先は刃線に直交する方向に磨滅する。B面背方向に紐擦れ痕あり。<br>○ 背面全体にあり。 | 火をうけて変色。<br> |
| | S－07－1104<br>JE62・66<br>褐色土層 | (5.2)<br>(4.5)<br>0.7<br>—<br>(24) | 緑色片岩 | E 片刃。身幅の広い形態。紐孔は背寄りにある。背面は丸い。A面体部右上がりの研磨痕あり。<br>○ A面の研磨痕は浅くなっており、B面では磨滅して消え、光沢を持つ。刃先には刃線に直交する方向の磨滅があり、B面刃先より右上方にのびる磨滅となる。<br>○ なし。 | 全面に鉄分付着。<br> |

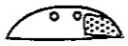
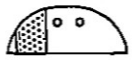
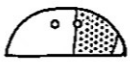
(　)は残存部分の法量である。　　(　)は紐孔径のうち内孔径・外孔径、右孔・左孔、A面・B面の法量である。

| 図版番号 | 登録番号<br>出土地点<br>遺構名<br>(遺構番号)<br>層位 | 法量<br>(cm)<br>(g) | 長さ<br>幅<br>厚<br>紐孔間距離<br>重量 | 石材 | 特徴 | タイプ 形態上・製作上の特徴<br>○使用痕跡<br>○背潰れ痕 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | S—07—1112<br>JE66<br>褐色土層 | (5.0)<br>(3.6)<br>0.6<br>—<br>(16) | | 緑色片岩 | E 片刃。背面は平坦な研磨面が集ってできており、両面との境界に角をもつ。刃面は体部となだらかにつづき稜線は不明瞭。刃面には左右方向に研磨痕あり。<br>○ 両面共に磨滅し、研磨痕は消え、B面は光沢を持つ。刃先は刃線に直交する方向に磨滅する。<br>○ なし | | B面に鉄分付着。 |
| | S—07—1128<br>JQ66<br>褐色土層 | (7.1)<br>(4.8)<br>0.8<br>—<br>(42) | | 緑色片岩 | E 片刃。身幅の広い形態。刃面に研ぎ直しあり。背面は平坦な複数の面よりなるが両面との境界は丸い。<br>○ 両面共に磨滅し、研磨痕は消える。刃先は大きく破損するが、残存部は刃線に直交する方向に磨滅する。<br>○ なし | | 鉄分付着 |
| | S—07—1139<br>JQ62<br>褐色土層 | (7.6)<br>4.1<br>0.7<br>—<br>(39) | | 緑色片岩 | E 片刃。身幅の広い形態。背面は中央部では平坦で両面との境界に角を持ち、肩部から端部にかけて、角がとれて丸くなっている。刃部稜は明瞭である。背面中央部とA面肩部に上下方向の溝状の抉った様な研磨痕がある。(幅2㎜)刃面は左右方向に研磨痕あり。<br>○ 両面共に研磨痕は磨滅して消える。刃面の研磨痕は浅くなる。B面、背面、A面体部は光沢を持つ。刃先は丸く磨滅する。<br>○ なし | | |
| | S—07—1145<br>JY62<br>黒褐色土層 | (5.9)<br>(3.4)<br>0.4<br>—<br>(10) | | 黒色片岩 | E 片刃。身幅の狭い形態。B面剝離欠損。A面体部、刃部共に左右方向の研磨痕あり。背面は両面との境界に角を持つ。<br>○ 背面とB面剝離面との角が磨滅。<br>○ 刃先全体にあり。小剝離を伴う。 | | |
| | S—07—1152<br>JZ | (10.6)<br>3.6<br>0.8<br>1.8<br>(47) | | 緑色片岩 | E 片刃。身幅の狭い形態。紐孔は身幅の中央に位置する。背面は丸い。刃面は幅広く、その稜線は不明瞭である。刃面には左右方向の研ぎ直しあり。右孔は三角形状の不正円形を呈す。(内6㎜、外7㎜)<br>○ 体部の研磨痕は磨滅して消え、刃面では浅くなっている。背面は光沢を持つ。両面に紐擦れ痕あり。刃先には刃線に直交する磨滅と若干の小剝離をみるが磨滅は著しくない。<br>○ 背部中央にあり。B面側に剝離を伴い、A面側に傾斜する。 | | |
| | S—07—1159<br>不明 | 13.5<br>4.0<br>1.0<br>2.5<br>(89) | | 緑色片岩<br>(点紋) | E 片刃。完形。特に厚味がある。中央部に幅を持って最大厚があり、両端部はややうすくなる。紐孔は右寄りの右下がりに位置する。両面より敲打後に穿孔。(内6㎜、外13㎜) 右孔の敲打範囲は右上一左下方向に長く、19㎜を計測する。刃面は急傾斜面を呈す。<br>○ 両面共に磨滅し、研磨痕が消え光沢を持つ。左肩部に背部より両面に剝離があり、磨滅している。B面背方向に紐擦れ痕あり。左孔が著しい。<br>○ 背面中央にわずかにある。右肩部にA面側への剝離を伴う。刃先に著しく、両端部より、刃先全体にわたっており、刃面は大部分なくなっている。 | | |
| | S—07—1160<br>JU58 | (6.2)<br>(3.7)<br>0.7<br>—<br>(23) | | 緑色片岩 | E 片刃。身幅の狭い形態。刃面に左右方向の研ぎ直しあり。B面刃部も浅く研磨される。背は丸い。A面体部に左右方向の研磨痕が若干あり。<br>○ 両面共に磨滅しており、研磨痕はほとんど消える。B面は光沢を持つ。刃先には刃線に直交する磨滅があるが、鋭さが残る。<br>○ なし | | |

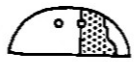
( )は残存部分の法量である。　( )は紐孔径のうち内孔径・外孔径、右孔・左孔、A面・B面の法量である。

| 図版番号 | 登録番号<br>出土地点<br>遺構名<br>(遺構番号)<br>層位 | 法量<br>(cm)<br>(g) | 長さ<br>幅<br>厚<br>紐孔間距離<br>重量 | 石材 | 特徴 | タイプ 形態上・製作上の特徴<br>○使用痕跡<br>○背潰れ痕 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | S－07－1287<br>JZ | | (4.5)<br>3.8<br>0.7<br>2.1<br>(20) | 緑色片岩 | E 片刃。身幅の中央に右孔あり。右孔の上に未貫通穿孔痕あり。刃面には研ぎ直しあり。B面右孔の右の背面からの剝離があり、背面がうすくなっている。(内5㎜、外7㎜)<br>○ 両面共に磨滅し、研磨痕は消える。刃先は、B面側へ小剝離しているが、そのエッジは丸く磨滅。両面に紐擦れ痕あり。<br>○ なし | | |
| | S－07－1294<br>JG60<br>溝<br>(SF 079)<br>黒褐色砂礫土層 | | (7.9)<br>(5.3)<br>0.7<br>—<br>(49) | 緑色片岩 | E 片刃。身幅の広い形態。刃面の幅は狭く、背は丸い。刃面には右上がりの細かい研磨痕あり。<br>○ 両面共、磨滅し、研磨痕は消え、光沢を持つ。刃先はほとんど磨滅がなく、鋭さを保っている。B面背方向に紐擦れ痕あり。<br>○ なし | | 鉄分付着<br> |
| | S－07－1338<br>IX64<br>溝<br>(SF 079)<br>黒褐色土層・含粘土ブロック | | (3.2)<br>4.1<br>0.8<br>2.2<br>(20) | 緑色片岩 | E 片刃。刃面は研ぎ直しにより、体部に対して急角度を作る。右孔は左孔より上位にある。A面紐孔部分に敲打痕が残る。(内 4.5㎜、外9㎜)<br>○ 両面共に磨滅し、研磨痕は消える。B面に背方向の紐擦れ痕あり。<br>○ 刃先と背面にあり。 | | |
| | S－07－1345<br>IU68<br>第4号土器堆積<br>(SL 303)<br>黒色砂質土層 | | (5.0)<br>(4.4)<br>0.8<br>—<br>(21) | 石英安山岩 | E 両刃。身幅の中央に紐孔あり。背面は丸い。両刃面共に左右方向に研ぎ直される。両面共に右上一左下方向の研磨痕あり。<br>○ 両面共に磨滅し、研磨痕は浅く、光沢を持つ。刃先は丸く磨滅する。<br>○ なし | | |
| | S－07－1346<br>JA62<br>溝<br>(SF 079)<br>灰黒色粘土層 | | (8.3)<br>4.6<br>0.9<br>2.5<br>(53) | 緑色片岩 | E 片刃。身幅の広い形態。身幅の中央に紐孔あり。刃面に研ぎ直しあり。B面端部に剝離があるが、部分的に再研磨。B面刃部にも刃を作りだしているが、B面体部の研磨により、うしなわれる部分が大きい。先にB面に刃面があり、後にB面体部を再研磨し、あらためて、A面に刃面を作ったと思われる。B面右孔右上方、背近くに未貫通穿孔痕あり。両面共に研磨面下に剝離面が残る。A面には左上一右下方向の研磨痕があり、左孔左に上下方向、刃部稜、紐孔間に右上一左下方向の研磨痕が残る。B面右下方、刃部付近には右上一左下方向の研磨痕あり。(内5㎜、外A 9㎜、B 8㎜)<br>○ 両面共に研磨痕は磨滅により浅くなっており、B面では大半消えている。両面共光沢をもつ。刃先は丸く磨滅しており、紐孔は両面に双孔を結ぶ方向と背方向の紐擦れ痕がみられ、両面共に背方向の紐擦れ痕の方が顕著。<br>○ なし | |  |
| | S－07－1349<br>JU64<br>土壙<br>(SJ 198)<br>黒色土層 | | (6.7)<br>4.4<br>0.7<br>—<br>(21) | 緑色片岩 | E 片刃。身幅の広い形態。A面の研磨面下に片理面が大きく残る。B面は片理に沿って全面剝離する。刃面は幅狭く、不明瞭。端部は刃線にほぼ垂直な側辺を持つ。<br>○ 刃先は丸く磨滅する。<br>○ なし | | |
| | S－07－1353<br>IX68<br>溝<br>(SF 079)<br>黒褐色粘質土層 | | (5.2)<br>4.4<br>0.7<br>—<br>(24) | 緑色片岩 | E 片刃。身幅の広い形態。紐孔は身幅の中央のやや上にあり。刃面は研ぎ直される。背面は丸い。体部下半、刃面にかけて左右方向か、やや右上がりの研磨痕あり。(内6㎜、外 7.5㎜)<br>○ A面体部上半、B面は磨滅し、研磨痕は消える。刃先には刃線に直交する磨滅があり、B面刃先より、左上方に体部へ面の磨滅がのびる。B面に背方向の紐擦れ痕あり。<br>○ なし | | |

(　)は残存部分の法量である。　　(　)は紐孔径のうち内孔径・外孔径、右孔・左孔、A面・B面の法量である。

| 図版番号 | 登録番号<br>出土地点<br>遺構名<br>（遺構番号）<br>層位 | 法量<br>(cm)<br>(g) | 長さ<br>幅<br>厚<br>紐孔間距離<br>重量 | 石材 | 特徴 | タイプ　形態上・製作上の特徴<br>○使用痕跡<br>○背潰れ痕 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | S－07－1357<br>JU62<br>第5号井戸<br>（SG 108）<br>第3～5層 | (8.2)<br>(3.6)<br>0.8<br>—<br>(36) | | 緑色片岩 | E　片刃。刃部稜は直線で、刃線が端部で彎曲して、刃部稜に交わる。端部肩がうすくなる。刃面には左右方向の研磨痕あり。<br>○　両面共に体部は磨滅し、研磨痕は消え、光沢を持つ。<br>○　背面、刃先共にあり、どちらも中央部で著しい。 | |  |
| | S－07－1450<br>JA62<br>溝<br>（SF 079）<br>腐混黒褐色粘土層 | (6.6)<br>(3.7)<br>0.5<br>—<br>(18) | | 緑色片岩 | E　片刃。全体に薄手であるが肩部よりA面に広く剥離があり、その面に研磨が施されており、背面中央部は極めてうすくなっている。背は丸い。端部は断ち切った様な形をなし、刃線に対してほぼ直角をなす。刃面に研ぎ直しあり。刃面に左右方向の細かい研磨痕あり。<br>○　刃面を除き、磨滅のため研磨痕は消え、光沢を持つ。刃面の研磨痕も浅くなっている。B面、肩から端にかけて、背部が磨滅する。刃先は磨滅しており、その部分の刃線がややくぼむ。<br>○　なし | | |
| | S－07－1465<br>MH57<br>溝<br>（SF 074）<br>黒褐色礫混合土層 | (4.4)<br>4.3<br>0.9<br>2.0<br>(22) | | 緑色片岩 | E　片刃。刃面は右上一左下方向に研磨され、刃先から2㎜の幅で左右方向に研ぎ直されている。背面は丸い。A面は右上一左下方向に研磨痕あり。B面に左上一右下方向の研磨痕あり、体部上半に剥離面が残る。紐孔径は比較的大きい。（内8㎜、外12㎜）<br>○　両面共に磨滅し、研磨痕は浅くなっている。B面右孔はその左上方の剥離面に沿って背方向に紐擦れ痕あり、A面には双孔を結ぶ方向に紐擦れ痕あり。B面刃先より左上方に若干磨滅がのびる。<br>○　なし | 火をうけて変色。 | |
| | S－07－1489<br>IT62<br>溝・第3溝<br>（SF 080）<br>黒褐色砂礫混土層 | (5.4)<br>(4.6)<br>0.6<br>—<br>(27) | | 緑色片岩 | E　片刃。身幅の広い形態。<br>○　両面共に磨滅し、研磨痕は消え、光沢を持つ。B面肩部の磨滅が著しい。刃先は丸く磨滅する。端部の折れ面は丸く磨滅している。<br>○　なし | 全面に煤けている。 | |
| | S－07－1506<br>MK59<br>第9号土器堆積<br>（SL 308） | (4.9)<br>(5.1)<br>0.8<br>—<br>(25) | | 緑色片岩 | E　片刃。身幅の広い形態。刃面は幅広く、右上がり方向に研ぎ直される。刃部稜は不明瞭。<br>○　両平面共に磨滅し、研磨痕は消える。刃先は刃線に直交する方向に磨滅し、B面刃先より左上方へのびる面の磨滅あり。 | |  |
| | S－07－1531<br>MW63<br>茶褐色砂質土層・整地層 | (8.0)<br>(4.4)<br>0.7<br>1.6<br>(36) | | 緑色片岩 | E　片刃。身幅の広い形態。体部と刃面はなだらかにつづき稜線はない。左孔は右孔より背寄りにある。右孔の右上に未貫通穿孔痕あり。背面は全体にうすいが、中央部はやや厚く浅く抉り状に研磨される。（内6㎜、外7㎜）<br>○　両面共に磨滅し、研磨痕は消える。刃先は刃線に直交する方向に磨滅し、B面刃先より刃部に若干のびる。B面背方向に紐擦れ痕あり。<br>○　刃先中央部に若干あり、B面側に小剥離する。 | 火をうけて変色。<br>B面に鉄分付着。 | |
| | S－07－1532<br>NB61<br>黒色砂質土層 | (7.4)<br>4.5<br>0.7<br>—<br>(38) | | 緑色片岩 | E　片刃。身幅の広い形態。肩部から端部にかけてうすくなっており。両面共にこの部分の研磨面下に剥離面が残る。背面は平坦で両面との境界に角を持つ。刃部稜は端部寄りでは明瞭であるが、中央部では不明瞭となる。刃面にはやや右上がりの細かい研磨痕あり。<br>○　両面共に研磨痕は磨滅し、消えており、B面では光沢を持つ。<br>○　刃先全体にあり。 | |  |
| | S－07－1534<br>MW63<br>茶褐色砂質土層・整地層 | (4.8)<br>4.4<br>0.7<br>—<br>(26) | | 緑色片岩 | E　片刃。身幅の広い形態。中央に厚く端部に向ってうすくなる。背面は丸い。刃面はなだらかに体部に移り、稜線はない。B面に右上一左下方向の研磨痕あり。<br>○　A面に背から剥離があり、背面を損うが剥離面は磨滅する。A面の研磨痕は消え、B面では浅くなる。背面は光沢を持つ。刃先には刃線に直交する磨滅あり。<br>○　なし | | |

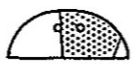
（　）は残存部分の法量である。　　（　）は紐孔径のうち内孔径・外孔径、右孔・左孔、A面・B面の法量である。

| 図版番号 | 登録番号<br>出土地点<br>遺構名<br>(遺構番号)<br>層位 | 法量<br>(cm)<br>(g) | 長さ<br>幅<br>厚<br>紐孔間距離<br>重量 | 石材 | 特徴 | タイプ 形態上・製作上の特徴<br>○使用痕跡<br>○背潰れ痕 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | S−07−1537<br>MV62<br>第15号井戸<br>(SG 118)<br>灰黒色砂質土層 | (5.7)<br>(3.2)<br>0.7<br>—<br>(16) | | 緑色片岩 | E 片刃。身幅の狭い形態。刃面には左右方向の研磨痕あり。紐孔はA面下方、B面上方より穿孔。<br>○ 両面共に磨滅により研磨痕が消え、光沢を持つ。刃先には刃線に直交する磨滅がある。B面背部の端部近くには磨滅があり、背面がうすくなる。肩部中央よりの背部は抉ったようになっており、磨滅している。<br>○ なし | | |
| | S−07−1543<br>MB50<br>黒褐色礫混土層 | (4.0)<br>(4.8)<br>0.7<br>—<br>(20) | | 緑色片岩 | E 片刃。身幅の広い形態。紐孔は背寄りにある。刃面は研ぎ直され、方向は左右方向である。<br>○ 両面及び背面は磨滅し光沢を持つ。B面紐孔の背方向に紐擦れ痕あり。刃先には刃線に直交する磨滅があり、B面刃先より左上方にのびる。<br>○ なし | |  |
| | S−07−1545<br>MF54<br>溝<br>(SF 074)<br>黒色土層 | (6.5)<br>(4.1)<br>0.9<br>—<br>(12) | | 緑色片岩 | E 片刃。身幅の広い形態。半月形。刃面には研ぎ直しあり。両面共に研磨面下に片理面が残る。B面背より肩部に剝離があり、背面はうすくなり、B面体部の研磨面に段をつくる。<br>○ 両面共に磨滅により、研磨痕は消え、光沢を持つ。刃先には刃線に直交する磨滅があり、B面刃部では刃先より左上方にのびる。<br>○ 刃先の端部に若干あり。 | | |
| | S−07−1547<br>MD55<br>溝<br>(SF 074)<br>黒色土層 | (6.0)<br>4.0<br>0.6<br>1.5<br>(23) | | 黒色片岩 | E 片刃。刃部稜はなだらか。刃面は端部で狭く、中央に広くなる。端部は再研磨によりつくられている。紐孔はA面やや上方から、B面下方から穿孔されている。A面背部には背に沿った方向、体部中央には左上がりの研磨痕あり。端部付近には右上一左下方向の細かい研磨痕あり。刃面には左右方向に細かい研磨痕あり。B面左孔の右と左上に未貫通穿孔痕あり。(内4㎜、外A 7㎜、B 8㎜)<br>○ B面体部は研磨痕がきえている。刃先は磨滅。B面右孔に背方向の紐擦れ痕があり。<br>○ なし | | |
| | S−07−1556<br>JW64<br>黒褐色土層 | (7.9)<br>4.1<br>1.0<br>2.5<br>(46) | | 緑色片岩 | E 片刃。身幅は狭く、厚みのある形態。背面は丸い。刃面には数度の研ぎ直しがみられる。その稜線は不明瞭。A面刃面には右上一左下方向の研磨痕がみられ、体部の紐孔より下には、左右方向、B面刃部端部には左上一右下方向、体部には右上一左下方向の研磨痕がみられる。(内7㎜、外11㎜)<br>○ 両面共に体部は磨滅し、研磨痕は浅くなる。背面は光沢をもつ。両面に紐擦れ痕あり。刃先には刃線に直交する磨滅があり、B面刃部刃先より左上方にのびる。<br>○ なし | | |
| | S−07−1563<br>JU64<br>第5号井戸<br>(SG 108)<br>第4～5層(上) | (9.2)<br>(4.9)<br>0.7<br>—<br>(38) | | 緑色片岩 | E 片刃。刃部稜はなだらか。刃面の幅は狭いが刃先はうすく鋭い。背面は平坦で両面との境界は角を持つ。A面肩部寄りに左上一右下方向、他は両面体部、刃面共に右上一左下方向の細かい研磨痕あり。<br>○ 刃先には小剝離あり。両面共に面はほとんど磨滅していない。<br>○ なし | 大型石庖丁の可能性あり。 | |
| | S−07−1573<br>IH68<br>黒色土層 | (9.1)<br>4.4<br>0.7<br>1.4<br>(44) | | 緑色片岩 | E 片刃。身幅の広い形態。半月形。背面からB面紐孔にかけて剝離面があり、敲打、研磨されている。背面は小さな研磨面よりなり、全体に丸味を持った面となる。刃部稜は不明瞭。紐孔は両面より敲打後、穿孔される。A面体部に左上がりの研磨痕があり、紐孔右の体部に上下方向の右傾きの研磨痕が刃部稜を切ってある。刃部両面に左右方向の研磨痕あり。紐孔はやや右下がりである。(内4㎜、外10㎜)<br>○ 両面共に磨滅しており、A面の研磨痕が浅くなり、B面では刃部を除き消えている。背面は光沢を持つ。両面に紐擦れ痕あり。<br>○ 刃先全体にあり。B面側に小剝離を伴う。 | 両面に鉄分付着。 | |

( )は残存部分の法量である。　　( )は紐孔径のうち内孔径・外孔径、右孔・左孔、A面・B面の法量である。

| 図版番号 | 登録番号<br>出土地点<br>遺構名<br>(遺構番号)<br>層位 | 法量<br>(cm)<br>(g) | 長さ<br>幅<br>厚<br>紐孔間距離<br>重量 | 石材 | 特徴 | タイプ 形態上・製作上の特徴<br>○使用痕跡<br>○背潰れ痕 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | S−07−1587<br>LG54<br>Pit180・黒色土層 | (9.0)<br>(3.9)<br>0.7<br>2.6<br>(44) | | 緑色片岩 | E 片刃。身幅の狭い形態。紐孔は不正円形状で、A面右上方向、B面右下方向より穿孔される。B面紐孔上方にやや左上がりのあらい研磨痕あり。刃面には、やや右上がりの研磨痕あり。A面研磨面下に剝離面が残る。(内5㎜、外8㎜)<br>○ 両面共に磨滅により光沢をもつ。端部破損面は磨滅している。B面肩部には右下方向からの磨滅あり。両面に紐擦れ痕あり。<br>○ 背部中央と刃先全体にあり。背部は著しい。 | | |
| | S−07−1594<br>HO60<br>第3層・黒褐色土層 | (8.6)<br>4.2<br>1.1<br>2.5<br>(46) | | アプライト | E 両刃。身幅の広い形態。中央に厚く、端部に向ってうすくなる。背面は、複数面よりなり、全体に丸い面をつくる。紐孔は身幅の中央よりやや下方に位置する。B面中央の背寄りに大きく傾斜した研磨面があるが、その中央に背からの剝離面が残る。A面紐孔より下の面には、左右方向、紐孔より上の面には右上一左下方向の研磨痕あり。B面紐孔間に右上一左下方向の研磨痕あり。(内6㎜、外A8㎜、B10㎜)<br>○ A面の研磨痕は磨滅して浅くなっており、研磨面の境では消えている。B面では紐孔間の一部分を除き、研磨痕は磨滅し消えている。背面は磨滅が著しい。刃先には刃線に直交する磨滅がある。B面、背方向の紐擦れ痕あり。<br>○ なし | | |
| | S−07−1601<br>MI62<br>溝<br>(SF 077)<br>黒褐色土層 | (4.3)<br>5.1<br>0.7<br>2.6<br>(19) | | 黒色片岩 | E 両刃。身幅の広い形態。背は平坦で両面との境界に角をもつ。紐孔間やや下方に未貫通穿孔痕あり。<br>○ 不明<br>○ なし | | 全面著しく風化。 |
| | S−07−1612<br>IN62<br>円形周溝<br>(SZ 318)<br>黒褐色砂質土層 | (8.0)<br>(3.5)<br>0.5<br>—<br>(20) | | 緑色片岩 | E 片刃。身幅の狭い形態。特に薄手のもの。A面の右半は上下方向に研磨され、浅い溝状をなす。中央部は片理面よりなり、ほぼ正方形の形にくぼむ。肩部には鋭いものでV字に挟った部分あり。刃線は端部で彎曲する。刃面の幅は狭い。刃面に左右方向の研ぎ直しあり。<br>○ 両面共に磨滅により研磨痕が消える。A面中央部のくぼみは、光沢をもつ。刃先は刃線に直交する方向に磨滅する。B面肩部は磨滅により浅く、広く凹み、背面をうすくする。<br>○ 背面中央から肩部にかけて若干ある。刃先右半にも若干あり、B面側に剝離を伴う。 | | |
| | S−07−1613<br>NO66<br>黒褐色土層 | (4.4)<br>(4.4)<br>0.6<br>—<br>(18) | | 緑色片岩 | E 片刃。A面に大きく剝離面が残る。刃面は、幅が狭い。紐孔は両面より敲打後、穿孔。<br>○ 両面共に磨滅し、研磨痕は消え、B面は光沢を持つ。刃先には、刃線に直交する磨滅あり。<br>○ なし | | 鉄分付着 |
| | S−07−1615<br>JB67<br>黒褐色粘質土層 | (6.8)<br>(3.8)<br>0.7<br>—<br>(23) | | 緑色片岩 | E 片刃。刃面と刃面寄りの部分は左右方向に再研磨される。B面刃部も浅く研磨。A面体部に右上一左下方向の研磨痕あり。<br>○ 両面共に磨滅し、A面では研磨痕が浅くなり、B面では消え、光沢をもつ。刃先には小剝離があり、若干磨滅するが鋭い。刃面も含めて全面に光沢あり。<br>○ 背面中央にあり。 | | 鉄分付着 |
| | S−07−1616<br>LO54<br>黒褐色土層 | (8.6)<br>(4.0)<br>0.8<br>—<br>(42) | | 緑色片岩<br>(点紋) | E 片刃。身幅の狭い形態。刃部中央がうすくなり、刃線がB面側に彎曲する。刃部稜は明確。A面研磨面下に剝離面を残す。刃面には右上がりの研磨痕がある。<br>○ 刃先には刃線に直交する磨滅があり丸くなる。B面刃部には、刃先より、直上方向の磨滅がのびる。特に中央部は著しく、刃線が磨滅により浅くくぼむ。刃面にも、B面刃部と同様の痕跡あり。B面肩部には左下方からのびてきた面の磨滅あり。<br>○ なし | | |

(　)は残存部分の法量である。　　(　)は紐孔径のうち内孔径・外孔径、右孔・左孔、A面・B面の法量である。

| 図版番号 | 登録番号<br>出土地点<br>遺構名<br>(遺構番号)<br>層位 | 長法さ<br>量<br>(cm)<br>(g) | 長さ<br>幅<br>厚<br>紐孔間距離<br>重量 | 石材 | 特徴 | タイプ 形態上・製作上の特徴<br>○使用痕跡<br>○背潰れ痕 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | S−07−1617<br>IXZ<br>溝<br>第3層・礫混灰黒色粘質土層 | (5.1)<br>(4.7)<br>0.7<br>—<br>(26) | | 緑色片岩 | E 片刃。身幅の広い形態。背面は、ほぼ平坦で両面との境界に角をもつ。紐孔のB面側に敲打痕が残る。刃面には左右方向に研磨痕が残る。<br>○ 両面共に磨滅し研磨痕は消える。A面紐孔の背側に磨滅あり。刃先には刃線に直交する磨滅があり、B面刃先より左上方にのび、肩部に至り、肩部背面のB面側角は丸くなる。<br>○ なし | | |
| | S−07−1631<br>LO54<br>黒色土層 | (7.0)<br>(5.3)<br>0.6<br>—<br>(29) | | 緑色片岩 | E 片刃。身幅の広い形態。背面は平坦で両面との境界に角をもつ。紐孔は不正円形。両面の研磨面下に剝離面が残る。B面背寄りに右上—左下方向中央に左上—右下方向の研磨痕がある。(内6×7㎜、外A11㎜、B8×10㎜)<br>○ 両面共に磨滅し研磨痕は浅くなり、A面はほとんど消える。A面端部に背からの剝離があるが磨滅している。刃先には刃線に直交する磨滅があり、B面刃先より左上方にのびる。<br>○ なし | | |
| | S−07−1636<br>不明 | (5.0)<br>3.9<br>0.7<br>—<br>(27) | | 緑色片岩 | E 片刃。(内 5.5㎜、外8㎜)<br>○ 不明<br>○ 刃先にあり。背面と右破損面に剝離を伴ってあり。 | | 火をうけて変色、表面が荒れる。<br> |
| | S−07−1641<br>MC54<br>溝<br>(SF 074)<br>黒色土層 | (8.2)<br>4.0<br>0.9<br>1.7<br>(54) | | 緑色片岩 | E 片刃。刃面は急角度をもつが、稜線は不明瞭。刃面には右上—左下方向の研磨痕あり。A面左孔の右に未貫通穿孔痕あり。紐孔は両面より敲打後穿孔される。(内5㎜、外10㎜)<br>○ 両面共に磨滅し、研磨痕は消え、B面は光沢をもつ。刃先は丸く磨滅する。B面背方向に紐擦れ痕あり。<br>○ 背面中央部にあり、右側に著しい。 | | |
| | S−07−1646<br>LW62<br>溝<br>(SF 430)<br>黒色粘質土層 | (6.5)<br>(3.2)<br>0.4<br>2.2<br>(17) | | 緑色片岩 | E 片刃。特に薄手のもの。刃部は研ぎ直されている。両面共に右上—左下方向に研磨痕あり。(内6㎜、外7㎜)<br>○ 両面共に磨滅し、研磨痕は浅くなっており、下半ではほとんど消えている。刃先は刃線に直交する方向に磨滅する。<br>○ 刃先の端部寄りに少しあり。背面全体にあって、著しく、刃線とほぼ平行な面をつくる。 | | |
| | S−07−1649<br>Pit63 | (5.8)<br>3.2<br>0.8<br>—<br>(20) | | 黒色片岩 | E 片刃。身幅の狭い形態。刃部稜よりやや上方に最大厚あり。刃部稜は不明瞭。B面刃部も浅く作りだされている。A面紐孔付近に剝離面が残る。刃面にやや右上がりの研磨痕あり。<br>○ 両面共に磨滅による研磨痕は消え、光沢をもつ。B面端部の背には剝離があり、背面はうすくなり、剝離面は磨滅している。<br>○ 背部中央と、刃先全体にみられる。 | | |
| | S−07−1659<br>NA62<br>暗褐色土層 | (9.3)<br>(4.2)<br>0.8<br>2.2<br>(56) | | 緑色片岩 | E 片刃。身幅の広い形態。紐孔は両面とも左方向から穿孔される。A面体部に左上がり、刃面に左右方向の研磨痕あり。(内4㎜、外8㎜)<br>○ 両面共に磨滅し、B面では研磨痕が消え、光沢をもつ。B面背方向に紐擦れ痕著しい。B面肩部は右下方向から磨滅し、背面はうすくなる。<br>○ 刃先、背面共にみられ、どちらも中央部で著しい。 | A面に鉄分付着。 |  |
| | S−07−1662<br>IN62<br>小礫混黒褐色土層 | (7.7)<br>3.8<br>0.7<br>2.8<br>(37) | | 緑色片岩 | E 片刃。身幅の中央に2孔あり、その中間の背寄りに1孔あり。刃線は中央部で直線、端部で彎曲する。刃面部は刃先に沿ってつくられる。B面刃部も浅く研ぎだされている。両面体部、刃面共に左右方向に研磨痕あり。(内5㎜、外6㎜)<br>○ 両面に研磨痕は磨滅して浅くなる。刃先は丸く磨滅する。紐孔はA面の身幅中央の2孔を結ぶ方向とB面右孔の背方向に紐擦れ痕あり。<br>○ 背面中央部と刃先中央部のやや右にあり。刃先全体にわずかにみとめられる。 | 全体に鉄分付着。 | |

(　)は残存部分の法量である。　　(　)は紐孔径のうち内孔径・外孔径、右孔・左孔、A面・B面の法量である。